

# 演劇会議

＜座談会＞全り演の当面する課題をめぐって	1
演劇フェスティバルについて	20
東会議・ブロックゼミナールのお知らせ	河野 司 21
西会議・劇作家・戯曲研究会の報告	高尾 豊 22
西日本劇作家会議のアンケートに15氏が答えた	27
中国ブロック・奥湯田ゼミの報告	下村 由美子 32
□ 劇 団 通 信	35
観客をどうやってふやすか	城谷 護 48
関西における戦前プロレタリア演劇の研究(49)	大岡 欽 治 51
紀伊国屋演劇賞を受賞して	岡安 伸 治 59
ソビエト演劇鑑賞の旅から	佐野 秀 明 61
◎ 劇 評	
観て歩き	こばやしひろし 65
大阪新劇フェスティバル・寸感	阿部 好 70
みんなが飛んだ舞台(劇団支木)	秋本 博子 74
中部B, 85年11月～86年2月の上演から	丸子 礼二 76
観劇雑感	秋坂 桃彦 81
□ 戯 曲	
ナナちゃんは宇宙人	大橋 喜一 89

## 岡安伸治戯曲集 ￥2,300 ㊦ ￥300

- 大平洋ベルトライン ●仕掛花火 ●別れが辻
- ネームリング ●夕陽のメリーゴーランド ●とおおりゃんせ
- かすみあみ ●フラスコの中の青い空 ●ブラックボックス
- 怨恋歌ヤドリの清治 ●青い星みつけた

岡安伸治の世界 千田是也・大橋喜一・阿部文勇・西村博子

申込先 世仁下乃一座 発行 いかだ社  
〒102 東京都千代田区飯田橋2-4-10 加島ビル  
Tel 03-234-5365

## 風見鶏介戯曲集 ￥3,000 ㊦ ￥400

- 火山島ものがたり ●日はまた断崖の上に昇る
- われらの街はささやきに充ち ●ピエールとリュース
- 草の碑 ●年譜・略歴・回想

申込先 劇団群馬中芸 〒371 前橋市昭和町3-15-2  
Tel 0272-32-0550

## 黒沢参吉劇作集 ￥4,000 ㊦ ￥350

- ふかい疵 ●生まれた家 ●日鋼室蘭
- 渠ばなれ ●真土村一揆 ●金魚修羅記
- とろいめらい ほか19篇

申込先 「演劇会議」発行所 〒210 川崎市川崎区渡田4-11-3  
Tel 044-333-0775  
郵便振替 横浜0-17227

## こばやし・ひろし作品集 ￥1,700 ㊦ ￥300

- 書けない黒板 ●つくられた英雄 ●櫛の木
- 豚 ●ひしめきあう不毛の季節から

申込先 劇団はぐるま <序文> 永平和雄 <解説> 萩坂桃彦  
〒400 岐阜市西野町1-11  
Tel 0582-62-1652

## 田畑 実戯曲集 汐文社 発行 ￥3,000 ㊦ ￥300

- <人間座創立25周年記念>
- 人形師卯吉の余生 ●奇峰先生幻の壺 ●霰の谷に
  - 琵琶湖疏水年代記 ●カルメンになりたい
  - 東洋民権百家伝はかくかかれた

申込先 人間座 〒606 京都市左京区下鴨東高木町11  
Tel 075-721-4763  
郵便振替 京都8-6431



■ 劇団2月・コーロ「終りに見た時」原作・山田太一 脚色・かたおかしろう  
演出・坪井敦己 演出補・山田善晴

■ 劇団はぐるま「教員室」 作・山田太一 演出・汲田正子



—よび合って、集まって、成功させよう'86"夏の行事—

### 第12回北海道演劇祭

- ◇ と き 1986年7月5日(土)・6日(日)
- ◇ と ころ 空知ブロック 美瑛市市民会館
- ◇ 内 容 上演  
劇団さっぽろ「シホロカベツ川一夕張」、深川西高校  
「一つの生命」、劇団同胞「ザ・シェルター」  
札幌B合同「ブンナよ木からおいでこい」、劇団ひしの実  
「どん太」  
記念講演(萩坂桃彦氏)・交流会・合評会

### 全リ演・東会議演劇ゼミナール

＜サマー・フェスティバル・イン・雨畑＞

- ◇ と き 1986年8月23日(土)・24日(日)
- ◇ と ころ VILLA 雨畑 (山梨県南巨摩郡早川町雨畑)
- ◇ 主な内容 アンデパンダン形式のミニフェスティバル  
分科会「体操」「メーキャップ」「討論コーナー」  
講演(島田豊氏—交渉中)・大交流会
- ◇ 参加費 8,000円(予定)  
(東会議総会は22日、23日、同一会場で)

### 全リ演・西会議「演劇ワークショップ」

＜演劇における音楽と演技の様式＞

- ◇ と き 1986年8月23日(土)・24日(日)
- ◇ と ころ 京都・洛北の八瀬 養徳寺会館
- ◇ 主な内容 「狂言」茂山千之丞氏 「音楽」安達元彦氏
- ◇ 参加費 (検討中)  
(西会議総会は22日、23日、同一会場で)

—上記の案内には若干未確定部分がありますが、委しくは、道演場・東会議  
・西会議の各事務局へお問い合わせ下さい— 演劇部より。



■ 演劇集団土くれ  
「教員室」  
作・山田太一  
演出・塚田悦雄



■ テアトル・ハカタ  
「綴方教室」  
原作・豊田正子  
脚色・演出 野尻敏彦

■ 劇団同胞  
「冒険者たち」  
原作・斎藤孝夫  
脚色・大門正  
演出・沢田和彦



■ 劇団やぎ  
「幕末昆陽宿物語」  
作・香村菊雄  
演出・村川直



■ 劇団やませ  
「赤い海」  
作・榎谷伸夫  
演出・佐々木洋二



■ 劇団支木  
「空を飛んだ鶏と  
銀色の松ボックリ」  
作・可能あらた  
演出・藤原浩平



■ 劇団未来「ナナちゃんは宇宙人」 作・大橋喜一 演出・森本景文

■ 劇団どろ「セチュアンの善人」作・プレヒト 訳・八木浩・時田浩・嶋田邦雄・金沢和男  
演出・合田幸平



■ 劇団すがお  
「ゆきと鬼ンベ」  
作・さねとうあきら  
演出・加藤武夫

■ 国家機密法反対公演・劇団すがお 四日市参加「ある日突然」作・大野章 演出・住田正雄





■ 劇団京芸「陽気な地獄破り」作・木下順二 演出・佐々木しゅう 美術・田島征彦

■ 劇団銅鑼「雲囲気のある死体」作・別役実 演出・大峰順二



黒石演劇研究会  
「流浪の譜」  
作・石沢清二郎  
演出・杉山隆一



「夜明けは静かだ」  
のカーテン・コール

モスクワ芸術座（新館）  
（中・下段の写真は佐野秀明  
氏の提供によるものです。  
本文を参照のこと）



るのとほめてやるのと。

こばやし マスコミにのる方法と運動としてやる方法と両方あるね。

藤沢 実演もやるし公演もやる、全く人間といふしよだ。

梶 一つの集団で何かやるということは非常に困難な状況にあると言えらると思います。藤沢 福岡でも合同公演として定着している。福岡市から助成金が出ている。

梶 大阪では自演連の合同公演。秋には新劇フェスティバル。四国は、こじか座と阿波っ子があるんですが、一寸結びつきが弱い感じがします。京都では、若い二十人位の集まりの演劇サークル「劇」が活発です。

萩坂 全り演の今年のフェスティバルに参加して、それを契機に西会議に加盟したいとか。

藤沢 意向だったんだけど、中止事件でそれはご破算にして、新たに考えるとー

梶 大分抗議が来ましてね、というのは、指導部が若い劇団員一人一人オルグして、フェスティバルに出て、やっとなを上げて、西りに加盟しよう、そこまで来た。

そのあと、これがつぶれて、劇団大阪とこのサークル「劇」、それと神戸の一職演連

が友好関係を形成しましてね、演劇甲子園というタイトルで、夏の高校野球の甲子園大会にちなんで、夏にオレンジルームで、三集団でやるんじゃないか、八月七・八・九日上演の可能性も出て来ているようですよ。

オレンジルームは学生演劇のメッカですね、働くものの演劇にも呼びかけをしたらいい。その段階で劇団大阪の熊本さんに接触があったー

藤沢 劇団大阪では、劇と劇団内のネ、プロデュース公演というのがやられるようになってる。劇団の中のメンバーの何人かがね。あの「バナナ」というドイツの児童劇をやっているんですよ、去年だったか、一昨年だったか。今年は「プレヒト研究会」という動きもありますね。

萩坂 それはやはり、一つは劇団大阪の協力の案だと思ふな。稽古場を持っていて、どう活性化してゆくかというときにヨソの人と合わせてやってみるといふ発想が出てくるのは当然だよな。しかし、これは悪いことじゃないな。

藤沢 そうですよ。別にガタガタしているってわけじゃないですよ。

後藤 あれはないですか、たとえば「荒野

の落日」なんかやって大へん暴落した、そういう成果の上に出てくる側面

仲 あれには女性が出ていないということもあって女性陣側からの要求もあるでしょうね。

藤沢 そのあと「頭痛科り樋口一葉」をやっているんですよ。なかなか良かったらしい。萩坂 この間、岐阜の「教員室」のときに堀江ひろゆきさんと一緒にやって、婦りの名鉄の電車の中で、プレヒト研究会、のことは一寸聞いた。現実の中のこわさみたいなものをさぐりたいという話だったけど。

藤沢 市川さん、「肉と魚」の訳者の市川さんが持ちこんでいるんですよ。企画しなくても自主的に、そういう交流というか、わりと意欲的にやられていますね、西は。劇団とはなれてやっているんじゃないかと、わりと、劇団が認めてやっているのかもしれないね。

萩坂 そういふのあった場合、ちゃんと見てくれないかな。先ずあなたが行って見なくちゃだめですよ。

梶 四紀会が小劇場・スタジオ公演をやっているんですけど、小劇場グループは自分たちの好きなものを、どんどん企画をつくってやっていますね。市民劇場、家族劇場グループ

は劇団全体のものですけど。

中沢 そういふことで、中々出来ないでしょ、一緒にたになっちゃうと。創造意欲が充たされないというか、あいつと組んでやってみたいとかね。

萩坂 それは目に見えないかたちで集団の衰弱につながらないか、そうでもないか。

藤沢 いや、それは栄養になるんだよ。

仲 劇団としてそれをどうおさえるかだね。

藤沢 あんまりおさえない方がいいんじゃないかな。

中沢 ぼくは矢張りモロ刃の剣だと思ふ。

萩坂 あと一つ、和歌山の状況。

藤沢 「情無用荒川太鼓」を湯浅で見ても、栗原さんの地声、小学校の体育館だったけど、満員、おもしろかったな。楠本君の裏切者、彼のつくり方、可成り論理的なんだ。裏切る過程がよくわかる。非常にブザマに最期を見せる。栗原さんのいい仕事じゃないかな。

萩坂 じゃ、西はこの位で。東の方をー

こばやし 東の方でおもしろいのは、北海道がいろいろと北海道文化圏を作ろうとしていることが一つ注目していいんじゃないか。「常紋トンネル」に続いて「シホロカベツ川」夕張炭坑と毎年一作づつ、力尽きやしないか

と心配もありますけどね。それと劇団やませの「海村」につづく「赤い海」。東北と北海道にエネルギーがあるんじゃないかな。

萩坂 支太の「空をとんだ鶴」もよかったですね。

こばやし あとはどうだろう、三劇連(三重県劇団協議会)が大野章さんのあれー

丸子 そこまで行ったの、もう。桑名高校の先生の太田章・作「ある日突然」

で、全り演では劇団四日市とすがおが参加。官公労、教職員組合、弁護士さんたちの集りでやりました。津と四日市で公演して、わたし四日市を見にいってんですけど、デッカイ

会場で見えがなくて超員。芝居そのものの演技的にどうのということよりも、やっぱり基地の前で、ミラーが写真を撮ってるところをつかまって取調べる場面があって、取調べの狙いは、その女の子の姉さんが平和活動家であってそれをつかまえるのが狙いという、逮捕があったり、支援する集会の中にスパイ

がいて、次々と喋ってる内容が機密法にふれるという恰好でつかまってゆく。芝居としてのメリハリよりも、目の前でそれを見せられることのショック、大へん盛り上って、完全

にお客さんが芝居を支えているという感じがすね。打ち上げの前日に国会で「魔案」が決ったというタイミングもありました。また今国会で再提出されてくるというので、またやるという共同体制は完全にできています。

こばやし それに、何と言っても、ニュースは岡安伸治の「紀伊国屋・演劇賞」でしょうね。「別れが辻」を見に行っただけですが、ギッシリ、立錫の余地がないというのはあのことやね。まあ、すぐ動くですわ、動く、動く。芝居の論理の展開よりも、からだで、全身これ、一分、一秒も休みなしという位やね。世に下のような小っちゃな集団が、真つたというのは意味があると思いますね。

萩坂 ここへ来て、いろんな人が見ているようですよ。

藤沢 やはり富山に出たからでしょう。

仲 演劇フェスティバルに出たり、ゼミでなり可成り見ているでしょ、それは全り演の運動の中で刺激し合う一つのポイントとして、それはあったと思う。

こばやし どこでやっても一応、衝撃を与えていることは事実だと思ふ。新しい芝居づくりだと思ふ。野田秀樹などとはまたちがう。

後藤 問題提起が積極的だよな。

概 西の特徴を一寸言い忘れましたけれど、創作劇が多いですね、それも地元結びついた。伊丹の市制四十五周年の劇団やぎ、四国は四国の一。

## (2) 東には貧富の差が

こばやし 東は貧富の差がはじめたね。専門劇団でもやっぱりそうやけど。青年劇場はこういう建物の中だから富の中に入るんやろうけど。

後藤 危機一髪のね。

こばやし 行き詰ってるところは、ほんとうに四苦八苦しているワ。

萩坂 じゃ、話をそこへ持っていきませんか。

こばやし 静芸なんかでも、名前上げて悪いんだけど苦しんだる感じがするね。

中沢 真木ちゃんの芝居やってーしかし、なんで？

こばやし 土の会、演集、石のつはどうなかな。展望も苦しんでるようだし、さっばおやら、開店休業的な要素が出はじめていますね。

丸子 演集なんか、かつて五十人以上の劇団員がいてどんどん退団者が出る。さっき西

の話で出た、劇団内プロデュースを認めているといふことね、演集の場合は伝統的に認めていなかったわけですね。だから、出て行ってしまふ。芝居がイヤになって出て行くんじやなくて、ほかで芝居やりたいからという恰好だね。いま名古屋で、演集出身の劇団、三つか、四つみんな活発にやっています。

藤沢 われわれの時代は、先輩がいて、教えてもらうという恰好で集団が成り立っていったでしょう。今、そういうの、ないんじやないですか。

丸子 先輩と後輩のギャップというのは、四〇歳と二〇歳とでは大変な差なんだけど、六〇歳と四〇歳じゃ、なくなってしまう。エネルギーは四〇歳の方がつよいのね。

こばやし 名古屋の場合は、プロデュース公演が、むしろ悪い影響を与えていると思う。あの演出者ジャイヤだというのが出てくる。

丸子 もう一つは東り演参加劇団以外にもずい分グループがあるわけだから、むしろ全り演は少数派。文化振興事業団というのがあって、その基金の利子。

こばやし 基金はなんぼ持っているんですか。丸子 利子だけで三五〇万か六〇万。予算が一五〇万だったら二回公演できます。企画

には民間から芸術家が入っていて、演出者はかから呼べる。オーティションで人を集める。必ずしも体制劇とは言えない。演集や各芸も入っている名古屋劇団協議会で去年は「十二夜」をやって成功しました。しかし、つき合い切れない。年に二回はつき合い切れない。

こばやし フリーの俳優がいっぱい待っている。

萩坂 都市型の劇団というのは、集団の理念というのは無くなってきているのね。北海道とか奥羽が燃えているのは、曲りなりにもそれがあるからだろうね。

こばやし そこへゆくと、地域とガッチリ結びついているのは、ウチぐらいなもの。

後藤 名古屋の今の話をきくと、日本芸術振興基金青木私案というので、国で出そうと打出しましたけど、その先例をやりはじめて

いるってことかな。

こばやし 大都会と単一都市とはちがうと思うけども、青森にそういう基金が出来たら、支木。大都会は準備が多いから。

中沢 青森で、支木一集団だったら、そういう振興財団なんて出来ようがない。川崎だってそうですよ。

藤沢 日本の演劇の動きを、事業団がきめてゆく。

丸子 マア主力にはなっていないですね。

萩坂 そこへゆくと群馬中芸というのはえらいと思うんだけど。「悲劇喜劇」三月号に中村秋一さんが書いているけれども、あそこで骨を埋めると決めてから、地元にはわかってもらえなくて。地元の劇団になって来たっていうか。

後藤 貴重な存在だね。岐阜とはまた違った意味で地域のものになってきているんじやないかしら。ぼくたち、あそこへも学校公演に行くでしょ。先生たちも、群馬中芸のことは気にしててね、育くまなきゃならないと言っていますよ。

丸子 劇団側の創造が体制の方で補助金を出してくれないとやっけないというところではね、今の形になる前に「青少年のための芸術劇場」というので名古屋が金を出して毎年一回やってたんですが、たとえば劇団名古屋の「野麦峠」、演集の「奇蹟の人」、三千八位動員して盛り上った時期があって、それが毎年続いていけばどんどん発展したんではないかと、劇団側がそれについていけない。フリーの人たちの仕事やプロデュース公

演がそれにとって代ってゆく。さっき言われた創造理念とか劇団の古い劇と若い劇の作り方のギャップとか、劇団がガタビシしてきて

こばやし 劇団が対応しきれていないですよ。向うの人が来て、いいのをビクアアップしてつくと、たしかに舞台がピシッとしますからね。

萩坂 劇団の指導部が老齢化して五〇歳代になってきたりすると、若い者がそこから理念的に学べた時代はそれでついて来たけれども、それが要らなくなると、という風潮の中で、技術だとか、何とかとなると、対応しきれない弱さを持っているんじやないですかね。

こばやし たしかに、若者が持つ創造要求にこたえきれない集団があるね。

梶 そりゃそうや、理念じやどうにもならんやね。今、若い人というのは、身体を動かすこと、歌をうたうこと、そちらに興味ありますからね。うちでもおもしろかったのは、「仙女たちのシンフォニー」の創造過程で、前半は日常リアルそのまま、ちっとも稽古ははずまんし、出てこん。ところが、仙女の錦、の方の踊りと歌の子どもの用の芝居は、誰も言わないのに、通常七時半、八時頃にはじまるのに六時から六時半には来ている。

岸本敏明というのは中々の組織者で、うまい。あの踊りの振付けを太極拳でやったらどうや、アイデアだけなんです、太極拳の基本を知っている若い女の子がいてね、たまたま、踊りの好きな子がおった、振りつけの好きな女の子がおった、この三人がチームを組んで出演者を組織しようとしたんです。

そこで考えたんやけど、たしかにやりやすい、踊りやったら一人でもやれる、そういう風に早よう集まって、二人でセリフをやりとりするシリアス・ドラマで、それがやれへんだらうかと。それはやっぱりダメなんですね。

こばやし うちでは、月、水、金、土の稽古のはかに火曜日自主トレーニングというのがあるわけや。なら、火曜日に、東り演の運動方針について学習なんていったら、誰アも来やせんわな。だから、その日は学習なんて書かずに、稽古にしとけて、ネ。

仲 サキやな。

後藤 いまの若い連中は、戦後のいるんなゆたかさの中で、からだや音で表現できるような変化がおこっている。それが一つのアイデア

オロギイのものに、どう結合してゆけるのか。中沢 梶さんが今言われたことね、踊りは踊り、歌は歌で突出してゆくんですよ、そこ

だけに注意が行っちゃう、当然ですよ、出来ないから。一番かんじんな、たとえば、からだ、踊ることによって物語らなければならぬ、歌うことによって語らなければならぬ、というようなことについては、パーなんですよ。

仲 踊りだとか歌とかは、自分がここまで来た、ということがよくわかるんですよ。芝居の場合には新しい発見がないわけでしょ、こういうものがつかめたというよろこびがあれば別ですけどね。なかなかそうはいかん。歌や踊りの方は自分でもよくわかるし、ほかの連中にもよくわかる。

こばやし それだけやしに、メッセージをつたえたいという世代と、そんなものはどうでもいい、からだ運動すればいい、一億総タレントの時代と、ありありと別れたね。

中沢 まあ、「ある馬の物語」の話になるけど、一つのものに統一してゆくという、「馬」はそういう本ですけど、そういうものにぶち当たったということは非常に良かったと思ってるんです。「仙女たちのシンフォニー」は、話に出たんですよ、この春の、かわさき演劇まつりにどうだろうって。踊りが良かったから、踊りの部分だけでもやろうよって。

だから、ドラマ全体をつかむのにえらい苦労をしている部分と、部分を攻めればいいんだという、別れ目みたいなのがあるような気がするな。

藤沢 踊りばかりやって何も考えんのは具合悪いけど、メッセージを伝えるんではなくて身体で表現してゆこうというのは必ずしも悪いことじゃないと思うし、むしろ、うちなんかは、とにかくやみくもに身体を動かしてぶつけていって、そこで、ナンカ中身をさくるといって、二〇代の連中が船を食って三〇代になって来たからかわらんけど、そんな時代を迎えているという気はするね。

梶 「仙女たち」では、グループが集って演出をし、他人の演技の指導をし、その物語の中にある、堅い言葉でいえば、ドラマの思想というか、そんな話もしましたね。こういう物語だから、こういう風に踊らにやいかんとかね、これは驚異やったね。こういうことが生れて来たのは、劇団の運営が、今までそういう土壌を作ったとたんじゃなかなかなという思いにもなってる。

藤沢 やっぱりね、踊りの振付の人によって、きれいに踊るとか、美事に踊るといふうなことでは踊れないわけ。そこで何かをし

ようとする、踊りの中で、きれいとか完成度というのではなくて、そういう中身がやはりいるんじゃないかな。

### (3) 集団における理念の喪失

こばやし いや、むつかしい時代になったと思うね。要求もいろいろあってね、昔は海水浴に行くっていえば家族全部海水浴にいったけども、いまは、親父は、おれはゴルフに行くというし、お母ちゃんはナニやらというし、子どもはバスケットに行くって風に、一つにまとまらない時代でしょ、芝居でもそうだと思うね。オヤジは腹望ある芝居でなければ満足しないけど、展望なんかありうるか、チャンチャラおかしいという風な、未来をパロディ化する若い者が出て来たりね。要するところ、好みがいっぱいちがって来た、踊ってばかりいて、こんなもん芝居やないやないかという人がおると思うとね、踊りやなんかで、実にテンポがあつてよかったという人もある。観客要求がいろいろ出てくる時代だと思っね。

丸子 一つだけ聞いておきたいんだけど、昔だったら、この役者の、これが演技かって

ものかと、その役者が芝居をやってるときにはみんな袖なんかで見ている、そんな時代があったと思うんです。今はどうかね、そんなことないみたいですね。だから若い連中がベテランに尊敬の念を失ったものの中に、メッセージをつたえること以外に、役者として、あの人でもあんな程度だ——これがあるんじゃないかと思うんだ。今、割合と器用ですかね、すぐ眼先で動いて、カッコいい方へとられるから、そういうこともあるかもしれないけど、役者のこと言えは演出のことになる。

役者としての、いくらベテランだって自分のことは見えないし、ところで、さっきの専門家をつれてくると、サーッといっちゃう。見劣りするみたい。見劣りしちゃいけないんだよね、演技者っての。これはもうどうにもならないのか、それともどうにかしなきゃいけない、と奮奮すべきなのか。

藤沢 古い言葉でいうと、魂のない演技が横行してるんじゃないか。成程見事にやってみせるとかいうんじゃないか、あの人の芝居が好きだとか、あれが見たくて、とか、揺さぶる魂がね。

萩坂 地域劇団のお客は、うまいなと思っ

りだとかね、岡安君の芝居、そうですね。あの里村孝雄にある労働者がたまらなくいいわけですよ。彼が、それじゃね、大学の教授の役やなんかだったら、あんなには成功しないと思うんだ。そのへんのところを据えての評価になるんで、その舞台から、役者から、集団から、びったりくる生活感なり、そういうものが、モロに出れば出るほど、そのエネルギーの根源はからだから出て来ているってことになるわけで、そのへんを見わけないとね。

こばやし そんな、話だけやしにせ、里村の演技を見てみる。身体が躍動してる。四十を越えるとエラいですわ、こばやしさん、て言ってる。

中沢 お願いを若い連中にするわけですよ、こばやしさん、ああじゃないか、きいてくれる奴はきいてくれますよ。きかない奴はソッポを向いていきますからね。丸子さんの言ってる話がよくわかる。中央の人、あきらかにちがうっていうけど、合わないところではちよっとワキへ向いてしまふ。そこらへんのところをどうのりこえるか、とても大事な集団にとっての問題だなっていう風に、思い出してるんだよ。

城谷 ぼくはね、理念が具体的に展開してこない、そのもどかしさを感じてしようがないの。それは世代間のズレだけでは勿論ない、でもね、古い人たちが理念をかざして、それを演技の上で、どうするか、演出の上でどうするか、作品の上でどうするかという、そういう転化への挑戦が非常に足りないという風に思うの。だから、からだを動かすことの、若い人の例で、いっぱい出たけれど、それで分岐していってしまうの、だからほとんど分岐はひろまってしまっただろう。もっと理念みたいなものを、具体的に、身体を、じゃどうすればいいのか、そこまでするって挑戦しなきゃだめだと思うんだけど。

萩坂 岡安君の芝居でも非常によくないのもあるんですよ。たとえば、「わんはうす・わんゆにおん」。役者の演技力を過信して一人で四役も五役もやらせるんですよ、本の指定もそうなんだけどね、混乱そのものですよ。「太平洋ベルトライン」のように一貫して流れている岡安君の思想が出てこないんですよ、その点では、からだを動かすのが岡安芝居の魅力だというけどもね、失敗する側面もあわせ持っていますよ。岡安君自身も気づいてきていますしね、どれが成功し、どれが失敗



したか、これはやっぱり、理念、思想をぬきにしては言えない。

中沢 年寄りの演出者がついた場合、たまたま、たとえば身体の動く奴だったらいいですよ、こうだ、こうだと踊ってみれば、その理念と、まさにそのゲーム出しとが一致できるわけだけれども、誰もができるわけじゃない。だから、何というか、お互い、話をきき合っつね、きき合えるナイーブな関係をどうやってつくり合えるか。良いこと言い合ってるわけですよ。

藤沢 それはやっぱり、イメージですよ。イメージがないってことですよ、内的な躍動するイメージが。踊りだから身体が動かなくたっていいわけですよ。岡安君だって踊れるわけじゃないんだ、それでもそこへ挑戦してゆく、そういう内的なイメージが、つくるものにはないとネ。

(ここで中断し、全員衣装をととのえて、霞ヶ関の文部省の建物の七階、文化庁に赴き、文化庁次長加戸守行氏と面談した。)

#### (4) 文化庁訪問のあと あれッ、梶さんがいないッ

藤沢 あれッ、どうしたんかな。

仲 一緒に来たんとちがう?

こばやし 梶さん、赤坂買付で? 渋谷へ行った、ほんなら。

中沢 イヤだなアアア。

(大丈夫、そのうち見えるよ、とになって続ける。)

萩坂 からっかせの、深沢君の芝居はどうだったんですか?

こばやし 芝居? 演技としては非常に素直な演技で、出来のいい舞台だったと思うけど、本の焦点が不明確で、観客は本についていけなかったという気がするね。芝居はついていけたけど。

萩坂 浜松楽器の争議を扱った芝居という風に宣伝してらんですか。

こばやし そういう風にはしたくなかったらしいですね。だから、あいまい。浜松楽器の争議を通して来た、青春群像の苦悩みたいなものを書いたという感じですね。

城谷 この間の運営委員会での山静プロックの報告では、浜松楽器の争議の劇化ということで、新聞記者、テレビでも放送されたらしいことだったから、そういう関係にはアピールはしたんじゃないですか。

(座談会再開、当然先ず文化庁の話が出た。)

萩坂 (補助金或は助成金は) 集団そのものにはくれないっな。

仲 法人でないとね、社団法人とかネ。

こばやし アマチュア演劇連盟は社団法人やでネ。おれたちはなれんも。

萩坂 利益を目的としちゃいけないんでしょ、先ず基本に。

中沢 何んか、ちゃんと事業を組まにゃいかんしネ。

萩坂 話に出た国民文化祭、あれを各県に持った場合、たとえば、仙台とか愛知とか、そこに全り演としての手がかりとか足がかりなんかあればいいけど、全く何も無いところへ、そこへ出ませんか、そしたら補助も考えられます、と言われても、どうだろうね。

仲 国民文化祭というのは、つまり、たとえばわれわれのやっただと研究会やるとか。

萩坂 月間の中に入れるわけよ。いろんな行事があつて、その中に全り演のフェスティバルも組みこむ。次長は、そこへひっかけられるかもしれないという話でしたネ。だから全り演の行事そのものは単独でやれるわけよ。

萩坂 お客が入ってました?

こばやし 一〇〇〇人程の会場で三〇〇位かな、ぼくの見た日は。

仲 市民の中に生き残っていたりで、そういう関心はつよいんですか。

萩坂 その話、深沢君取材で歩いたんだけど、争議の話はしたがらない、口をつぐんでいわないって言っていましたネ。だから、彼は文献で書いていますよ。あとは、むしろ、彼のフィクションでしょうね。

仲 神戸の四紀会が、造船所のあるを書くでしょう、神戸の市民の生い立ちのような方たちで。そうすると、前の、古い活動家に来て、若い人たちにあの当時はあつた、こうだった、つまりそういうものが、雰囲気では、客席に、どういう風につたわっていったんか、どうなのか。

こばやし うん、そういう人もいた。泣いてる人もいたから、昔のことを思い出す、芝居として盛り上がるのではなしに、体験として、泣いとったけど。

萩坂 何故からっかせのことを出したかという、北海道さっぽろの「シホロカベツ川」それからやませの「海村」「赤い海」にしるね、いま古い昔の話(とは云いきれないにし

藤沢 そうかな。

中沢 そのかわり門戸を開いてくれ、と。こばやし 合唱とか演劇とかある、總体的に、そのプログラムの中に入れるということじゃないか。

中沢 可能性は高いと思うね。前向きに考えるってことだろうと思う。

萩坂 こばやしさんも言ってた、三百人劇場の「地球劇団東京演劇祭」の出場七つのうち四つ、「悲劇喜劇」三月号の「地方からのメッセージ」にしても十二のうち九つまでが全り演となると無視できないともいえるね。「演劇会議」の劇団の住所一覧もよく見えていたね。プロックの責任劇団にマルつけさせたでしょ。それで、どうするんですか。

こばやし 東京へ来たときにでも、もういっぺん。今年の国民文化祭は東京でやることは決まっていますからね。またコンタクトをとって、二、三人で行きましょう。

そこで座談会どうしよう、座談会。

萩坂 これからどういう芝居をやっていくかという話、そこへー

仲 それと観客論。

(この時誰かが梶氏の不在に気付く)

でも)の爆り起しをやっているんですよ、その書きっぷりね、西でも三つ、四つあったよ、そういう場合ね、こばやさんの「郡上」だとか黒さんの「真土村」なんかと、かさなっているのかな、いないのかな。つまり観客論から入るのか、創造者の理念から入っているのか、どっちだろう。

仲 観客論にしても創造論にしても現在の観客にアピールしてゆくんだから、歴史をそのまま伝えるというわけではないでしょう。こばやし 六〇年代の歴史劇は歴史にアピールしたけど、八〇年代の歴史劇はアピールしないんヤッ。

中沢 ぼくは二つあると思う。六〇年代の場合はカメラが先行してるわけですよ、かつてのたたいの中からは何かをひき出そうという、そういう見方をしていると思う。それから今、一〇〇年前の芝居、ゴリキイもふくめてトルストイもそうだけど、やっているとときの視線は、もう一べんひき退ってその時点から現代を見ているというか、そんな、その一

こばやし トルストイは別にしてネ、現在日本の歴史を芝居にする場合にネ、六〇年代は、そうだッ! やらにゃいかんという勇氣に時代にアピールしたけど、今はネ、昔の人は

大へんやったなマ、という風にし。

藤沢 今までの農民一揆劇だったら、一揆を記して、弾圧されて、打首になったという農民の魂、悲劇をつたえる一揆全体を描いた。ところが、そうではなくてその一揆に参加した一人の人間、つまり、どういう風に参加して、どういうことが彼の中に起ったのかという、そういう風に焦点の当て方が違って来たということはあるね。

萩坂 そういふ変化はあるナ。お客の興味もそっちへいってると。

仲 いま沈滞してる、それを奮い起たせる材料としてつかんでくるという視点ではダメなんや。

こばやし 今の観客はネ、明日生きたる勇気を与えてもらいたくないなんてのは、ありやせんよ。おもしろけりやいいというのが、やっぱり中心だからね。アンケートでもネ、やっぱり、おもしろくてたのしい芝居をやってほしいというのが割に多いの。

(梶氏、ひょっこり現れる。)

藤沢 あら、どうしたんですか？

梶 (ぼっそりと) 藤沢さんの帽子が何となく似るから、ついていったら女の人やっ

萩坂 それはしかし、ドラマツルギーとして、昔に比べて必然的でもあり、決して悪くはないと考えたらいいのかな。

藤沢 つまり、たまたまを描くのではなくそこ人間を描くという風になったんじゃないですか。昔は、こばやしさんの「郡上」にしても、やはり「立百姓」でしょう。たまたまを描いている。そんな中で、うしろ向きになった百姓を描くことだってあるわけでしょう。

中沢 歴史観がね、割に必然的な、或は弁証法的にマックスとしてみてきたものを、個人のちからでも歴史は変えられるんじゃないかという、見方みたいなものが出て来てるような気がするな。

こばやし 個人で歴史が変えられる？

中沢 いや、個人の、歴史の中で果す役割というか、そういうところに焦点が出て来てるような気がする。

### (5) こばやし・ひろしの苦惱

仲 さっき、こばやし君が言ったワネ。そういう求め方はしていないんだというけれども、そりや現象的にはそうなんだけれども底流にね、そういう生き方を求めてるけれど

教育ができていない。

仲 現象的に、いまそういう状況やちうことと解った上でなお且つ言ってるのやけどね。

こばやし そりや願望やわ、あなたも、二十世紀に期待してやせんもの。

仲 そりや、われわれのいう期待というかたち、それはないと思う。しかし、マイホーム、小さな家をつくって、ペッピンのおメさん持って、コドモふたり、その夢はあるわけでしょ、若い連中だって。

こばやし その程度の夢はあるわネ。しかし、日本に対しては夢はないワネ。二十世紀に夢をもつという人間は少いよ。やることみんなやってしまつて、ビルが建つてるのをこわすわけにはいかんしネ。女の時代やで。女はまだやることある。女は口紅ぬつても何となくやけど、この頃、男が腕輪したり、耳輪したり、いっぱい出はじめたが。女はいっぱいやることある。男はありやせん。

萩坂 こばやしさんのとこで、あれだけお客をあつめてるのは何なんですか。そのへん、一寸矛盾しませんか。

こばやし そりや地域やからだと思ふネ。萩坂 地域にはそういうものがないってことですか。はぐるまの芝居の本音はヒューマ

も今はだめだというあきらめの、そちらの方に比重が大きくて、そういう生き方をしたいというねがいはやっぱり、あることはあるわけでしょう。そんなもん全然なくてさ、その瞬間々々にしか生きていないって風に断定してしまふことは出来ないんじゃないか。

こばやし 今の若者は十年のち、二十年のちのものは何も期待していない。十年のち、二十年のちを考えればマジメってことが大切だけれども、マジメが否定される時代でネ、マジメよりも不マジメ、不倫、不道徳が讃美される時代やからね。もうあきらかにパロディ化する時代やでね、マジメなものを茶化すのが今の若者やと思う。一番、タモリに典型的にあらわれている。だから、そういう観客層に対して、どのように挑戦できるかということが大きな課題やと思う。

仲 われわれでも若い頃、二十年さき、三十年さきを本当に展望していたか。そりや、どっかで社会主義とかいろいろイメージはあったと思うけど、自分を一番動かせたのは、これではダメだとか、このままでは自分がダメになるとかサ、一番直接的なものが、その人間の次元と結びつくわけでしょう。

こばやし 今の若者は全然ちがう。だから

ニズムじゃないんですか。

こばやし ヒューマニズムですよ。だからうちの場合、若いもん少くなった、割に少いよ。(註・観客層のこと)

藤沢 ヒューマニズムは若い人は必要がない？

こばやし 必要ない。うちは満員になるけど若いもんは少いよ。

仲 聞いていたら気持ちいいけどナ、逆に言えば、それやわれわれが何んか悪いことしてる面があるんとかうか。問題は――

こばやし 向うの問題や。仲 向うの問題じゃなくて、観客がそりや、或は子どもがそりや、現状だからしやあない、そりやろ。そりやけど、その中に何かないのかという問題やがな。そりやから、というところから出発したらんと、あかんのとはちがうか。

こばやし ちがうな。先ず、人間バラバラやろ、感性なくなつたやろ、そんな現象、そんな連中は、野田秀樹なんかの観客になるかもしれないけど、俺たちの観客にはなかなか

らん。組織できんのやて。丸子 三年前だけど、関雲の「ああ青春高校野球」という芝居で学校の演劇鑑賞やつた

んだけど例年になく盛り上がりがあった。あの論理というのは、落ちこぼれ野球部があって、新しい部長が来て、お前たちだつて一べん位勝つてみていいんじゃないか、そうだな、一べん位勝つてみたいナ、というところから始まるのネ。その一べん位勝つて野球の試合のシーンになると、客席まで応援団になっちゃう。若い高校生の気持というのにピッタリくる。

こばやし こういう状況の中におかれた子どもの気持というか、先生は全部敵で、友達も全部他人で、そのなかで、言ってみれば自己の発現にかけていく人間たちに出てくるエネルギーというもの、そういうものがあると思うんです。

それはぼくらの持っている歴史観というものは全然違ふところから出て来ちゃうから六〇年、七〇年と体験して来て、若者と対決しようと思つても永久にすれちがっている。どっかでマシーンとエネルギーが出てくるのを見てるとネ、すれちがって、こっちの方が悪いんじゃないかという感じがしてくる。

こばやし 感性がぶつてきたというか、「夕鶴」で、十五年、二十年前はボーッと涙を流す観客がいたけどネ、いまは、そんな、

なんや、アレ。

仲 感性がなくなつたとは言えやへんよ。  
こばやし 言えると思う。たとえば、ゴッ  
コ遊びというのがあつた。人形でもネ、(調子  
をつくつて)ヒロシくん、怪我してきたの、  
お母さん抱れちゃってネ。(戻つて)とお母  
さんの対話するというようなぐあいだ。今  
は刺戟だけで遊ぶ。ミルク人形にミルクやる  
でしょ、ぬれたか、ぬれた、それで終わりや  
で。

中沢 感性がないものとして、その感性の  
ないものに、こばやしさんは何を言おうとし  
ているの。

こばやし 感性がなくなることについて、  
それをヨリ刺戟的にしなくちゃいけないから、  
アノ、ミニョカルしなくちゃいけないし、  
踊らなくちゃいけないし、要するところ、刺  
戟によって彼らをこっちに。

感性というのは、人間と人間の関係があつ  
て、はじめで感性やね。都市化してペラペラ  
になるのとはちがうんやで、人間の関係がいっ  
ぱいあつて、子どもの頃、集団で遊んでネず  
うって育てられたのは、これが本当の感性な  
のよ、それがいま、小学校から帰ってきてちよ  
つとも遊びやせんよ。

仲 そういう状況はわかつてんネ、あんた

から言われなくても。ただ、そのことから何  
ぞわれわれはひき出すのかという問題や。感  
性ないというてやな、じゃ感性にうつつたえる  
芝居ないのか。じゃ、何もせんのか。

萩坂 こばやしさんはサ、今年の秋、創作  
劇やることになつてゐるんだけど、あなた、ど  
ういう芝居書くのかな。

こばやし そういう意味でいったら、地域  
性というか、自分の観客が大事になつてくるつ  
てことや。うちの観客は、昔から、うちを育  
ててきてくれた観客なんだ。若い層をネつ  
かむということが、どういうことかかってい  
うと、ぼくにはわからぬ。

中沢 岐阜はぐるま、一〇〇人近くいて二  
十代何人いるか知りませんが、ほかの  
劇団に比べたらはるかに多いと思う。何を懸つ  
てくるのかしら。感性の問題でも問ひ直して  
みる必要があると思う。やっぱり、岐阜にそ  
ういうものがあるから寄つてくるんじゃない  
ですか。

藤沢 うちの娘でも、新劇、新劇なんて今  
どき意味ないじゃん、私は芝居はやるかもわ  
からんけど新劇はやるうと思わんとか、言っ  
てますけど、やっぱり、「商人」見て感動す

めたのは、こういう状況がすすむことの恐ろ  
から、岐阜で、少しでも、おれたちの文化、  
おれたちのもんやと岐阜市民が支持してくれ  
るようなものにしなくていけないという、追  
いつめられたものがおれの中にあるね。それ  
以外の防波堤はおれにはないもん。おれにとつ  
ては、本がよいもんないかって、そうは書け  
んしね。

萩坂 それは、なんか言えるね。はぐるま  
の舞台をみると、必死だつていう、すがりつ  
いてる感じはするね。観客に対して強烈で  
積極的な受身つて感じ。

中沢 言い合つていることの中身でもそん  
なに对立し合つてと思えない。藤沢さんの、  
だから俺たちが、というふうに言うべきこと  
は言い切らなければならぬという議論にし  
ても、やはり同じような状況をふまえての、  
こばやしさんもやはり言い切つてゐるんだと思  
うんだ。

### (6) そこで打開の道はあるのか

萩坂 中身抜きで、それもなと思うんだ  
な。あのネ、さいきん、感心したというか、  
気持がゆすぶられたというか、あるんだけど、

るしね。だから、そういう風潮はあるけれど  
も、やっぱり、今の時代をぼくらなりに、五  
十何歳のぼくたちなりに真剣にとらえたもの  
をぶつつけてゆけば、交流というか、感性的  
なつながりがある。ただ、一般的に受ける、  
大受けを受けるというようなことは、先刻、  
多様な問題が出て来ていたけども、可成そ  
れに感動することと、無関心なことと出て  
来ている、ということと言えらると思う。だか  
ら、ヨリよけいに、われわれはしっかりして  
今の若い連中は、などと考えずに、おれたち  
はというので主張していかないとイケないん  
じゃないかな。だって、「商人」を見た感想  
文なんかにも、可成シビアに人間関係を、わ  
れわれの頃よりも、今の高校生も見てゐるん  
だな、というようなことは感じますよ。

こばやし ま、それも否定しないけれど、  
いよいよもつてこういう状況に對し、子ども  
のこういう拡散状況の中に教育者がなやむと  
同時に同じ位悩まなくてはイケない時期に來  
たということと言えらると思う。悪戦苦闘して  
いるのは教育者だけでなく、われわれの姿み  
たいなもんだと思う。

岐阜市というより、地域やな、地域という  
ものは大事やなと熱烈に思うようになりはじ  
まると、ただで中身は田中正造なんだな。だから、も  
う田中正造の芝居はダメだ、と、明日も信じ  
ない、正義もない、ヒューマニズムもだめだ、  
という風に、こばやしさんみだりに切つてい  
てしまつた、まア、切つてゐるか切つてない  
かわかんないんだけど、それだとリアリズム  
作家はますます書けなくなるし、そう言えば、  
やませの証谷君の「赤い海」にしたつて漁民  
が徒党を組んで会社を焼打ちするという芝居  
ですけど、その場合、「郡上の立百姓」の  
ようなストレートなメッセージはないけども、  
そこで結果している民衆の一人一人に存在感  
があれば逆にそこからテーマが出てくるし、  
今の観客だって、十分そこに共感があるんじや  
ないかと思うんだ。

こばやし 話は一寸ちがうけど、成程ナ  
と教えられたんですけど、ある学校の先生が  
ね、家出した子がおるわけ、学校劇で本を書  
いたわけ、どうしようもない子やんわネその  
子、その劇にその子が出た理由がずうつ  
と書いてあつて、学校会にお前出ると言つた  
わけよ、出たんやで、その子、非行が変つ  
てまつてね。はじめで、その子舞台で主役で  
脚光を浴びて、その子得意になつてまつて  
卒業証書も先生のおかけやといつて、卒業後も

しょっちゅう訪ねてくるんやて。あんなうまいこといったことはないという話でね。成程なアと思ってね。

荻坂 あなたの作った「安寿と厨子王」だっ  
て、そうじゃないですか。言ってることとち  
がうらんだもの。

仲 さっきの否定的な側面、それを認識し  
た上での側面とね、まだわかんなくて、まだ  
今だに、なんでこんな芝居しかできないのか  
という集団の問題もあるよ。だから、いまの  
若者は、というあなたのその指摘はわかるけ  
ど、まだまだ残ってるわけよ、われわれの中  
にたくさん、でもそれだけで遮断してしま  
うと、ちょっと問題が前へ進まないだろうし、  
そんなことは承知で言ってるんだと思うけど。

中沢 でも、こばやしさんの作家的な焦燥  
感というか、あせりというか、それが活動の  
原動力になっている、そこは非常に納得でき  
るな。

こばやし 少くともおれたちはマイナスの  
人間をどのようにリアルに描くかということ  
は大きな課題だと思う。

仲 さっきの和歌山の芝居じゃないけどね。  
藤沢 マイナスというか、矛盾をかかえた  
人間。

直してみる芝居です、となると。

こばやし 原爆・反核の芝居とかね、首切  
りの芝居っていうのはもうないんじゃないか  
ね。

丸子 劇団はテーマ主義じゃないんだけど  
外部団体もものすごくテーマ主義ね、やっぱ  
り。アピールが先になって、創造性とか人間  
の奥の底なんてのはどっかへとんでっちゃう。

城谷 成功してるのは、たとえば争議団と  
か団体の集いなんかは千人とか二千人とか、  
ぼくらが半年かかって集められる位の数をパ  
ッと一晩で集めちゃう。そこでちょっと芝居ま  
がいのをやるでしょ、構成劇風に、すると案  
外らしいミュージカルで感動した、ぜひ再演  
してもらいたい。

中沢 芝居でないのにな。

丸子 国家機密法の芝居「ある日突然」を  
四日市で、簡単な装置で、オートバイにの  
つたミッチャン、ハーチャンが写真をとって  
ると、おまわりが来てパッとつかまえる。そ  
れだけでも大変なシヨックですよ。名優なんか  
じゃないよね、それでもワーッと乗っちゃう。  
客席の在り方というか、芝居のジャンルとい  
うか、やっぱり一つの場なんだな。

中沢 そういう、いま集会の作られようが

荻坂 よわい人間。

仲 それに自分の投影を感じるわけね。  
荻坂 孤独な人間ね。それが一人、一人に  
フィットする。

丸子 学校の演劇鑑賞会、毎年やります  
とね、生徒がついてくる芝居についてこない  
芝居は大別すると、下の方からひっくり返す  
芝居はついてくるのね。なんか、見本みたい  
なのはダメなのね。「ああ青春・高校野球」  
もそうだし、銅鑼のやった「ホセイドンの飯  
面まつり」なんかは謀叛する警察の署長の悪  
い奴、みんな罵入れしちゃう。正義の味方  
てのあ、あんまり受けないのね。「奇蹟の人」  
なんかにフィットする要素があるしね。

### (7) ふたたび、現状について

丸子 方法として、強烈な刺激が必要だと  
いうのが一つあると思うのね、いかに強烈、  
どんな強烈、たしかにそれは思うんだけども  
音なんかでも、今の子どもたちが平然と聞いて  
いる音が、ぼくたちは耳がおかしくなる。だか  
ら効果担当が若い子だったりすると、滅茶苦  
茶につよくなったりする。

中沢 子ども芝居見に行つて、音のアップ

あるね。芝居とはちがうと思う。

丸子 それも芝居かもしれない。

城谷 そういうものはどこでも成功してい  
ますよ。

荻坂 そういうものに対応できる集団はネ  
何とか足腰があつてやるけれども、弱い集団  
はそれも出来ない、自前の新しい芝居もつく  
れない、どっちもだめだというのがあつた  
な。

こばやし 活動が停止状況に陥入っている  
劇団というのは、逆に言つて、若い層をつか  
んでいないし、古い層をつかんでいないとい  
う両方の層をつかみきれずに活動力を失って  
いるところがあるんじゃないかな。

中沢 失ってしまったんじゃないかな、中  
心パッターを。

荻坂 それが五十歳頃からね、丁度。

藤沢 やっぱり魅力がないんじゃないです  
か、その集団が。年寄りが全部ダメだとい  
うことはないと思う。

城谷 こわいののは、組織と創造の問題で言  
えば、芝居の中で、理念を具体的に、演技の  
中で変えてゆくね、ひっぱつてゆくものがあ  
れば、逆にそれはなれちゃうとね、ぜった  
いに若い人はついてこないと思うの。組織論

イのは先ず、びっくりするな。

藤沢 一概には言えない。ロック聞いている  
場合と現代音楽ね、電子音楽ね、可成微妙  
な音で、何というか、心に沁みこんでくるよ  
うなものも好きでしょ、だから――

(ここでカセット入れ替え、一寸中断)

中沢 客種は多様ですね。六対四位で女の  
方が多い。

丸子 京浜の客席、青年が多いですね。し  
かも可成一所懸命見てる。たとえば京浜の客  
席に坐りますと、四〇歳以上の、人品卑しか  
らぬ人が圧倒的に多いですね。

荻坂 京浜のこんどの「ある馬の物語」で  
制作めんが一番困難だったのは何ですか。あ  
あいう本、ということ。

城谷 個人の奴はみんながなばつて、ジワ  
ジワと昇つて来てるんですけど、なかなかそ  
れ以上いかないんで、外へ抜けようというこ  
とで団体まわりを重点的にやつたんですけど  
そこで行かないのはね、スパッとしたキャ  
チフレーズが出ないってことですよ。これが  
原爆の芝居だと、反核四〇周年だからゼヒ、  
ともう一発ですよ。或は差別的芝居です、こ  
れは首切反対の芝居ですといったらスパッと。  
ところが、これは、人生をもう一べん見つめ

だけが突っ走つたりしてゆくと、違和感があつ  
てどうしようもない。

藤沢 だけど、集団に寄りつかないとい  
うことがあるんですよ、現象として。劇団の周  
りに来ても劇団に入らない、養成所だけ来  
てね、それで別に劇団をつくる。だから、そ  
ういう場合には、その人にとって、その集団  
は魅力がないわけですよ。

城谷 それは、まずまず傾向としてつよく  
なつていくと思う。非常につくりやすくな  
たし、すぐできて、すぐつぶせる。大事なこ  
とは、いま在る集団、いま居る人がね、さっ  
きも出たけど、あんまり眼をちらつかせない  
で、そのやりたいことを、もっとハッキリさ  
せる必要があると思うの。

こばやし そりゃぼくみたいな白髪の者を  
相手にね、芝居やるなんて思う方が大体おか  
しいんでね、ぼくらがハタチ位だったとき、  
考えたら、もうわかるからね。一緒にやるな  
んて一寸気が狂つてるか、おかしいんでね。  
そういう場合、ウチなんかで言えば、観客が  
いるから、多く集るから、ここでやってみ  
たいと思っただけでね。若いもんだだけでや  
つてみたいというのが半分、半分やね。たと  
えば研究所へ入つてもね、前は、みんな劇団へ

入るわけ。いまは、みんなどうしよう、こうしよう。それは当然だから、ぼくは、ほんなら別につくれ、おたつてやることありやせんよというたら、そしたら、やってみたらすぐつぶれてしまう。一回やってみてしまおう。そしてウロウロ。それでやれるような気もするしね。だから、顧客がなかったら、先ず入ってこないと思う。

中沢 たしかに、たとえばこばやし大先生がいるから、その遺風を慕い、作風をしたってゆくなんてことはすくなくって来ているという気はするね。

こばやし ただ稽古場のこと考えたり、こういう大きな建物（ここでは青年劇場のこと）があったり、照明器具がタンとあったり、そういうものをマタ自分から作らんなんと思つと大変やなと思うで、そこでやっぱり、入ろうかな、と思う。

中沢 それもあるけど、集団そのものが、ほんとに若く、いきいきしているとか、そういう魅力がないとダメなんだよな。それを慕って、それにあこがれてくるということは、今だつてあると思うよ。

城谷 四紀会なんか、いま、二十代が可成り入つてるでしょ、古い人も相当いるよネ、

けどわ。うちでねわれわれクラス、五十を越したつある古い世代、それから中堅どころ、一般公演では青年の主人公になる部分ですね、それから養成所を卒えて間もない層、三極出てくるのネ。それがね、われわれクラスの、昔だったらひっぱたいてもいいという、あるいは指導方法はもうだめで、次の中堅に期待するとかたかたちになってきたわけでしょう。その方法も十分じゃないしね。ぼくらじゃもう齢が過ぎすぎてね、十分その人の悩みや、そういうことまでね、接点を持てるどころか、劇団はどうなるか、そんなことばかりでね、結局、日常生活の中で、一番のしわよせは全部若いところについてしまう。ぼくら分析してみたんですがね、新人殺しの青年劇場ってどういうことなんだ、と。

中沢 それは言える、うちみたいな小さな集団でも新人にしわよせがいくつてのは非常にありますよ。

藤沢 劇団一代論って、宇野（重吉）さんがいつか言ったでしょ。たとえば、こばやしさんがね、全然全く自分とは違うような劇団の考え方をもちた若いもんが出てきて、ドン・メンもやたらどうしますか。

こばやし 新人に企画するちからを身につ

それでイキイキやつてるものね。

藤沢 四紀会の場合は、割と、多様化する要求に劇団の体制が応じている、あの、ナントラ劇場っていろいろあつてね。

堀 そりゃいろいろありますよ、そやけどやはり残るといふのはネ、こばやしさんが言いはつたように、稽古場が、元町駅の降りたところにある、これは便利ですよ。

藤沢 それはネ、ものすごく、現実的に、シビアに見てますよ、若い人はネ。ウチの研究所でも、高校を卒業して、遠くから来て、下宿、淀に見つけて、来たわけよ、それこそ青雲の志をいだいて。ところが一年たつて、卒業が近づいてくるとネ、入るかというとき、さあ？ ウチへ入るために来た奴がだよ。なんでかというとき、知れてるぜ、劇団入つたつて、せいぜいあんなもんや、それやつたらぼくは東京へ行つて一旗擧げるような気持でやつた方がええな、と思うわけよ、それは。ぼくらは、貧しくてもやるよとかナ、この地域にへばりついてやるよとかね、そういう理想があつたよナ、そういう理想はないよ、ものすごく現実的だよ。

こばやし 東京、東京って時代は十年位前やつた気がするんやな。東京の研究所の紹介

けなくちゃというわけで何をやつてもいいと言つたら、北村の芝居をやつて、これは一体何を言いたいと思つたのと喧嘩になつて、何かあると思います、何かあるじゃわからん、説明しろ、といつても説明できんし、お前ははぐるまに何年いるんやメッセージがないのは芝居やないワワー。

論理とかストーリー性とか理念とかは、絶対に必要は、なんで必要かというんよ。要するに見ておればいいんやで。われわれはヨリしあわせになる人生をめざして、そんなもんあらへんていわれたらー

### (8) 切符売りの原点から

藤沢 この前西会議でやつたでしょ、岡安君と山田民雄さんのふたりを呼んで。このふたりの話は全くかみ合わないのがおもしろいというかね、ぼく司会やつて困つたけど、岡安君は、作品について、語ることも何もありません、テーマなんて考えません、今、パツと思いついたことをちりばめて、そこに線を引き結びついた焦点がどこにあるかって、それでやるんですとかネ、ものごとは論理的に発展しないところがおもしろいんで、だか

頂けませんとか、東京の研究所へどうやつて入つたらいいかとかね、毎年十一月か十二月になるとね、菓子折持つて。この頃はおらん。

仲 この頃は直接行つてしまふ。

藤沢 関雲もそうやけど、ウチもそやね、完全な予備校。はつきり言うよ、東京へ受けます、そのためにおねがいしますつて。

後藤 一面ではUターン現象つてもあるんじやないんですかね。サークル的なこともいろんなかたちであるわけでしょう。そこで一定の演劇的充足つてもものが可能にもなつて来ているしー

中沢 うちなんか今まで、東京から全然見向きもされなかつたけど、こんどは、板橋とか、千葉の方から、見に来てるんだよ、ちゃんとね。

後藤 だから、舞台を通して、はじめに芝居に感動をおぼえる接点があるよネ、そういうかたちは割に多いんじやないですか。ぼく途中外れるから、ハナシあれなんだけど、うちなんかの場合、若い人を生かしうるような方法論が、また十分できていないんですよ。

いつかネ「新人殺しの青年劇場」って形でやめていった若いのがいる、いい子だつたん

ら不連続の連続というか、ぼくは反核ー反対している人なんか興味ありませんね、反核から外れていく人の方に、ぼくは興味がありますね、ぼくは知らないことは書けませんから、教育問題が大事だからといって教育問題を書くわけにいきませんというネ。で、山田さんはぼくはやはり依然として磨かれた人の味方になって、歴史のすすむ方向でやつていくということをやつていきたいな、全く、かみ合わない。

丸子 岡安君の場合の論理とかさ、反核はいらんというのには彼の身についてるところから出てるんで、身につかないところでそんなことをいわれても。

後藤 ある意味で発想の切り口が、岡安独特の切り口が出てくるんだと思う。それはそれで一つの有効な方法だろうと思うし。

こばやし 彼のような奴だったら、おれは今の若いもんにも、ああいう作品だったら、案外いいかもしれんという気はするね。

後藤 そりゃ、こばやしさんのリアリズム路線の先の方について書いてるから。全然ちがわなから。

丸子 「星月夜」を見ていつて、何が何だかわからなかつたんだけど、河井セツチャ

んで子好きなんだけども、あんなことしてて彼女やっけてどうだったんだろうと思ってね。「乞食王子」の役でほんとうにすばらしく動いたと同じ役者、「岐阜わが町」の追役をやった人がね、観客としては困っちゃうね。何をやってるかわかんないけどやってみたということかな。

萩坂 そうはいいいながら成り立っているってのがはるまだよ。

こばやし 結論でいけば、観客からすてられてゆくの集団の中ですてられてゆくの両方が見えるということは、これからはやはり言えると思うよ。

丸子 さっきの下剋上路障じゃないけど、若いものの中でも、自分を何とかしたいという気持ち

萩坂 あきらめられたらだめだね。喧嘩相手にならうちは未だいいけどね。

丸子 ぼくらの方の抑えちゃってるのは、正しく抑えているのか、ちょっとイージーなもの内包して抑えているのか、問題だ。

城谷 この間関東プロックで、「観客をふやすために」というので一日やっただけど、見通しのある劇団とそうでない劇団の差がかなりハッキリしてきますよ。予算がね、たとえ

ば二百人か三百人しかお客を呼べないとする、一枚一〇〇〇円とか一五〇〇円だから予算はこれだけになる、もうこれ以上の仕事はやれない、お客さんもこれ以上集められないから、このレパートリーはできない、と。というところから、ぼくは何も生れないと思う。やろうとしないのネそれを。ガンバリなんか出てくるはずがない。そりゃかりに目標までいかなかったにしてもネ、やっぱり、一〇〇〇〇立れば五〇〇〇は集められるし、二〇〇〇〇目標立てれば一〇〇〇〇は集められるんだけどサ、それをやろうとしないもんだ。

萩坂 つかれるからね、やっぱり。  
こばやし うちが可成お客さんが多い理由の一つに、やっぱり、ぼくがたくさん売ることがある。ぼくは一〇〇枚切ることが先ず無いからね。やはり幹部が率先して売らないと絶対に動かん。叱咤激励することができるのがバタバタとあればネ、まず、いけるね。

城谷 そうですよ。この間、青年劇場から出されたのは、幹部がね、おれはコレをやってる、カニをやってる、忙しくてそれどころではなんてことは絶対言わせない。それを言いはじめたらもう終わりだもんね。でも、そういうところ多いですよ。なんか、解ったフリ

で、若いものに売らせればいい、なんて別遣集団はダメですよ。  
丸子 一番難務やっつて、一番権力やっつて、一番切符売りにやいかんのよ。  
萩坂 こばやしひろしじゃなきやだめだ。じゃ、このへんで。

(おわり)

ろが五枚とか十枚の部類というのは何も出てこない。

藤沢 切符売りに限らず、やはり年寄りはいかに売らんといかんですよ。

後藤 理念が失われるような時代になっていくだけにネ、たえず理念問題で、あらゆる機会、あらゆる運動の中でそのことを結びつけていかないとね、最終的には自らが観客と接したときにそのことは理解できる問題として出てくる。こういうことをやるのが非常にうけたということ、培われてくる。

出発点はね、芝居をやりたいし、身体を動かしたい、この発想でいいと思うんですよ。

こばやし 足で売らんと観客は見えてくんもん。観客が見えてくると、その観客にええ顔してもらうためには、ええ舞台見せにやあかんという風に――

萩坂 全り演の劇団の一番の大將、何枚売ってますかって調査するとおもしろいだろうな。

こばやし おもしろいと思うよ。

萩坂 売れない理由ってのは何だろう？

こばやし なまくらもある。

藤沢 世間一般だったら、だんだん輪をとつたら、責任重くなるけれども、あまり仕事し

して、若いものが売れ、という調子でネ。  
萩坂 二十年、三十年やってきた幹部ほど、お客が余り来なくても驚ろかなくなったということかな。

後藤 われわれの場合には、それに食うという問題が結びつくからね、退けないんですよ。  
城谷 それはネその次元だけじゃない。ぼくらだって作りたい芝居をえらんやろうとしてるわけで、それだけ集めなきゃ失敗なんだもの、成り立たないんだもの、食う、食えないと同じですよ。失敗したら、次からそういう芝居できなくなるんだから。「ある馬の物語」みたいに歌や踊り入ったら、金かかるわけでしょ、生演奏で。だから、ソノやりたい芝居やるためにはそれだけ集めないと。それこそ食えないと同じですよ。

後藤 やらざるをえない、とくに中堅以上なんか、そういう風に自分の頭が、考え方になつていきますよ、ましてや、さっき理念問題が喪失されつつあるって出たけど、それを支えるのは理念だしね。

城谷 それに売ってる人の話というのは、また次の方に向うんですよ。たとえば、若者をどう見るかということに対してもネ。とこ

△新刊▽

東京働くものの演劇祭・資料集

(一九六三―一九八二) (定価三〇〇〇円)

△内容の一部▽

I 資料

。演劇サークルよ、声をあげろ 宮本研

。第一回働くものの文化祭・演劇の夕べ

「差別」(和田澄子・作 未来)

「人間蒸発」(芳地隆介・作 通電)

「胎動」(木崎周二・作 くらがね)

「木口小平は大死」(宮本研・作 ぶどうの会)

。アマチュアの創造、専門者の創造

。サークル演劇三十年 八田元夫

II 舞台裏と国際交流

。第十六回(一九七八年)観客動員集

計表

。DDR労働者演劇との交流から

III 二〇年のプログラム・舞台写真

発行所 東勤演・実行委員会

東京都千代田区富士見二一六一九

中山閣ビル 国民文化会議

TEL 〇三二二六二二一三四三

## 演劇フェスティバルについて

第三回演劇フェスティバル中止の後をうけて全り演議長団会議が二月九日、十日、東京青年劇場で開かれ、次の点が論議されました。

(1) 演劇フェスティバルは全り演議長団以来、運動の重要な柱としてすすめて来たもので、事情がどうあろうと事務局の判断だけで中止することは組織として問題である。なぜ議長団会議なりを召集して、その上でもう一度検討して決定できなかったが論議された。

(2) これに対して事務局から、時間の切迫したなかで中止決定にいたった事務局の苦しい事情がのべられ、緊急の事態に対応する方法に、それぞれが熟慮することも申し合わせた。そして同時に、演劇フェスティバルを事務局側はぐるまに依存しすぎたことを問違いであったとし、今後運動を拡げるため、演劇ゼミナールのように、どこのブロックが引き受けても可能なように運動の体質を改善すべきであることが確認された。

(3) また演劇フェスティバルの重要性が改めて確認された。とくに三百人劇場の地域劇団東京演劇祭と異なり、全く自主的自立的な演劇フェスティバルであり、われわれの演劇活動の研究討論の場である。この演劇フェスティバルは、われわれの今後の運動の大切な柱としなければならない。その点からも今後困難があろうと継続発展すべきである。

(4) そこで従来の研究中心のフェスティバルにすべきか、一般観客にも開放すべきかで論議されたが、研究中心を待たすべきであり、会場も当然の間は各集団の稽古場で十分であるとされた。即ち、関雲、京雲、御浪町ホール、名演会館、名芝平針小劇場、青年劇場等一五〇人、二〇〇人収容の会場を使うべきである。

(5) われわれ全り演は北海道から九州まで全国で七二集団を結集する日本でもっとも大な劇団の組織である。文化庁では地方文化振

興のため今年から国民文化祭を行うことになり、二億二〇〇〇万の予算が組まれることになった。七二集団の結集体であるわれわれは文化庁の助成を受ける資格は十分あると考える。それと同時にフェスティバルを発展させることこそ地方文化振興をうながすことを確認、各ブロックで開催できるよう運動を発展させるためにも助成を文化庁に要望することになった。

(6) しかし、演劇フェスティバルの重要性にかんがみ文化庁の助成あるなしにかかわらず各ブロック回り持ちとし、来年の(一九八七)二月一四・一五日に第三回演劇フェスティバルを開催することを決定、第一候補として神戸の兵庫県民小劇場、第二候補として名古屋の名演会館があげられた。そして出演劇団は従来の六劇団でなく四集団とし、できれば創作劇を中心に、夏の総会までに出演劇団の見直しをたてたい。

以上のように議長団会議で熱心に討論されました。そして討論の結果により十日、十一時より、議長団、事務局九名は文化庁に加戸守行次長を訪ね、全り演の運動を説明、理解を求め、ぜひ助成の対象として考えてもらおうよう要望しました。加戸次長より国民文化祭

の説明があり、その関連で考えてみたいという次長としての考えの一端が示されましたが、これは今後の課題と思います。

いづれにしても、フェスティバルの発展に今後も努力することを確認しました。各集団

の一面のフェスティバルへの結果を強く要望します。

一九八六年二月一〇日

全り演議長団会議

## 全り演・東会議演劇ゼミナールのお知らせ

東会議の皆さんこんにちは。日本の真中、山梨県より、ブロックゼミのお知らせをお伝えします。

山静ブロックが担当しての、一九八六年度のゼミは次の日程で開催されますので、参加に向けて準備をはじめして下さい。

名称 全り演東ブロック演劇ゼミナール

サマーフェスティバル・イン・雨畑

日時 八月二十三日(土)・二十四日(日)

会場 VILLA 雨畑

(山梨県南巨摩郡早川町雨畑)

内容

①アンデパンダン形式・ミニフェスティバル

②記念講演

③大交流会

④分科会 「体操」「メイキャップ」

「今日とは」「私と演劇」など

⑤参加費 一人 八〇〇〇円程度

ゼミに「フェスティバル」とは、どういうことか? と疑問や御意見もあるかと思えますが、これは、今年やむなく中止延期された二

月のフェスティバルを来年成功させるためにも、是非中間で一発景気づけたい、モデル上演ではなく、各ブロックから最低一つ10分程度のだしものを持って参加していただき、アンデパンダン形式の発表会をやりたいということ。是非、各ブロックでは、八月に向

けて、早速準備をはじめして下さい。

「VILLA 雨畑」というのは、山梨県の早川町が、「村おこし」運動の一つとして、昨年九月つくりあげたばかりの宿泊研修施設です。秘湯奈良田湯泉に間近い、谷間の部落。眼下に雨畑湖を臨む、静かな景勝の地です。雨畑邸で有名な地元早川町が町を挙げて、受入れに協力して下さい。

大交流会は昨年の湯の山ゼミに負けない楽しいものになるでしょう。地元の青年団が、「白鳳太鼓」をひっさげて参加して下さい。他、焼とうもろこしや、おでんの店なども出て、大変賑やかなお祭り広場で交流を深められると確信しています。

追って、詳しい開催要項や、参加申し込み書を各集団宛てにお送りします。

山静ブロック三集団(静雲、からっかぜ、やまなみ)、微力ながらゼミ成功のために力いっぱいがんばります。

一九八六年三月十六日

劇団やまなみ 河野 司

# 西日本劇作家の会・第四回例会と 西会議「戯曲研究会」の報告

高尾 豊

(劇団生活舞台)

西日本劇作家の会第四回例会を去る一月十八・十九日の二日間、全日演西会議の「戯曲研究会」との共催で、山田民雄・岡安伸治両氏をゲストに迎えて神戸で行った。

参加者四十五名(うち劇作家の会十七名)と予想をはるかに上廻って現地事務局からはうれしい悲鳴が聞えた。これもゲストお二人の魅力か。「演劇会議」のバックナンバーをくつみても西日本劇作家の会についての記事が少ないので若干紹介させて置く。

劇作家の会では昨年暮れ次のような「例会呼びかけ」を会員に送付した。

「一略・合同でやることについて、両者の企画テーマが積極的に合致したからでもあります。そのテーマとは、ここ数年來西日本で産まれた劇作劇にどういう現実が反映されているのかを探り、作家の抱えている問題意識を通して、現代をどうとらえるかを

ても、わたしどもの胸中を割ってみれば、ひとしなみに共通の思いが渦巻いているのではないのでしょうか?

こうしたところを、個々の作品の合評形式をとるのではなく、むしろ作品に投影されている現実と方法の問題として、総体として論じあうこと。(勿論、討議の過程では、具体的・個別的評価は入りこむとしてもそれが目的ではなく)それには全日演西会議と共同でやるのがふさわしいのではいかと考えた訳です。――略

会は藤沢薫(京芸)・又川邦義(わだち)西氏の司会で進行する。

つぎに劇作家の会の世話人の一人であり、全日演議長団の土屋清氏のあいさつ。氏は西日演時代打われていた「作家兼出版家会議」以来の状況、性格にふれ乍ら、八三年大阪での第一回目の経過につづけて――

「特別参加の芳地隆介さんから冒頭からずばり切り込まれまして西のゴリゴリアリズムといきなり云われ、大作を志さずな、日本の構造をマルごと描こうなんて考えずにもっと軽薄に小品をもっと書きなさい。志の大きいのは良いが構えすぎると、とやられたのが刺激になって、早うから酒飲んでワイウ

イガヤガヤと初回の会合は面白く活気に満ちた会になりました。それに勢いづいて二回目

が広島、三回目が昨年の福岡と、二回、三回はそれぞれの年に書いた作品をひき上げて検

討しようというやり方でやって来た訳です。現在二十九人の方が入るとられて、なかには私みたいな恥しめとらんのもいて、劇作家の会というのも初め名前が気に入らんという意見もあって、まだ家はついとらん、志し

とる者はどうなるのか、入れんのか、正身正銘家のつく人もいるし、恥しめとらんのものもいる。そうは云うたって大作家の集りでもないし、現実にはそういう人たちと一緒にやってよからうということになって、他に付けま

うもないし、劇作家の会ということにならんとるんですけれども、なかにはコートルも若い人も思われて、一つ思いつきり腹藏なく対等平等に話合える、なんか規約とか綱領とかはど

どっかとか云えば抜きにして、目的は鏡ぼく交流を深めていこうと(中略)自己満足して

うまく書けるとか形象の問題とかはちよっ

とおいて、日本に在住しとる書き手の人たちが、何を考え、何を書こうとしてやとるの

か、演出家もすくなくとも劇団内外の人も一度交えて考えてみるということ、今度の会合は西会議の八戯曲研究会と一緒によつて

みたらどうだろうかということになって、今日のこのうい合会に至った訳です。(一略)で、大体劇作家の会をやつてきたやり方と云うのは二時間もたてば酒だして、あまりむずかしいこと云わん話合になれとらん、そう

云う意味からいうと今日は出ようがおそいよ

うですけれども、劇作家の会の伝統も少し汲み上げてもらうて進行していただくよう司会者の方にお願いしたいと思います。」

この後参加者の自己紹介となる。それぞれが裏面にあるいは愉快に発言(割愛)、司

会の又川氏おくれしてきた人を紹介の後――

「この席を準備して下さった劇団四紀会の内田さん・梶さん(事務局に紫水さん・坪井さん協力)には大変お世話ながら、毎

回のこと乍ら、この劇作家の会に所属している人たちが云うのはなかなか心臓が大きくて、出欠の連絡が届かなくてぶつくさ文句

云うんですが、今回も大変神戸の方に御迷惑

かけたと思います。出来るだけこういうことがないように、という思いをこめて事務局のあいさつをお願いします。」



ていたところわざわざゲストとして呼んでいただいで大変嬉しく喜んでおります。お礼申し上げます。

梶さんからお手紙戴きまして、会議では特定の作品についてそれぞれ討論するのはなく、それぞれの作家から最近の作品の題材、主題、手法についてあるいは現在構想されている作品を含めて、劇作において現代をどうとらえるか、をめぐって自由に発言して戴きたいと、そういう趣旨でもって話を三十分程度していただけないかという申し入れが来たわけです。最初におことわりするんですけれども、僕は、今やっている作品について話したことないんです。劇団にも、劇団よりも古い付き合いの女房にも話したことないんです。これは意地悪する訳じゃないって僕はそのことについて話せないんです。いつもそのモヤモヤした状態があるんですが、それが分らないんです。それを切りとって作品にするもんですからうまく説明することが出来な訳です。作品的にはこの前広島に行って土屋さんと話した時も八とうして、そんな発想が、どこから出るんやVと聞かれても、すんませんとあやまるだけで、このことはブレヒトの会の席上でも千田先生を前にして、会で戯曲集出す

んですけれども、どういう問題をどうとらえているのか、卒直に話合って方向をきめようやと云われた時も話せなかつたんです。

ですから僕がそういう状態であるというところで、いまだどういふものをどうしているかとちょっと話せないというのをまずお断りしておきます。いつもそうなんです。(中略)それから僕の発想そのものについては、僕個人の生きてきた軌跡と不可分ではないだろうと思います。僕にこれこれの芝居をつくる上での法則があるとか、未だに僕のなかには明確になっておりません。正直に云いましは東京では五百から六百の劇団がひしめきあっています。そのなかでも生き残れるとすればオリジナルな作品を創ること以外僕の生き残る道は残ってないわけなんです。このことを解って載いとかなないと僕の云っていることが非常に偏見と見られる、そういう状態があることも御承知おき下さい。ですから東京のある劇団が別役をや、つか・こうへいをやり大橋喜一をやりだなんて云うことは考えられないこととですし、東京のお客にとっては必要のないことだ位に考えています。非常に乱暴な云い方になりますけれどもそこまで考えています。もう一つお願いがあります。僕が今こうし

て喋りますけれども、いま今日この時点でそういうような考え方をしていることであって今日、明日の討論のなかでいい意見があればどんどん取り入れちゃいますし、今迄の前提をコロッとひっくり返って明日からまた違うこと云うことも事前に考慮して戴きたいと思

います。おいつはこう思いつづけていると思わずよろしくお願いします。話がとびます。発想の点になるんですけれども、いわゆる、点を打ちます。任意の点をイメージして戴くといふんです。それぞれの点は僕の関心を興味をひいたことです。もしくは、出版物、パンフレット、人の話を聞いたことです。これに任意に線を引きます。するとだんだん中心がみえてくる。でそれが引ければ引ける程核が中心がはつきりしてくる。こういうことをイメージしてくるものと有難いなと思えます。ですから僕の一番調子のいい時というのは演劇と全然違う世界の本を読んでいた、物を見てたり、何かやっていた時です。逆に僕が落ち込んでいる時というのは、女房に云わしても、周りの奴に云わしても簡単なんです。テアトロなんか抱えてたり、あんな人の戯曲集なんか持って見ている時は完全に落ち込んでいる証拠というのが、僕の最近の

行動生理学から周りが発見したことです。

(中略)小中学校では典型的な落ちこぼれ、中学を出て職業訓練所自動車整備科を経て整備工場に就職・蔵前工業高校機械科定時制を卒業・東京工業大学物理科二部に入學・演劇に熱中。この辺りは演劇会議六〇号八路冊・岡安仲治自伝Vにくわしい)で、卒業したわけ、それからです。天井機敷に一年はいい、八ヶ月位腰かけることになるわけです。渋谷に小屋があってそこへ僕は天井機敷の芝居なんかも観たことないんだけど文芸演劇部に入る、これが入っちゃうんです。後で寺山修司に聞いたらナントあいつは経歴が面白いから入れたと、何するかわからない。そこは寺山修司偉いなアと思うんです。(笑)だけど実際やっていること見るとこれは違うんじゃないかと思ってぼつとやめてしま

を自分勝手に脚色して、働く者の演劇祭に参加する。大学二部の演劇部が出て来たうん

人ぐらいに思っていたのだから。つぎは翌日の朝の山田民雄氏の話である。「岡安君みたいになれたらどんなにいいかなあ」といふふうに思いますが(笑)とてもそんな気分にはなれませんが、自爆、自爆、自爆です……というのは私は昭和ひとけたのはなですけど、しょうがないんです。つまり岡安さんと違う歴史を生きていますから、夕べ申し上げました通りメーデー事件の被告を二十年もやっておりまして、そのなんでもいふと云うふうにはなれんです。いや、岡安さんは何でもいいわじゃないですけれどね(笑)あんまり業道に聞いていると駄目です、とんでもない話でね、岡安君の方はもつとラジカルという感じがありますけど、つまり限りなくラジカルになりたい、根源的になりたいと思うわけです。発想としてやっぱり井上ひさしの「きらめく星座」を覗いてつくづく感じるんですけれども、あの井上さんもそうなんだなあと思うんだけど、あんなぶつちやくちゃん芝居を書いておられる。あの井上ひさしがあの芝居だけみるとなアにやっぱり同じじゃないかと話したことあるんです。けれど、やはり一体お前は何で生きてるのじゃと云うことですか、世の中をどう考え

るやと云うところからスタートするしかない。そうすつとお互い様同じ寸法で生きてる相手に何を云いたいのかというところから、物を考えるしかない。ですからやっぱり、その心をはずしたら何もできない訳でそれは、古いか戦後民主主義の限界とかなんとも云われませうけれども、古いは僕なにかよく分りませうし、戦後民主主義のなんて云う人いると「エー」と思っちゃうし、もつと我れわれの陣営っていうか今日ここに居られる方々ふくめて私は自分に素直にというか、歴史に忠実にというか、だって歴史はちつとも変わってない訳ですから。つまりいよいよ体制は強く、資本は強く、民衆はいよいよますます巧妙にたくみに搾取されつづけている訳ですから、そいつをなんかこう船において物考えるっていうのは僕は反対です。だからガンとして、あくまでも世界の中でしいたげられている民衆の側に立って、そしてこういう時代にもかかわらず、そのトータルでかなりアカンと見えます、正直云って、四十年間の戦後を見つめ直しまして勝負あったと非難じゃないんですけれども、例えばにもかかわらず、じゃそうなればなるほど民衆の一人としておれのお前の生きていく希望の原理は何かということ

を芝居を通じて探りだすしかないんじゃないかというふうに思います。(中略) つまり岡安さんののはソフトな部分が魅力なんですけど、この世界はあまりハードにこだわらない。つまり今云ったのはハードです。そこにあまりこだわら過ぎちゃうとソフトの面で不自由になっちゃうんで、それは気楽にいろんなことやっていいんじゃないかな。(ここで山田氏はモチーフの周辺を読みます、私の興味と関心を引いておられますのは——) ということで作者と題名をあげられた。宮本研・福田善之・清水邦夫・ふじたあさや・飯沢匡・山田内久・八木が街・わが愛・銅鑼の八虹の行方・八荒野の落日・八流水の上・女工師がきこえる・大橋先生の八ナナちゃん・矢野たかし君・八アンマーたちのカチャ・シー・八太平洋ベルトライン・八別れが辻・八夕日のメリーゴーランド(以上岡安)・井上ひさしさんの八きらめく星座・ふるさとキアラパン八親爺と娘さん。

を芝居で伝えられるのかなあてこと考えまして、——私の結語はこうなんです。岡安さんの作品もふくめて、このところ何やらあらかた深い絶望感とやっぱりすごい危機感にみんな色どられてる。大橋先生の八ナナちゃんVでも僕はすごいニヒリズムを感じました、というのは、大橋先生はどうとう自分のモチーフである核の問題を宇宙人の手をかりて、宇宙人からもった超能力でしかつまり主人公を動かして得なかつた。しかもその宇宙人のメッセージ、宇宙人からのメッセージをおくられてそれを現代のトップの中層から長島、黒柳徹子まで、そういうところへそのドラマとして行って行くという、そういう趣向に僕はすごく大橋さんの抱えているあの絶望感というかニヒリズムなものを感しました。(中略) 同じような意味で大橋先生のあれ八ナナちゃんVを観た時にゾーンとしたのは大橋さんが宇宙人の超能力を借りなければ、核の問題をやっぱり書けなくなっている。しかも、同じレベルの、同じ民衆に語るのじゃなくて、権力を持っている体制のトップに語りかけられない限り、語りかけることによってわれわれ生活者・観客に何か伝えようとする、僕はあの芝居をみてニヒリズム・むなしいなあ

というふうに思いました。

だから、僕は大橋さんの本をふくめて、えらい、そのどうしようもない日本の現実というものを感ぜざるを得ない。で、私自身も、全部主人公が死ぬか、狂うか、つかまるか、あかんようになる芝居しか書いていない。全部そうなんです。勿論、死というのが一番人間にとってつまり歴史的な出来ごとですから題材にしていいんですけれども……やっぱり死んじやいかんのです。」

ここでまたまた割愛させて載く破目になった。予定の紙幅が大巾に過ぎたのである。参加者の討議が報告出来ないのは心苦しいが、萩坂編集長にお願ひして劇作家の会が当日の資料として配布した会員のアンケートを発言にかえて掲載して戴くようお願いしよう。誠に由訳けないと思う。

それにしても僕はゲストお二人の話を大変興味深く聞いた。山田さんの若々しい話に「ポンコツの夢」からは想像出来ない熱いものを感じた。余談であるが山田さんご自身は役者になりたかったとおっしゃっていた。僕もそう思う。顔といい、声といい、体つきも役者向きかと思つた。しかし、当日の録音テープを聞くと山田さんの声だけがききとりにく

かった。山田さんは作家でよかつたといま僕

は思っている。

### 資料 ■ 「西日本劇作家会議」のアンケートに答えて 十五氏が発言

- アンケートの設問
- ① 新年度にあたって、当面どのような執筆計画、あるいは取材研究計画をお持ちでしょうか。
  - ② 私どもの創作にとって、また現状把握、世界の把握にとって今何が最も重要な問題とお考えでしょうか。

#### 回答

- 真部利治(瀬戸 洋)
- ① 明治生れの方がやがていなくなる。いま

のうちに何かをしなくてはと。その期に生きた普通の人のドラマが描けないかと。執筆は、八〇年代の標本人間を追いかけています。今、二作品すすめています。

- ③ 国家機密法の問題。教師になる過程の問題。免許をとるための大学の学問ではなからうか。子供をどう育て教育するのが。森のない暮らしにゆとり文化は生まれなだらう。森林が失われていく問題。それらを含め、軍備にすすもうとする現政治の恐ろしい問題。

#### 窪口吉宏

- ① 八五年末に作品を書きおえたばかりなので、まったく空白の段階です。
- ② とても難しい設問です。私自身のことですが、現代の社会をどのように認識し、それをどのように描くか。現代におけるリアルズをどうとらえるか、等々、重要な問題はばかりです。が、自分をタナ上げにして書けば、北村想、野田秀樹といった作家上

りも面白いリアリズムの作品を生み出すこと。各々の集団で、彼等の作品を上演すること自体は悪いことではないと思うのですが、やはり、われわれは現代の観客に受け入れられるリアリズムの作品を生み出すことが必要なのではないでしょうか。

### 中谷 稔

① 現在も執筆中。ただし、我ながら、焦り焦りするほどの遅筆ぶりです。

② この國の戦後の、今日までは、新たに復活した同質の支配権力者たちが、資本の力で科学技術を独占し、その目覚ましい発展のおかげで物質的な豊かさを築きあげてきました。支配者たちの対象となる圧倒的多数の人たちの側では、その豊かさの分配をめぐっての切望が方々で渦巻いてはいても、もう一つの科学の発展の歩みの遅さのために、この社会を根底から変えていく作業が、一つの大きな流れになるまでには至っておりません。そういうこの國の、この時代で、舞台の本を書くことを、まだ、あきらめきれないばかりは、再度、ブレヒトの「演劇のための小思考原理」を基礎とし、それを応用しての仕事をするには、どうすればよいかと、それを勉強し直そうと思っ

うと思っ

### 土屋 清

① さしあたり、京浜協同劇団依頼の、「はだしのゲン」を、雑唱劇にしたのであげる仕事が目前にぶらさがっているのですが、原作者の上流許可が下りないことからまっして難航しています。或いは、変更、中止に追いこまれるかも、ついてない！が、それくらいでへこたれませんが、後に続くテーマ続々。(?)主観的には意気軒昂。

② 人間を含めた自然との共生。自然科学・技術と人間の関係の問題。研究・開発の減速が人類の発展と矛盾することなしに可能かどうか。略奪民族が、自らの消費欲求をコントロールしながら、支配者とたたかうことができるか?といったパラダイムの変換の課題。オーバー?が、それなしに好機勢力を孤立させることはできない。しかもそのことを、コケオドシでなく、人間絶望でなく、しつとりと描きたい。欲張り? テーマ巨大過剰自滅症? 知るか! おれはおれでしかない。

### 東川宗彦

① (石山本願寺の闘いを長くあたためて

来ました。これを二部にわたる大ききで書きたい。(田辺市天神崎の自然を守る話を百枚書きましたが完成させたい。(田中一村の画家の話、関心があります。

② 経済万能と機械の文化、文明の絶頂にあって、人間の根源の文化とは何か? 地球感星と月感星のちがいを追ひ求めること。それは、感星の生と死。単純なことにかえしてみよう。人間の心が大切なだけ。

### 高屋 豊

① 「軍艦島」——と呼ばれる端島は、長崎港より十八キロ、東支那海上に浮かぶ周囲千二百米の岩しゅうの孤島である。この島が、三菱社の炭鉱として、明治中期より八十年間、良質の製鉄用原料炭を供給し続ける。島は、一時期五千数百人が住んでいた。狭い島では、必然、住居は高層となる。この島には神社、寺、映画館、小中学校各一戸、公衆浴場五軒、遊園二軒(予約制)が存在していた。エネルギー政策の転換は、現在、再びこの島を無人島にした(猫が数匹生きている)がある日、「端島島の方が住み易い。軍艦島がなつかしい」ということを耳にしてから、調べれば調べるほど、日本島と二重写しになっ

て手が抜けなくなっている。

② 「民主主義」。町内の出来ごとから實際政治まで、反民主主義と演劇的に闘うこと。

### 園山土筆

① 一昨年より書き上げようと焦っている。「落ちてぼれの神様」を、いよいよ三月には脱稿したいと思っています。7月20日から31日まで、テアトル・ハカタにて上演が予定されていますので、逃げも隠れもできず、追いつめられています。

② 「教育問題」につきると思います。すべての出発点は、「教育」にあると思います。

### 内田昌夫

① 「雨、風になるらむ」の続きになります。八月の陽のごとく」の第三部を、出来れば書きたいと思っています。神戸の庶民のおいたちと流転といったところでしょうか。もう今の若い市民は、昔のことはその視野にないかも知れませんが、しかしそれでも、身近な人々が爆撃で焼尽くされるまでの様子を書いてみたいのです。立派な作品でなくてもわたしなりの水準でいいと思っています。現代劇、喜劇の創作。さまざま面白い、

現代劇、喜劇の創作。さまざま面白い、

うと思っ

### 和田澄子

① 今年、わたしは、わたし世代の単身女性のことを書きたいと思っています。とりあえず、昨春秋、常寂光寺の、女の碑。におまいりしてきました。この世代のこそ、もっとも戦争を憎み、しかし、ひっそりとたくましく生きてこられたように思います。

② 世界が破滅の危機に直面していることを、直視できること。また、そうさせまいとする人々の意識と行動。わたしは、同時に資本主義経済の質的発展の形態。東南アジアやアメリカでの人々の生活、日本やアメリカでの労働者のくらしの実体と意識、といったものに関心があります。

### 谷口幸丘

① (関東大震災の折、習志野地方の一寒村で、朝鮮人虐殺事件が起きました。その中に日本人の家族もふくまれました。徳島県の薬師の家族で、行商の途中、事件に出逢ったものです。言葉に、なまり、があるから朝

鮮人であるとされ、惨殺されたそうです。その遺族たちは、遺体と死場所を探し求めて、三代にわたって執念をもち続けたそうです。

私は、現在の状況とその事件を重ね合せながら、歴史に於ける人間の営為と責任の問題を追求したいと思っています。天皇制・専制支配の罪科を、いま我々が裁断するのは、どのような意味があるのかといったようなことを書きたいと思っています。(一九九六年(慶長元年)十一月、秀吉はキリシタン禁令を断行し、京都、大阪を中心に、フランシスコ会神父と修道士六人、信徒十四人、イエズス関係者三人の、合計二十四人が捕縛されました。信徒たち二十四人は、山陽道を経て長崎の浦上の地まで、八百キロに及ぶ死の行進を三十三日間わたって続けたのです。その中に、十三歳前後の少年二人がふくまれました。彼等の、八百キロの死の道行には、沿道の人々との交流もあり、数々のエピソードがあつたものと思われま

また、彼等の死の行進は、わが国の人民闘争史のなかでどう位置づけるべきなのか、ただ、キリシタン殉教者として歴史の片隅に放置するに忍び難いものがあります。人民解放の思想史の一面をかざるにふさわしい歴史的遺産として、光

をあてる時期に來ていると確信しています。是非とも作品化したいと思っております。

### 伊達 純

① 旧作の「神よ御身とともにあれ」の改訂。同じく旧作の「一旦緩急アレハ義勇公に奉シ」を一人芝居にしたいと考えております。

② 難しくよくてわかりませんが、私は「戦争」にこだわっていききたいと考えております。

### 野尻敏彦

「劇団は劇場を同伴する」という芝居創りの鉄則を悲願に八年、百人劇場の夢を結んだ一九八六年。私達は二十日間四十ステージ、四千人の観客を固定化し、あらゆる「劇場行動」を企画し、宣伝し、観客を集める事から出発したいと思えます。そして、俳優の魅力を昂め、専門技術人を養成し、新人教育に重点をおいた、今年、交年のレポートリイがすでに決定。と同時に、どこかで喚びだ、あんなに美しい匂いを二度とかがずにすませる敏感な嗅覚と根強い反撥力を感じて頂くような芝居創り、「日の丸教育」よりも、小さい時から「美しい日本語」を大切に学ばなければなら

らないという芝居創り、子どもが学校から家庭から疎外され続けている教育の根底を、老人社会へ突入する中での「人間讃歌」等々、身近かなテーマの中から「半歩前進」した芝居創りを心がけながら、芝居は豊かで、美しくあらねばならないという基本を忠実に守って、密度高い芝居創りを目標していきます。

### 山室一貫

① 「ペーパーロック」の創作。(ペーパーロック・シリーズ完結)

② 人間(労働者)同士の連帯及び信頼。大人達の日常生活を敏感に見取った若者達の「不干渉主義」「三まい主義」(目立つまい、あつくなるまい、のせられまい)、企業との利害関係、そして従属する個人の利害関係を中心に展開される労働者の日常生活。アメリカ依存の日本経済、それを絶ち切る勇気のない日本政府。地球規模でみて、搾取する側に立ってしまった現代日本の労働者。これらの事を、「わが意を得たり」とばかり、ほくそえみ、国家機密法、靖国公式参拝、日の丸、君が代通達等々、実現し、実現しようとしている自民党政府。このような状況で私達に必要なのは、企業を乗り越えた人間らし

く生きたいと願う人間(労働者)同志の真の連帯、信頼関係ではないか。

### 又川邦義

① キチンとした執筆計画はありません。いつも、唯、漠然と書きたいなア……と思つて、題の中は空まわりばかりしております。書く書くと言わず、とにかく書いてみせることだと、肝に銘じてはいるのですが、多分、劇団の仕事と演出、昨年からは始まっている大阪青年センター主催の演劇講師等に埋没し、書くことの逃げに供することでしょう。

② 何か、じりじりと押されて、やり切れないおもいです、今の政治状況が……。最近、とくに、ベシミスティックで、アナキーな気持ちで、オプティミストにはなれませんが、つまり、こんなカタカナの文字ばかりとびこんでくる。ニュースや、技術革新、コンピュータ化とそのスピードにオタオタして、突然と眺めている自分を感じます。こんなんでいいのやらか? これがホントウの人間の生活なんやらか? もっとじっくりと人間の手のぬくもりの伝わるものが出来ないものか、とうめいています。少くとも、ポラロイドの感性はいらぬと、思っているのですが。

### 奥村和己

① 今のところ特に書くべき材料がないです。従ってせんだって演劇部の生徒といっしょに脚色した、ミヒヤエル・エンデ作「モモ」再考加筆して、アマ劇団が上演するのに手頃のものにしたのと、さらにその以前に書いたものを整理しなければならぬと思っております。TVで、山田太一さんがよく取り上げられている「若い」の問題などは興味がありますが、舞台でどう形象するかはなかなか難しいでしょうね。

② これに答えられればすばらしいのですが、一番教えてほしいことですね。ただ、普段思っているのは、私達のよく接する演劇において、人間が描ききれているか、さらに時代をこえて人の心を打つ人間の心情が描ききれているか、を常に問い直す必要があるように思います。時代と状況をきちんととらえ、見通しを持つことが基本にあって、人情豊かな芝居が作れたら観客は喜ぶでしょうから。とりわけ大人の男たちを劇場にひき寄せたいですね。

### △談話室▽

耳よりな話を一つ。劇団四日市の森賢郎氏が通厩を迎えて、自祝、自作、自演という一寸真似のできない快挙をやつてのけたということだ。いや正確には、これからやるわけだ。

しかし幸運にも、その書き下ろしの「怒髪天」(58枚)を読むことができて、「モリケンヤったね!」と、ひそかに、勝手ながら、通厩の祝盃をあげた。

自祝、という意味は、まわりが祝つてくれないからという、多少駄々子もあるが、自らの手で六十年に区切りをつけるという決意と自己へのはなむけの姿勢である。

自作「怒髪天」は、賢郎氏が十六歳、愛知県永和市に勤務してからの青年期、線路上に落ちた排便の塊を始末している少年の姿がいたましい。それに二十歳のときにくぐる名古屋大空襲を加えた二部作。

空襲の方は少年の母親の語りになっている。

下級国鉄労働者の生活のすべて、どこかかげ弁慶で、お人好しだった父親を無残に

殺した空襲、一夜にして廃墟と化した名古屋の街々、そのどれひとつとってもこれが怒らずに居られるか。まさに怒髪天をつくである。「怒髪天」はその謂である。

自演、はもちろん自分の出演である。出演者の中の一人ではなく、これは「ひとり芝居」である。

タイトルも「人生六十年記念 モリケンひとり芝居 怒髪天」となっている。永和市時代の少年期、出世を夢みる鉄道教習所の軍事教練、千葉の津田沼鉄道踏切へとかり立てられてゆく青年期、そして名古屋空襲の惨禍の跡を具さに語る母親の役まで、ひとりで扮し、語り、演じようというもの。

「演出は、ビデオを利用して、自作自演出です。五月一日より十七日まで完全禁酒して、くり返しケイ古を五十回以上やらねばと覚悟しています」と手紙にあった。

とは言っても、劇団あげての仕事になるのは必定、入場無料で次の日時と場所。

5月17日(土)午後3時半  
四日中市文化会館第3ホール

(桃)

# 中国ブロック・奥湯田ゼミの報告

下村由美子

(劇団草の実)

演劇と私と私のまちと——

一月十一日、十二日、うっすらと雪の残る古都山口市の奥湯田ユースホテルに四十名の仲間が集まりました。

「地域と文化について」猿舞座の村崎修二さんを講師にむかえ、まずは築豊大介さんの猿まわしの実演。この日、猿は観客が同業者と察してか、興奮して日頃の訓練の成果を見せてくれない。それでも大介さんになだめすかされて、楽しい笑いを誘っていました。芸をしたあと投げてもらったお金をひろい集めて歩く猿の姿に、昔から伝わる道ゆく芸の原点を見たような思いでした。

そして村崎さんの講演。猿のあとはやりにくいと云いながらの登場でしたが、明解な理論の展開に、私達はひきこまれ、目からウロコのはがれるようだったと感じた人も多かった。

たと思います。

歴史の流れの中で

地域と文化は昔からのテーマであり、今や誰でもがさかんに地域論をたたかわせているのは何故だろうかと問題提起がされ、黒板を使っての講義が始まりました。その内容を記して報告とします。

人間は目的としてのイメージをもって意志技能を使って労働する。その労働を通じて人間が獲得し蓄積され内在化されていくものが文化であり、人間の諸能力である。それに対して社会的な機能を客体外在化させていくものが文明である。

・女工京史をうんだ第一次産業革命(明治維新)そして都市の文化が地方の隅々まで伝わった第二次産業革命を経て、第三次産業革命と

もいえる高度経済成長期をむかえるに至った。労働が企業化されることで人間は労働疎外されてきた。労働で文化がうみ出されるものだから、当然、労働疎外によって文化が生まれる力が弱くなってきている。

・かつて老人も含んだ人間連の文化や協力でできていた事が、現在は文明である病院や保育所、老人ホームといった施設がその役割をになっている。昔は地域共同体であったまちやむらが文明によって完全に破壊された。文明は労働の核分裂するエネルギーでグロテスクにつくられていくのだ。こうして個人の生活が、人間が生存すること自体が非常にあやしくなってきた。

・文明が文化にとってかわってきている。文明は決して否定できないものであり、もともと文化と文明はつり合っていることが理想なのに。

文化は生きる力をつくる

・文明によって破壊されたまちを文化で生き返らせることがせまられている。食べるといふ物質的な補給と同時に精神的には文化が、人間らしく明日を生きる力をつくっていくも

のだ。

芸は人々に感謝を与え心を清め人々の心を聞き、一方、芸にたずさわる者は人々の話を聞く役割がある。足で歩き芸をつくり、生の声を聞くとうとうことごとそのひとつひとつは大きな流れにさおさすようなことかもしれないけれど、「明日の演劇」をつくっていくことで住み良い豊かなまちをつくることができる。

以上メモに頼ってのつたない文ですが熱の入った講義だったことは御理解頂けたかと思えます。

待つてました交流会

手際良く宴会の場に舞台転換され、若者座はソイヤーのかけ声勇ましくパフォーマンス。トラムのよく揃った花傘踊り、草の実の獅子舞い。笛は木村さん(月曜会)。太鼓は村崎さん、即興のトリオでしたが獅子は良く舞わされ、舞いつぶれた獅子の後ろで木村さんと村崎さんの固い握手。

何といっても任意だったのは同じみ月曜会の太鼓でした。男の強さ、りりしさ、女の激刺とした美しさ。日本の芸能の色気再発見！御神楽太鼓では照明も変わり、面をつけた六

人の妖気ただよう舞いを太鼓に、会場は異様な熱気に包まれました。

そして今回初参加の松江の劇団あしがえの自己紹介もきりりと決まり、「今年雪の為に人形を持って来れなかったけれど来年こそは二年分楽しんでもらいます」との力強い宣言。

翌朝は川島孝敏先生の発声訓練。

体中空気になって

「オーケストラの指揮者は演奏者と共に燃えているのに演劇の演出者はあちら側でふんぞり返って指示を与えている。演出が自分の体の解放もできないで良いはずがない」との、迎えの車中で川島先生の御言葉に、事務局の仕事があるからと逃げるつもりだった(?)各劇団の指導者達全員参加の受講とあいなつた。

体で声の裏腹をし、図解を見、体を生理学的に解放していくにつれ、心が解放していけないジレンマにとりつかれる。(体の解放イタオールの心の解放なのか……)

川島先生の御指導でいただいたその気になりやがて頭全体が空気のかたまりとなり大気と

とけあい、自分の声が目や鼻や耳にビリビリひびいてくる。そして空気になってしまった自分が支える自分の頭の、手足の、重たいこと。

「普通の演技に、固体の状態である、固体の演技ということはありません。」(水になれ！空気になれ……)

終わりに川島先生に質問は、感想はと聞かれて誰も声なし。ひとこともなし。

「内に内にとり入れて自分のものになっていく今、すぐに言葉にならないというのはよくわかります。」と、川島先生……。

分散会

はだかになって、も一歩ふみ出そう

分散会では七、八人のグループに分かれテーマは、「演劇と私と私のまちと」。自分の劇団で思っていること、職場での状況を出していくなかで自分達のおかれている今を認識し地域とと劇団と自分の「あした」のイメージをつかんでいこうと、活発に意見が出されました。

私達の分散会では次のような意見が出されました。

。芝居に感動して劇団に入った。劇団では大ぜいの前で恥もかかされるけれど心底、はだかになれる。

。芝居づくりを通して自分の生き方が問われ自分達の地域での課題を確認できるのだという事。

。自分が変わっていくこうとするすさまじい要求の中心に台本がある。

。本番近くになると驚くほど多勢の人が集まって来て力や知恵を出し合っている。

。生の人と人とのつながりがおもしろい。

。子供も大人も、パソコン、パソコン、カラオケ、テレビ……機械相手の楽しみしか知らない。本当の人間の集まりのおもしろさを知らされてない。

。演劇をもっと広めなければ！

。分散会は時間がいくらあっても足りない勢いでしたが、時間ですよ、と呼びに来られ、「もつと居たい」のさけび声も空しくチョン。

。アンケイトを二、三紹介します。

。講演もお猿さんの演技もとても感動的でした。あくる朝は二日酔でなかなか目がさめませんでした。が、実技が始まると不思議と体が軽くなり、解放されていきました。

。発声が途中でわからなくなって悩んだ。短時間ずつ回を重ねてやれたらよかった。

。劇団が今かかえてることを素直に出し合えるこの場を大切にしたい。今を生きる私たち、本当の自由を求めてガンバっている仲間たちにあえてよかったと思います。ただまあえて自分の中にとじこもるのではなく、もつとぶつかって大きくなろうと思います。

。「自分達のやれる事に自信をもってすすんでいこう」と結んだ中国プロクセミナルでした。

。トラムの藤原さん御夫妻はじめ、事務局の方々、御苦勞様でした。出席して下さった先生方、遠くから参加のあしぶえの皆さん、ありがとうございました。



# 劇団通信

テアトル・ハカタ

新春、目度く小劇場テアトル・ハカタがこけら落し。開幕記念公演には、一九三〇年代の曲り角を描いた「緩方教室」を二十四ステージ上演。多くの方々が「是非、息子や娘に観せてやりたい」という声。

三月二十日から五月十二日迄は、ミュージカル四作品連続上演が始まる。劇団では、二月一日から肉體訓練を更に強化し、無事、公演が成功するよう、日本三大福荷の一つ、「祐徳稲荷神社」でお抜い。

五月二十一日、二十二日は東京公演、中野文化センターで、「シーズン」(中村ブソ・作詞・作曲、乙成孝二振付)で上演。

劇場の第二期工事は六月より開始。早いもので、延べ坪三百坪の空間を一年間維持したことになる。この若いエネルギーは必ず十年後に立派に花を咲かせることだろう。「地域に演劇の花を！」

悲壮な気持でぶちあげたスローガンも、派々たる彼等の自信で、更に大きな意味をもって博多に定着しようとしている。

(812) 福岡市博多区茶屋町二一九  
〇九二二七一一五〇九〇

劇団阿波っ子

昨年十月、秋元松代・作「アディオス号の歌」で、県郷文会館主催の、徳島演劇フェスティバル'85に参加した後、劇団は、熱々カッブルが三組誕生。その他組はあてられ放し、今年二月には、うち一組が挙式、祝う会実行委員も大忙しです。その一方で、劇団員三名が職を失うという厳しさの中で、一月十五日には成人式アトラクションとして、お正月早々の連日稽古の上で、宮本研・作「人を喰った話」の上演を終えました。

また一昨年の、徳島大空襲の記録・命あらかぎり、の脚本が、民主文学同盟徳島支部機関誌、徳島新文学、九号にのり、活字となり反響を呼んでいます。藤沢薫さんのお言葉では、徳島は東京並みといわれる位、価値の差のついた劇団が、十指に余る程動いています

が、それだけに、全リ演の旗を掲げる唯一の劇団として、頑張らねばと、ふんばっています。今、私達の劇団の課題は、急速に育つて

△必携書紹介▽  
「日本戯曲総目録」(送共六、〇〇〇円)  
(一八八〇—一九八〇)

(内容について)  
文字どおり百年にわたっての日本における戯曲の総目録である。そこには翻訳もふくまれている。

書かれたり、上演されたりした戯曲のすべての所在を探しあてることが所詮不可能といえる。どんな評判の舞台でも、戯曲として記録が残っていないければ、もはやその足跡をとどめることはできない。従って、そうした悔いを抱きながらも、「せめて、とらえられる限りの作者名、翻訳者名、戯曲名、出版社名、掲載紙誌名、年度ぐらいい何とかな」(加藤衛氏の刊行の言葉より)と不退転の気宇で編まれたのが、この著作といえる。ここからは新しいいろいろな作業が可能だ。たとえば時代別作品一覧、同系作家作品の一覧、たった一作で消えた作家の探索など。早い話が、全リ演作家の一人のこらずがここに登録されている。

発行所 横浜演劇研究所  
横浜市中区福富町西通五一  
〇四五二二六一一四八六六

いる若手劇団員の実力を本ものにする事です。今後ともご指導下さい。

(77112) 徳島県板野郡藍住町  
住吉乾瑞穂団地 斉藤方  
〇八八六九二一八七三六

東京芸術座

長いあいだあたたためてきた構想がついに結実、大橋喜一・作「あわて暮やぶけ芝居」——東京大空襲——が、今年の九月、東京公演として上演が決定したことを、まずお伝えし、応援下さることをお願いします。上演台本は、「悲劇喜劇」四月号に掲載。ご注目を！

タイトルどおり、いかなる芝居となるやらわれらにもテト不明：詢ワクワクじゃぞい。物語は、東京下町の、あるアマ劇団の連中

がよってたかって「東京大空襲」を芝居にしてやろうと四苦八苦しているところからスタート。そのうち劇団のリーダー、沢村哲平のなんと出征の頃、昭和十三年にタイム・スリップ。舞台監督大あわて、手がつけられぬ。そのうち、沢村の両親や妹やら、隣の洋服屋やら、縫工場のおやじやらもあらわれて……。戦争の時代の下町のくらし——その背後に不気味に光る、目。その、目。とは——いま天皇在位六十年祝賀なんていってるとる年、ひそか

にあなたのくらしを見つめている。目。」

というわけで、秋の東京芸術座のコレクシユ・ドラマが話題、これはいうまでもない。

オット、その前に、春休みに特別企画でおくる村山亜土・作「新さるかに合戦」があった。こんど八おやこ名作劇場Vとして全国の子供たち、お父さんお母さんたちに大いに芝居の楽しさを知ってもらおうと、稽古場は熱い稽古がつづいている。「早く芽を出せ、かきの種……」。

また昨年からひきつづいておなじみ「回転軸」、「私のアンネ・フランク」公演で、各地実行委員会や高校・中学校を、この寒さをついて廻っています。どうぞよろしく。

多化な劇にちっともあつたかくならぬのがわれらまじめ集団のふところ具合い。文化庁予算も史上最低の%とか聞けど。国家機密法も再提出するというし、核廃絶運動など全くやる気がないし、ほんとに今度の参院選挙じゃ思いつけてやらんとなりませんぞ皆さん。

◇やこ名作劇場

「新さるかに合戦」2幕9場

作・村山亜土 演出・清州すみ子

四月四日(金) 十六日(日)

砂防会館ホール

◇第61回公演

「あわて暮やぶけ芝居——東京大空襲 三・一〇」2幕19場

作・大橋喜一

九月十九日(金) 二十三日(火)

砂防会館ホール

(117 東京都練馬区下石神井4-19-11)

〇三一九七-四三四一(五)

劇団・伊丹市民劇場・やぎ

謹啓、梅だよりが聞こえる今日この頃ですが、全国の仲間の皆様いかがご活躍でしょうか。一月に神戸で、西り演作家・演出者会議に、東京より岡安伸治さん、山田民雄さんをむかえての企画は、大変勉強になりました。

さて、お蔭様で劇団も今年で創立15周年をむかえることとなりました。その記念の年の第一歩の公演が決まりました。

第九回ことも劇場、「ねんねの森の子守うた」(作・小島真木、演出・宇間太郎)で6月、7月に伊丹市内の公民館や小学校で上演致します。

また創立記念公演のレバとして、「奇蹟の人」

「アンネの日記」「グスコップドリの伝記」「地平線の五人兄弟」「看護婦のオヤジがんばる」「太陽の子」等が候補作品として

目下選定中です。上演は11月の予定で、会場は伊丹市立文化会館です。ご期待下さい。

(宇間太郎)

(664 伊丹市千僧字船原20-9 坂上芳

〇七二七-八一六五五〇)

関西芸術座

春を迎え、附属演劇研究所・専攻科の卒業生の中で、劇団への入団希望者8名。その中で、選考の結果、男女各1名、計2名の新人俳優が生まれ、3月より劇団活動に入ります。但し、3名の退団者があったので、差引1名減となり、「演劇会議」の読者を拡大しなければ……

劇団の公演予定は次の通りです。

一般公演——「西成山王ホテル」(飯邊)・

黒岩重吾原作、梅林貴久生脚色、道井直次演出。毎日新聞社大阪芸術祭協会主催・5月10・

11日、毎日ホールで上演。

中学・高校巡演——「翔べ！その翼で」(空を

飛んだ鶴と銀色の松ボックリ)可能あらた作

を、ミュージカル形式で、仲武司が演出。

5月より一年間巡演の予定。

他に昨年に引続き、「奇蹟の人」を62年3

月まで続演中である。

附属演劇研究所29期本科生21名の卒業公演

「気取った」(鴨野幸野女子学園)岩鶴恒義作、  
を仲武司演出で、3月21日、吹田メインシア  
ターで上演。

(543 大阪市阿倍野区文の里4-18-6

〇六一六二二二二(四)

劇団名芸

雪降る夜、けいて場帯りに眺める桜の木は、  
まるで白い華が満開のようでした。しかし、  
もう三月、そして62号が発行される頃は本物  
の桜も散ってしまっていることでしょう。

名芸は現在、春の恒例となりましたシェイ  
ピア・シリーズ№9「国王物語」に取り組ん  
でいます。これは歴史劇「ヘンリー六世」I  
部・II部・III部と「リチャード三世」の4作  
品を「晩物にまとめたもので、4月10(木)  
13(日)まで平針小劇場で上演します。

(脚本・栗木英章 演出・柘植洋)

それ以降は、5月に第23期研究生の卒業公

演(演出・寺沢宏行)、7月には子供劇場

(演出・糸井重喜)、秋には栗木の新作を上

演する予定です。

なお中部ブロックは、去る2月22日、会議  
を行ない、今年の活動をスタートさせました。  
フェスティバル中止は残念ですが、お互いの  
討論で状況を拓いていきたいものです。

(栗木)

(463 名古屋市中区天白町平針向田446

〇五二一八〇三二二九二二)

劇団新芸

数寒と大雪の中でも集まって芝居を造り続  
ける仲間が居る。この事がまず嬉しい事です。  
新芸は10月の公演後は児童を対象にした、  
久保田万太郎・作「北風のくれたテンプルか  
け」一幕三場の再演の取組みを行なっていま  
す。昨年の春、市内の町内の子供会2ヶ所ぐ  
らい上演したところ、とても喜ばれたので  
自信を持って、人線や地線も使って学校上演  
を実現させたのです。小樽でも札幌寄りにあ  
るので、交通費相当のカンパをいただくだけ  
の上演ですが、2月2日、塩瀬小学校全生徒  
と父母約一五〇人(於同小体育館) 2月9  
日、銭函小学校3年生とその父母約一〇〇人  
(於同小図書室)

劇は四〇分ぐらいしかかかりません。小樽  
で活躍の中うたえサークル、つばさ、に応  
援を求め、ジョイントで一時間半ぐらいの上  
演になりました。

その後、岩内の劇団波との合同での、二人  
で嘘を、の公演の話があったのですが、都合  
で流れてしまいました。

今は春休みにむけて市内の相生町の子供会  
から声がかかり、3月30日、北風……を上演  
すべく練習中です。歓迎されるのは嬉しい  
けど、ほとんどボランティアなのが切ないで  
す。秋には、いよいよ20周年公演だと意気込  
んでも、これがやりたい、やれそうという作  
品にぶつからず悩んでる日々です。「演劇会  
議」一冊ふえました。よろしく。

(047-02 小樽市銭函3-23-162鹿角方

〇一三四一六二二二(三四)

劇団さつばら

たびたび通信をサボリ、申しわけありませ  
ん。火の車も綱渡りも慣れっ子の劇団さつば  
らですが、しんどい一年間でした。病人とケ  
ガ人の流出。運営委員会は年中人員補充に追  
われ、当面どうするか、を考えているうち  
に一年間が過ぎ去っていたのです。たび重な  
る日程やキャストの変更は役者もスタッフも  
クタクタに疲れ、「やりやあいやってもんじゃ  
ない！」と不満が噴出。何のために芝居を  
やっているのか、をめぐって、議論は年末の  
定期総会へと持ちこまれました。

制作劇の上演、中・高校公演や幼稚園(保  
育園)公演の開始、二班体制の確立など、自  
らの力で成し得てきた事が見えなくなり、恒

常的な不況の中で財政危機、スケジュールの過密、劇団員の高齢化と若手の不足等のマイナスの条件が拡大され、疲労感のみが劇団員の中に重く蓄積されていったようです。

一ヶ月に渡る論議の中心は、「本当に芝居が好きなのか、貧乏に負けないエネルギーを持っているのか、自ら行動する若さがあるのか、現状に怒りはないのか、等々の点でありました。」

準備が大巾に遅れ、制作部は頭が痛いのですが、今年の公演は次の通りです。

「なら梨とり」 2・3月と9月・11月

(松谷みよ子作高坂純脚色飯田信之演出)

「シホロカベツ川・夕張」 6・7月

(矢作京介・作、飯田信之・演出)

「めだちたがりやのジン」 8月・11月

(後藤竜二作矢作京介台本飯田信之演出)

「風が吹くとき」

(R・プリングズ作高坂純脚色飯田信之演出)

(長谷川京子)

(053) 札幌市西区手稲宮の沢四八五一四

〇一一六六三二一六二五九

演劇集団石るっ

春公演。

「どんづまり」 一幕

作・新井や太 演出・浮田左武郎  
五月十六日(金) 七時  
十七日(土) 二時・七時

江東区深川青年館ホール

築地時代から演劇活動をしてきた浮田左武郎さんを演出に迎えて、俳優の力量を高めることを焦点に稽古をしています。

他に地域の集会所でも活躍してきました。

二月八日は、教職員組合の先生方と協力関係を「教育と子どもを守る」集いを行いました。石るっが中心になって構成舞台をつくりあげました。その中で、私たちが教育のきびしい状況を知られました。

(135) 東京都江東区白河2-13-8

吉川複写工業内 境野修次

〇三六四二一六三三三

劇団すがお

2月2日(日) 日中雲多く、冷えこむ、時に雪もちらつく。

この日の、目赤西小・東小の午前、午後2ステージを最後に、「ゆきと鬼んべ」(さねとうあきら・作、加藤武夫・演出) 95員并部下小学校移動公演の全日程が終了しました。途中年末年始三週の上、日曜を除き、昨年11月16日(土) から、分校を含め23の小学校17ス

テージ、六四〇人以上の生徒さんに、観てもらいました。

団員は毎週土曜日の夕方から、翌日午前の部の学校へ集り、仕込み、八時頃に帰途につき、日曜の朝は、職場の出動とは早く起き、家族の手もわずらわして弁当をつくり、車に乗りあわせて、八時には楽園入り、九時からの開演にそなえる。(これ以上の公演体験記は、目下劇団でもまとめており、この欄では紙面の都合もあると思いますので、はぶかせて頂き、なるべく早く、編集部へ送らせていただきます。)

団員やその家族も、この移動公演期間大変だが、それよりも、迎えて下さる各学校の先生方には敬服しております。いつも温かく、にこにこして迎えてくださり、お茶の接待から、設置している間も、終りまで一緒に頑張って残ってくださったり、制作の手配通り以上に協力していただきます。体育館へ生徒を集め、芝居の観方、劇団の紹介等も、どの学校の先生も、実に真心こもった、話し方で、生徒さん一人一人に判って頂いております。

観劇後、ただちに教室で、観劇感想を生徒さんから、作文で募り、私も荷物積んで午後後の学校へ出発の際に、書きたてホヤホヤ

を持たせて頂いた事も何回かありました。

ひとつひとつの、先生、生徒との交流は、昭和47年からの、公演活動通してのみのつながりだけでなく、「子どもたちに、生の演劇を通して、豊かな人間性、人間の心を学びとらせる」、「地元の劇団を育て、共に地域文化の広まりを」という、支柱が、今日まで長く受けつながられてきているからです。それは、教育という現場の公務を離れて、子どもたちと、手をたずさえていく、大人の姿であり、それこそ、私たちも一緒に進んで発展させていく「教育」だと思います。

さて、この移動公演と時を同じゅうして、とりくまれた、――もし、国家機密法が通たら……「ある日・突然」大野 章・作、住田正雄・演出は、高校教師、弁護士、市民、四日市、津、青年合唱団、劇団四日市、すがお多彩なメンバーを揃え、大変な盛挙のうち

に、12月13日(金) 四日市公演・六〇〇名

12月17日(火) 津 公演・四五〇名

両会場とも定員をオーバーする動員でした。NHKを除く、名古屋の民放TV四局が、稽古期間からカメラで追い、報道されたこと、折からの国会でこの法案の取扱いをめぐって緊迫した状況も、あいまって、観客の動員で

は、成功した演劇行動でした。

劇団は今、総会も終って、7月13日(日) 久しぶりに桑名市民会館での一般公演にむけて、演目を選定中です。この記事に間にあわなかったのが、残念ですが、引きつづき、秋の員弁郎中学校公演、来年度の25周年記念公演までの、演目を決めてしまおうと、みんな候補作品を読みあさっています。

まだまだ劇団員を増やさなければと思っ

いても、その方はサッパリです。当然、17名で送ります。

(51) 桑名市森忠睦美丘一〇五八

〇五九四一三一四二二〇

劇団からっかせ

前回の、深沢大介・作・演出「風の盾」で静岡県芸術祭賞という名誉ある賞をいただき、団員一同、次回公演への意欲も増々湧いてお

ります。公演を観に来て下さった他劇団のみならず、本当にありがとうございます。

今回は、昨年の総会で決議された「少人数で密度の高い芝居づくり」という方針に基づき「狐とぶどう」(作・ギリエルメ・フィゲレイド、訳・牧原純)にとりかかっています。演出は平井新です。

東会議ゼミナールに向けて準備がはじめられました。三月の一、二日には現地(山梨県早川町雨畑)で第一回の打合せ会議が行われました。山と湖にかこまれた、とてもいい所で、昨年の、湯の山ゼミに負けぬよう、山静プロックもがんばりますので、多数の参加をおねがいします。

第十六回公演 「狐とぶどう」

7月18(金) 19(土) 20(日) 日

可美総合センター

(中江みさと)

(430) 浜松市鶴江4-18-13 布施方

〇五三四一五三一九二八九

世仁下乃一庵

温かい御支援のおかげで、「太平洋ベルトライン」が紀伊国屋演劇賞、東京労演賞を、「別れが辻」が日本芸能大賞等いただき、真にありがとうございます。

春は、浜谷ジャンジャンでの「ベルト」

「別れ」「ネーム」の三本連続上演を皮切りに四月下北沢、駅前劇場で「別れ」、ひき続いて、倉敷、高知、五月武蔵野、浜松、八月は紀伊国屋ホールで、いずれも「ベルト」。

十月旭川袖で「ベルト」。十一月二十八日から十二月十七日、新宿シアター・トップスで新



作予定、明日は野末の枯スキ。(岡安)  
(176) 東京都練馬区豊玉中3-5-304

演劇サークル・土くれ  
〇三一九四八七三三八

①第32回公演、山田太一作「教員室」の結果を報告します。十一月二日・三日の2ステージで七五人の入場者がありました。アンケートの回収は一二五枚でした。初日には作者の山田さんも会場に見えました。舞台評は「多少がなりきみでしたが熱気があり考えさせられた」という声が多く、大官成功した公演となりました。地人会の「教員室」とは違う独自のものが創れたと思います。

②第33回公演は「教員室」の続演と決定しました。十二月・二月までの総括を生かしてさらに「土くれの教員室」に磨きをかけたいと思います。またこの公演は武蔵野地域で活動を続けている劇団新芸座の大蔵郁子作「ろば」とのジョイント公演として武蔵野芸能劇場で上演します。

六月六日(日)八日(火)4ステージ 1,000円  
前号では「かけの岩」とお知らせしましたが訂正いたします。  
2月の「はぐるま」の「教員室」上演の際には集団から三名が勉強に出かけました。

③東京働く者の演劇祭実行委員会では、東働の20年を記念して写真集・記録集を発刊しました。20年間の舞台写真多数と公演パンフやチラシの縮刷版、時々の座談会など集めた労働者演劇の貴重な資料集となっています。一部三〇〇〇円です。ご連絡下さい。(資料集三〇二頁、写真集六四頁セットです)

(120) 東京都足立区東和5-12-7  
東和ファイナンス 〇三石塚方  
〇三二六二九一三二八六

劇団湖  
今年は何年にもない大雪で、その中にすっぱり埋って春を待っています。「湖」の雪どけ三名のため、遅れそうです。

今年七月に北海道演劇祭が美瑛市で空知プロック当番で行なわれます。十月五、六日市民会館で市内の中学生対象に学校公演(前日未定)が決定しました。

来年は「湖」の創立二十五周年を迎えます。人員がいかに少なからうと、やろうと一致団結し、仲間作りに入っています。とりあえず十月の中学校公演に何をやるか検討中。道演集をはじめ、市内の各サークルや「湖」のOB、個人からも協力申し入れがあり、心

強く思っています。ふじたあさや作「笛吹きカナシー」か「ドラーマ一発マッドネス」が候補に上がっています。

今年三名が中心になって動くしかありませんが、そのために作品をおろそかにしたり三名でできる作品にワクをせばめたりせず、今何が必要かを考えて決定しようと思志統一しているところです。道演集のうしろだてが力強いので何とか三笠の「湖」も「灯を消さない目途」がつかえました。今後共どうぞよろしく御願い致します。(加藤佳子)

(068) 岩見沢市六条西三丁目木村MC  
1Fの三 加藤方  
〇二二六七二二一三〇四四

劇団夜明け

創立三〇周年記念事業として大道具倉庫建設、稚古地床はりか工事をする予定です。資金カンパ、休日を利用しての自分たち自身による工事は大変ですが、寒さに負けず頑張っています。

又、六月末の第三回親と子の劇場の出演者を一般から募集すべく努力中です。現在迄の所2名の新人をむかえる事ができました。

人口5万そこそこの街での劇団活動は、本当に地域としっかり結びついてなくては成り

立たないのです。全リ演加盟劇団は多かれ少なかれこの様な必死な努力をしている筈です。これが全リ演全体の力にならないのは、各劇団に全リ演へ向ける力の余裕がもてないという事でしょうし、全リ演指導部のリーダーシップも問われるのではないのでしょうか。フェスティバル中止の理由は、御浪町ホールを前提にして出演参加劇団、参加作品が東会議で組織できなかった事が主な理由の様です。フェスティバルに向けて各劇団が作品作りをやっていない現実も判っていた訳ですから、昨年の総会後、組織にフェスティバルに向けての取組みを行うべきだったと思えました。会場問題、財政問題としてフェスティバル中止をおさえ文化庁助成要請の決定と実行はどうしてもやらねばならない事として方向付けされた事に感謝しますし、実現迄ねばり強く継続する必要を感じますが、フェスティバル参加作品を組織していく、創造的運動の側面も是非検討する必要がある事も感じない訳にはいきません。事務局の負担を増やすのではなく、運営委員会とかプロック会議とか考える必要があります。以上、フェスティバル中止の感想です。

◇次回公演予定(第3回親と子の劇場)

井上ひさし・作 鈴木弘文・演出

「11びきのネコ」  
6月28・29日 中津川文化会館  
7月13日 恵那文化センター  
(508) 中津川市北野丸山

劇団同窓  
〇五七三六一五一四九三七

北海道の遅い春も、もうすぐそこに。この雪どけの頃になると、ムクムクとはばいの虫が動き出します。

昨年11月23日、「冒険者たち」(作・斉藤惇夫、脚色・大門正、演出・沢田和彦)を会場満席のうちに終わらせて、ほっと一息。さて今年の春は何を上演しようかと悩んでいるとき、周囲の声から「冒険者たち」の再演がもたらがりました。(5月10日予定)

再演ということも初めての経験で、団員面々不安やら意気込みみやらで、どうも同袍にとっても「冒険」になりそうです。

このあと七月には北海道演劇祭劇団演劇祭に「ザ・シュルター」(作・北村想、演出・沢田和彦)で参加を予定。そして秋公演は十年目を迎えて、何か記念公演をと、今年もまた忙しい年のようです。

みなさま、この一年、いい舞台を創りました。

(071) 旭川市末広五条八丁目高桑方

劇団やませ  
〇一六六一五七二三八三六

今年の冬は、雪は少なかつたのですが、寒さは例年以上でした。でも、ようやく春らしくなってきました。雪で悩まされた青森に比べたら、八戸は天国かも知れませんね。

「やませ」創立十五周年記念「鯉騒動異聞-赤い海」をなんとかか終えることができました。話題性が高かつたためか、客席は満杯で演じる私たちも精一杯やる事ができました。来年再演の結もあり、問題点を洗い出し、もう一度、脚本を書き直す予定です。

例の「海村」がようやく故郷の較で上演できました。入場券に二五〇枚程出て、会場の公民館が較の人々で埋まりました。梶谷はやりにくかつたらしいのですが、お客さん達は顔みながら観ていました。「海村」の公演数も十六回を数えました。較の中学校での学校公演の話もあります。是非成功させたいです。

今年春の小公演と秋には、江戸時代、八戸に居留していた俳人乙因を取り上げようとして、動き出したところです。(風張)

(031) 八戸市蛟町蕪島町14 梶谷方

〇一七八―三三―一九二二

創路演劇集団

すっかりごぶさたしています。昨年は3月より8ヶ月かけて「小さき神の作りし子ら」(マーク・メドフ作、浅田要・演出)を10月26日・27日(2ステージ四九〇名)上演しました。地元の手話通訳研究会及聴力者協会の全面的協力と暖かい支援の中で、手話を覚え、そして芝居作りと大変な経験でしたが、無事打ち上げました。作品の内容が少し難解という声もありましたが、総じて好評でした。

その後、5年間借りた古い古場を財政難から手離し、今は、古い倉庫(木造)20坪(4間×5間)を借り、古い古場用に改造中です。4月より使える見込みです。この作業と平行して、古い古場公演として「青春スクランブル」の古い古を開始しました。新しい古場及び市内各所での公演を、5・6月で予定しています。

(985) 創路市寿2-5-13 中山方  
〇一五四―三三―六五五

劇団だいこん座

二月末にドカ雪に見舞われ、大きな雪の山にいつもより春がくるのが待ちどおしいこの頃です。

四月十九日(土)に鶴岡市中央公民館ホールにて、大谷駿雄作「じゃがらがら」(一幕)を上演します。作者は児童高校の先生で

全国高校演劇コンクールで最優秀作になった作品です。これを劇団の若手中心の公演にするため、二〇代と高校生の劇団員が大はりきりで稽古にはげんでいます。平均年齢がぐっと下がって、劇団に活気がでてきています。つまり団員が増えているのです。今秋には「あお野麦峠」を公演する予定です。なにことも挑戦、挑戦!

(997) 鶴岡市本町3-19-11 高橋方

〇三三五―二四―一六八八

劇団協同

冬から春への芽のふき出る頃なのに、私共集団は未だ固い殻から抜け出せない状態です。

昨年の12月に福田薫・作「たそがれの譜」の研究上演をやり、現在4月まで「ザ・シェルト」の勉強会を進めています。女性が少ないと思うようにいきません。

一応今年の予定は、7月中旬に「8・15を考える集いNo.5」に斉藤環穂・作「象の死」、秋の公演に真船豊・作「鈍」を計画しております。集団員が固定化しているうえに若い人が少く、各人の生活状況もあり、なかなか事

張りましよう。

(983) 米子市昭和町23 宮倉方

〇八五九―三三―九三〇

演劇集団「土の会」

萩原さんのがきに、「活動不振も通信の材料」とありましたが、土の会は、まさに「活動不振」の模範生。でも、ただひたすら矢野龍の新作を待っている、というだけではないのです。ある人は仕事で、ある人は社会的活動で、ある人は創作で、ある人は演劇・映画鑑賞で、それぞれ、「土の会」を暖めようとしているのです。

現在そのうちの数人は、劇団展望と組んでブレヒトの「第三帝国」を統括しています。劇団展望と接している、地域・民族・民衆・根ざした独特な活動スタイル、じっくりとみんなが納得するまで時間をかけるけいこ運営など、演劇会議の劣等生は、おどろいたり刺激されたり連続なのです。

(佐藤)

(177) 東京都練馬区大泉学園町七-十五-

三〇 よしだ方

〇三一九―二四―一六〇七

劇団やまなみ

全り演のみなさん、お元気ですか。

が進まないのが現状であり、新鮮な活気のあ

る流れが生み出せません。苦しみ苦しみながらも歩みを止めない先に、展望をみつけ出せるよう、頑張らねば……。

(190) 立川市曙町三-四八-七黒田方

〇四二五―二四―〇八八一

演劇集団「あり」

数年前から、米子市で活動を維持している演劇サークルは、私たち「あり」のみとなり、田舎町での演劇創造の苦難の時期と観を決め、頑張り続けた甲斐もあり、次第に仲間も増やすことができました。

昨年最後の公演は十一月にサークル内創作劇、池原良作「おねすてい」を上演し、観客数も四百名台の定着ができました。

今年の公演予定は、五月二十三日米子市公会堂で、大橋喜一・作、ミュージカルエレジー「銀河鉄道の恋人たち」を決め、作者の許可もいただき稽古中です。初のミュージカルへの挑戦という、未知のジャンルに不安と期待をもちながら、同作品を上演された劇団の協力を得たり、外部からの音楽指導を受けたり、踊りの特訓を受けたりで、山陰の長い冬の地で汗を流し続けています。

創造活動に困難が増してきますが、共に頑

(あきやま)

(406) 山梨県東八代郡石和町小石和六三九

〇五五二六―三三―三四八三

演劇集団木路

おかげさまで創立20周年を迎え、第一弾として、R・C・オブライエン原作、立川崑三脚色・演出による「さよならエデンの谷」を上演いたします。

不幸にして核戦争がおこり、核の冬が訪れますが、奇跡的にたまたま少少女と男の物語。果して最後の二人は最初の二人となりうるのでしょうか。サスペンスタッチで展開する葛藤をとおして、信頼、選択、友情、夢、理想、愛……と多様に問いかける感動のドラマです。

なお、この作品は、中・高校生を対照に全国巡演の企画もたてております。また、懸案のチェホフの「六号室」上演の準備と着々進められています。(旅先にて、島田彰)

(160) 東京都新宿区新宿1-10-15

新御苑ビル内

〇三三三―四一―九三三〇

劇団支木

空地にはまだ小山のような雪が残っていますが、車道にはほこりの舞い初めた三月の青森です。本当に雪に苦しめられた今年の冬で

したが、それも何とか乗り越え、今年のレバ決定まで、あと一息のところまで来ました。五月に小品を、九月から十月にかけて移動も含めて、定期公演を考えています。

昨春秋から女性の入団が続いて、五人の間がふえました。男女のバランスは女3対・男2の割になってしまいました。若い男性が欲しいというのは、春猫なみの切実な願いになっていきます。猫なで声で男性募集に走りまわっています。

(100) 青森市本町一六四一四ふじビル  
〇一七七一七七四六七七

#### 劇団新劇場

全り演の皆さま、北海道は例年になく暖かな3月を迎えております。昨年は本公演の合間に「ユタと不思議な仲間たち」と「のんこの長ぐつ」をキャストイング変えをしながら進めたこともあり、大変忙しい年でした。中年の役者連中にも多少息切れが目立ちました。

前号以降の公演は、恒例の「雪まつり劇場の一環として、「風雪の役者たち」(菅村敬次郎・作、久保田浩・演出)で2月26・27に終えたばかりです。この作品は札幌の教師の創作劇で(元・新劇場団員)、明治の半頃、富山県人が北海道に入植し、水害や凶作から

逃れられるようにと農村演劇(歌舞伎)を組織したドラマです。

さて、今年の予定ですが、

憲法劇「今日、私はリンゴの木を植える」

(ふじたあさや作、鈴木喜三夫・演出)を5月2日。

6月2日。

札幌プロダクション合同公演  
「ブナよ木からおいでこい」(水上勉・作、山根義昭・演出)を6月27日 7月5・6日。

児童劇公演

「空とぶ大どろぼう」(木田健一・作、山根義昭・演出)

道演楽総会(3月8・9日)を終え、劇団の総会も控えています。今年も忙しい年になりそうです。各劇団の皆さん、頑健な肉体をもって御自愛を!

(N)  
(562) 札幌市豊平区豊平千条12-3  
〇一八四一四一三四八〇

#### 劇団京芸

◇昨秋より巡演中の「陽気な地獄破り」の2年目は、3月28日の大阪公演(近鉄小劇場)より、新メンバーでスタートします。現在、再稽古の終盤を迎え、踊りやお囃子の稽古にも熱が入ってきました。

今年の前半は高校、おやこ劇場中心に西日本を駆けめぐります。近畿以外の主なスケジュールは左記のとおりです。

5月28日・松山 5月29・31日・高知

6月15日・常滑 6月27日・高知

7月16日・奥 9月5日・広島

◇様々な反響を呼んだ「商人」はあと3ヶ所の高校公演をもって終了することになります。

◇附属俳優教室10期生の修了公演は4月4・5・6日の3日間、劇団稽古場にて行ないます。作品は「道化師たち」M・エンダの世

界へ)で、劇団員も助っ人としてスタッフの中心に参加します。(望月敬男)

(612) 京都市伏見区納所北城堀31-18  
〇七五一六三一二六〇九

#### 劇団未来

「ナナちゃん」は宇宙人の御観劇、本当にありがとうございました。大橋喜一さんのおいしい戯曲を上演出来た満足感がありました。お返しに戯曲を上演出来た満足感がありました。戯曲は大変面白い戯曲なのに、力不足のため、遠路来ていただいた方々に、半分の良さしか伝えられなかったのが残念です。

さて、劇団は年明けとともに、劇団総会を開き、組織的にも弱体化している現状を来年

の25周年に向けて建て直していく話をしました。

3月16日(日) 演劇教室第9期卒業公演

「淡雪の頃」(作・柴田北彦演出寺下保)

5月23(金) 24(土) 青少年ホール

第10回・大阪春の演劇まつり参加

「手紙」(作・爪生正美、演出森本景文)

(550) 大阪市西区江之子島一七七一

新うつぱビル4F

〇六一四四七一〇三〇一

#### 劇団展望

昨秋の、プレヒトの「第三帝国の……」を使っての試みを延長して、今春も我々の演劇という営みの再点検を課題に含め、けい古をやっています。例えば「テーブルけい古とは何をするのか?」読み合せが次にあるとして、それまでに何をつかんでいけばいいのか、はたそのためには、どのような入口からテーブルけい古を始めたいのか、などなど……総じて、けい古の進行とは何が進行していくのかを、特に演技者の仕事の過程としてはっきりさせてみようというつもりです。人に手渡すことのできる演技術、というのが、速くて、緊急な目標。というの、我々だけの問題ではなく、現在、いろいろな市民・

住民運動の中でも、自分自身をとりもどす要求、対抗文化的な表現の要求が見受けられるからです。発表の様式・日程については、これから。ただ、このナチス時代の芝居を通じて、現代の日本にも引き続いているもの(資本主義の矛盾)を発見し、観客とともに検討することが出来ればと思います。

こちらの発表よりひと足さきに、展望のけい古場を使って再出発した、芝居づくりの集まり、の第五回目の発表が、四月十二日に行ないます。非行防止をねらい、またまた新たな校則を生み出す女子高の職員会議の話と、うっかりミスを手ガソコに認めないケイサツ官の話の二本立てです。

毎週、月・火の夜七時から、民俗文化映像研究所の記録フィルム上映会(アチャク・フォーラム)を、阿佐谷小劇場で行なっています。プログラム予定をご入用の方は、劇団展望へどうぞ。(小島政男)

(166) 東京都杉並区阿左谷南三三三三

〇三三三三三三三三三三三

#### 劇団弘演

今年の冬は降雪量が例年の倍以上もあり、三月になった今でも、雪に埋れた稽古場をスコップで「発掘」しています。

まず、去年暮れからの演劇フェスティバルに関する問題の発端となった私の手紙で、こばやしさんをはじめ、全り演の仲間の皆さまに大変、御迷惑と御心配をおかけした事をおわびします。団内でも二月の総会において話し合ひされ、きっちり結着したことを報告します。今後は、このような事のないようにします。よろしく。

次に2月の総会について報告しますと、運営委員として、代表―青山司、文芸部―秋本博子、制作部―宮崎英世、事務局―武中正の四人の新体制となりました。レバは、地域移動公演用として

「陽気なハンス」(多田敬作/秋本博子演出)公演予定は七月以降来年二月まで随時。

「若手をビシビシしごいて、いつでもどこでもやれるおもしろい芝居にするぞ」と、久々に演出を担当する秋本は張り切っておりです。(三月十五日稽古開始)

他にもう一本、作品未定ですが、小劇場用で大人向けに11・12月の公演予定しています。この作品で来年2月の演劇フェスに参加したいと思っています。

なお、登予定していた「かっぱのめだま」は公演を来年度以降にもちこします。

総会ではその他「終りに見た街」の総括、  
稽古場のあり方、公演赤字の苦悶、力量のアップ等々について、のべ三日におよんで討論されました。いずれも実践で実証していかなければならない事だと思っています。

雪が多い年は、豊作の年と言われますが、劇団公演にとっても豊作の年とする様、頑張りたいと思います。(武中正)

(336) 弘前市品川町一プラザ内  
〇一七二一三五一四六七〇

### 劇団鍋屋

全り演の皆様、如何おすごしでしょうか。連日御健闘されていることと思います。

私達も、1月12日・18日小劇場公演「雰囲気のある死体」(別役実・作、高峰順二・演出)で上演、次いで3月8・9日に、附属俳優教室卒業公演「動物倉庫」(大江健三郎・作、早川昭二・演出指導)で上演と、85年を元気づけたいにスタートしました。

1月小劇場公演では、連日満員で2階である劇場の床がぬけないかと(?)心配したほどでした。

61年度学校巡演作品は、この62号に掲載され、昨年東京公演を成功裡に終えた、大橋嘉一さんの力作「ナナちゃんは宇宙人」と、巡

演5年目をむかえる「あっぱれクライオン」の2作品に決定し、現在両作品同時進行で、けい古に普及に大忙しの毎日です。

更に、来年、劇団創立15周年記念公演として上演する「村長ありき」野の花よ、歌えーの準備も着々とすすめています。この作品は「生命尊重」を村是とし、村をそして人間を愛した人々の苦悶により、豪雪の底に沈黙していた暗く悲しい生活から、日本一の健康村へと怒りをもってくつがえした村、岩手県沢内村を描いた人間ドラマです。

その他には、9月小劇場公演も予定しており、残るトラヤを、一步一步確実に、しかも絶好調で駆けぬけていきたいと思っています。

(171) 東京都豊島区池袋四一七五四  
〇三一九八六四九七七 (大南記)

### 劇団大阪

全り演の皆さん、こんにちは！  
新劇フェスティバル参加(二人の花嫁(寺島アキ子・作)は、いろいろな方面の力がたの協力を得て、一四〇〇名の観客動員という大きな制作の前進をみました。

創造面でも、中心の、大陸の花嫁の三人をベテラン陣が熱演し、取り組みの中心役

割を與えました。

現在は、'86春の演劇まつり参加、「翼は心につけて」の練習の真最中です。秋の作品につづき、寺島アキ子さんの作品ですが、今回は新人中心で、がんばっています。出演者が二十数名という大きな取組みですが、一人一人のびのびとした、さわやかな舞台を創りたいと思っています。

5月10・11日 森の宮青少年会館ホール  
「翼は心につけて」  
作・寺島アキ子 演出・熊本一

(540) 大阪市南区谷町七一一三九一〇三  
〇六一七六八一九九五七

### 劇団群馬中芸

初めての海を越える異外公演として楽しみにしていた高知公演は、船の到着の大きな遅れで始まりました。

この高知公演は、室戸市教職員主任制度管理運営委員会の主催で、室戸市内の三つの学校を会場に、二月十三日(吉良川中)、十四日(佐喜浜小)、十五日(室戸中)と公演されたものです。室戸市は人口二万七千人とお聞きしましたが、熱心な先生方の努力のおかげで三日間で千五百人の方に見ていただく事ができました。又、こどもに良いものを、と

熱意を持って話される先生方との交流会を含め、私たちにとってすばらしい収穫となりました。

高知からの帰国後は、例年通り、「卒業生を送る会」の公演が多く三月十八日まで「郵便屋のテクルさんと宛名のない手紙」をつづけます。十九日からは次回作品「やけあとのブレイメン葉団」(飯題)の稽古に入ります。

又、三年間好評で続いた「ゆきと鬼ンベ」も三月十六日で打上げになります。(宮島)

(371) 前橋市昭和町三一一五一一  
〇一七二一三二一〇五五〇

### 劇団息吹

全り演の皆さん、こんにちは。  
わたしたちは、春公演「奇跡の人」の迫りこみにはいり、忙しい毎日です。しかし私達自身が作品からうけた感銘を多くの方に、良い舞台として伝えるため、ともすれば作品の大きさにおしつぶされそうになりながらも、熱のこもったケイコを続けています。

他に、3月中旬の「八尾・福祉を考える市民のつどい」への協力・参加もあり、地域との結びつきの中で、あらためてその意義を感じています。また、5月には地元の東大阪市の市長選を、6月には参院選をひかえている

という感しきです。アニー・サリバンのような信念をつらぬくエネルギーを持ち、この困難な時代を乗り越えてゆきたいものです。

公演日程。大阪春の演劇まつり参加。  
「奇跡の人」  
(ウィリアム・ギブソン作 額田やえ子訳 木田昌秀演出)

4月25日(金) 6・15 八尾市農協会館  
26日(土) 2・00  
5月9日(金) 6・15 東大阪市民会館  
23日(金) 6・15 郵便貯金会館  
(578) 東大阪市中野三二四一四四  
〇七二九一六四一四四四一

### アート・ステージくしろ

北国の冬は寒さとそれに附加する様々な障害から、今日の演劇活動は大きく制約されます。私たちは昨年、11月16・17日、木下順二作、たけべひろゆき演出で「夕鶴」を2ステージ四五〇人動員しました。(於鋼路市民文化会館)公演後、転勤等からメンバーが減少したが、86年2月から、演劇入門セミナー「パートⅢ」として、北山権兵と共に芝居を

など、演劇の実習などのプログラムです。このセミナーの終了発表会を、6月21日に予定し、準備中です。そのあと10月に一般公演を予定していますが、作品等は未定です。鋼路地方の演劇界は分衆時代にふさわしく演劇人口(観客人口)に比べて劇団数が群をなしつつあります。益々興味深い時期に入りました。

(085) 鋼路市員塚一六一一九 加藤方  
〇一五四一四二一八〇〇九

### △おことわり

通信はこの外に締切を過ぎて到着のものは可通ありません。余白のいくつかに散在させて収録しました。そこにも見当らないのは送らなかつた集団です。

## 観客をどうやってふやすか

— 関東プロロックの討論集会から —

全り演劇東プロロックは毎年成人の日に「新春プロロックの集い」をひらいていますが、今年には「観客をふやすために」をテーマに、劇団展望の種古場で行いました。十集団から四十名が参加して盛況でしたが、なかでも講師として来ていただいた。ベトナム・ゼッケン男・金子愛野氏（タウン紙「みたかきいたか」創刊者）の「心をとらえる宣伝活動」の話はおもしろかっただけでなく参加者の感動をよびました。また、問題提起者として選ばれた山本忠利氏（京浜協同劇団）と福島明夫氏（青年劇場）の話は、観客をふやすためにこの劇団も苦労しているときだけに、たいへん参考になると思ひ、私の責任で要約、「演劇会議」に載せてもらうことにしました。

一人が百人の観客をつかむ集団に

山本 忠利（京浜協同劇団）

市民団体の人たちによびかけて実行委員会をつくってもらった。それをよびかけたら、たいへん喜ばれた。「地元の劇団を支えていこう」という意思をはっきり持っている。劇団はもつとこの人たちと連絡していく必要があると痛感した。

私は、争議団のような劇団になろうとよびかけた。争議団は仲間をいたわり合う集団だ。一人のために寄ってたかって助け合う。私自身、クビになったときそれをね返す力は何もなかった。ひたすら仲間に助けてもらうしかない。だから、頭を下げてお願いして回って目的を果たすところまでふやし続けるしかない。

争議団に学ぶことはいっぱいある。

最後に劇団の中の古手と若手の役割について触れたい。古手には古手の、若手には若手の役割がある。古手がやらなければ若手はそれを見て判断してしまう。お説教とか言い訳でなく、だれもがそれぞれの目標を立ててその目標をやりぬくこと。そこに新しい刺激のしあいが始まる、本音と建て前とが一つになるような集団にしていきたい。展望はそこから生まれてくる。

にかかっている。大勢の客をつかむことは大勢の人と知り合うことであり、本当は楽しいことなのだ。券を売ることである。劇団は芝居を創って観せるところまでやるころなのである。ところが、創るのは創るが、観客をふやすのはどうも……といった風潮がある。これでは劇団をつくった原点は一体何だったのか、自分が演劇を始めたのは何だったのか、自分が問われることになる。券の普及となると、恥ずかしい、気遣いがするというのは、自分がどういうメッセージを持っているのか、どういう生き方をしようとしているのかという原点の衰退である。

わが劇団には専従者が一人もいないが、それはプラスの部分とマイナスの部分とがある。職場に仲間がいるということは正の部分で、専従でないから動けないというのは負の部分である。わが劇団の観客は劇団員一人平均六十人位だが、多い人で百五十人、少い人は十人以下とばらつきも大きい。

私は一人が百人のお客さんを連れてこれる集団にしたいと思っている。一人が百人つかめば三十人で三千人になる。そうなるには、百枚以上売ってる人に学べばできることである。本気になって自分のカラを破るかどうかに感じて、だれもが必死に券を売る集団に

福島 明夫（青年劇場）

私は、高校、大学で演劇部に籍を置いて、卒業後青年劇場に入って九年間、制作部で仕事をしてきた。まだ駆け出しだから偉そうなことは言えないし、自分の劇団活動を通じて感じていることしか話せない。

なぜ観客をふやさなければならぬかということがある。それは仕込みのための費用を産み出すためかもしれないが、俳優さんとしては一世一代の晴れ姿を観せたいということだ。観客数を設定する指標は、人口の何%ということではない。現実には財政規模に合わせて人数ということになるのだが、それとてもあくまで自分たちがどういう劇団にしていくかということによって決まってくる。

わが劇団は、東京に全公演の半数をおきたいと考えている。東京に根をおろすためには最低でも六、七千人の観客が必要だし、なんとかそこまでやれるようになった。東京でも多くの劇団が赤字だと聞くが、劇場費が全体予算の一、三十%を占めるような現実がある。しかし、だからといって安易に鑑賞団体など

にのせることは考えたくない。基本的には自主公演でやりたいと思う。自力でやることに意味があると考えるからだ。

わが劇団は、コンフレリヤという名前をつけて劇団員を地域別（居住地ベース）に分けて一チーム七、八人から十人くらいの小集団を十チームくらいつくって普及活動をしている。地域の労組や団体に、チームごとに若い人と古い人とが一緒に入っていく。そして、それぞれのコンフレリヤが競い合いながら成果をあげている。

もう一つはレバトリヤによる戦略、戦術で、どういう芝居をどういうふうにつくり、売っていくかということを考える。制作部は切符を売るところではない。何を、どうやって売っていくかを考えるところだ。だから、観客の動き、観客名簿の整理など、情報を伝えることはやるが、実際に観客をつかんでいくのはコンフレリヤであり、劇団員一人ひとりだ。よく、「おもしろければ売れる」、「いいレバなら売れる」、「おれは気に入る、入らない」などの声も出るが、それは関係ないことだ。何のために芝居をやるのか、何のために券を売のかを徹底的に話し合う必要がある。わが劇団は、地方公演へ行っていよ

うが、どんなポストについていようが、どんなに忙しい人であろうが、だれかれの区別なくみんなが必死に券を売ることになっている。次に、創造理念との関連だが、観客論がないところに創造理念はないと思う。観客に学ぶということが大事だと思ってる。うちのレバは、赤ちょうちん、から生まれるとよく言っているが、観客と一緒に飲みながら話す機会が多い。政治の反映も人々の中に表われる。ドラマの源泉をどこから発見するか、それが重要なことで、うちでは観客論を持たない演出者は、失格、だなんてよく言う。もし、役者が自分が券を売らないでハッパをかける人があるとするれば論外だ。出演する人こそ売るといふのは当り前のことだ。

わが劇団では東京の自主公演で一人平均五十枚くらいだが、これでもまだ東京でやっている劇団だと思われてないところもある。「夢の遊販社」が年間五万人、「四季」が十万人から二十万人といわれている。うちは現在二万人だが、十万人にはしていきたい。

○ ○ ○  
両氏の問題提起は実践に裏づけられた豊かな話でしたが、私の要約では伝え切れないところがあって申し訳ないと思います。

なお、関東プロロックの集いで、事務局の崎芸、会場の提供と料理の仕度をしてくれた風望の皆さんに感謝します。また、中沢議長、後藤議長が参加し、熱意のこもるあいさつをしてくれたこと、紀伊国屋演劇賞を受賞した岡安伸治氏（世に下乃一庵）に拍手を送ったことを紹介しておきます。

（文責・城谷 護）



△劇団通信・つづき▽  
劇団どろ

昨年暮から、岡安伸治・作「とおりやんせ」のケイコに入っています。公演日は、4月17と20日、どろの芝居小屋にて。

どろとしては、これまでとは少し勝手の違う演目ですが、原案に関するボウ大な資料などと取っ組みながら四苦八苦しつつもいよいよ終盤に突入というところ。いづれにしろ、どろ風の岡安芝居になることは間違いないでしょう。

一月には西会議の研究会で采神された岡安氏に、一晚ご足労をおかけして、どろでお話を伺い、大いに刺激され、戯曲理解の助けになりました。感謝しています。

三月五日、「国家機密法阻止の文化団体の集い」で、ブレヒトの「スバイ」を上演、どろの老店小屋超満員の、熱気あふれる集会となりました。

（合田幸平）  
652 神戸市兵庫区大開通七丁四一七  
谷垣ビル 4F  
〇七八一五七六一六四八八



関西における戦前プロレタリア演劇の研究 [四九]

大岡 欽 治

大阪地方のプロレタリア演劇

一九三四（昭和九）年—一九三五（昭和十）年  
プロット大阪支部解散以後  
（七）  
（四）

一九三四年（昭和九）年の三劇団合同問題の動き

この年のプロット解体という状況の中で、大阪での対応策としてとられた、劇団自由舞台の創立と、劇団活動とを見てきた。

さらに劇団自由舞台と、新人劇場、新響劇場の共同斗争の場の設定と、劇団合同、合同公演を目標とする三劇団の交流の経過を見ることにする。

この年三月、満州国帝政が実施され、皇帝

溥儀が就任した。所謂満州に対する日本の政策が実現していく方向が確立し、世相の動向も、その事件に目を奪われてきた。

その間に、東京では、村山知義提案の新劇の危機説、新劇大同団結論が、不完全ながら一応の結論として「新協劇団」創立（九月二日）へと歩みよってきた。

その情勢は、大阪にも反映して、三劇団の新しい動きが出てきた。  
幸いにも、私が雑誌「関西文学」（第六号 昭和十年三月号）に「大阪に於ける新劇団合同運動の経過—一九三三年度の決算—」の一文を書いているので、整理してみよう。

（一）九月一日、新人劇場事務所、新人、新響自由舞台の三劇団の代表者中心、各劇団三名の代表と個人四人によって、当分一遍一回定の期に会合決定。各劇団、個人から関西新劇界

並びに各劇団の現状に対する意見をのべ、当面職業劇団か、研究劇団として行くかについて討論した。

（二）九月八日、新人事務所、参加者少数。技術面の貧困について論議。

其後は、新人劇場の事務所移転、九月二十一日の関西風水害（註一）新人新響共同公演（十月九日）の準備などのため、十月二十七、八日の新築地劇団大阪公演の日まで連絡がとれなかつた。（註二）

（註一）九月二十一日、秋の彼岸の入りの日、室戸台風に関西は直撃された。大阪の被害状況は死者二八六六六、負傷者一万五三六六一人、建物被害四七万五三三四戸、私の家も二階の屋根根が半分吹き飛んだ。翌日から軍隊も出動して災害の後始末が始まった。

（註二）十月一日に陸軍省よりパンフレット「国防の本義と其の強化の提唱」が発表さ

れ配布、政友会これを非難して世論粉料する。  
(一)十一月五日、新人事務所、再めて三劇団で劇団協議会を持つことを自由舞台より提案、同時に小山内薫七周年追悼のための実行委員会設置、追悼公演を提唱、検討する。

(二)十一月八日、ロダン(喫茶店)実行委員会。新劇劇場は十二月七、八日の公演プランが進行している、共同公演には不参加、講演会には参加する。新人劇場は十二月二十七日、朝日新聞社会事業団の行う年末同情週間に参加、公演を持つことが決定したので、追悼公演をそれに含めたい意向。追悼講演会は別に持ち、それは自由舞台が主として当ること決定。

(三)十一月九日、ロダン 実行委員会 自由舞台は新人の朝日会館出演を承認するも、出来れば関西新劇団の共同公演としては如何という案を提出。然し会館側の関係上不可能なので、前回新人の提案の如く決定。

(四)十一月十二日、新警事務所 劇団協議会  
新人劇場不参加のため流会。  
十一月十六日、新警事務所 劇団協議会  
新人、新警不参加のため流会。  
十一月十九日、ロダン 実行委員会 新人の朝日会館出演延期につき、更にプランを

樹てる、新劇の公演は、そのままとし、追悼会の内容を「演劇と講演」とし、演劇は劇団の共演と決定。  
(七)十一月二十九日、パビロン・ルージュ(喫茶店) 実行委員会 此の時までに追悼実行委員会に参加したのは、新人、新警、自由舞台、O.P.L(演劇批評家グループ)前進座大阪後援会、旧無名座有志で、交渉中なのは、P.C会、新築地大阪後援会、築地座大阪後援会、旧築地小劇場関係者など、期日は十二月二十五日夜、会場は大江ビル。各部署責任者決定。

(八)十一月二十八日、新人事務所 劇団協議会 新人、新警不参加のため流会。  
(九)十一月二十九日、パビロン・ルージュ 脚本審議 新人、無名座連刻、流会。  
(十)十一月三十日、パビロン・ルージュ 実行委員会 新築地後援会参加決定、予算決定。上演脚本決定 (一)アントン・チェホフ作 小山内薫訳「犬」(二)T.C・マアレイ作 小山内薫訳「長男の権利」  
(十一)十二月二日、新警事務所 演出各部署決定 (註三)

(註三)以上の記録は、十二月四日に書かれたものである。その後の実行の状況は、本

誌前号に書かれてある。

この記録には、劇団協議会と小山内薫追悼実行委員会のもとを同時に載せてあるが、劇団協議会は再会以来遂に、流会のため一回も持たれなかった。その理由は、新人、新警のホイコットによるものであることは明らかであろう。しかし、ここまで進行してきたのは、自由舞台の献身的努力であり、流会になっても、完全に事務を遂行した。これでやっと一九三四年は終ることになったのである。

一九三五(昭和十)年 (一)

(一) 一般社会状況  
この年一年の全体の社会状況をまづ概括しておこう。

社会的な問題としては、天皇論についての新しい発言が、政治問題化したことは特徴的であった。

二月十八日に、貴族院で、美濃部達吉の著書による「天皇機関説」の攻撃が始った。貴族院の菊池武夫中將らが在郷軍人の議員は、団体に反する「学匪」であり、「緩慢なる謀叛人」であると非難した。美濃部は二月二十五日貴族院で菊池の非難を中傷ですぎないと弁明した。

三月二十五日には岡田首相は、国体明徴決議を提出、衆議院は全会一致で可決した。四月に入ると軍部、文部省も訓令を出した。さらに在郷軍人会は、パンフレット十五万部を全国にばらまいた。政府は美濃部の著書「逐条憲法精義」「憲法提要」「日本憲法の基本主義」の三冊を発売禁止とした。美濃部は告発され、貴族院議員の辞職を余儀なくされた。

政府は国体明徴声明を出し、十月に第二次声明をさらに出し、これをきっかけにファッショ的理想への言論統制が強化されていった。しかし、その風潮の初発の二月に、京都大学を中心とする進歩的文化人、中井正一、新村猛その他によって「世界文化」が発刊されたことは注目すべきことだった。

また、陸軍内部の対立も激化が表面化し、永田軍務局長斬殺事件も社会を驚かした。国際的のものを挙げてみると

(三月)ドイツ・ヒットラー内閣は再軍備宣言、(七月)フランス人民戦線結成、(八月)中国抗日救国宣言、(十月)イタリア・ムッソリーニ、エチオピアに侵入など、それぞれ戦争の気運を高めてきた。  
国内の文化・芸術の動向をみると

一月、久保菜「迷えるリアリズム」を都新聞に発表、社会主義リアリズムの論争の口火をきる。

二月、坪内逍遙没、二代目中村鴈治郎没、第一次唯物論全書刊行ノ北薮次郎(神山茂夫)社会主義リアリズム批判。  
三月、文部省、文楽座へ国庫補助金を下附「日本浪漫派」刊。  
六月、東京、有楽座開場。  
七月、コミンテルン第七回大会。反ファッショ人民戦線の方針を決定。

東京新劇団の公演表

○築地座  
一月 「濡体美女脱身」田中千禾夫作、  
二月 「職業」岸田国士作、「わが家」森本薫作、「釣堀にて」久保田万太郎作。  
四月 「瀬戸内海の子供ら」小山祐士作。  
十一月 「秋水船」内村直也作。

○新築地劇団

二月 「灰燼」徳富蘆花原作 藤田満雄脚色、「妻恋村」三好十郎作 (大阪文楽座)。  
九月 「坂本竜馬」具山晋果作、「取引にあらず」岸田国士作。

十月 「人生劇場」尾崎士郎原作 村田修子脚色。  
○新協劇団  
三月 「雷雨」オストロフスキイ作 八住利雄訳。  
五月 「白虎隊襲撃」巖谷三二作、「坊ちゃん」夏目漱石原作 文芸部脚色、「オロロ」(下)伊馬鶴平作。  
九月 「石田三成」貴司山治作。  
十一月 「断腸」久板栄二郎作。

○劇作座  
一月 「村道」上原秀信作、「鹿」真船豊作。  
三月 「温泉村」梅本重信作、「猪之吉」田郷虎雄作。  
五月 「クレオパトラ美容室」水木洋子作、「あらし」内地文字作、「蛇」直船豊作。  
六月 「母親」関口次郎作、「築地明石町」若名ゆき作、「赤鬼」阪中正夫作。  
九月 「わがまま」里見淳作、「狐舎」真船豊作。  
十一月 「死なす」高橋文雄作、「故郷」阪中正夫作、「珍客」岡田植子作。

(二) 大阪の新劇界の動き

前年木の「小山内薫の夕」を終わってほっとしたので、新しい年になっても、大阪の新劇界は仲々活動に入らなかった。

一月に、「大阪人形座」が成立した。同人制で、浅野孟府(彫刻家・プロ美術)、小代義雄(P.M.プロットの音楽家)、多田俊平(プロット・自由舞台)、小林敏夫(プロット・自由舞台)などコップ系の人々によって組織され、小公演・移動公演で活動を開始した。

東京からの新劇団の来阪公演も減少してきて、一応表にしてみると

### ○新築地劇団

二月 「灰燼」徳富蘆花原作・藤田満雄  
脚色 岡倉士朗演出、「妻恋村」三好十郎作 八田元夫演出。  
七月 「坂本龍馬」真山青果作 佐々木孝丸演出、「父帰る」菊池寛作 岡倉士朗演出。

### ○築地座

一月 「橋本操女塾裏」田中千禾夫作・演出、「客」辰野隆作 川口一郎演出。  
六月 「瀬戸内海の子供ら」小山祐士作 岸田国士演出。

### ○新協劇団 (大阪第一回公演)

七月 「花嫁学校」片岡鉄兵原作 村山知義脚色 青柳信雄演出、「同志の人々」山本有三作 久保栄演出。

新築地は、昨年の「ハムレット」以後、方向が混乱して見え、築地座の方が、新しい創作劇を発表し、小山祐士が新人として注目されてきた。しかしこの文楽座公演中の六月二十一日に東屋三郎が突然倒れた。自由舞台では、文楽座にお見舞に行つたが、七月三日に死去された。衝撃だった。

新協劇団は、話題になつたが、「花嫁学校」は、あまり評判はよくなく、「同志の人々」の久保栄の演出が目された。ただこの最初の大坂公演で、新協の劇団員と大阪の新劇団との間に直接の集會が持たれ、東京の合同問題の真相が詳細に説明され、そのあと懇談することの出来たのは、大阪の新劇団合同問題に決定的な影響を与えた。(別項参照)

ところで、大阪の新人・新響・自由舞台の三劇団は、やっと四月になって、再び劇団協議会を再開するようになり、四月から五月にかけての活動ぶりが、報告書として書記局から出された。

それは三劇団合同公演実行委員会が構成され、劇団協議会と二つの会合が持たれて行つたが、その会議の報告書が、書記局を担当した自由舞台の多田俊平の執筆によって纏まっ、プリントされた記録があるので、それをさらに整理してみよう。

「実行委員会経過報告及び公演期日延期の理由に就て」  
実行委員会書記局

### 四月十二日 劇団協議会

新響劇団の提案によって再開される。各劇団報告 (一)新響 四月より関西大学演劇研究会より街頭劇団となり、新響劇場と称し、次回公演に「ハイエルマン」作「朝日商会」を準備。小ホール(ガスビル・日簡ビル・大江ビル)が使用拒否、警察干渉がある。協議会で対策に協力して欲しい。(二)新人 劇団統制が困難となり、内部研究会を積み重ねた上で公演を持つつもり。(三)自由舞台 上半期を理論研究会によって劇団行動の批判をなし、九月中旬小公演の方向。三劇団共に協議会の重要性を強調した。当面の問題として(一)小劇場封鎖対策として現状調査をする。(二)「小山内」の批判の不足と運営についての考慮。(三)三劇団共同公演 新響提案に三劇団賛意

### 四月十六日 劇団協議会

(一)小ホールへの警察干渉の事実あり (二)共同公演対策 実行委員会構成(各劇団より代表二名選出のこと) 日程・六・七月中に二日間、有料興行、会場は文楽座か演舞場。公演名称について警察への対策。(三)新劇クラブ結成の準備。

### 四月十九日 第一回実行委員会

(新響)谷・海老江 新人 榎原・前田  
自由舞台 小林・多田  
(一)機関構成 (二)上演脚本の基準 (三)公演名称 (四)劇団共同公演、但し対警検討 (四)会場 朝日会館を考慮

### 四月二十日 実行委員会(二)

(一)実行委員会部警決定 技術部々長・榎原 経理部長・谷 宣傳部長・小林 書記局 (長)多田 書記・海老江・前田 (二)予算編成 (三)損益処分

### 四月二十二日 実行委員会(三)(拡大)

(一)会場 朝日会館 (二)期日 七月十日前後 (朝日側) 七月九・十日(劇団側) 希望 (三)上演脚本リスト提出 (四)各劇団参加者名簿 (一)名称 「三劇団共同公演」は避けて他に用意する(意見一致) ○坪内博士追悼公演な

どの案も出たが保留となる。

### 四月二十七日 実行委員会(五)

(一)予算編成終了 (二)上演脚本審議続行 (三)公演名称「大阪新劇集団公演」に決定  
五月三日 実行委員会(六)  
新人劇場欠席のため流会  
五月四日 実行委員会(七)

(一)各劇団の統制と実行委員会の機能の調整の必要が要請される。(二)公演名称の決定、(三)上演脚本「夜明け前」に内定 (四)活動日程  
五月六日 全体会議(二)  
新人劇場より出席者一名のみ、よって成立せず、拡大実行委員会とする

(一)上演脚本「夜明け前」は費用多額のため改めて脚本を審議する。場合によっては翻訳劇にても可 (二)機関の運営と統制について(保留) (三)新人劇場の欠席について実委より決定すること

### 五月七日 実行委員会(八)

(一)観客組織を考慮すること (二)タイアップを推進 (三)脚本「たくみと恋」「雷雨」を審議対象にする

### 五月九日 実行委員会(十)

(一)上演脚本「オストロフスキイ作「雷雨」に決定 (二)タイアップ報告 (三)活動日程作成

### 五月十日 全体会議(三)

(一)報告 (一)公演名称「大阪新劇集団公演」と決定 (二)上演脚本「翻訳劇反対の意見あったが、「夜明け前」「花嫁学校」共に新協大坂公演の予定 「京都三条道」「いたち」は創作座来演などの事情で「雷雨」となる (二)予算・宣傳・日程の承諾

### 五月十日 実行委員会(十一)

### 五月十五日 実行委員会(十二)

(一)ニュース原稿審議  
(一)宣傳部 宣傳プラン一部変更 (二)新人劇場に対する意見  
五月十七日 実行委員会(十三)

### 五月十八日 実行委員会(拡大) (十四)

演出班がまだ確立されず、稽古が廻りていないので、公演を延期しなければならぬのではないかと、公演を九月下旬か十月月上旬にする。八月十日までに「大阪新劇集団」として演出班を確立して、十日から稽古を始めることを決定す。新人劇場の行動の不信を追求する、など論議された。

### 五月二十六・二十七・二十九日

三劇団公演実行委員会  
五月三十日 全体会議 (四)



東西新劇の発展!!

大阪新劇集團  
第一回公演  
10月14日 於朝日會館

新劇人 山田 龍子  
新劇人 山田 龍子  
新劇人 山田 龍子

朝日會館 7月13・14日 大阪 朝日會館  
新劇集團 第七回公演 7月13・14日 大阪 朝日會館

大塚新劇 大塚新劇 大塚新劇  
大塚新劇 大塚新劇 大塚新劇

大塚新劇 大塚新劇 大塚新劇  
大塚新劇 大塚新劇 大塚新劇

(実現を見なかった三劇団の合同公演のチラシ)

- (一)延期された場合、公演期日は九月下旬、或いは十月月上旬(会場の都合による)
  - (二)八月十日迄に「大阪新劇集團」の組織と今まで問題となっていたものを再討論し実行委員会及び各部を確立すること
  - (三)八月十日より稽古開始の出来るよう演出班を確立させること
  - (四)三劇団共同研究会をもつこと
  - (五)八月十日迄に各劇団は独自の演劇行動をとる場合は、一応実行委員会へ報告すること
- そのために「共同公演」の準備に動き支障を与えざること

(六)レポートリは再審議  
以上を審議し延期を正式に決定した。

(三)東京新協劇団の来阪第一回公演

大阪新劇団の合同公演が延期になったとき、東京の大同団結の劇団、新協劇団の関西第一回公演が、七月二十、二十一日、大阪朝日会館で開催されることになった。

七月には、大阪の新協劇場の公演、続いて東京の新協劇団の大阪第一回公演が続けさまに決定したのである。

東京から新協が来るなら、東京の大同団結の経路を、直接充分に開き、そこから大阪の合同問題を発表させる絶好の機会であるとの意見が出てきた。

自由舞台としては、昨年のプロット解散、新劇合同としての劇団自由舞台の結成の拙速主義が、昨年前期の活動の失敗となり、それを改良しようとしての大衆との接点への急速な移行により不当弾圧を受けるといふ経験を反省と外部から批判の積み重ねを、どう取扱うかの方法に悩んでいた時であったので、新協来阪こそ、好機として取組み、大同団結による単一劇団を組織する活動にふみ切るべきだ

と考へ、大阪三劇団公演を延期して、新協から学びとろうという方向を計った。

新協来阪中の数日間の、新協と自由舞台との交流は目覚ましいものだった。その時の記録が残されている。

「テアトロ」(第二巻第八号・1935年9月号)に載った一文「関西芝居日記 秋田雨雀」の内に書かれている。その日記から要約してみる。

「七月十九日(金)大阪は晴。(中略)列車は九時大阪に着いた。大阪朝日の人や大阪の新劇団の人々に迎えられて、一行は二台の自動車に分乗して、朝日、大毎、大阪時事、夕刊大阪等の各新聞社を歴訪した。(中略)十一時過ぎに「荒磯」という旅館に入った(中略)私達は疲労を感じながら、大阪新劇団の大岡、多田の諸君と座談会その他の協議をした。午後七時頃から私達はエビス橋南海食堂で開かれる座談会に列席した。(中略)定刻には既に百三十人の人が集まった。(中略)大阪側の大岡君の司会で開かれた。村山(知義)君は新協劇団の結成及び活動方針について、私は新協劇団の大阪公演の主旨について、久保(栄)育(信雄)の二君は、それぞれ「同志の人々」「花嫁学校」の演出方針について述べ、新協劇団俳優の自己紹介があった。それが終えてから大阪側から新協劇団の公演方針、新築地劇団との関係等について二三の質問が出た。(下略)

二十二日(月)晴。(中略)夜七時から朝日ビルで今度の公演に対する合評会があった。五十名の人々が談話室に集まった。大阪側の司会者で合評会が開かれ、「花嫁学校」の方では、この演劇の含まれている社会的意義とということよりも主として言語のことが問題になった。(下略)

二十三日(火)暑い。今朝大阪に残った村山、久保、滝沢(修)、三島(雅夫)、柳川(ちか子)、梅園(龍子)、仁木(独人)、の諸君と打揃って朝日新聞、後援会事務所等々を歴訪した。(中略)食事後、村山、久保、滝沢、仁木、私の五人は日本橋ブラジルで開かれる大阪側協議会に出席するために自動車に乗った。ブラジルの二階には三十人ほどの人々がテーブルを囲んで、私達の行くのを待っていた。四五人の旧知の人の顔が眼についた。豊岡佐一郎君の顔も見えた。大阪側協議会は大阪における新劇合同を目標として三つの新劇団によって持たれているもので、私たちの出席は、その目的に向けて刺戟を与え、その

運動を促進させるものであらうと期待されていた。三つの劇団というのは、一、新人劇場二、新協劇団(場の限り)三、自由舞台であつた。

この三つの劇団は東京よりもっと悪い条件のもとに仕事をつづけていた。それぞれの立場を異にしなから、劇団それぞれ自身としては独立した活動をなし得ないので、俳優を融通していたことは、東京の新劇団とはほぼ同じである。尚も悪いことは、大阪に於ける新劇団は社会的には全く孤立していた。一言にしてい

えば社会的に信用を失っていた。私は大阪の劇団の代表者達の談話を聴いている内に、去年の夏の東京に於ける新劇合同準備委員会の連続的な会合を連想した。然し大阪新劇団は、その據るべき劇場を持っていないこと、及び社会的地盤を持っていないこととは致命的な欠点であった。それでも、或はそれだからこそ一層合同の必要があると私には感じられた。私達は、この大阪側協議会に与

るべきものは、私達の経験の全部を披露することであった。勿論、私達は指導的な立場に立つものでもなければ、また私達の経験によって、これを強制したりすることの出来るものでもない。私達は出来るだけ大阪側の事情を

聞き取った後、私達の合同に到達した経験を語った。村山君は新協劇団成立の経路について、私は東京に於ける経験及び大阪側に対する希望を、久保君は新劇合同運動に於ける創作方法及び技術の問題について、滝沢君は俳優としての新劇合同当時の教育的活動について、最後に仁木君は、合同後の新協劇団の活動について話した。この会合は、私達の経験からいへば、近年にない愉快な会合であった。二つの都市の進歩的な演劇関係者が、今夜はど大勢、然も打ち解けて意見を交換したことはかつてなかった。私達は十一時過ぎまで懇談をつづけてこの会合を去った。

二十四日(水)暑い(中略)夜十一時、私達は大阪側の人々に送られて名古屋屋に向って出発した。一行は村山、久保、滝沢、千田、三島に自分を加えて六人である。滝沢君は少し発熱して座席に寝ていた。(以下略)

△七五頁一八一頁▽

私は、今更めて、この一九三五年七月一九日二四日の新協劇団の人々と大阪の新劇人との会合の持てたことの決定的意義を考える。若しこの会合が持てなかつたら、或は大阪の新劇団の単一合同という事態が起らなかつ

たかも知れないと思う。

二年間に渡る合同論議・合同公演は、実際に多くの困難と試行錯誤を實踐してきた。

新協劇団の体験談の持つ強力な発言を、直接まともに話し合う機会を数回も持ったことから受ける感銘は効果的であったと思う。

これから先の記録はないが、七月十三、四日の新協劇場の公演を終り、その一週間後に新協劇団大阪第一回公演を目前に見て、次々に語りあえた雰囲気は、参加者に強い感動であつただろう。

十月予定の大阪演劇集団という三劇団の合同公演の構想は一挙に、飛躍的に、参加者の懸念として、全大阪の新劇人結集の方向へと決定的に、今や猶予なしに、行動へと移行させて行つた。

三劇団は、直ちに、それぞれの劇団の解散の同意をして、共同解散名書を出すことになつた。その他の新劇団、或はかつて新劇運動の関与者、演劇関係の学者、研究者を総て網羅するためのキャンペーンが開始され、全大阪の新劇人の参加する単一新劇団の構想に取りかかる作業に入つていった。大阪のジャーナリズムも、この動きを無視することは出来ないと動き出して来た。

劇団協議会の活動は、七月末から一カ月後の九月一日を目指して、新しい劇団の体制を急速に決定するために、かつてないフルスピードで活動しなければならぬ情勢が作られていった。

八月十日から、大阪新劇集団は公演準備に入ることになつていたが、一挙に九月一日に大阪新劇史上最初の大合同結という大きな熱っぽい動きに発展することになった。

(つづく)



△劇団通信・つづき▽

京浜協同劇団

朝鮮民話による楽しい歌芝居「さんねん峠」を新しく仕込み、上演活動を続けています。李錦玉作、木村快台本に岡田京子さんがすばらしい曲をつけた作品です。音楽監督安達元彦氏。

第十五回かわさき演劇まつり(3月22、23日)にこの「さんねん峠」をもって、川崎演劇塾の「さるかに合戦」、劇団辻シアターの「スッチャカ一座の物語」と共に出演しました。

昨年12月、今年1月に川崎と横浜で上演した「ある馬の物語」を東京と川崎北部で再演します。5月27(火)、28(水) 毎夕7時、東京都勤労福祉会館。6月6(金) 7時、7(土)、2時、川崎市宮前文化センター。劇団員の息子たち、水野拓児(21) 坂原徹(20)、城谷創一(18)の三君が馬群やバンド演奏などで出演します。

困難や危機はいつもつきまといっています。が、いきいきした集団を守っています。

(21) 川崎市幸区古市場二一〇九  
〇四四一五一―四九五二)

## 紀伊国屋演劇賞を受賞して

岡安伸治

受賞の知らせを聞いたのが八五年二月末。この賞がある事は知っていたが、自分とは別の世界のものと思ひ込んでいたので、全くの裏耳に水、しばらくボカインとしていた。そして口からでたセリフは、なぜか「まいったな……」であつた。

一九八五年で第二〇回を迎えた、この民間の演劇賞はこの二〇年間で団体賞一八、個人賞一〇三、特別賞八があります。

審査員(敬称は略させていただきます)  
次木源、尾崎宏次、戸板康二、小田島雄志、大笹吉雄、松原治。

これまでの作・演出における受賞者、秋浜悟史(六六年)、佐藤信(六九年)、鈴木忠(七五年)、七八五年は私と野田秀樹です。私の受賞理由は、劇団世に下乃一座公演「大平洋ペルトライン」などの作・演出に対して。

世界の文化場末の東京で、夢の遊眠社、第三エロチカ、第三舞台、青い鳥等が万単位の観客を集めているのに、世に下はシッココヤッ

てやっとな人、私が「えっ？」と思うのも無理からぬ事と思います。この意外さは、オウムと月の話を思い起させる程でした。

月と地球。多くの天文学者が長い間、地球と月は互いにブレーキとして作用し合い、地球の自転と月の公転の両方を遅くするのだと考えていました。が、ブレーキ作用の強さを直接、計算するのは不可能です。それ故多くの天文学者は必死に月をのぞき、宇宙をみつめ、それを証明しようとしたのです。くる日もくる日も望遠鏡をのぞき続け、人工衛星から送ってくる電波を分析したり、解析したり、他の学者に先を越されまいと資料を隠し、ニコニコ笑顔で握手しながら、他の学者がどんなことをどこまでつかんでいるか、腹のさぐり合いがありました。この事は「遺伝子の二重らせん構造」を発見し、ノーベル賞を受賞したワトソンとクリックの二人の若い科学者の有名なエピソードからも推測できます。

この二人は、ある有名な老教授とその助手の二人の仲が悪い為、研究の成果があと一歩というところで先に進めないでいるその間隙をぬって、情報を集め「二重らせん構造」を世に発表したのでした。

月と地球の問題は、月に聞くのが一番とばかり、月をみつめていても不思議はなかったのです。

そして、ここにオウム目があります。オウム目は、昔は世界中に広く生息していましたが、現在では「生きている化石」といわれ、インド洋、南西太平洋で六種以下、水深五〇〇メートルまでのサンゴ礁に生息しています。オウム目は、成長線とよばれる細い筋をなすように殻を分泌しながら成長します。この美しい成長リズムによってつくられた殻は、対数渦巻を描きながら、しかも周期的に隔壁を閉じて成長していきます。オウム目のこの性質の周期を調べてみると、隔壁と隔壁の間の成長線(木の年輪みたいなもの)は、その割合が一ヶ月に三〇本、そしてその誤差は、せいせい一―二本の誤差であることが分かった。ここでプリンスストン大学の古生物学者ピーター・カーンとコロラド州立大学の物理学者ステファン・ボンビアの二人は、今日、月の

一ヶ月は二九・五三日ですから、ここからオウム目は一日に一本の割合で成長線をつくり、月の一ヶ月に一つの隔壁をつくるのだと推測しました。そこで化石を調べてみます。

古代のオウム目の化石ほど隔壁の間の成長線が少ないことが分かり、最古のオウム目類は、なんと成長線が九本しかもっていないことが判明しました。その化石は四億二千万年前のものだったから、そこで二人は四億二千万年前は、月は九日に一回の割合で地球のまわりを回っていて、一日はわずか二一時間であり、地球から月への距離は現在の半分以下で、とても大きくひかり輝いていたと提唱し、地球と月のブレーキ作用を数字の上で表したのである。こんな話は私にとって全く意外でした。

私自身のなかで、そんなこんな事がありながらも、受賞について多くの方々からはげましやら、温かい応援の言葉をいただき、ありがたいことだと思いました。「これからが大変だね」「いつまでもこのままじゃないよ」その言葉を聞くと世に上乃一座のこれまを振り返ります。世に下の歴史は土下座の歴史です。事務所もなければケイコ場もな

い。人数も今では一人ですが、三人にまでなったこともあり、人がいない、当然金もない。ないないづくしの私達にできる事はただ一つ、頭を下げたお願いすることだけ。「ギッラが払えませんが、なんとか私共の舞台へ出ただけではないでしょうか」「スライド映写機を借して下さい」「ケイコ場の靴を借して下さい」「車がないでいいでしょうか」「お願いします、お願いします」このくり返

他の書き手から「岡安は米つきバツタみたい頭を下げて、プライドというものが無いのか」と揶揄された事もあります。でもそれではないと世に下は芝居をやったことなかった事だ。世に下にとって大変じゃなかった事は一度もなかった事だ。二〇〇も観客が集められなくて何が運動だ、劇団だといわれてきたんです。一人になろうが三人になろうが、やってきたのが我々です。生あるものに死があります。このままでいけると思ったり、楽になるだろうなどと考えておりません。まわり舞台の仕掛花火、ぱつと咲く間の綱渡り、落ちてしまえばそれっきり。

# ソビエト演劇鑑賞の旅から

佐野 秀明

(劇団名義)

この冬、ソビエトのモスクワとレニングラーに演劇鑑賞の旅に出かける機会をえた。ロシア演劇に精通してみえる神奈川大学の中本信幸教授を講師に「演劇と教育」の編集長の副島氏や、プロ劇団の女優五名を含む、十五名ほどで成田空港からアエロフロート機(ソ連航空)で約十時間、シベリア上空、高度一万メートルを西へ飛ぶ、時差が六時間あるため成田を午後一時にたったが、モスクワには午後五時到着で、日没をみることなく、左に太陽、右に月をみての飛行であった。モスクワのシレメチエボ空港で税関を通加しモスクワ市内へ、翌日から市内の観光と観劇の生活がはじまった。旅行中に芝居を十本、オペラ一本、バレエ一本を観た。それらの作品を列記すると次のようになる。

【作品】

青い鳥 (モスクワ芸術座)

- 。かもめ (モスクワ芸術座)
- 。漁夫と魚 (中央子供劇場)
- 。死んだ王子と七人の騎士 (中央子供劇場)
- 。桜の園 (タガンカ劇場)
- 。夜明けは静かだ (タガンカ劇場)
- 。どん底 (タガンカ劇場)
- 。継母と…… (ポリシヨイ・ドラマ劇場)
- 。空騒ぎ (プーシキン劇場)
- 。羊と狼 (ポリシヨイ・ドラマ劇場)
- 。タレールキンの死 (ポリシヨイ・ドラマ劇場)
- 。イーゴリ公 (クレムリン大会宮殿劇場)
- 。ライモンダ (ポリシヨイ劇場)

それぞれの作品について多くを感じたが、その中で二、三記してみたい。「青い鳥」や

劇団四記念 八劇団通信・つづき  
全り演の昔懐、フェスティバルでお目にかかれなくて残念。四記念の現況の報告。三月九日、一九八五年度総会。昨年からの班体制、活動の在り方がようやく団内でも理解され、夫々が活動開始。総括と方針はぶ厚い、中身の濃いものになった。定数ギリギリの出席で、一時は総会成立も危ぶまれたが無事成立。今後の課題として、稽古の集り、在り方、結核の悪さなど。年齢、仕事、劇団に対する意識や状況がかつてない程達している今、粘りつよく、個人、劇団にとっての創造を満足させる方を捜していく事が大切。(紫敷布) 公債予定一家族劇場「大工と鬼」「仙女の錦」

- 1/25・26 泉民小劇場 2/9 明石
- 3/2 尼崎ピッコロシアター
- 元町小劇場「真夜中のパーティー」
- 4/23・29 四記念稽古場
- 市民劇場「きらめく星座」井上ひさし・作 9/初 文化小ホール
- 演劇教室十八期生「海鳴」6/7-8
- (650) 神戸市中央区元町通二一九一六二三
- 〇七八一三九二二四二二

中央子供劇場でのプーシキンの作品など児童劇をみる機会をえたが、どの劇場でも子供達の観劇マナーの良さに感心した。子供のための劇場も多く三〇カベイカー・ルーブル芝居がみられることもあり、子供達の芝居を観る機会も多いということも要因になっていると思うが、日本の子供達の観劇態度とはかなり差があった。舞台の方は、オーケストラボックスがあり演奏でやられている。コロスを使ったり、ひもを使って装置や景色を表現するなど、日本でもソビエトから多くを学んでいることがよくわかる作品であった。タガンカ劇場の舞台は、モスクワ芸術座に對する以上に現代的な演出をされたものが多くコメディタッチの「桜の園」や「プーシキン」が高踏のアーバートのすべての怒があき、そこから全キャストが顔を出し歌をうたいだした「どん底」など、想像していたものとはかなり違った舞台をみる事ができた。また「夜明けは静かだ」はさすが本場という感を強くさせるものであった。また「羊と狼」の中でやられた幕間劇というのも興味をそそらせるものであった。

な美しい色彩をもつたものになっていた。

#### (劇場)

モスクワ、レニングラードともに多くの劇場を有し、劇場イコール劇団となっているところが多い。

帝政時代からのなごりのある劇場は、中もさらびやかで宮殿のような感じである。客席数は特別なクレムリン大会宮殿のように六千人もはいるところもあるが、多くは千人ぐらいのもので音響の設備も良い。客席はバルコニーのある六階建の造りになっている。

天井のシャンデリアなど劇場の内装をみるだけでも満足できるものが多い。ステージ前には、オーケストラボックスがつき効果音は生演奏でおこなわれている。

ポリシヨイ・ドラマ劇場は、裏側をみることでできた。レパートリーシステムのため同じ劇場で昼の部(マチネ)と夜の部の上演作品がことなるため、昼の部の装置を片付けて、夜の部の装置を仕込む必要があるわけであり、翌日には、まったくことなる作品を上演している。おそらく広い袖があり装置をそのまま移動できるようにしているのではと思っていたが、そうではなく、一回ずつ装置をバラ

して片付け、次のものを仕込むようになっていた。昼の部から夜の部までに三時間ぐらいしかないのだからたいへんである。劇場イコール劇団であるため、裏には、小道具部屋、衣裳部屋、効果音をつくる部屋等が完備されている。楽屋も広く、個室を持っている俳優も多い。劇場内にさまざまなものが完備され、日本の劇場にこれだけのものがいくつあるだろうかと思うと、名芸のように劇団で、劇場を持っているものでもうらやましく思える。病院が劇場内にあるなどというのはまさに驚きである。

#### (観劇方法)

入場料は一〜二ルーブルぐらいである。労働者の月収が一八〇ルーブルぐらいだから、教育、医療などが無料とはいえず特に安いとも思えないが観劇人口はきわめて多い。どの劇場も満席で、入場券を手に入れるのも大変というところである。入場券は、今にもやがれそうな薄い紙で、十カペイカぐらいで買えるパンフレットとともにちゃんなものである。

劇場へはいるとまずコートと帽子を預け、鏡の前で身をととのえる。ブーツをハイヒールにはきかえたり、髪をなおしたりという交気がなくなるまで継続上演する。パプロフ氏の演じている「小市民」など二十年間も同じ役を続けているとか、また二十五本ぐらいはいつでも上演できるように台詞をおぼえているということであった。台詞をおぼえなくなったら俳優のための福祉施設「老人の家」へ行けば良いといって笑いをさそっていた。俳優の社会的地位も高く月収も一五〇〜一六〇ルーブルぐらいある。日本の新劇人の厳しい生活の状態を思えばかなり恵まれているといえる。ただ劇作家のアロー氏によれば、作家はきまった月収はなく作品がとりあげられるとその印税で暮らしているということであった。

#### (俳優の養成)

俳優の養成のための大学や学校が多くある。その中でもモスクワ芸術座附属演劇大学は一九四三年にダンチェンコによって創立され今でも教授陣の中にスタニスラフスキーやダンチェンコとともに仕事をした人が四人いるというところで充実した教授内容をもっている。演技、演出(演出家の養成ではなく、スタッフ部門の養成)の二学部があり、学生は少数しか採用しない。演技部門で年二十人採用

がどこでもみうけられた。劇場内には案内のおばあさんが多くいる。ソビエトでは、博物館でも美術館でも、案内や係の人はすべて、おばあさんばかりであり、かなりの権限を持っていて厳しいが外国人に対してものすごく親切である。幕間は二十分ぐらいあり、その時には客席は、ほとんど誰もいなくなる。劇場内には、軽食堂があり、行列をして飲み物や菓子などを買い、それを食べながら劇のことを話したりする社交の場ができていた。昼の部が十二時ぐらいからで、夜の部が七時ぐらいであるので、幕間の軽食が必要なのかも知れない。



#### (写真説明)

左から アーロン氏 谷田川さん パプロフ氏 中本教授 北村さん 佐野秀明

#### (演劇人)

ソビエトで多くの演劇人に会い交流することができた。モスクワ芸術座附属演劇大学学長のクリビッキ氏、中央子供劇場の演出家ボロジン氏、ポリシヨイ・ドラマ劇場の主任演出家トフストノフ氏、「小市民」や「検察官」「ある馬の物語」の公演で日本へも来ている人間国宝的な俳優であるパプロフ氏、劇作家のアロー氏など、これらの方々と接する中で知ったことや感じたことは多く、かつ今回の旅の中でも貴重な体験であった。

トフストノフ氏からは、演出家としての演出の方法やスタニスラフスキーシステムの重要性を、パプロフ氏からは俳優の生活をきくことができた。稽古時間は一日四時間ぐらいで、午前中は役づくりや台詞をいれる時間として使い、昼から稽古、夜は舞台という生活をおくってみえる、台本をみせてもらった。自分の台詞しか書いてないものであった。レパートリーシステムなので、毎日二回違う作品をやり、何作かを繰り返し上演し、人

ということ、入試倍率は一六〇倍にもなるとか、特に女優は二五〇倍にもなるということであった。演出部門も二十人しか採用しないということ、どちらか厳しい状況である。養成期間は演技が四年間、演出が五年間、新設された舞台美術は六年間である。授業内容は難しく途中でやめる人も多いし、卒業できてもモスクワ芸術座の舞台に立てるとは限らないということであった。

ただ全国に約六二〇の劇場があり、その水準はまちまちなので基礎さえできていれば、他の劇場へ行けば良いということであった。社会をみるしっかりした力をもたせ、世界に通用する俳優を養成したいという思いを強く感じることができた。

中央子供劇場にも児童劇専門の養成所があり、四年制で大学の資格も有することや、学生は勉強しながら舞台にも時々立ち、奨学金の他に収入を得ることができるということであった。

#### (全ロシア演劇人協会・日T.O.)

入口、吹抜けの階段の壁にはスタニスラフスキーの肖像がある。パプロフ氏らに食事を招待されれを見学することができた。ソビエ

ト演劇に關してのものが多く揭示されていたり、実験劇を上演することのできるステージもあり、主に職業病を治療するために入院できるといふようになっていたり、演劇人のためにいたれりつくせりといった設備がととのっていた。これは、ソビエトの演劇人がお金を出しあつて経営を成立させていることや、メーカー用品をつくる工場を経営しているの、その収入で維持されていることを知らされた。

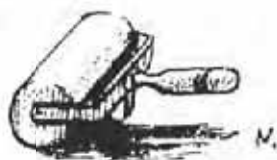
(その他)

ソビエトにも多くのアマ劇団があり、職場、大学、その他いろいろな場であり活発に活動がおこなわれている。アマ劇団の劇をみる機会には残念ながら恵まれなかつたが、プロからアマ劇団の演出家になつてゐる人もいたり、アマ劇団でも実力を認められれば国から援助をうけることができプロ劇団になつて行くということである。

また、この国では、女性で中心的な立場で活動をしてゐる人を多くみうけることができた。ホリジョイ・ドラマ劇場の文芸部長も、舞台監督も女性であつた。男女が同じように力を發揮できる社会のすばらしさを強く感じることができた。

ることができた。

短期間であり、ロシア語が十分わかるわけでもないで、完全に理解できたとも思えないし誤解していることがあるかも知れないが少なくともソビエトは演劇人にとって理想とする国であることはまちがいないし、一度は行って舞台を観る必要があることを痛感した旅であつた。



△劇団通信・つづき▽

黒石演劇研究会

大分ご無沙汰しましたが、今日は二つの嬉しい報告をいたします。

一つは、一月十二日に念願の創作劇「流浪の譜」(作・石浜清三郎、演出・杉山隆一)を上演したことです。団員不足や脚本の手直しなどで時間がかかり、一時は上演も危ぶまれましたが、弘演や劇団OBの協力で何とか幕をあけることができました。地元の題材であつたこと、黒石で三味線を習っている方たちの協力もあつてラストを盛り上げていただきました。

二つ目は、三月三日、印年度県芸術文化報賞を受賞したことです。県内では、過去、弘演、支木の仲間も受賞しており、「ケッパネばマイネ！」と誓ひ合いました。

しかし慢性的な会員不足(特に女性)や稽古集中の悪さ(主に仕事のため)など、前途は多難ですが、四〇年の間、灯を守り続けた誇りにかけて頑ばります。(杉山) 036-03 黒石市乙徳兵丁町51 加賀谷方 〇一七二五-二一四〇九七

## 劇評

### 観て歩き

### 「ばやし・ひろし」

黒さんが東演の議長になつたのが一九六三年、なくなつたのが八三年、四五才から六五才まで議長を務めたことになる。マルコスじゃないが大統領でなく、全演の議長じゃ腐敗しようがないかも知れない。しかし、それにしても晩年ますます優しく思いやりがあり、どんな人にも笑顔をやさず、苦しい時、嫌な時でさえ、人を傷つけるような表情は一切からなかつた黒さんはそれは美しくさえあつたといつていい。

だから、どこへオオルグにいつても、どの劇団の舞台を見て廻つても、それは全演の議長の暖かさや重みで、組織者として十二分の役割を果せたのである。それが私たちの方へ廻つて来た、組織者としての議長、それが私の何よりの重荷だつた。他の議長まで含めては申し訳ないが、

私はまず、劇団の代表で責任者で、現に活動の中心にいるので、時間がとれないのだ。

だから東さんのように見て廻るだけでなく、泊りこんで夜おそくまで劇団の悩み、喜び、苦勞を語りあう余裕がないのである。それだけでなく帰つてお礼の手紙の共に、訪ねた劇団に暖かい痕跡を残して行く。何といつても黒さんはを議長のいわねばならない。そうした重荷を感じながらも、私も私たちの劇団の三十周年記念公演もどこおりにくすんだので、何とか黒さんの真似をしなくてはと足をふみだしてみただけだ。

「ナナちゃんは宇宙人」

私はまず、十一月十五日に劇団未来の大橋喜一作「ナナちゃんは宇宙人」を見せてもらった。会場の近鉄劇場はまだオープンしたばかりである。小劇場は地下にあつて大劇場の下にあるのだが、設計ミスなのか、大劇場でロククでもやろうものなら、小劇場でも鑑賞でき

るといふから驚きである。劇場というのは計算しつくしてもどっかでミスがあるから怖い。

ギリギリに飛びこんだ私を「遠くからすみません」と寺下さんが笑顔で迎えてくれた。

「まだ、大丈夫」

「もうすぐですから、どうぞ」案内されたら、なんと大橋喜一さんの隣。

役者はみんな好演だと思つた。何より大切なことはわかりやすい演技だつたことである。作者であろう三吉(波田久夫)の核に対する脅怖、そして劇作家として何もできない無力感、無力感にさせる目に見えない巨大な力、その間には痛いほどわかつた。それが娘ナナちゃんの親への愛情から、超能力を身につけることになるのだが、体も軽いし、キビキビして超能力保持者としてはもつて来いの俳優である。このナナちゃんでも重なるドラマを明るくしていたといつていい。

第一部と第二部に分れていて、萩坂さんにいわせると(ということは二〇〇枚をこえる原作はこの演劇会議六二号に掲載されて目にするのであつた)であつて、まだ誰も読んでいないのである。第一部こそ大橋さんがかきたかつたことだが、さきの上演した銅鑼

はむろんのこと、未来でもそこが大中にカットされんというのだ。となると、なぜ両劇団共、それをカットしたかということになる。

しかし、作者の切ないまでの反核への執念については、今までの作家姿勢からいって十分伝ったように私には思えた。

それより第二部である。黒柳徹子の玉ネギお姉さん、長島選手のみスターナナシマ、松下幸之助の松北政経委員長、中曾根さんの長留根首相と、ナナちゃんが反核を説いて廻るのだが、私はこれは何人に説いて廻ろうが、ナナちゃんの訴えは反核で変わらないわけだから、それへの応待だけに興味が集ることになる。ところが、その応待も玉ネギお姉さんを除けばみんな保守的だから似たりよったりになるざるをえない。ナナちゃんの訴えも応待も同じ論理のくり返しで、どうもドラマとして煮えて来ない、昇華しきれないのだ。

あとは役者が本物に似てるなあという妙な、芝居を離れたソックリさんの興味だけが残るのである。

これが、この芝居の最大の欠陥になっていないだろうか。萩坂さんは、むしろレーゼドラマとしてみる場合、とくに一部で大橋さんが大きく浮び上ってるといわれるから、

それを私は楽しみにしている。反核でこの重い現実を切込むということは何だろうか、改めて考えさせられた。

### 「ふかい疵」

春と秋の演劇シーズンの日曜日というところ、坊さんは殆んどつぶれる。とくに師走となる、坊さんが走るから生れたというだけあって、とくに忙しい。その間をぬっての観劇という事実辛い。

十一月三十日、上野市民劇場の「ふかい疵」を観に行ったが、中津川の夜明けの「ふかい疵」と両方観ようと思ったのに行けなかったのも一つは坊さん、一つはうちの公演と重なったからである。

翌日の十二月一日(日)には岡崎演集が、アメリカ映画で有名な、アーネスト・トンプソン作の「黄昏」を上演するので何とかと思いたが諦めた。むろん、坊さんの仕事である。法事と日曜と公演の因果関係は、当分絶対切れそうにない。

上野市民劇場へは劇団の通称ワキ事、山口和紀の運転で走った。隣の県と思ったが、わりにあるもので、日はとっぷり暮れて、開演

に間にあうか、焦りに焦ってとびこんだ。上野映画ホールというはじめての会場である。

話によれば、ビルの三階にある映画館であったのが、今は使われず、いつもは空屋だという、田舎都市という失礼になるかも知れないが、上野市の繁華面にある。何かに使いたいというオーナーの意向から、ぜひ小劇場として利用してはという上野市民劇場の申出により、こんどの公演になったのである。

これがきっかけで小劇場に改装され、小さなコンサートや音楽、舞踏の発表の場となれば地域文化のために大きな力となると思う。

ところが、まだ映画館のままだから、スクリーンから、舞台のハナまで三尺しかないのである。

だから遠見の山はホリゾン特であるスクリーンにびびったりくっつけて飾られ、それに一尺おいて袖から山の切出しが出て、役者がその間から出入り、役者が演技する場合は興行がなんと二尺五寸と、巾一間半ぐらいだから驚く。これでフアッシーンから、朗読からすべてやるのだから、どだい無理である。

照明もホリゾントをさげなければならぬから、前明りなく、裏行が出ないし、それに汚い。

また、せっかくのフルートの生演奏(中岡信子)も演者に照明をあててはいけないので、フルートの間奏の間に役者は板付がもれ明りできない。間奏音の前後を暗転にし、役者の登退場が行われるので、音もない暗転の実に多い芝居になり、その度に絶ち切られるのである。

こうした悪条件の中で見たのは本なのか、演技なのかというところ、どうも前者のような気がしてならない。何といっても、都会の兵士(山本一二)と山の娘ヤス(谷口加代子)に芽生える切ないまでに美しい激しい戦時中の愛。それがにじみ出なければならぬ本なのである。ところが、二人の演技から、それが浮び上らないのだ。

芝居がはねて、稽古場へ引揚げた。稽古場はビルの三階だったと思うが、歩いて会場から五分。繁華街から歩いて五分なんて上野市でなければ考えられないことである。むろん、赤いネオン青いネオンが目を眩らす。坐るや、差入れのケーキと紅茶が出た。

「こぼやしさんが来たのに紅茶なんて」と代表の杉森さんがいえば、

「まあ、あわてんと、わかってるがな」「そんならええけど」

いつもの人なつこい杉森さんの笑顔である。しばらくしたら、ビールもお酒も、その上お寿司も出て来た。アルコールに手をつけるのが運転の山口ワキに申訳ない気がした。

「ワキええか」「えってえって、わしもビール少し飲もうかな」「おいおい」「ビールならえって、一杯ぐらい」

あわてたのは私である。少し芝居について感想をのべさせてもらったが、あとは旧交に旧交を暖めて盃を交した。それでも芝居が早く終わったから、家に帰ったら、十二時少し前だった。

### 「風の塵」

その翌日十二月一日は坊さんの仕事で岡崎演集を見送り、翌々日の二日浜松へ行った。

作者の深沢大助君から何度も台本を改稿し、意見を求められたが、余りにお役に立てなかつたのを苦にしつつ、浜松駅から二・三百米のまだ真新しい福祉文化会館へ向った。ところが、道路も新しいのか工事中で廻りかえしてあり、あつという間に足をくじいてしまった

のである。

捻挫したらしいが、捻挫というのは実に辛い。あと二〇〇メートルぐらい足をひき取りひき取り会場へついた。

静雲の織田三郎こと三ちゃんが出た。「やあやあ」といって並んで席についたら、作者深沢大助こと大ちゃんが、

「遅いところすみません、山崎欣太さんも来ておられますよ、あそこに」

「あれあれ」と私たちは欣太さんの隣へと席を要えた。ピッコをひいている私を見て、山崎欣太さん

「どうしたの」

「いや、恥しいが、足をくじいて」

「ちょっと見せてよ」というなり、足の患部を専門家の手つきでもみはじめた。欣太さんはその筋の達人だそうである。「もうやめて、申訳ないで」と拒わりつつづけるのに、欣太さん、幕が開いてももみつつづけた。

「いたい、いたくない? いたかったらいいね」と三十分から四十分もみつつづけたらどうか、大体の要領がわかったので、私は自分でもみはじめた。知らぬ中に楽になって、いや、欣太さん、様々である。

芝居はあの有名な日本楽器の争議のはじま

る一九二六年から、二年後の一九二八年（昭和三年）までの当時の激動を生きた青春群像である。

舞台は構成舞台で、浜松労働連合事務所にもなるし、争議閉事務所、暴力閉事務所にも、遊廊にもなるようになって、展開は早い。

演技も実に快調で、群衆劇で歯切れのいい役者がいる。とくに女優がいまききしていた。

しかし、描かれる青春群像の核となるのは激動を生きた青年たちの愛である。ここではマント（池内葉）と瀬崎糸子（安芸あゆみ）、矢田部仁吉（最上三平）と谷口りん（私の親）は佐々木あきこ、初日は上村麻美）である。もう一組桐山鉄兵（戸田平助）と前原染子（石原由美）は余り前面に出て来ない。

ところが前の二組は、このドラマ構成では核になっている。それが悲しにも怒りにも昇華しきれない。だから一九二〇年代が浮び上らないのである。

これは演技もあるが、作品の責任もあると思う。日本楽器の争議を描くのが目的でないとするれば、激動の愛に重点がなければならぬ。斗争が長びけば、女の支えで男の弱さも人間の悲しみも出てくる。それを大切にしなければならぬ。私はその中で染子をやった石

原由美さんは舞台を始めていたと思う。芝居がはねて、新幹線の時間もあり、ゆくり話もできなかったが、黒さんだったら、腰をすえて夜の一時二時まで打上げに参加しこんだにちがいないと思いつながら、びっこをひきひき岐阜へと向った。

「別れが辻」

東京の劇団から案内をもらうが、観たいなあと思っても新幹線往復二万円となると、なかなか腰が上らないものである。ということは赤子国鉄さんの値上りは、直接日本文化の停滞に連っているということになるわけである。

それが世に下の「別れが辻」だけは何とか無理してもと腰が上ったから不思議だ。

せっかく東京へ来たからというので秩坂さんと川崎駅で落合、演劇フェスティバルについてつめた。いや、これも目的の一つだったのである。関東プロダクションが決らないからだ。

その経過についてはいろいろ聞いたが、あと期日も少なく、何となくフェスティバルへの不安が残った。

坂坂さんと別れ、五時半に会場のタイニイ・アリスについたが七時だから、まだ開場もし

ていなかった。名前は聞いていたが、新宿の寄席の末広亭の近く、全く何の特色もない裏町のビルの一階である。

しばらくしたら土の会の矢野さんが現れ、もう並んでいたが、招待者だけ先に入れて頂き、矢野さんと並んで特等席に座らせてもらった。といっても平土間の舞台の正面の二十センチぐらいの階段である。そこから舞台まで

は一間半あり、階段になってから一間半か二間である。平土間舞台は、奥行二間、巾三間、天井は三メートル弱の変哲もない汚いビルの一室である。まさに「別れが辻」にびつたりといっている。

「これが全部つまりですよ、ぎっしり。平土間だから見る方も大へんですよ」

「それで何人ぐらい」

「二五〇人ぐらいかな」

「二五〇人、ここへ」

いやはや驚いた。私のすぐ後に松本克平さんの顔も見えた。し思ったら、入ってくる人々てくる。どんどん入ってくる。あつという間にぎっしりつまった。息切れするほど。

それがどんな若い、隅々まで若い。白髪の私なんぞ、何か不思議な人がと振りかえらるる感じである。

こうして「別れが辻」が始った。この芝居はまず発想の面白さにある。いや、岡安伸治という作家の発想は、豊かな今日の社会の弱点、盲点をつく所にあるが、豊かさの象徴である高層ビルの地下に、こういう浄化槽があるなんて私も全く気づかなかった。

こう考えると、まさに宮城から、大理石でピカピカの霞ヶ関ビルに至るまで同じということになる。そこに人間がうごめいている。これをつくだけで痛快である。私も思わず「畜生！」と思った。

そのビルの下の浄化槽から汲み取るパーキウムカーに墮胎児の死骸がつまったことかから芝居がはじまる。そこに楠、立花、春、安井の四人の日本資本主義のはみ出しがうごめいているのである。

それが、戦後パンパンをしていた春、朝鮮、ベトナム戦争にLSTの船員として参加した楠、これがおまけに細菌部隊石井部隊の残党と来ているからくどい。それに三井三池炭鉱事故による一酸化中毒患者だった安井、水俣病患者の立花とそろいすぎて、少くとも読んだ時はくどいなあと思った。

それがどうしてどうして、舞台では後半の身の上ばなしからが面白いのである。こうな

ると芝居なんてストーリーじゃない。今はやりのパフォーマンズなのである。見事に歌い踊り狂い、戦後の日本株式会社をあどさを一気に表現してくれる。

ビルの浄化槽の発想の面白さと思ったものが、なんと戦後のはみ出しの悲しさを、悲しくもなく、アツケラカンと汗と熱をふりしぼって示してくれるのである。これには私は脱帽した。

私は「クソ！」と思いつながら「こういう舞台は俺にはかけないなあ」という淋しさもあつた。看板俳優の里村君が私の所へ来た。

「どうですか」

「いや参ったよ。しかし大へんだね、踊ってどなって汗がたらたら流れてたよ、十二月だというのに」

「いや、もう四十すぎると辛いですわ」

世に下の創造を岡安伸治と共に創って来た里村孝雄は、もう四十すぎているという。私は自分の年を考え、次の次の世代のリアリズム演劇の変貌を考えた。

創造はつねに変革する。それを忘れてはいけないと改めて思った。

#### ◇「北海道演劇祭」補遺

第12回北海道演劇祭の大要は表紙二面に掲載してあるが、もう少し委しくふれておくと、日程第一日の7月5日は6時から開会式、つづいて2時間ほどの、劇団さっぽろの「シロロカベツ川一夕張」の上演、さいごに60分位の講演である。これに指名されたぼくは頭が痛い。

第二日は四本の上演がつづき、終って合評会をしめくくられていた。

その上演劇団に、全り演の読者には或は初対面かとも思われるのが見えるので一寸紹介しておく。

深川西高校の「一つの生命」は、作者関原暉氏で、昨年度高文連最優秀作品の由。劇団ひのきの「どん太」は宮崎衛氏作で「沼田耀一の語り」よりの新作。この作者は、いまだに記憶にのこる。前回札幌フェスティバルのときの「ある日R日誌」を書かれた先生だそうである。地元美唄の劇団。

何とかこの演劇祭を成功させて、88年の道演集と全り演の第二回フェスティバルをかちとりたものだ、と以上は飯田信之さんからのおたより。

(萩)

# 大阪新劇フェスティバル・寸感

阿部好一

85年の大阪新劇フェスティバル参加公演のうち全り演劇団の公演批評を、という注文である。

引き受けるとき、ためらいがあった。第一は、公演からもうかなり時間が経って記憶が薄れていること。こまかいところを思い出すのに苦労するだろうし、それでも正確は期し

難い。もう一つは、私の個人的事情だが、珍しく昨秋はカゼをひいて寝こんでしまい、新劇フェスティバルのうちの何本かを欠席して

しまった。まあ、あなたの見られなかった公演はまた別の人にお願ひするから、と編集委員に言われて結局引き受けてしまった。それにしても十五枚とは長いな、ばやけた記憶をかきたて、かきたて書きつづつても、とても

そんなには……。まあ、ともかく始めよう。

開場したばかりの大阪上本町六丁目・近鉄小劇場で劇団潮流が井上ひさし「イーハトー

ボの劇列車」(演出・大岡敦治)を上演した。(10月12・13日)近年の創作劇では傑作と評価の高い作品だし、劇団潮流の企画のすばらしさに「やられた」と感じた劇団もあったはずだ。現に私に「うちもねらっていたのに先を越された」と言った人もいる。

然し、一方、地人会が木村光一演出で上演してからそれは何年経たわけてではない。佐藤慶や中村たつの名演技はいまも目にあざやかだ。それだけに、いまこの作品をとりあげるなら地人会の舞台とは違った別の自己主張が必要であろう。それは何も作品の解釈

(演出)といった大げさなことでなくていい。ただ一つの役にでも、自分はこういうふう

に演じるのだという強い自己主張、その自己主張がまだ弱い。言葉を変えようと、

潮流の公演は地人会の舞台への批判から出発しなければなるまい、ということだ。その批判が明確でないと、地人会のような名舞台が

のすべてが込められている感があるのだが、この場面の出演者の力量のせいもあって余演とした印象が残る。賢治の童話の登場人物が出てきて作品に豊かなふくらみが生まれるのだが、潮流の舞台では混沌、雑然として初見の観客には意味がつかめないのではないかと

思われた。一つには車内の場面では東北弁が氾濫するので関西の観客にはわかりにくい、ということもある。ある程度までは目をつむらなければならぬ問題だが、できるだけ明快に発音するとか、キイ・ワードだけややテンポを落として理解しやすくするとか、身ぶりで補つとか、いわゆる標準語と共通の言葉だけをもう少し強調するとか、細心の工夫が必要だろう。この問題もまた潮流に限らず、なじみの薄い方言を舞台でしゃべるときに必ず起こってくることで、これまで大阪の新劇の舞台を見ていて何度も感じたことでもある。そういう方言をしゃべるときの工夫がまだまだ足りない。

列車内の場面以外は概しておもしろい。とくに賢治の妹の病室場面では大手商社の社員役の堂崎茂男の奮闘ぶりが目立った。

全体に、俳優が演技をする位置が客席から

つくった大きなワク組みから出られなくて、結局はエビゴネンのようになってしまう。

演技がうまいとかまずいとか言うよりも以前に、その作品をとり上げる意味についてもっと厳密に考えられなければならない。それが出発点である。このことは、何もこんどの潮流公演についてだけ言えるのではない。いつも本邦初演の作品をとり上げるわけにはいかないのだから、劇団はその上演作品についてもっと主体的に考えなければなるまい。

演を見てもおもしろかった、ちょうどキャストもそろっている、ではやろうか、とかなり安直にレパートリーを決めているのではないかと疑われるフシがある。そういう疑問が出てくるのは、その舞台が結局は先行舞台の模倣から大きく出ることがなく、劇団の主体性が感じられないところから起こってくるのである。

潮流の舞台に話をもどすと、花巻と上野の間を往復する列車内の場面がいずれも強い。この車内の場面に作品の叙情やファンタジイ

ことなるろうか。敗戦の傷跡がお生ま生ましく残っている邸宅に数家族が同居している。作者自身の面影を伝える「私」(岩田直二)をはじめ左翼青年、リアリズム、クリスチャン、株屋、パンパン等戦後混乱期の社会をそのまま現わすような人物たちが相対的安定感のなかで自足しつつ生きているところへ突然「私」の知人である殺人者が入ってくるから混乱がはじまる。殺人をおかした青年というのが生命の価値に無感覚なアプレ・ゲール人種であることから「私」の人間観・生命観はかえって根底から大きく動揺させられる。そういう混乱する人物像と対照的に置かれた無垢な少女の裸身。

この作品で三好十郎はさまざまのことを言っているが、いまの私にとって興味があるのは、「私」が言う「三十八度線は線だから幅は無い。幅の無い所に人は立てない。しかし人は三十八度線を頭で考えることが出来るならば、どうしてそこに立てない事があろうか」というセリフだ。

朝鮮戦争を契機に激突した左右両翼の思想のはざままで三好は——この不器用なまでに誠実な作家は苦しみぬいている。苦しみぬいた



あぐくいまこの晩年の作品で三好は何か確かなものをつかみはじめています。三好にとって、ひょっとすると戦前の左翼弾圧時代よりも戦後の時代のほうがつくづく苦しかったかも知れないとさえ思う。

その苦しみは、戦後派青年と「私」との対決場面ににじみ出ている。反人間的虚無思想とでも言うべきアブレ・ゲル青年との油汗のにじむような（と、ト書きにも書かれてい）る）対決の苦しみ、緊張感がこの作品の重要な焦点だが、関芸の舞台にはそのぎりぎりの緊張感が乏しい。その理由は「私」を演じた岩田直二の演技にあるように思う。戦後派青年・須永の言葉にとまどいは見せるが、自身を試されているようなそういう苦渋の表情があまり無い。「私」がちょっと納まり返っているように見える。（演技者としての岩田が納まり返っているのではない）やはりこれだけの大作を演出したうえで、なお重要な役を演ずるといふのはだれがやっても少し無理なのではないだろうか。

ほかに亀井賢二、田中恵理、門田裕、山本弘、谷広子、松谷令子、千葉保らが出ていてひとクセもふたクセもある人物を演じている。とくに傑出した演技も見当たらなかったが、

やはりこれだけそろうと関芸の俳優陣の層の厚さを感じさせる。戦後派青年を演じる岡田照幸は役をつかめなかったようである。無垢な少女を演じる川本美由紀は、何でもないようだが自然な透明感のあるのがいい。

劇団大阪はこれまでに何度かとり上げてきた寺島アキ子の作品で「三人の花嫁」を上演した。（11月2・3日近鉄劇場）この劇団が上演してきた寺島作品という、「かあちゃんたちの明日」「夜明け前のカチャーシー」があるが、今回のも含めて私には「かあちゃんたちの明日」が最もすぐれた作品であったように思える。

満蒙開拓団の花嫁として戦前中国へ渡った女性性が三十年ぶりに郷里の信州に帰ってくる話である。演出・鹿本一。

そして、彼女を迎える郷里の状況は現代日本の過疎農村が抱える典型的な問題が並んでいる。ヒロインの兄は農業をやめて民宿を経営、ゴルフ場誘致に奔走し、一方、荒廃する故郷の復活を願う青年は有機農業に取組んでいる。ゴルフ場誘致の期待は結局裏切られ、その間に村人や地方政治家たちが右往左往する。

右のような農村の状況や人物配置は多分に概念的で、このことは例えば都市近郊農村の荒廃を描いた立松和平原作の「遠雷」（俳優座）の精緻さと比べると明らかである。登場人物の多くが肯定的、否定的人物のほぼ二通りに色分けされているが、有機農業に取組んでいる青年などは登場して間もなく肯定的人物であることがはっきりわかるようになってくる。この種の青年には明るく健康的な恋人が必ず現われるもので、こういうカッパルは「三人の花嫁」だけでなく「かあちゃんたちの明日」にも出てきたものではなかったか。たしか演技者も同じ北尾利晴だったと思うが、出演者はそれぞれに成長して安定感を持つようになっているが、まだ説明的な身ぶりが散見する。とくに手を不用意に動かす傾向があって、いささかわずらわしい。

劇団2月・コロロの「終わりに見た街」（原作・山田太一、脚色・かたおかしろう、演出・坪井敦。12月23・24日近鉄小劇場）は私にはおもしろかった。とくにこの作品の間構造には意外性があって新鮮である。

大阪近郊に住むサラリーマン一家、一夜明けてみせると世間がタイム・スリップしてい

て周囲は昭和十九年の戦時中になっている。家族は戦時中の不自由な生活を強いられるのだが、夫にも妻にも戦争が日本の敗戦に終わることや、いつ大阪大空襲があるかということなどは予めわかっている。そのためになんか空襲の被災から市民を救おうと何日までに臨陣するようにとすすめて歩くのだがうまくいかない。万策つくまで空襲がはじまると一家は大阪大空襲で焼け残るはずの土地へ避難するのだが、ドラマのラストでは安全だったはずの場所へ核爆弾が降ってくる。

つまり、このドラマは昭和六十年で幕が閉き、すぐに昭和十九年にタイム・スリップし、最後は再び現代にもどるのかと思っで見ているとそこを通り越して一気に近未来に突入するのだ。そうすることによって、第二次大戦のときはまだ焼け残った土地があったが、こんど核戦争が起こればもう焼け残る土地も生き残る人間もないだろうということに強烈にアピールしているのである。正直、ぞっとした。現在一過去一近未来というこの作品の特異な時間構造のあり方が単に奇をてらったのではなくて、作者の主張とびたりと合致しているところがいいのである。それに、主人公一家の知りあいの落ちこぼれ少年が戦時中

に時代が逆転するとファナチックな軍国少年に変貌してゆくあたりに作者の現代教育批判がある。

この一家がなぜ家を出なければならなかったか、という動機づけが弱いのと、追いつめられてゆくサスペンスがやや不足しているのが前半が少し長く感じられた。演技的にもとくに傑出したものはないが、主人公一家の知人になる江口誠三の演技に余裕があって光っていた。

さて、以下は劇評ではないのだが、一言つけ加わえさせてもらう。大阪新劇フェスティバルの期間中に数回合評会がある。劇団相互の批評会であるが、ときに私のような外部の人間も加わることがある。昨年二回ほど行われ、そのうち一回は私も出席した。だが最近思うのだが、その合評会がうまく機能していかないようである。なれあいにならずきびしく批評しあおうという趣旨は結構だが、聞いていると批評する側はこぞとばかりきめつけ、批評される側は必死で耐え、しのぎ、切りぬけようとしているかのように見える。ああいう方法で本当に後日の参考になるのだろうか。やっつけたり、やっつけられたりし

て結局しりだけが残るということにはならないのだろうか。いや、それともそれがすっかりセレモニーと化してしまっていて、しりなぞ残るはずもないのか。

口をきわめてきびしく批評する側の意見を聞いていると、時々私は「ためえのことはタナに上げて」という気がする。それがある。それだけのきびしさで情熱を以って、まず自分の劇団の公演成果を検討してもらいたい。それに、合評会で出てくる批判には具体性や論理の乏しいものがある。だめだ、だめだと言わばかりで、どこをどうすべきかという参考になりそうな意見が少なくない。あまりこういふことを言うと、お前の批評こそ何だと言われそうだが、少なくともいまここに書いた文章ではどこをどうすべきかを具体的に論じたつもりである。できるだけ代案を提示するよう、そういう具体性が批評する側にも欲しい。どうも批評する側にそういう説得力が欠けるために反論も抽象的になり、結局不毛の論争が行われているように思うがどうだろうか。

# みんなが飛んだ舞台 (劇団支木)

秋本博子

(劇団弘演)

支木の「空を飛んだ鶏」と銀色の松ボックリ(可能あらた作・藤原浩平演出)を観に寒風(吹きすさぶ青森駅に下り立ったのは昨年十一月三日、もう五ヶ月前の事です。細部まできちんと伝えられるのか不安になりながら、恐る恐る筆を取りました。

支木の「鶏」は再演です。二年半前の初演もエネルギー溢れる良い舞台でしたが、今回は倉庫を劇場に仕立てての小劇場公演との事、又再演というのには初演をどこまでのり越えられるかとても恐い仕事なのに堂々と挑戦している事に大きな興味を持って出かけたのでした。結果は期待をはるかに上回る素晴らしい舞台で、久々の感動を味わう事ができました。先ず会場がすごいのです。堤川埠頭の岸壁ギリギリに建てている九十坪程の殺伐とした倉庫、材木工場のものとか、その辺一帯に同じ様な建物と丸太がごろごろしていてお芝居などと全く無縁の場所です。海から吹きつ

では玉子パックと呼んでいたようですが、反響をふせぐ為との事でしたが、黒塗りで暗幕がわりでもあり、一石三鳥の役目を果たしています。タッパ十五尺もある壁一杯を客席までうめつくしているようですから大変な努力だったでしょう。浩平ちゃんはいやあ、楽しみながらやったから……と軽く笑っていましたが、そんなバイクリテイは、鶏の舞台そのもののように印象的でした。

芝居の始まりは、お婆さんの登場からですが、私はこのシーンがとても好きです。ホーキとスコップで鶏舎の掃除をするだけですが、音の無いシンとした舞台で黙々と働く老雑役婦(仲谷久美子と高坂真理子のダブルキャスト、この日は高坂さん)のいていねいでありアルな演技、観ている中に鶏糞の臭さを感じてくるようです。演出はこの冒頭シーンをたっぷり時間をかけて大切に創っています。この後約二時間、観客はいや応なしに鶏の世帯に引きづり込まれ、そこに人間社会を、そして自分を重ねて観せられていく訳ですが、ラストにおさきり首を切られて鶏舎を去って行くこの老婆の姿でもう一度現実に引き戻されるその布石としても大事なシーンだと思えます。一言のせりふも無い地味な役どころを

若い高坂さん良く演っていました。

一転して鶏たちの夢のシーン、軽快な音楽にのって踊る十羽の白色レグホン達、今回は一名をのぞいて全員新メンバーとの事ですがそれぞれ個性的でなお一糸乱れぬアンサンブルはみごとでした。これこそ稽古のたまものでしょう。演劇会議六十号に載った「浩平ちゃんの手紙」をお読みの方は御ぞんじと思いますが、七月公演の予定が会場の関係で十一月まで延びた、その間ダレさせずに稽古稽古と追い込んでいった演出の、集団の執念はここでみごとに花開いたのです。立派でした。ためて、想いをぶつけていく熱演は、姿勢さえあれば出来る事ですが、テンポをつけて軽妙にたたみ込んでいく演技は我々の場合稽古を積み以外に出来ません。十人共甲乙なしの出来ばえです。誰れが抜きん出て印象に残るという事がないのに、こうして半年近くたっと思い返しても、あてやかな會長の西堀規子からパッパラー可愛い女りの今恵子まで、その一人一人の姿が個性豊かに浮んでき

ます。  
現実には甘んじ、夢は夢さと今日の快楽に身をひたしている彼等の中へ一石を投じるプロイラー役の松山夢(彼は初演以来の持役)は

初演の力みが抜けて好演です。初演は前面にプロイラーが出て一寸したヒーローでしたが今回はともするとレグホン達の陰にまわりまわります。演出上も変わったのかも知れませんが、どうにもみずばらしく誰れの目にもとまらない存在なのです。ただひたすら鶏(人間)回復に向って努力しつづけるだけです。何をまき込もうとはしません。他が勝手にまき込まれていくのです。そして、その方がずっと実在感があり、説得力もありました。

トランポリンを使っての空中ブランコは日によって一寸づつ位置をずらしてあるらしくとびつづ努力は正に真剣勝負、手に汗をにぎります。プロイラーすら簡単にはとびつけないのです。この日は少し高かったのか難れていたのか、何度か失敗してハタハラさせられました。固唾を飲んで見守るのは観客も舞台の役者たちも一緒です。この緊張感に演技の馴れをふきとばし、飛ぶ、事への一人一人の挑戦が本物となって続けられ感動的です。

獣医(村上英治)はむずかしい役ですね。今回は半仮面をつけていましたが、そうでもしなければあの鶏の中へ、人間として入り込むのは大変だろうと思います。それだけにその仮面がちやちやで残念でした。もう一工夫、

目元をかくすマスクで終らせず表情も出る半仮面にしたら面白かったと思います。

会場の関係で思うように明りが仕込めなかったのかも知れませんが、首を切られた老婆が去って行くシーン(客席を通過して出て行くのですが)暗がりから出て暗がりへ去るので殆んどその表情が見えず残念でした。舞台では労働着姿で顔もすっぱりはうかむりしているのですが、トポトポと去って行く私服のお婆さんの素顔を見せてはしなかった。きっとそこには現代の我々の顔があったはずだから――

ただ、初演でも今回でも、松ボックリの存在がいま一つはつきりしません。真意劇という事であり引っかけりもせず観てしまうのですが、松ボックリ、や、神様。がなければこの芝居は成り立たないのかなと、フト考えてしまいます。

ともあれ、初演をこえた素晴らしい舞台、稽古の大切さをまざまざと見せてくれた舞台でした。

テーマか、人間か？

中部ブロック85年11月～86年2月の上演から――

丸子 礼二

(1) 何年も中部ブロック9劇団の上演を観て廻っていると、各劇団のメンバーの変動がはげしいのに驚く。中心になつてゐる人達は十年も二十年もがんばつてゐるのだが、若手、実際は劇団の多数を占めてゐる若者達はほとんど変つて行く。まさに、ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。(「方丈記」より)である。

めてしまふ人達の「芸事」にまともにつきあつていられるかと言いたくなつてしまふ。取り組む方がこうでは、使ひすての時代。に文句もいえない。やはりアマチュアなのか。悪条件にたえながら、劇団活動を支えてゐるベテランたちに声援を送りたいのが現在の心境である。

(2) 85年11月から86年2月までの上演は以下の通りである。

新人として幼いけれどフレッシュな舞台姿を見せてくれ、数年たつてぐつと成長して、大きな役をやり、四、五年すると「あの子はもうやめました」となる。多年の労をかけ、育て、指導し、共に創造にいそしもうとしていた演出者諸氏の努力はどうなるのだろうか。批評する側にしたつて、五年やそこらでや

劇団名古屋 11/1-3 名演小劇場 宮本研作 久保田明演出「ザ・パイロット」  
劇団はぐるま 若手はぐるま実験劇場NO.2 11/15-17 御浪町ホール 北村慧作  
内田薫演出「星月夜物語」 第71回公演 2/4-6 岐阜市文化センター小劇場 山田木一 坂田正子演出「教員室」  
劇団夜明け 第19回公演 NO.8小劇場公

滝 11/16・17 中津川コミュニティセンター  
黒沢参吉作 鈴木弘文演出「深い藍」  
劇団すがお 第35回公演 85員弁部全小学校移動公演 11/16-2/2 各小学校体育館  
ななわ小劇場 2/16 すがお稽古場  
さねとうあきら作 加藤武夫演出「ゆきと鬼んべ」  
劇団名芸 第28回公演 11/22-24 名芸平針小劇場 T・ウイリアムズ作 田島博訳  
片野耕治演出「ガラスの動物園」 第22期研究生卒業公演 12/21-22 名芸平針小劇場 福田薫作 藤平直弘演出「毎度おなじみの特上ロース」  
上野市民劇場 第29回公演 11/30・12/1  
上野映劇ホール 黒沢参吉作 ふくきたわかつ演出 「ふかい藍」  
岡崎演劇集団 第34回公演 11/30・12/1 岡崎市せきれいホール アーネスト・トンプソン作 青井福治訳 浅井克彦演出「黄昏(たそがれ)」  
合同公演 市民芸術劇場85 名古屋劇団協議会合同公演 11/13・14 名古屋芸術創造センター W・シェイクスピア作 小田島雄志訳 浦はじめ演出「十二夜」 一演集・名芸・名古屋参加 85名古屋反核舞台人のつ

どい 12/3 名演小劇場 栗木英章作 木簡裕次演出「咲子と父たち」 一演集・名古屋・名芸参加 国家秘密法反対公演 12/13 四日市文化会館第2ホール 12/17 三重県教育文化会館ホール 大野章作 住田正雄演出 「ある日、突然」―四日市・すがお参加。

前は姉さんに写真をとつて来いと言われたな」「いいえ」「松田聖子は……」「……はい」「姉さんは……」「いいえ……はい……」混乱しているうちに滑らした言葉から活動家の姉が逮捕され、反対運動する人々も、扇動の罪で次々と刑事の若葉正則(すがお)がひょうきん味の中に怖ろしきを見せ、父親役の大野章(作者)も高校の先生らしからぬ渋い好演だったが、演技の巧拙より舞台上に展開して見られる事実の迫力が上まわってせまってくる。皆つかまつてしまい、運動もつがされる中でただ一人ハンドマイクで叫びつづける女性(森本まなみ・四日市)が印象的だった。

(3) 超満員のホールに熱気があふれる。官公労・弁護士・教員組合・学生・いつも劇団四日市やすがおの客席には来ていない人達である。バイクで遊びまわる男女、ラジカセから流れるニュースは、昨日、国会を国家秘密法が通過し、今日から……と語つてゐるが、あっさり音楽に切りかえて、楽しげにカメラをかまえてパチリ。突然現われた男連に、基地の

遂に国家秘密法は廃案となり、その翌日の打上げパーティもさらに盛上つたそう、こんなうまく行った話も珍しい。それにしても、決してうまい役者連ではなかったにもかかわらず、何でもない人間が突然逮捕される場面が正に「或る日、突然」らしく、忘れられない。

写真をとつた、現行犯だノ。と通行されてしまふ。わけのわからん取調べ。「松田聖子は神田正輝と結婚したんだな?」「はい」「お

(4) 「職員室、血の海にしたるノ……」体罰に怒つたツツパリ中学生達の捨てゼリフが発端で対策会議のまま居残る教師連。暴力の影に脅

え、机を積み上げてバリケードを作る。話し合いを主張する香山(青木茂)小林(三島幸司)と力による制任をとる木崎(なみ悟朗)近藤(船渡治郎)のけわしい対立。後者の方は一寸ガラの合わない感じもあるし、いきなり教師が教師をなくつてしまふのも無理がある。延々と続く言いあい事なかれ主義の教師(藤沢伸二)もカッとなって怒鳴り出し、校長(酒田ひさし)まで暴力肯定の地金が出て来る。気の弱い日浦(山口和紀)はたえ切れず暴れ出し、深夜になると投石が窓を破る。運動場へ出て一かたまりになり、出て来いノ。みんな何処に居る。と声をかける教師連を石は無差別に傷つけて行く。人のいい用務員(宮嶋道洋)は血塗れになりながら、外には怒つた生徒達が何十万もいますノ。と叫ぶ。はぐるまの演技陣が迫力のある群像を作り出し、今日の教育現場のどうしようもない状況を象徴的に描き出していた。

主義、親の欲、業者、教師自身の問題そして政治：そんならお前書いて見ると言われても辞職でもしなきゃ書けないのである……

一方では、同じはぐるまの若手が北村想の「星月夜物語」をやっている。塾に通うふしきなネコ（河井せつ子）と彼女から電氣をもらってプラネタリウムを作りたい月男（片岡隆司）のメルヘンに泥棒のあねごと弟分がからみ、塾の先生と生徒達もからむ：落ちこぼれの心にも星が輝くというテーマ。こういう方法の方が今日の教育に対して発言しやすいかも知れないが：実際の舞台はゴタゴタしてメリハリがきかず、かなりわかりにくくなってしまった。・わかなくても面白ければいい。・というのは観客の立場なので、上演する方はそうはいかない。こういう作品なら、なおさら、ギャグの所とポイントの所をくっきり分けて浮かび上がらせないと：「星月夜」とは月が無くて星の光で明るい夜のことだがチラシには大きな月が描いてあるし：そんな事象にするのは、おじん、だけかな……

(5) 風さわやかな美しい湖ゴールデンポンドのほとり、さわやかなコッテージに夏を過した来たノーマン（七十九才・杉浦英恵）とエセ

ル（六十九才・山本繁子）の老夫婦。いたわりあう二人の日々を通じて、生きることのよさと尊さをじっくり味わせる、御存じヘンリー・フォングの舞台と映画の名作「黄昏（たそがれ）」――荷が重いのは先刻御承知の上だろう。岡崎演集としてはそれでもめいっばいの取り組みを見せてくれた。

少々ボケ気味だが気難しいノーマンが、冷たい関係だった娘を許し、再婚相手の歯科医レイ（石川雅彦）の息子ビリー（磯貝有子）を預かる――生意気な都会育ちのチビにはノーマンのきびしさがかえって嬉しく二人は絶好の釣り仲間となる。乱暴な口調でしゃべるのだが現在の日本では女子中学生でもそんな言葉づかいの連中もいるので、はじめの内、男の子か女の子か一寸判らなかつたが、久しぶりに森の中を歩き、全く覚えがないので恐怖にかられて、あえぎながら逃げかえる場面など、微笑まじさと、きびしさが交替する。杉浦英恵も倍の年令の老人に精一杯近づこうとしているが、セリフはともかく、何気ない振向きや、手の上げ下げ等、若さが出てしまう。エセルのまめまめしい動きを山本繁子が十年振りの舞台と思えない程よくやっっているが、やはり老人の味わいは出ない。

久し振りの娘チエルシー（梅田恵葉子）との出会い、初対面のレイとの応対：どうももう一つ格調が出ない：最後、発作に苦しむノーマンとおろおろするエセル：そして生命が戻り、生きて行きましょ、どんなことがあっても……と湖を眺めながら去るラストはさすがにぐっとなるものがあつた……

(6) 「ヒロシマについての誤について」に続く「ザ・パイロット」――平和と反核の姿勢を常に舞台に示しつつける劇団名古屋を、演出・演技の巧拙は別として、支持する人々は、名古屋でも少くない。

対空監視機について、太陽の光に眼を灼かれた原爆を積んだB29の侵入を許したことで、自分の責任を問いつける盲目の六平太とそのB29のパイロットのリビンググストン。戦後二十二年に書かれたこの作品は四十年目の現在も生命を保って人々に訴えつつけるものがある。

浦上天主堂に近く、原爆の瓦一実はニセモノを売って暮している。祝軍の一家、ごとうてるよの母親筆は地味ながらしつかりと、命を守る母性を表現しているし、息子六平太の千田三郎の朴訥な味も生きている。私を罰して下さい。と願いつづけるリビンググストンの岩田史郎はやや無理を感じさせるが、ひたむきな気持は出ている。原爆孤児のあぐり（石黒太麻美）、彼女をアメリカへ連れて行くこととする陽気そうだが、心の中でいろいろと思いつつもニセモノ売りを許せない刑事十善寺（山岸裕孝）、それぞれに持ち味は生きている。罪を告白しあい、自らを責めることだけをめぐってドラマが展開する。忘れてしまおうとする世間の流れに逆らうことで存在を続ける人達、難しく、重い老居である。見ていてとても疲れてしまった……

(7) 昭和19年秋、美濃の山奥にあった部隊の兵士正一と山の娘スヤとのつつましい恋物語。戦争の時代に、短かく燃えた愛が、すぐにまた引き裂かれ：正一は戦死、スヤは肺炎で死ぬ。九年後訪れた正一の老父は、スヤの子供、正一と同じ左ききの少年に出会う……黒沢参吉

の遺したロマンと哀感に富んだ「深い紙」は全り演のレパートリーにふさわしく、一昨年はぐるまが上演、今度は中津川の劇団夜明けと上野市民劇場がほとんど同じ頃に上演した。二つの舞台は驚く程よく似ていた。軍隊というものは今の若者には全く判らない世界だろうし、健康で素朴な山の娘というのも現代女性にはあまりピンと来ないだろう。そういう点はまっ仕方がないとして、困難な状況をこえての愛の喜びと悲しみは、わかるのだろう。セリフも表現もまだまだ不十分だが、それぞれに気持のいい舞台にはなっていた。

(8) この作品、これからは、上演される機会があつて欲しい。充分に練り上げられた完成度の高い舞台を見てみたいと思つている。

三重県員弁郡の小学校二十校を全校対象にする巡演：85年11月中旬から86年2月初めで殆どの日曜をつぶして、全り演フェスティバルのスタッフ活動に参加するために2月2日で打ち上げの予定だったというから、すがおの皆さんのファイトには感心した。

今回もていねいな地図を書いて貰って笹尾東小学校の体育館へ出かけて「ゆきと鬼んべ」の観劇会に参加したのである。さねとうあき

らのよく知られた作品だが構成はわりとくどい感がある。目の見えないゆきと山オニの鬼んべと、チビ天狗の小太郎の冒険物語。熱病にかかった竜神のせいでは村は日照に苦しむ鬼んべのいたずらから天狗のウチワに飛ばされて、捨てられた赤ん坊達の救い主のデュデラ坊の所へ飛んで行った三人。デュデラ坊に教えられてゆきは竜神に会いに山へ。鬼んべ達もあとを追う。竜神を殺さねば村に雨がふらないというので、鬼んべは必死になって竜神を鉄砲で射ってしまう。竜神は鬼んべの母の山んばの化身で、殺されてやっとなに昇り鬼んべが山の守り主になるといってお話……山んべの伊藤みえが大奮闘だが、子供達の人気は小太郎天狗（佐藤かおり）のトボケぶりや、人形のデュデラ坊の方に集つていたようである。箱形の道具を動かして、いくつかの場面を作るのだが、あまりはつきりしない。竜神は上半身だけが相応に迫力があつた。子供達は一応満足していたようだが、三年前の「大どろぼうホットンブロッツ」の方が、全体としてうまく行っていたと思う。山の墓場の谷に赤ん坊がそろそろいる所や、竜神殺しのくだりが、どうも子供達にも（私にも）もう一つしつかりと入って来ないので

ある。雨が降って来たので藤太が喜んで踊って退場する所もピンと来なかった様だし、現代っ子連と、民話にこめられた農民達の悲しい歴史の間にはすでにかなり大きなギャップが出来てしまっているのではないだろうか。

(9)

「みたされない現実からの叫び」：T・ウィリアムズの「ガラスの動物園」：演劇をやる若者達が一度はやって見たいこの作品：物おせずにあっさり取り組んでみせる所が、劇団名をらしい所なのだろう。そのキャッチフレーズがこれである。みたされない現実には耐え切れず、外の世界へ出て行った青年トム、つまりウィリアムズ自身による追憶の世界が、余りにも細やかで心の傷みにみちているがために：演じてみたくなるのだろう。過去の夢を捨て切れず、紳士のお客様、を娘に迎えるただ一つの希望にすぎないアマンダ、ガラスの動物達のきらめきの世界に閉じこもるローラ：難役である。よほどエキセントリックで、感受性豊かな俳優でなければ、手に負えるものではないだろう。まして、学校時代はヒーロー、今はしがたない青年労働者ジムともなると：ローラの内面の美しさにひきこまれかかって見苦しく逃げ出すかつてのあこがれ

の人：名芸の上演の場合も、私をふくめて、観客の心の中に出来上ってしまったイメーヂを満足させてくれるものではなかった：当り前の話である。

○

国家秘密法からT・ウィリアムズまで、とても一人の人間がのみこむことなど出来ない幅の広さである。振り返って見ると、テーマの現代性の強いもの程点が甘くなっている様な気がして来る。一時期「テーマ主義」という言葉が流行した、テーマの積極性によりかかって人物描写が類型的になるのを許してしまふ傾向に対する悪口のように使われたものである。人間追求にリアリティがあれば、必然的に今日的なテーマに通じるという事かも知れない。近頃のように、テーマの積極性もなく、人物の形象化の深みもない芝居が多くなってくると、せめてテーマだけでもという気に、私自身なっているのかも知れない。こんなことにこだわっていると、あのう、テーマって何ですかあ？とまじめに質問されてしまいそうな気もして来るのだが……。

x

x

## 劇評

### 観劇雑感 萩坂桃彦

「ナナちゃんは宇宙人」(劇団未来)

大抵戯曲をほぼ忠実にこなしているの劇団細腰の舞台で味わったような違和感がない。とくに三吉とナナちゃんの父親のイメーヂが戯曲の読後感そのもので、核戦争の危機感で心身の均衡を失っている不器用な劇作家の近松三吉、この三吉を一家の柱にして困窮を極めている状況、そのなかで、父親への信頼と尊敬と同情から、父の身代りになって必死に核廃止を訴える中学三年生の少女ナナちゃん、かの女に宇宙人から超能力が授かるというの一種の比喩であって、その趣向そのものはこの作品の目的ではない、ナナの必死の叫びだけが戯曲のテーマなのである。

このナナちゃんが「可憐な少女」であるという設定は、形容としてそれが備わればそれに越したことはないが、その内面的な苦悩とひたむきさを表わすことの方が大切だとする

と、必ずしもそれにふさわしい少女のスタイルを必要としない。劇団未来の舞台は、それを半ばの、演技歴の深い金沢百合子を起用、これが成功している。波田久夫の父親がこれに見合って、実にリアルな風貌だ。

一寸悪感がちがっていたのは、三吉一家の悩みの相談を受け、戯曲前半の展開の軸になる役の、精神科医明智小太郎(斎藤剛介)がいささか任言まわしの仕事に走りすぎた感じがあったことである。セリフの口跡もどこやらテレビ番組「タイムショック」の山口崇に似ていて、手際よく鮮やかに運んではみせるが、ぼくが原戯曲でよみとれた近松三吉との友情関係、ふかかかわり合っている、言ってみれば作者大橋喜一のもう一つの分身におもえた人間的、生活的ニュアンスが乏しく感じられたことであつた。あるいは、わかつていながら捨象したのかも知れない。唯一、こ

△劇団通信・つづき▽  
劇団名古屋演集

日一日と春っしくなつて来ました。昨秋の、名古屋劇団協議会合同公演、ジークスピア作、浦はじめ・演出「十二夜」は、創意面、普及面において大成功しました。合同公演としての劇団の位置を明確にして取り組み、劇団として貢献できたと思つています。

二月に、一年間の総括と方針を決める劇団総会を開催し、今年は二回の自主公演を行うことを決定しました。また、総会では今年度は腰を落ち着けて、じっくり取り組むことで意志統一しました。

六月には、名演会館フェスティバルとして、水上勉・作「釈迦内極頂」を上演します。劇団員全員に参加にはなりません、意欲的に取り組んでいきます。

「釈迦内極頂」 演出・浦はじめ

6月13日(6・30) 6月14日(2・6・30)

6月15日(11AM・3) 於 名演小劇場

(45) 名古屋西市区内通四一六一三

〇五二一五二四一五九七五

れにひっかかった。

ナナちゃんが訪問する有名人たちの登場ぶりでは、やはり、そっくり写しの技術では観衆の達者さには及ばないが、それは決して致命的な障害にはならない。むしろミスター・ナナシマヒデオの西尾臣示のように、トチャツて、カラまわりしているセリフにおいて逆に生きて見えるという怪我の功名も出てくるのである。だから、この有名人たちに求められるのは、核廃止を訴える少女のきりこみに対して、彼らがどう、それに対応してみせるか、階級的、職業的、人間の側面をどうのぞかせるかにとどまってもさしつかえない。その意味では戯曲でもこの有名人たちが独立した人物像としては描き切れていない。一通りの・サワリにとどまっている。彼らの返事よりも、ナナちゃんの質問、質問するナナちゃんそのものにウエイトがかかっている。

言ってみれば、かたくなな程の、大橋喜一の屈してやまない、不退転の思想、人間主張が、ギクシャクとしながらも、トドメを刺す、刺してみせることで芝居を成り立たせようという一途さが劇団未来の舞台にはあった。

(11月26日 近鉄小劇場)

「日本の天地砕けたり」

(演劇集団竹内スタジオのつば)

印象を、強烈、という表現で、先ず言ってみたくなる。劇のストーリーイそのものもそうだが、一時閑余、休憩なして、観客を釘付けにして離さない迫力は、やはり内制から突き上げてくる何かがあったからだと思う。

足尾銅山の鉅毒農民の救済に立ち上った田中正造を主軸とした物語であるが、劇の構成はむしろ、鉅毒の汚泥の底に沈められる谷中村の農民の血の叫びを綴ったドキュメントである。

帝国議会で鉅毒問題で質問する田中正造の姿は一、二景で描き、そこで十年余の経過をばさんで正造、谷中村入居の核心に入ってゆく。立上った谷中村農民、強制退去をせまる三百人もの警官の弾圧、御詠歌とうちわ太鼓で客席を蔽いつくす農婦たちの、鉅毒非命死者供養の行列行進。

見ごたえのするのは、土地収用の買収に応ぜず、谷中村死守を決めた十九戸の農民の克明な描写であった。いっときの好調につられて離村してゆく農民の姿もうつつし出す。荷車を引いて去ってゆく痛々しいシーンが胸をえ

には、これから男を殺しにゆくんだという飲屋風の女が乗っている。いづれも破局が待っている人間どもで、それがタクシイを走らせているといった仕組みで交互に見せながら、最期に、大音響、タクシイの衝突音をきかせて終る。はじめの若い男を乗せて走っていた黒眼鏡をかけた運転手が盲目だったというのは一度ばかりは観ている。怖い話である。

②ベンチ・ストーリー  
ベンチの上に若い男。そこへ歩きながら、百円玉を七つ拾ってきた男が、これは君のものでしよう、と言って近寄ってくる。いろいろと次から次へと会話はあるが、ストーリーイにはならない。作意に見当はつかないが、別に解らせようとはしていないらしいので、かまわない。手の混んだ、存在のたしかめ合い、とでもいうか。難解な芳地不条理劇。

③ピクニック・ストーリー  
山の本立ちの中、ちよっとひらけた感じの小さな広場。そこに敷物の上で初老の夫婦が睡まじい。若い男がくる。そこはオレの場所

ぐる。

谷中村をはなれては自分が無くなるという農民は一体何なのか。ドン百姓と侮蔑されながらの彼らに宿る、この白熱化した信念は神の心、天の心にも通じるのではあるまいか、と正造は驚愕する。

この正造の描き方は、実像に近づいていたというよりも、作者・演出者(竹内敏晴)の思想であつたろうと、ぼくには思える。

正造役の伊藤純は、ぼくには初見の俳優であるが、白髪瘦幅、全身をしりしぼるように出てくるセリフの迫力は、演技を超えて見えてくる。これに似た印象は正造役の一人にとどまらない。協調派の説得に屈しかけ、もう一度立ち上る熊吉(寺島和夫)や哀しみの中に誇りを見せる熊吉の母ウメ(宮田幸子)のかがやいた表情にもそれがあつたし、打ち

毀された屋敷のあと、黙々と、もう一度、竹と藁で小屋掛けする長輔(峰崎浩太)一家の姿は、真実、胸を打ってくる。現場にかけつけた婦人活動家福田英子(中村裕子)の気迫も同じである。

立退強硬で官憲と抗争する場面、渡良瀬川の出水で堤防決壊のシーン、谷中村自治村の秋祭りの群衆場面などでは、登場人物がおそ

だからどいてくれという。双方ゆずらずにいと、今度は暴走族風の若い男と女がヘルメットを小脇にかかえてやってくる。若い男の場所を奇襲せよとなる。平和の中のエゴイズムの争いだ。幕切れは、ベッサリ、その場所を召し上げてしまふ、背の高い男。

このストーリーイは二年程前に見たことがあつた。その時は背の高い男がアメリカのG.I風の装いなので、成程な、と思つたが、今度は声だけなので、解釈がどうなるか。  
田辺昌と今野陽子の熱年夫婦(?)が落ちついた、いい味を出していた。

O・S・サンチスのカバレット劇 (訳・五十嵐敏夫)

①織り人形  
あやつり人形風で、將軍の反共演説、論旨取調べに対して、地下活動家を知っているのに知らぬと嘘を言ったこと、現在の生活が満足していないのに、満足していると嘘をついて

②さんげ  
神父の前でさんげをする逞しい労働者の母、

らく、六十人、七十人を超えたと思われる。

それがワイワイガヤガヤではなく、叙事詩劇的でも形容できそうな格調美をみせたのには、感銘をうけた。

チラシにある短い案内によると、これは南葛飾高校、定時制生徒の公演とある。竹内演劇教室第十四期生志願ともみえる。大変な仕事であつたにちがいない。舞台監督に専修定雄の名を見たのにもほくは喜んだ。昔、一緒に仕事をしたなまでである。  
(11月27日 労音会館)

「光と影の情景」 (選・電サークル)

芳地謙介作品

①夜のタワシイ  
四つの景を見せる。女に振られてヤケクソになっている若い男を乗せたタクシイ。小さな会社のちよつとした役位に見える中年の男を乗せたタクシイ。部下に費いこみをされて倒産に類している。更に車の中でイチヤツいっている若い男と女、行先をつけずに走らせている。何やら危険なことを仕出かして殺那的にかけて来たんじゃないか、という。もう一台

たこと、この嘘を神は許して下さるだろうかという。さんげ、の皮肉が心憎い。今野陽子が内面的な表現で誤らず射とめた。

③自殺

ビルの屋上から飛び降りようとする若い男と、それを説得して同志的結合に結びつけた話。マリオ・フラッティの「橋」と対比しておもしろいと思つた。

④どうか笑わんでください  
サーカスの道化師が思想客疑をうけて囚えられている。彼が、これから取調べを受けにくく直前に、見張兵士との対峙。下級兵士と道化との間に、理解の絆が出来かかっている。ピエロ役の平腰忍が秀逸。できればどこかで、ちよつぱり、哀しみと怒りを宿して見せて欲しい。

以上の連電の公演は、最終日ということもあってか繰り上っており、珍しくどの役にも粗満がない。その上に、田辺昌、平腰忍、今野陽子の仕振りに味の出たこともうれしい。上流の配列も、前半、日本の情況に対する、芳地小品の、やや暖味なゲストウエスト、極めて明解な、チリの反革命情下におけるサチールのきいたサンティスの風刺劇との対

応が、明せずして一つの呼び合い、響き合いを出して気持ちのいい仕事になった。演出は土屋隆治がメインで俳優座の内田透が協力した。

(11月29日 池袋小劇場)

### 「おたふく物語」(劇団蒼生樹)

久しく横浜の芝居を観ていない。この劇団も今回の第四回公演が初めてである。行ってみる気になったのは、もらったチラシに、どうやら長老の、演出者梨地四郎の引退の匂いがあり、彼を失った舞台はどんなだろうと、些か意地の悪い興味にひかされたからである。

劇団蒼生樹といっても、全リ演のなかまには耳新しいかも知れない。しかし、よこはま青年座といえは思い出す人もあるだろう。その、よこはま青年座と梨地四郎引率の劇団創芸と浜田重行が率いていた劇団寄せあつめ、その二者が合同して生まれたのが蒼生樹である。合同しても殆んど梨地四郎演出の仕事であった。当日、劇場のロビーで、その梨地氏に会ったが彼はやはり、病を得ていた。ところで演出が河住晴一に代った舞台は、なかなか観賞に堪える仕事だったといえる。「演劇会議」読者拡大の一助にととも考え、

書く気になった。

山本周五郎の「おたふく物語」の物語を紹介する必要があるだろうか。あるようで、ないような気もする。

自分は無量で、「おたふく」と卑下しているおしずが、そうこうしているうちに婚期を逸している。ほんとうは決して数量は悪くないのだ。必要以上に控え目なだけだ。

周五郎は、世話好きで、人がよく、そして献身的な、そのためにどこか抜けて見える女をいかにも周五郎的に描く。

おしずは実は好きな男がいながら、それをオクビにも出せずにいる。カザリ職人の貞二郎であるが、かの女はひそかに貞二郎の作品をあつめている。自分を愚気にしてくれている金持の米屋の旦那の手を煩わしてまで、集めている。貞二郎はそれとは知らず、旦那の注文に応じて作ったのが、それがそっくり、おしずの隠し戸棚の中から出てくるわけだ。

それが、おしずと世帯をもったあとでの露見だから悲劇である。はしたない町のおかみさんたちの噂で、おしずは米屋の旦那の妾だったという話が貞二郎の耳に入ったからだ。別に筋書を書くのが目的ではないから、これでもやるが、この芝居には、いづれ負けず

考らざる役どころで十人近い女優が出てくる。

それが俗な表現を使えば、シノギを削って見せたのだから、ぼくには一寸驚きであった。浜田重行の脚色も悪くない。にきやかな仕

出の会話の導入部分、やがて本筋に入り、後半、おしずと貞二郎の愛情の本質に迫るあたりなかなかのものだ。一途に周五郎の世界を追ったといえる。

しかし、それが一体何なのか、周五郎のまごころと現代、われわれ身の周りの、複雑奇怪な。愛情の在り方。とうとうかかわらせて見せるのかという視点が欠けているので、全体的には、どこか、新派、新歌舞伎風の物語の色合に終っているのである。それは周五郎の原作に凭れて成功する部分とそれが今日に切りこめぬもどかしさと併存して出ているので親目たのしさの割には印象がうすい。演出(河住晴一)も丁寧な仕事にはなっていないが役者の在りように任せて間のびしたりしている。役づくりではおしず(長谷部マミ)、貞二郎(北原良彦)、女房お松(勝崎若子)などが出色である。内山勉ちゃんの装置が場ちがいにいい。

(12月21日 横浜市教育文化センター)

### 「教員室」(劇団はぐるま)

地人会が木村光一の演出で各地で上演中のもので、それを神戸で観たという劇団大阪の堀江さんの感想を、はぐるまの楽屋で書くことができた。地人会のは軽く、明るい感じで見せたが、はぐるまのは重たいのである。

ぼくは何となくわかるような気がした。この芝居にはけっこう笑わせる要素があるので、教員室でいろいろなタイプの先生を、時には深刻に、時には涙ぐましく、そして時にはユーモラスに観て見せる手際は、名うての木村さんならば得意の一つだろうと思えたからである。

はぐるまの重さは、文字どおりこれをシリアスドラマとしてうけとめたか。教育問題では、すでに「書けない黒板」「ひしめきあう不毛の季節から」などを上演して来ていて、「教員室」(作・山田太一)を、その延長線上に据えたということもあり、何よりも教育問題でゆれ動く岐阜という土地柄がある。劇団も連日満席の観客との対応で、それを実感したらしい。

舞台の印象に先だって、戯曲の質の問題にふれる。手にして読んだのではないので、と

りちがいもあるかもしれないが、こうである。

新任の若い教師が非行生徒に、やむにやまねず暴力制裁をしたのがキッカケになって、生徒たちから、仕返しに、教員室を血の海にしてやるという挑戦をうけ、緊急事態となった全員の先生たちが教員室にたてこもる。

その対応の中で、校長、教頭をはじめ、教師の一人一人が本音をさらけ出すというのがドラマになっていて、教育問題をまっしんに据えた劇としては、実はこれから始まるべきところで終わっている。少し乱暴に言えば、先生の、いろいろな所在の陳列に終わっているのである。

もちろん、それはかなりおもしろいし、考えさせもする。暴力否定を教育指針にしていた校長(浦田ひさし)が、そもも言っておられぬ窮地に追いこめられたり、小心闊々の教頭(藤沢伸二)の出世コースへの本音がさらけ出たり、一見超然とした国語教師(藤本昭)の無力ぶり、体罰派(なみ悟郎・船渡治郎)と暴力否定の精神派(青木茂・三島幸司)の教師たちのはげしい抗争、育児や家庭を抱

えている女教師(吉田敦子)の全く弱さそのものの実体、均衡を失ってとりみだしている先輩の女教師(大塚鏡子)、完全にノイロー

ゼとなつて挙動がおかしくなる理科の教師(山口和紀)などなど、むしろ、よくもこうも描けたと思えるほどのものである。

実はこううまく取揃えられてみると、ハテどこかリアリティがうすくなる。先生たちのメリハリが濃ければ濃いだけ、その交流のなかに意外と教員室の日常生活が感じられないのである。つまりああいう激しいディスカッションの前に、もっと生臭い、陰湿な、小狡さやかけひきがあるような気がしてならない。それがドラマになるかどうか不明だが、少くとも人間像のリアリティを覗かせるという意味では、その配慮はあっていいと思う。

それは、はぐるまの働きどころの役者たち、或は熟達した古い役者たちが、熱っぽい演出(波田正子)の、おそろく督励もあって、先を争うようにしてつとめている粒潰した姿は見事だけれど、彼らの相互の間から、ジワリと出てくる人間の味が意外に感じられなかつたこととながって来る。

極めて当り前の筈のことが、つまり生徒の襲撃という恐怖感を前提としすぎたため、何でもない会話が成立しないのである。先生同士がなぐり合いになるといふことなどは滅多

にあるものではないだろう。それにまつわるセリフのやりとりや行動が、いかにも芝居の見せ場として挑み、受け合われている。

幕あきから終幕まで、先生たちの所在は与えられたシチュエーションとしてきめられており、そこでのかたち、覚えこんだセリフの応酬で可能なのであった。そんな風にはくは思ふ。中学生の非行の根源を、この先生たちの集りの中に、まさにこういう彼らの一人ひとりの中に孕ませてみせられないだろうかという発想は、発想としてこっけいだらうか。

(2月6日 岐阜市民文化センター)

### 「ある馬の物語」(京浜協同劇団)

地元川崎での公演は昨年12月5・6日で、年の明けた1月21・22日に横浜へ打って出た。正直を言えば、横浜の舞台を見て、これは書いておくべきだと思った。当事者に思い当たっているかどうかかわからないが、まるで違ふ。

川崎の印象は不透明で、横浜は鮮明だ。原因の主要のもの一つに、どうやらステージの面積があったらしい。

この芝居には、ピアノ、チェロ、バイオリン、ドラムス、ベース、キーボードといった

かなり完全なかたちの生演奏がついている。セリフにも相当な部分歌唱で充たされるところがあり、コーラスの群舞があったりで、演奏がそれを助けるわけである。この演奏のマウスがステージで占める割合は俳優のアクテイング・エリアに3対7位になっている。それでも、時に、囁きの役者のセリフを伴することも出てくる。そして広くもない、川崎の幸文化センターのステージでは演技者が演奏者の競合でいえば、完全に負けてしまった。ばくは途中で、ピアノ奏者の安達元彦の姿に見惚れたりした。

川崎で見た客の何人かから、難しくてよくわからなかったという声をきいた。ストーリーイと登場人物の筋分けがわからなかったのであらう。

すでに前にも一度、仙台小劇場の公演を見て書いているので余り書くこともないが、この芝居は、マダラ模様で生れた馬ホルストメールが仲間馬たちからも人間どもからも嫌われて、由緒のある名馬の血統であるにもかかわらず、悲運な生涯を終えるという教訓的な物語である。原作を読むとわかるが、トルストイは単なる教訓話にはしていない。ロゾーフスキイの脚色には工夫があって、

一人一役はホルストメールと彼の最も輝かしい時代の飼主セルブホフスコイ公爵の二人だけである。ホルストメールの最初の恋人でやがて裏切ったゆくビャゾブリーハ、公爵の愛人でありながら、これも別の男に心を移してゆくマチエ、そして最後に、落ちぶれた公爵を見くたす、ゴブリンスキイ伯爵の夫人マリイという、あるたくい女の役は一人の女優で演ずるよう指定されている。彼女の相手を交わりがわりつとめてゆく、若い杜馬のミールイ、競馬場でマチエをうばいさる若い将校、そしてゴブリンスキイ伯爵という、あるたくい男の役も一人の女優に指定されている。京浜では、ホルストメールを山口あきお、公爵を藤井康雄、そして上述の女の役が和田彌子、男の役を堤次郎が受け持った。

この四人がドラマを縦に織りなす主役である。あとは馬丁と競馬場の物売(中沢研郎)とか公爵と伯爵の従者を同一人物(渡菜一)にするとか、既の親方と競馬場のひろめ役を兼ねて見せる(原科清)とかいう役の設定はあるが、これはいわば点景の興趣を求められるのであって、さきの四人程の負担はない。だから、むしろこれらの役が伸々としており馬丁ワーンシカのとときの中沢研郎、公爵の従僕

ハイフォーンのとときの渡菜一、親方のとときの原科清がくつろぎを与える。

ホルストメールの山口あきおは、背負った主題の重さのためか、その深い哀しみとか、老いの深味がちすぎで躍動した青春の頃の表現に、ちょっと鈍りそこねている。またこの役はメインテーマの解説役も兼ねるので、そこがクッキリと際立つのにはもう一歩である。しかし、この難役を仕通した山口あきおの労は多しなればならない。

公爵の藤井康雄は、横浜のステージで、漸く、後半の落魄した変貌ぶりを、役のしどろとして射とめた感じであった。恋の享楽や人生の無情、虚無的な呪詛のいくつかを歌に托して見せるが、それにふさわしい内容が、どこまでその歌唱力に宿していたかは、その道に暗いばかりにはわからない。

和田彌子の三役の使いわけも、たっぷりとかの女の体内を脈うって出るというまでには到っていない。努力やがんばりだけでは出切らぬものが出ていない。役にしぼられ固くなりすぎて、おのづから出るはずの、女の魅力を逸している。

堤次郎は相変らず達者だが、どこでも出てくる、いかにもしやすいスタイルで処理して

いるのが気になった。これは悪口ではない、好演自重せよの意味である。

「どん底」「持つということ」そして、この「ある馬の物語」と手堅く巻を築いてゆくスタッフ(演出・細田寿郎、音楽・安達元彦、装置・佐藤張二など)に拍手をおくりたい。今回は、西田堯の振付でひろげた領域なども書きとめておく必要がありそうである。

### 「十二人の怒れる男」(えるむ企画)

有罪か無罪かを決めるのには十二人の陪審員の全員一致がなければならない。その場合にのみ機能が果される。

ニューヨーク市のスラム街の、一人の非行少年が、とび出しナイフで父親を刺し殺したという事件が、いま、十二人の男たちに委ねられている。

現場を見たとか、殺してやる、という少年の声を聞いたとかの証人が出ていたりして殆んど疑いなく少年の犯行という確信で、陪審員の審議がはじまるのだが、一人だけ、No 8(伊藤敷一)が疑義を出す。少年の犯行と必ずしも断定しかねる要素を一つ一つ粘りづ

よく出してゆく。さいごには、彼以外の有罪説だった十一人のうち十人が、No 8の説に組してくる。たった一人、No 3(依田英介)がなぜか、頑強に狂暴に抵抗している。

二転三転してゆく審議の動揺は、否応なく陪審員たちの正体をさらけ出す。野球のナイターを見たくて早く帰りがつているNo 7(曳地伸之)をはじめ、「スラム街のやつら、人殺しをする位は面相を見ればわかる」とがなりたてるNo 10(川添健次)と

いったものから、アメリカの自由と民主主義をこそ、この身体にふれてみたくてこの国に来たのにというNo 11(望月通治)、審議の合理性をピンピンときめてゆくが、どこか保守的なものをかかえているNo 4(吉川秀樹)といふふうにあげてゆくと、そのおもしろさと密度は、到底、この舞台を観ない読者にはつたえにくい。

それにしても、そのおもしろさを堪能するのに全く不便がなかったわけではない。客席は舞台を見下ろすかたちで両サイドである。正面と裏と言ってもいい。はげしく対立しているNo 8とNo 3に目を凝らすのだが、このふた丁はテーブルをはさんで、斜めに向き合っているので、No 8の顔の表情を見得る客席の



位置は№3の背中を見るわけである。これが否応なくもどかしい。

もっともそこには演出上の配慮があって、水を飲み立つか、激昂して歩きまわるとか、少年犯行の現場再現の段どりの中などで過不足なく見せることになるが、一つだけ、最後まで抵抗をつづける№3の、キメ手となる心理過程をどこで見るといふことである。

彼が、少年の父親殺しに固執してゆずらぬのには理由があって、彼自身がわが子に背かれていたからなのだ。それはセリフにもあって、こんな風になっている。

「あたしにも倅がいる。それが八つするとき喧嘩から逃げ出しおった。あたしはそれを見ちまった。実に恥しかったよ。それで倅に言つてやった。お前をきたえあげてやる。たといぶちのめしてもやってやるぞ、とね。それが十五になるとあたしの顔をぶんなぐりおった。でっかい野郎でな。もうこの三年会ってないんだ。割当り奴が！乱暴な若い奴がこの我慢がならん！奴らのために身を粉にして働いてきたあげくがかい……」

しかし、このセリフだけでは弱い、ばかりでなく、セリフの出るキッカケは、ズボンのお尻のポケットからとり出して、振りまわす

手帳の間から落ちた写真(倅の)からである。がまんがならない自分の息子にからめて彼是有罪説にしがみついたのだ。この種明しはいささか芝居の重厚さにくらべてはあまいと思うが、№3にしてみれば必死である。

彼が、わが子に裏切られたと痛恨の唇をかむシーンが一ヶ所ある。それは審議の途中の小休止のとき、たった一つしかない窓ぎわに行き、ひそかに、手帳の中の写真をみつめるシーンである。

これはその窓側に坐った客席からしかわからない。

持って回った話をしているが、たまたま、その窓の目の前の席にぼくが坐っていた幸運を言いたかったにすぎない。そのときの№3の表情をみて、なるほど見えないところで、こんな吉明で、一所懸命のことであつたのかとわかったわけだ。

№3はその一例にすぎない。十二人の怒れる男たちの一人ひとりにそれが言えて、その吉明、周到さは繰り返り上げられている。

演出と出演者の関係で、六年間も乱れず、再演、三演と深めていることは、いまだき可成のことに思う。ここまでくると、あの装置と客席のしくみでは一回の観劇では用

が足りない。十二人の一人ひとりを追いかけることはかなわぬことながら、両サイドの客席をかえて、少くとも二回は見たい、また、見たという人も少なくないだろうと思う。話は十分わかっていながら、ばくもまた、三回日を見るかもしれないと考へたりしている。それが、レジナルド・ローズ作、額田やえ子訳、ふじた・あさや演出の「十二人の怒れる男」であつた。

(2月18日 新宿・シアタートップス)



# ナナちゃんは宇宙人

## —核幻想のメルヘン—

大橋喜一

### 覚え書

このメルヘンは、核戦争の不安を背景に、工場街のむさくるしいアパートで、超能力をうけた少女ナナが、上流社会の知名人たちを歴訪するというはなしである。

ナナとその家族たちは、メルヘン的な設定になっている。しかし劇の第二部でナナが訪問する五人の人物は、今日の日本ではだれの目でもこの人と思える知名なモデルがいる。劇の骨格は、社会的知名度が高い五人のモデルを、メルヘン的な少女が訪問して、核戦争について空想な対話をするこゝによってなり立っている。社会的存在としての五人のモデルは、なるべく現実に近いように設定され

ている。しかし、その人間形象——セリフは、すべて作者の創作で、作者がそのモデルによって触発された自由なイメージによって創られている。

時はいま。ある特定の内閣の時期という想定。ところどころは東京。(第二部の一ヶ所だけ大阪)

第一部は、首都圏の工場街、下町の感じ。第二部の場面は変転するが、すべて中流以上の住宅地。

ナナはかわいらしくはあっても、どこか野

暮ったい感じ、貧しい労働者の娘といったイメージがほしい。精神科医明智小太郎氏は、一字ちがいの名の通り、名探偵まがいのパロディ人物。いささかオッチョコチヨイ。その助手である江戸川さんとよぶ中年の看護婦に対して、たいへんコムプレックスがあり、彼女に睨まれると小さくなってしまふ。

第一部の明智診療所はメルヘン的な感じ。近松三吉氏のアパート(ナナちゃん宅)は、せまくむさくるしい感じ。そして、第二部の諸邸宅は、飾られる必要はないが、第一部とは対照的な、上流の雰囲気はほしい。

人物たちは、しばしば劇としての場面進行を無視して客席に語りかけることがあるから、舞台前面、両袖などに、そうしたはみ出し演技のための空間が考えられてほしい。

### (登場人物たち)

- ナナ 近松ナナ 中学三年生。
- 三吉 ナナの父 劇作家 労働者上り。
- 大介 ナナの兄。
- 千代子 ナナの母。
- とみ ナナの伯母。
- 明智 精神科医、名は小太郎。
- 江戸川さん 明智の助手 中年の看護婦。メガネをかけている。
- オネエサン 玉ネギオネエサンとよばれる髪形のタレント。白痴悦子さん。核問題にとり組む大井源三郎氏。
- 作家 元プロ野球監督・名選手。ナナミスター シマヒデオ氏。
- 塾長 P.M.P. 松北政経塾長。財界の長老、松北孝之助氏。
- 首相 内閣総理大臣、長官根岸弘閣下。

首相官邸の人々として——  
秘書(警察庁より出向) 警護長。  
秘書(医師) その他警官、刑事など。

### 第一部 ナナちゃんと超能力

- 1 明智精神科
- 2 不思議なナナちゃん
- 3 大介兄さんの挑戦
- 4 宇宙人の実演
- 5 明智先生の推理
- 6 超能力の誕生

### 第二部 ナナちゃんの巡回訪問

- 7 玉ネギオネエサン邸
- 8 作家大井源三郎邸
- 9 ミスター・ナナシマ邸
- 10 松北政経塾長邸
- 11 首相官邸
- 12 エピローグ

### 第一部 ナナちゃんと超能力

ナナ(客が幼児であるかのよう)に あたし、ナナちゃん。あの、いま、できたのホヤホヤだよ。それで中三なの、来年は高校の受験、だから母ちゃんたら、そればかり、ウフフ……パカみたい、親なんて……あたしん家、四階だよ、てっぺんで、上は屋上、お星さまキラキラ、なんてさ、スモッグでみえやしない。関係ない話。家族は四人、父さん、母ちゃん、あにき。父さん劇作家なの。わかる？ ゲキサクカッて。あのお芝居書くの。いま児童劇……赤ずきんとか、チビクロサンボとか、シンデレラ、なーんで、そんなの書きやしないんだ。あの、ほんといううと、お父さん、お芝居書け

### 1 明智精神科

診察室。明智先生は登場していても、いなくてもいい。登場していればなにかに集中していること。患者の面投でいいが、すべて無言劇であること。

突然ナナが登場。場面をはみ出した登場で、いきなり客席に向かって喋り出す。

なくなっちゃってかあいそうなの。……なぜ書けなくなったか？ ……とても心配なことがあって、それがとても、とってもたいへんなことで……わかる？ なにがそんなに……

兄の大介、ナナよりはるかに年上——  
がとび出して声をかける。

大介 ストップ!

ナナ ……(不満そうに兄を見つめる)

大介 どうしてそんな喋り方するんだ。児童

劇じゃない。お客さまはみんな大人なんだよ。

ナナ (態度をあらため) あたしがナナちゃんです。中学三年です。

大介 もういい。(引っ込め態度)

ナナ ……(口をとんがらして見る)

大介 お前は主人公。だから行動は慎重に。ことに喋りすぎは禁もつだ。もしストーリー

をばらすようなことが……

ナナ フン……(口をとがらせて退場)

大介 (客席に) あいつ、気まぐれでして……  
もつとを言えば、うちのおやじさんに少し、  
そのう……遠伝てわけじゃないけど……と

いうとほくもか。(ニヤリと笑い) 劇の進行は(明智をさして)あの先生がすすめてくれます。(退場)

明智先生はおもむろに前方に。

明智 あれがナナちゃんとそのあにき。わたしはある事情で、止むを得ず舞台上に立つて……その辺の事情はいずれ……エエ、

それまで、しばらく狂言廻しの役をいたします。(歩きまわる) わたしは医者、それも(はずかしげに)精神科……精神科医というと、世間ではいささか、神秘的な心理魔術でも使うようなイメージを持っていてるようですが、ひどい誤解です。まったく、わたし自身、みずからの人間存在を裸にして、それで患者、つまり病める隣人の心近づく、心を理解する……それだけと言ってもいいんです。ま、そんな因果な職業のために、おかしな狂言廻しをつとめる破目にと、……

看護婦の江戸川さんの案内で、五〇才すぎの婦人が二人登場している。ナナの母の近松千代子とその姉とみ。

明智 相談に見えたあの二人連れ、姉妹でしょ、妹の方がじつはナナちゃんのお母さん。(診察室にもどる)

とみ 妹はもうひとりでよくよ、だから明智先生にご相談なさい、無理矢理引っぱりだしたの。この年して人みしりで、なんていうんでしょ、ときどき話が支離滅裂になっちゃうたりするんだけれど。

千代子 支離滅裂なんて、ひどいわよ、でも先生は専門家、心配いらないから、精神科の専門家の専門医だもの。

明智 神経科といった方が当りがいいんですよ、おくさん。

とみ よろしくおねがいます。(妹に) さ、あなた。

明智 なにかからでも、気楽に、思いつくままにお話ください。

千代子 はい。(もじもじしている)

明智 (手元のメモをみて) ご家族は四人。ご主人と息子さん、娘さん。ご主人のご職業は劇作家。近ごろはどのようなお仕事

なとていらっしゃいますか?

千代子 あ、児童劇、こどもの芝居を……

……あの、うちは劇作家といっても、あの、

学歴が、そんなこと関係ないでしょうけど、  
……あの、労働者あがりなんで。その、新  
劇の作者……新劇って、とても生活が。そ  
れに世渡りからきしダメな人でして、い  
ま、児童劇で……あの、それもこのごろ、  
さっぱり……そんなんで、四、五年前から  
うつ病になったのです。

明智 うつ病……医者に？  
千代子 病院にすーっと通ってます。  
明智 なに科にかかっていますか？  
千代子 脳外科です。  
明智 診断では？ 病名はきいていますか？  
千代子 高血圧と、それから、脳の循環障害  
とかで。

とみ (横から) 頭の血のめぐりが悪いんだっ  
て、失礼しちゃうじゃないの。  
千代子 でも、心配はなさそうなんで。

明智 現在の状態はいかがですか？  
千代子 いま、主人には、とくにこれという  
ことも、もともとが少し変わった人は人なん  
ですが。

明智 というと、ご主人のことではないんで  
すね、ご心配になっていることは？  
千代子 ……あの、先生、その、へんなのは、  
なんとなく、その、家中が、へんなんです。

も、書いていた芝居は原爆もの、ヒロシマ  
とかナガサキとか。でも、先生、じつは原  
爆の芝居って、お客さんに嫌われるんです。  
でも、あの人はそうなるムキになって、  
でも、そうでしょう、松本豊徳さんとか、  
森村栄一さんみたいに、ベスト・セラーの  
大作家になれば、何書いたって名前で売れ  
るけれど、食うや食わずの新劇でさ、それ  
でなくたって新劇は暗くって、理屈っぽくっ  
て、お客さんに横向かれちゃってるのに、  
ちっともこりないんです。それでこどもの  
芝居、学校通りの劇団の芝居を書きはじめ  
たのはいいんですが、それでもすよ、核  
戦争がいずれおこる、人類は滅亡する、そ  
ういう芝居を思いつめて、それをなんとか  
こどもの芝居に書こうっていうの。そんな  
芝居どこの学校だって受けつけやしません  
でしょう。それでもあの人は目がさめない  
んだから。だから、仕事がうまくいかな  
いし、だから、家族会議まで開いたんです。

明智 家族会議？

千代子 生活がかかっていますもの。芝居を書  
いてごはんを食べてゆくんなら、まずお客  
さんがよろこぶ明るく楽しいお芝居を、お  
父さん、心を入れかえて書いてもらわな

明智 どういうことですか？ 家中というの  
は？

千代子 ……あのウ、やっぱり、家中です。  
それが、先生、なんと説明したら……  
とみ この人、知らない人の前だとすぐ混乱  
しちゃうの。あの、言葉が出なくなっちゃ  
うの、それは昔からなんです。でも先生、  
大丈夫です、バカじゃないんだから。

明智 まあ、まあ、まあ。  
千代子 ……その、よくわかんないんですが、  
うちのなかに、なにかが……(黙ってしま  
う)

しばらく、間。

明智 じつはおくさん、わたしはご主人の近  
松さん、劇作家の近松三吉さんの、かつて  
はファンでした。いまはもう演劇からは  
遠ざかっていますが。

千代子 ま、先生が、うちの人、ご存知ノ  
とみ ま、おどろいた、そうなの。  
千代子 うち、ちっとも有名じゃないのに。  
とみ テレビドラマの註文がくるわけじゃな  
いのに、よく、先生は。

明智 学生時代、演劇青年でした。ひところ

は劇作家になろうと考えたことさえあるん  
です。しかし、なにか生活がなり立ちにく  
い職業とかで、みんなから止せといわれて。  
千代子 そうですとも、よかったですわノ  
とみ お医者さんになれる人が、なにを好ん  
で芝居なんか。

明智 しかし、近松さんの戯曲は読みました。  
舞台も何度も観ています。  
千代子 (立って礼をする) ありがとうございます  
います。

明智 で、うまくいっていますか？ いま、児  
童劇の方は。  
千代子 それが、思わしくないんです。あの  
人はものをつめる性質だから……

明智 思いつめるって、なにをですか？  
千代子 ……(しばらくして) あの、核戦争  
のことなんです。  
明智 ……核戦争？ ……それと、お仕事の児  
童劇とは？

千代子 いっぱいなんです。らしいんです。  
頭のなかが、とてもそれで……  
明智 ……そうですか。近松さんの戯曲には、  
原子爆弾の題材が多かったですね。……し  
かし、どうも……

千代子 (足音になってくる) あの、新劇で

出した時は、頭がすぐ活動的になって、  
いい考えが浮ぶんだって。

明智 ……芸術家にはあり得ることでしょう  
ね。で、ご心配にはならないんですか？  
千代子 大丈夫なの。そんなとき、いつもナ  
ナがついてゆきますから。とても父さん思  
いなんです。

明智 ……美しい話ですね、今どき。  
千代子 そうかしら。  
明智 では、その時も娘さんがお父さんのあ  
とについて……

千代子 はい。それで二時間ぐらいたら帰  
ってきました。もうケロリとして……そ  
の晩でしたの、異変がおきたのは。

明智 異変ですって？  
千代子 夜中、……もう明け方だわ、四時頃  
なの。お父さん、パツパツ起きて……あの紙、  
原稿用紙つなげて、お正月の書きぞめ  
の紙みたいなもの、それにマジックでなにや  
ら書いてるの。それが先生、ナナちゃん  
は宇宙人……

明智 なんです？  
千代子 ナナちゃんは宇宙人。芝居の題名、  
お父さんは題名を思いつくと、大きく書い  
て壁に下げて、にらめっこくらししてらんです。

いつも。

明智 あたらしい芝居の題名ですか。

千代子 ナナちゃんて、娘の名、中三の。だから、自分の娘が宇宙人て、ことかしら。

とみ おかしな芝居考える人よ、ねえ。

明智 風変わりな題名ですね、たしかに。でも、それが異変なんですか？

千代子 ……あの、リヤリズムなんです、あの人の芝居。

とみ バカ真面目なよね、リヤリズムって。

千代子 リヤリズムなのに宇宙人なんて……

明智 (へが笑い) ま、それは……創作だから、宇宙人でも、フランケンシュタインでも、ナポレオンでも、なにがとび出してきても、不思議はないと思います。

江戸川さんが入ってきて、業務をしなから話をきいている。

とみ でも、それからだろう、千代子、宇宙人が入りこんだのは。

明智 え？ どういうこと？ 宇宙人が入りこんだのは。

千代子 お父さんの頭の中。

明智 ハア、では、お芝居のことで頭が……

千代子 ……

明智 ……

千代子 それだけなら、いつものことで。

明智 すると、ほかに、ご主人の様子に？

千代子 あの人は前から、へんてこな人です。

から……あの、ナナなんです、おかしいの。

明智 娘さんに、どんな変化が？

千代子 宇宙人がとりついたらみたい……

明智 宇宙人がとりついているとは？ 具体的に……

千代子 あの、説明できません。けれど、なんとなく、素直が宇宙人のような。

明智 おくさん、ごらんになったことあるんですか？ 宇宙人を。

千代子 見え見え、そんな、世の中にいないもの見えるはずなんか。

明智 そうでしょうなア。

千代子 でも、やっぱり、宇宙人みたい。

明智 はて、それは、……どんな？

千代子 ……(黙ってしまふ)

明智 なにか、変化があったんですね。

日常の動作とか……顔の表情とか……あるいは、ことば、ことばづかい……

千代子 あの、あの、本が、本です。

明智 本とは、図書のこと？

千代子 はい。

明智 では、よむ本が、とくになにか変わった

と……

千代子 そう、そうなんです、先生。少女フレンドとか、コミックとか、マンガ本……

あの、いまままでと全然ちがう本、よみはじめたの。来年高考受験ですから、気をつけてたんです。マンガばかり読んでちゃいけないと、それがこの頃、見向きもしないみたい、フレンドもコミックも。

明智 なにを読んでいるんです？

千代子 あの、その、硬い本なんです。中三の女の子が読むなんて、とても思えないみたい。

明智 具体的に……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

千代子 ……

明智 ……

の発源地は息子です。大介だと思うの。お父さんはぶっ固いリヤリズムの作家なのに、いい年して、宇宙人、だなんておかしな芝居、思いつくはずないもの、これは大介が糸をひいたからと想っています。

明智 どうしても、それは悪いことじゃない。若者のあたらしい思考を受け入れることですから。

千代子 あの、じつは父さんと大介とナナと三人は同盟を結んでいます。

明智 同盟って、なんのためにです？

千代子 あたしを除け者にするため。

明智 なんでおくさんを除け者にする必要があるんですか。

千代子 わかんないけど、三人が同盟していることは絶対確実、あたしにはわかるの。

明智 その同盟と宇宙人は、どういう関係が。千代子 宇宙人はお父さんの幻想です。それがナナに感染しちゃって、その大もとの仕掛人は、息子の大介なんです。

明智 宇宙人は幻想であって、実在はしない。そう思っただけじゃありませんか。

千代子 幻想です。でも、また、ジツザイですか？

千代子 じゃ、ジツザイしています。幻想だけどジツザイして、あたしを苦しめてるの。なんのためだかわからないけど、宇宙人はいます。ナナのなかにも、父さんのなかにも。とみ、ごらんない、ね、先生。千代子をおすけてやって。かあいそうなんです。劇作家の卒主を支えて、苦勞の重ねばなしなの、あげくのはてが、ね、先生、おねがいします。

明智 そうですね、とりあえず、娘さん、ナナさんをよこして下さい。

明智は立ち上る。二人の婦人は退場する。江戸川さんがおくり出す。

明智ひとり。江戸川さんもどってくる。二人とも。

明智 そりや、姉妹だもの。

江戸川さん あのおくさん、どうやら分裂症気味。

明智 だろうね。ところで聞いたことある？ 宇宙人妄想なんて。

江戸川さん いいえ、そんな突拍子もない。明智 ご亭主、近松三吉という人、バラノイアかも知れん。世界の絶滅滅局感というのは、昔からある妄想の一種だから。しかし、核戦争というのは……(考える)

江戸川さん 娘をよぶのね。

明智 まず、あの母親の言動を、娘がどうみているか。

江戸川さん おかしいのは、母親の方じゃないのかしら。

明智 ほんとに同感だ。(前方に出てくる)

この、宇宙人云々、妄想にしては子供っぽい、時代を反映はしているんでしようが、……それが、まさか。

暗くなる

## 2 不思議なナナちゃん

診察室に、江戸川さんがナナを案内してくる。すわらせる。すべてマイム。やがて、明智が出てきて、ナナの前に。

明智 ナナちゃん、とよばせてもらいますよ。

ナナ (うなづく)

明智 昨日お母さんが、伯母さんといっしょにみえてね、少し神経が衰えているみたい。お母さんの話うかがっただけじゃ、よくわからないところもあるから、ナナちゃんに来ていただいたの。ナナちゃんが話したことは、先生は医者としてだれにも言わないから、安心してね。

ナナ (うなづく)

明智 ナナちゃんのお家に、だれか病気の人がいると思う？

ナナ (しばらく考えて) お父さんかな。

明智 それは、なんの病気？

ナナ ……うつ病。

明智 うつ病で、どういう病気だと思う？

ナナ (考える) わかんない。

明智 ……では、ナナちゃんに、うつ病でコトバ、どうして出てきたの？

ナナ 母ちゃんがいつも言ってるから。お父さんはうつ病で。

明智 そう。ナナちゃんもお父さんをみていて、病人なんだな、と思う？

ナナ ……わかんない。どうなんだか。

明智 ……ということは、お父さんは病気で

はないかもしれない、とも思うの？

ナナ ……(大きくうなづく)

明智 ……もし、そうだとしたら、病気でないのに、どうして病気だと思われているの

だろうねえ、お父さんは。

ナナ 少しかわってるからでしょ。

明智 どういうところが？ かわってるの。

ナナ 心配ばかりしているもん、ずーっと。

明智 ずーっと……なにを心配してるの？

ナナ いまに、核戦争がおこるって。

明智 ナナちゃんにもわかるのね、お父さんがいつも、それを心配しているって。

ナナ (うなづく) もう、ずーっと前から、

わかってる。

明智 ずーっと前って？ いつごろから。

ナナ ……あたしが、幼稚園ぐらい。

明智 ほう、そんなに小さい頃から……

どうして、ナナちゃん、わかってたの？

ナナ お話してくれたらもん、毎日。

明智 どういうお話？ ……核戦争のこと？

ナナ ちがう。

明智 というところ……覚えてる？

ナナ うん。……ブッッッ。

明智 ブッッッ？

ナナ もの、物質、空間にゾンザイする。

明智 え？ こりゃまた、……むずかしい

話……また、よく覚えてるんだね、ナナちゃん。

ナナ 原子の構造。

明智 ゲンシ。原子核の原子？

ナナ (うなづく) 原子核……陽子……中性子。

明智 おやおや……

ナナ オットー・ハーン。

明智 オットー・ハーン。なあに？それは。

ナナ 学者の名前。オットー・ハーンは核分裂を発見して、原子爆弾のなんとか。それからアインシュタインでしょ。それから、マンハッタン計画でしょ。それからオッペンハイマー博士。(ゼスチュア入りで動きはじめる。なにかにとりつかれたように)

それから、それから、ロス・アラモス、ド

ドン・パイン、人類のあたらしい火、運命の火、アラモゴード……それから……

(深刻な表情) ヒロシマ・ナガサキ……

明智 (あつげにとられ、あわてて) あの、ちよっと……幼稚園、うんと小さいとき、

そういうむずかしいお話、ナナちゃんにし

たの？ お父さんは。

ナナ (うなづく)

明智 おもしろかった？

ナナ (うなづく)  
明智 お話のなかに、わかった？

ナナ わかった。  
明智 そう。しかしあんた、よく覚えてい  
るね。

ナナ 何度も何度もきいたもん。  
明智 でも、ナナちゃんの記憶力、大したも  
のだ。

ナナ あのね、このごろ、思いかえしてるの。  
明智 ほう、どうして？ 思いかえしている  
のかな？

ナナ (考える)……よくわかんない。  
明智 なにか、わけがあるの？ 思いかえし  
たりしているのに。

ナナ ……そうね、宇宙人のインスピレ  
ーションがあったからかしら。

明智 ……宇宙人のインスピレーション、そ  
う言ったね。  
ナナ (うなづく)

明智 一つのこと？ それは。  
ナナ お父さんが母ちゃんと喧嘩して、いつ  
ものようにとび出して、あたしがくっつい  
ていった晩。

明智 インスピレーションで、どんなこと。  
それが宇宙人からというの、どういうこと

と？ なぜ、宇宙人からと、いうことがわ  
かるの？

ナナ ……わかんない。心のなかでそう思っ  
たの、ああ、宇宙人からだ。って。だか  
らお父さんにそう言ったの。

明智 その話、もう少し詳しく。お父さんは  
どうして、夜、家をとび出したの？  
ナナ ……お母ちゃんの方が強いから。お父  
さんはいつも避難するの。

明智 お父さんは、お母さんに弱いね。  
ナナ ……弱いけど、結局強いの。

明智 それは、どういう意味？  
ナナ お母ちゃん、いくらヒステリになって  
も、少しもかわらないから。

明智 かわらないって？ なにが。  
ナナ ……核戦争のお芝居、考えること。  
明智 お母さんは反対してるのね？  
ナナ (うなづく)

明智 なぜ、お母さんは反対してるのかな？  
ナナ (考える)……よくわかんない。  
明智 ナナちゃんは？ お父さんのお芝居、  
賛成？ 反対？

ナナ 賛成……大賛成。  
明智 お父さんは、そのお芝居の話、ナナち  
ゃんに話したの？

(トランス状態に移ってゆく)

江戸川さんが登場して見ている。  
ナナは自分と父の二役を演じはじめる。

ナナ どうして、いけないっていうの、みん  
な、核戦争の芝居。  
(父の声) まず、売れないからだろうね。  
ナナ どうして、売れないの？

(父の声) ……こわい、いやな話だから。  
それに、こどもを不安にさせるだけだと。  
ナナ どうして、大人はそう言うの？  
(父の声) 考えたくないからさ、核戦争  
のことは。

ナナ なぜ、考えたがらないの？  
(父の声) 考えたって、解決できそうも  
ないからだな。  
ナナ でも、準備はしてるんでしょ、アメリ  
カもソビエトも。

(父の声) してるとも、お金をかけて。  
ナナ バカみたい？  
(父の声) それが今の人類の姿なんだ。  
ナナ 核戦争になったら、こどもはなにも知  
らないで死ぬだけなの？  
(父の声) こどもだけじゃない、ほとん

どの人間はみんなそうなるんだよ。  
ナナ 大人たちのバカノ核戦争のバカノ  
こどもはバカの道連れ、それで死んじゃう  
ノそんなら、自殺しちゃう方が  
いいわ。大人たちのバカな核戦争の道づれ  
になる前に、自殺しちゃうの、こどもたち  
がみんなノ その方が人間らしいでしょ。  
なんにも知らされないで、死んじゃうより。  
もし、こどもがみんな、自殺して抗議し  
たら、大人たち反省するかしら、核戦争は  
バカらしいって。  
(父の声) ナナノお前なんてことを。  
ああ、だが、なんてその話は悲しい話だ。  
ナナ お父さん、核戦争の芝居書いて。こど  
もが絶望して自殺しちゃう話でもいいの。  
こわい話でも、悲しい話でも、お父さん、  
自信をもって書くの。それが、人類に対す  
るお父さんの任務なの。  
(父の声) ナナノ お前はなんてことノ  
ナナ インスピレーションノ 宇宙人がイン  
スピレーションでナナに言わせているのよ  
(父の声) 宇宙人ノ  
ナナ (大きな舞踏的な動きとゼスチュア)  
天の速いところからエネルギーノ……宇宙

ナナ うん。……お父さんは、もうこどもの  
心がよくわかんないんだって。だから、ナ  
ナ、お前どう思うかいって。

明智 その辺を、もう少し詳しく話して。  
ナナ アメリカとソビエトとにらみあってる  
でしょ、核ミサイルで。もし、核戦争にな  
ったら、人類は滅びるかもしれないでし  
よ。だから、そういうこと、なんとかお芝  
居にしたいんだって、お父さん。でも、み  
んなに反対されるんだって。こどもに見せ  
るのはよくないって。学校に売るにもむず  
かしいんだって。それでも、お父さんは書  
きたいんだって。でも、とてもむずかしい  
んだって、ゲイジツ的に。むずかしくて、  
頭の中こんがらかって、書けなくなっただ  
って。それがうつ病の原因でしょ。それ  
でね、お母ちゃんはきらうのよ、お父さん  
とあたしが核戦争の話なんかするのを。

明智 どうして、きらうのかね？  
ナナ 来年高考受験だからでしょう。お母ち  
ゃんは、女の子が核兵器とか、政治のこと  
に興味をもって、もし活動家になったら、  
とても心配してるの。だって、どこの高  
校にも入れてもらえなくなるから。

明智 なるほど、それで。

人が助けにきているの。地球を、バカな地球人を。核エネルギー、爆弾やミサイルばかりいっぱい、自分で自分の首しめてるバカな地球人。それを助けに、上にきてるの。エンバンだか宇宙船だか……そこからテレビシー、ナナはいま感じてるわ……

ナナは急に力がぬけたよう、ソファにすわり放心状態。  
明智と江戸川さんは前方に。ナナの照明はやや暗くなる。

明智 どう見ます？ 江戸川さん。

江戸川さん こんな娘って、あたし……

明智 たくいまれな特異能力者か、天才的な演技者かのどちらかだ。あの娘はすばらしい俳優であるかも。

江戸川さん 芝居としたら、なんのため？

明智 かいもく、それが、ぼくには……

江戸川さん ほんと、宇宙人がとりついでるって、あのお母さんが言うはずだわ。

明智 (客席に) おききになってますね、あの娘の記憶、お伽ばなしのかわりという父親の話、あの言葉の連続は、核兵器開発の歴史……母親が感じていたのは単なる妄想

ではないようです。……もう少し、ナナちゃんの面接をきいて下さい。(ナナのもとへもどってゆく。)

ナナは軽い放心状態にいる。

明智 お母さんのこととききたいんだけど、お母さんはナナちゃんについて、いろいろ心配しているらしい。なにをいちゃばん心配していると思う？

ナナ 来年の高校受験。

明智 受験は、自信ある？

ナナ (うなづく)

明智 でも、お母さんは心配なんだね。

ナナ あのね、先生、お母さんは、核戦争よりもっとこわいもの、あるんだよ。

明智 核戦争よりこわいもの？

ナナ あたしがさ、中学生の活動家だと思われてさ、内申書に書かれて、どこの高校にも入れなくなるって……母親って面白いのね。(笑う)

明智 (啞然として) ナナちゃん、自分を活動家だと思ってる？

ナナ 思っていない。でもナナには宇宙人がとりついているから、思われても仕方ない。

明智 ナナちゃんは、自分に宇宙人がとりついていると、思っているんだね。

ナナ (うなづくクタクと笑う)

明智 宇宙人で、どんなものか、先生に説明してくれないか。

ナナ (考える) できない。

明智 ……どうして？

ナナ ことは使えないもん。

明智 ことは使えない？

ナナ ナナの頭じゃ、まだ使えないもん。

明智 ……そうすると、だれなら使えるの？

ナナ (考える) ……お兄ちゃん。

明智 兄さんの大介さんだね。

ナナ (うなづく)

明智 お兄さんと、宇宙人の話、いろいろするんだね。

ナナ (首をふる) あんまりしない。

明智 しないのに、どうしてわかるの？ お兄さんだと説明できるって。

ナナ SF好きがいだから。多分そう思うのよ……あと、わかんない。

間。

明智 もうひとつ。ナナちゃんは本を読むの

好きなんでしょう？

ナナ (うなづく)

明智 このごろ、どんな本読んでるの？

ナナ たくさんある。フレンド、マーガレット、コミック、少年ジャンプ、中三時代。

ノストラダムスの大予言……

明智 おやおや。そのほかにも、このごろ読

みだしたんじゃないの？

ナナ ああ、あれか。あちこち探して読むから、本の名なんて……

明智 どんなこと、探して読んでるの？

ナナ (どこか夢みる調子で) ……いろんなこと……あちこち……いま、準備中……あのね、宇宙のことだよ。……地球のことだよ。……人間のことだよ。……遺伝のことだよ。……いっぱい、ひろがって

いくんだ。

明智 そうか、百科辞典の大項目みたいなことなんだね。

ナナ 太陽系でしょ。物質でしょ。生命でしょ。科学でしょ。……神でしょ。……核文

明……エノラ・ゲイ……

明智 エノラ・ゲイ……原爆積んだ爆撃機じゃないか……

ナナ 生物、エコロジイ……核戦略……核抑

止……核先制攻撃、限定核戦争……(無邪気に) もういい、先生。

明智、信じられないようにナナをみて

明智 (客席に) ききましたかノ……抽象的な言葉を次々、中学三年の少女がです。しかも、コトバの連想にはテーマがある。テーマへの志向性がある。それは、核です。

核文明ノ……このおチビさんの脳細胞は？

……わたしを、精神科医のわたしをからかっているのか……わたしが夢をみているのかノ……(ナナに対して) ナナちゃん、いま、いろんな言葉並べたけれど、その意味を説明できるかなノ ナナちゃん。

ナナ (うなづく)

明智 きいてもいいねノ

ナナ (うなづく)

明智 「限定核戦争」って、なあにノ

ナナ ……インチキ。

明智 インチキノ、どうしてノ

ナナ ……核戦争はじめれば、世界中へひろがるの。……だから、ひろがらないような核戦争のやり方のことですよ。でも、使い

だしたらひろがっちゃう。だから、インチキ。

明智 ナナちゃんは、自分の頭でそう考えた

のノ (抗議の調子をこめて) 核兵器なんて見たことないノ 先生だってそうでしょ。

だもん、自分で考えられないじゃん、みんな本でよんだこと。本……本……本……

明智 それじゃ、ナナちゃんの考えじゃないんだ。

ナナ (怒る) あたしの考えよノ 本でよんだこと、あたしが信じて、正しいと思って

るなら、あたしの考えじゃん。だから、本がインチキなら、あたしもインチキになる

の。

明智 では、もうひとつ。「核先制攻撃」て、

言ったね、あの意味は？

ナナ ……(しばらく) キチガイノ

明智 キチガイ。

ナナ だって、キチガイじゃん。人間はみんな人殺しだ、ってきめちゃうんですよ。相手が手を出さないうち、先に殺しちゃうの。

そんな人いたら、いばん危険なキチガイでしょ。それとおなじでしょ。「核先制攻撃」で……キチガイ・キチガイ。でも、

「核光弾攻撃」てさ、研究はじめるとみんなとりつかれちゃうんだって。むちゅうになっちゃうんだって。こわいもんね、人間の頭って。

明智 てはね、ナナちゃん、これはよく考えて、答えてね。そのキチガイは、どこにいちばんたくさんいると思う？

ナナ (即座に、平然と) アメリカ。

明智 ……ソビエトには？

ナナ ソビエトにもいる。でも、本家はアメリカ。

明智 それは、どうして、ソビエトでなくてアメリカが本家なの？

ナナ (笑う) 先生、大人のくせに知らないの？ ……核兵器でものさ、はじめにこさえたのアメリカでしょ。使ったのもアメリカでしょ。使われたのは日本でしょ。核兵器をさ、ひとり独占して、世界にらみを利かしていたのもアメリカ。まだまだいっぱいあるよ。だもん、本家はアメリカ。…でも、先生、核兵器のことで、アメリカが大本だといっけいけいけい。

明智 そりゃ、どうして？

ナナ アインシュタイン博士がいつてももん。核兵器反対を唱えるとき、一方の核兵器が、

もう一方の核兵器より悪いって、言い方してはいけないって。だからナナはアメリカのこと言わない。でもキチガイの大本はアメリカ。これは思想の自由じゃん。

江戸川さん 明智の袖をひく。二人はナナをおいて前面に。

江戸川さん 先生、たいへんな娘ですわ！

明智 たいへんな娘はわかってる！

江戸川さん 中学生なのにイデオロギーははつきり。

明智 イデオロギーではありません。

江戸川さん ソビエト支持ですよ、明智先生、

明智 イデオロギーというより、論理的帰結です。核の問題については当然です。

江戸川さん いいんですか、そんな風に考え

て。

明智 何がですか？

江戸川さん あの娘、まるで魔女です！

明智 江戸川さん、あんた、セ、セ、精神病の看護婦でしょう！

江戸川さん その、先生の質問がよくなかつ

たんです！

明智 え？ どういう質問。

江戸川さん その、キチガイはどこにいちばんいるか、なんて。

明智 や、それは失態か。

江戸川さん 失態です！ 練達であるべき精神科医が使う言葉でしょうか。

明智 それも、あの娘が言い出したんだ。核先制攻撃とは、キチガイなり。

江戸川さん 弁解ですか？ 男らしくござい

ません！

明智 はい、どうも…

ひとり呆然としていたナナが、だんだん現実的になり、急にシクシク泣きはじめる。

明智と江戸川さんはナナのもとへ。

明智 どうしたの？ ナナちゃん…

ナナ ……あたし、あたし、まだ中三、女の子なのに…先生、カクセンセーコウゲキ

なんて、カクセンセーコウゲキなんて、先

生

明智 どうしたの？

ナナ かわいくないのオ——女の子らしくないのオ……ほんとはいやア、いやア、いやア、核兵器のことなんて、いやア——(ワ

177(近く)

明智 精神科医、目下失格…

明智と江戸川さん前方に。ナナのあたりは暗くなる。

明智 なにかおきているのか？

江戸川さん ワナがあるように思いますわ。

明智 そもそも宇宙人さわぎの相談、それ

であの娘を…異常な特異能力者か？

天才的な俳優か？ どっちだろうねえ、江

戸川さん。

江戸川さん 両方ですわ、先生。

明智 両方？

江戸川さん 特異能力者が、また芝居をして

いるんです。

明智 ふむ。なんのために？

江戸川さん わかりや苦勞しません。

明智 そもそも宇宙人さわぎとはなにか？

江戸川さん (なにかに思いあたり) 先生、

あの娘のお父さん、ほら、劇作家とか。

明智 ああ、近松三吉。

江戸川さん その人が書いてるって芝居。

明智 そう、ナナちゃんは宇宙人、

江戸川さん 鍵はそれです。

来客のもよう。江戸川さんは出てゆく。

明智 (モノローグ) 劇作家、近松三吉…

核戦争の危機を意識するあまり、戯曲が書けなくなった！…バカな、そんなことがあり得るのか？ 甘えもいとこじやない

か！…そのくせ、なんだって？、ナナちゃんは宇宙人、…自分の娘を宇宙人

に…その娘には、幼稚園に通っている頃から、原子爆弾開発ものがたりを、つまり

核戦争の危機教育を、お伽ばなしのかわりにしてきかせた。…それはなんのために。

いや、どうも、わたしの役割は単なる医者では… (考えこむ)

### 3 大介兄さんの挑戦

江戸川さんがあらわれる。

江戸川さん 先生、あの娘の兄さんです。

明智 む、敵さん、のり込んできたか！

江戸川さん 敵ですか？ 先生。

明智 母親の直感では、兄が仕掛人とか。

江戸川さん まア、あのお母さん、テレビの見すぎじゃないの。

明智 通してくれ、それから録音。(客席に向い) まア、こんな次第で、少しづつ深味に入りこみました。

明智は姿勢を直し、なにやらポーズをとる。江戸川さんが大介を案内して、大介はジーンズ姿。

明智 (威厳をもって) どうぞ。

大介 (威儀を正して) 明智先生、はじめまして。近松大介です。ナナの兄でして…

母や妹が、どうもいろいろいると。

明智 よろず相談は販売です。それで？

大介 ひとこと申しあげたら、おいとまするつもりです。

明智 そりゃ、また、ごていねいな。

大介 先生、ナナには、ナナには…

明智 (ニコヤカに) 利発な、すばらしい妹さんをおもちで。

大介 手、手、手古すりませんか？

明智 (ニコヤカ) なかなか、楽しい…

大介 (明智の態度に面くらいい) 先生、あ



の、あの、失礼な言い方だけど、精神科の先生に、……(言葉がつまり、力をこめて)地球人の、地球人の理解力じゃ、まず、ナナはどうにもならないんです。ナナは先生、なんですか？ 宇宙人妄想でしようか？ そのような妄想は、精神医学上の類型にありますか？

明智 ……ありますとも。できたてのホヤホヤ、ぼくが、明智小太郎氏がその名づけの光栄に浴したわけです。近松ナナちゃんは症例第一号ですね。

大介 (たじたじとなるが) ……ナナの宇宙人妄想……教えましょうか、その根拠。

明智 耳よりですな、どうぞ。

大介 反対質問はおことわりですよ。ぼくには答えられないから。なぜ答えられないかわかりますか？

明智 かいもくわかりません。ぼくはヤブの方なんで、名医じゃありませんから。

大介 (まずまず形勢不利と) それは、つまり、それは、ぼくが地球人だから。(ここのばの反応をみるため、明智をじっとみる)

明智 ……(平然と無反応)

大介 つまり、思考の次元が、地球人のレベルにとどまっているからです。

明智 それでいい。ぼくも平凡な地球人のヤブ医者。話ほうまく合うでしょう。

大介 (一息ついて、形勢を立て直さんと)問題は宇宙船です。(ややオーバーな動きで)宇宙船って、宇宙から地球にとび込んでくる粒子の宇宙線ではなくて、船の宇宙船。内装、UDF……これは他の星から来たもので、宇宙人はその宇宙船に乗ってます。……先生、わかりますね、ぼくの話。

明智 いや、もう、若い人の話として、じつにわかり易い、敬服します。どうぞ先を。大介 彼らがどんな生物体で、どんな感覚器官をもっているか。なんて知りません。しかし、彼らは地球の状況をかなりリアルにつかんでいる。つまり、地球を深知するために、特殊なエネルギーを発するんです。地球上の電磁波とは性質がちがうエネルギーで、生物の脳に直接、その脳のさまざまな機能や作用のうち、ある種の思考に反応するんです。そういう不思議なエネルギーを使って、地球の状況をつかんでいるんです。

明智 宇宙人て、すごく進んでますね、それにくらべたら地球の精神医学なんて、多分石器時代だ。どうぞ、先生。

大介 そのエネルギーが、この大都市のある一部に集中した。そこが一枚のアパートで、その四階に住む一家、とすればその一家に異変がおきるのは当然前、もうおわかりでしょう。それがわが家、わが一家なんです。

明智 おかげで地球のヤブ医者かひとり、ノイローゼになるかもしれないんだ。

大介 どうもすいません。では、今晚はこのへんで。

明智 有難な情報、感謝してます。

大介 それでは、(ゆきかける)

明智 ありがとさん、おおきに。

大介 (ふりかえり) 先生。

明智 はい。

大介 ぼくを、精神異常と思いでしよう。

明智 思わないんです。正常も正常、この上なしです。

大介 (がっかり) 失礼しました。

大介退場。

明智 (看護婦が見えないので) 江戸川さん / 江戸川さん /

いずくからかヒョッコリ顔を出す。

江戸川さん なんです / 先生。

明智 (はしゃいで) 仕掛けてきた、敵は / 緒戦の反撃 / 敵は打撃を受けた /

江戸川さん そうどうしですよ。それで敵の正体は？

明智 いまだ不明、正体も意図も、だが、尻尾は見えたぞ。(退場)

看護婦にのみ照明

江戸川さん ごらんの通り、オッチョコチョイですから、あれから録音テープをくり返し聞いては、ゴチャゴチャやってみましたけど、事態は急に発展しましたわ。

#### 4 宇宙人の実演

診察室全体にあり。

千代子ととみがすでに明智を待っている。明智がそそくさとあらわれる。

とみ 先生、大事件 /

千代子 ナナはほんものです。

明智 なにが、ほんものですか？

千代子 宇宙人のりょうつてるの、やっぱり。

明智 それは困った。

とみ 学校で大騒動 /

千代子 演説したんですって。

とみ それがあんた、宇宙人の演説。

明智 おちついて、学校でなにが？

とみ やったの、演説。宇宙人の、生徒たちの前で。受けちゃったんだって。それで校長先生が注意したのよ。

千代子 教頭先生よ、注意したのは。

とみ そうなの。教頭先生で、反動なんじゃ。

千代子 もちろん反動でしょ。どんな注意をしたか知らないけれど。

とみ びっくり、たまげちゃったのよ、きつと。

明智 どちらか、お一人で話して。

とみ じゃ、あんた、母親だもん。

千代子 ナナの演説って、それが、宇宙人のメッセージなんですって。宇宙人が地球に別れるときに。

明智 宇宙人が別れるとき？ そんなことを言ったんですか？ ナナちゃんが。

千代子 あの、また聞きなんですけど。その

演説がすごく受けちゃったんだって。んで、

教頭先生がなにか注意したら、ナナと言いがいになっちゃって、そしたら、教頭先生、

やり込められたんですってナナに、ああ、もう駄目よ、もう駄目よ /

先生、生徒がさわぎ出したんだって、みんなナナの味方になって。さわぎはおさまったらしいんだけど、あたしは学校へよはれましん。それはいいんですけど、ナナは怒っちゃって、もう学校へ行かないっていうんです。

とみ 登校拒否なんです、いま流行の。

明智 それですすね、ナナちゃんは、はっきり言ってるんですか？ 宇宙人と会ったというようなことを。

二人は顔を見合せる。

千代子 あたしたちには言いません。でも学校では言ってるらしいんです。

とみ ナナがやった宇宙人のメッセージで、すごくうまいんだって。評判なの、生徒たちの。

明智 この一件、お父さんはなんと行ってます。

とみ 先生、大事件 /

千代子 あの、また聞きなんですけど。その

演説がすごく受けちゃったんだって。んで、

教頭先生がなにか注意したら、ナナと言いがいになっちゃって、そしたら、教頭先生、

やり込められたんですってナナに、ああ、もう駄目よ、もう駄目よ /

先生、生徒がさわぎ出したんだって、みんなナナの味方になって。さわぎはおさまったらしいんだけど、あたしは学校へよはれましん。それはいいんですけど、ナナは怒っちゃって、もう学校へ行かないっていうんです。

とみ 登校拒否なんです、いま流行の。

明智 それですすね、ナナちゃんは、はっきり言ってるんですか？ 宇宙人と会ったというようなことを。

二人は顔を見合せる。

千代子 あたしたちには言いません。でも学校では言ってるらしいんです。

とみ ナナがやった宇宙人のメッセージで、すごくうまいんだって。評判なの、生徒たちの。

明智 この一件、お父さんはなんと行ってます。

とみ 先生、大事件 /

千代子 あの、また聞きなんですけど。その

演説がすごく受けちゃったんだって。んで、

教頭先生がなにか注意したら、ナナと言いがいになっちゃって、そしたら、教頭先生、

やり込められたんですってナナに、ああ、もう駄目よ、もう駄目よ /

先生、生徒がさわぎ出したんだって、みんなナナの味方になって。さわぎはおさまったらしいんだけど、あたしは学校へよはれましん。それはいいんですけど、ナナは怒っちゃって、もう学校へ行かないっていうんです。

千代子 さあ……あの人は……  
明智 ナナちゃんはお父さんに話したんでしょ、当然。

千代子 そんな様子も……  
明智 では、お父さんが報告されたわけ？

千代子 あの人、知ってたけれど……  
明智 すると、お父さんは情報をどこから、千代子へんねえ。知ってたみたいだけれど、どうしてかしら？ そう言えば。

明智 ナナちゃんをよんで聞いてみましょう。  
宇宙人のメッセージなんて、そもそもどこから生れたものか。

千代子 ああ、先生。あたしもその場についていいんでしょね、母親なんだし。

とみ あたしも先生、伯母さんなんだし。  
明智 そうですね、これもナナちゃんまかせ、インタビューには本人の意志が大切なんで。

千代子 母親ですもの。  
とみ 伯母さんですもの。  
明智 ハイハイ、では早速。

二人はあたふたと出てゆく。  
江戸川さんのお前の方に、客席に語る。

江戸川さん ごろんの通り、うちの明智先生、

お医者さまでもまったくの算術知らずなんです。もっとも算術好きでは精神科なんてやれませんがね。薬や手術で病気を治すのはありがたがっても、患者と話をするだけで病気を治すなんて、安っぽくてインテリクさいと思ってるのが、日本人の認識ですもの。日本の精神科医は、マジメにやったらアゴが干上るようになっていきますの。ましてやその看護婦に至っては、きくもあわれでございます。ところでこのさわぎ、中学生・宇宙人・核戦争、下手な三題噺じゃございませぬけれど、どうなること。ほんと

はあたしも興味しんしんします。  
診察室。明智の面接をうけるナナ。かなり離れた一隅に千代子ととみ。不安と興味で坐っている。江戸川さんは目立たぬように自分の位置にもどる。

明智 学校であつた話きいたけど、なかなかの評判らしいね、ナナちゃん。宇宙人に会つたんだって……先生もぜひききたいんだ。……でも、ナナちゃん、その話をお母さんにはなしてないようだけれど、なぜ話さないの？

ナナ あかりなんかじゃないの。けれど、ぼんやり光ってみえた。  
明智 ……格好は？ 人間の格好していた？  
ナナ うん。人間とおなじ。宇宙服みたいなのを着て。  
明智 こわくなかった？  
ナナ 半気。宇宙人は野蠻じゃなあって、わかっていたもん。

明智 なんてわかっていたの？ 宇宙人が野蠻じゃないという情報。  
ナナ メッセージをきけばわかるの。宇宙人は野蠻じゃありません。地球人みたいに。なぜそれがわかっていたか、つてことは、ナナにはわからないの。  
明智 宇宙人が下りてきて、それから……  
ナナ お話したわ。女の人、宇宙人、若い女の人、声がそう。……はじめ「アナタ、ナナちゃん、アリアスカ？」して。  
明智 日本語で？  
ナナ うん、日本語。  
明智 なまりはなかった？ 外人みたいなの。  
ナナ あつた、へんな日本語。でも日本語よ。  
明智 名前知ってたの？ ナナちゃんて。  
ナナ 知ってた。  
明智 不思議に思わなかった？

ナナ お母さん、信用しないもん。それから、あの人、宇宙人らしい。  
明智 ……お父さんには話した？  
ナナ (首をふる)

明智 話さないの、どうして？  
ナナ ……必要ないもん。  
明智 なぜ、必要ないと思うの？  
ナナ ……知ってるもの、

明智 どうして知ってるのかなあ、お父さんは。ナナちゃんが話さないのには。  
ナナ (ややヒステリックに) 知ってるの。なぜだかわかんないけれど、お父さん知ってるの、ナナにはわかるの！  
明智 そう。それじゃ兄さんは？ 兄さんに話した？

ナナ ノーコメントです。  
明智 なぜ？ 兄さんも知ってるから？……  
ナナ ノーコメントのなぜ？ ノーコメント意味なしでしょ！  
明智 そうだ、やめよう。……そこでナナちゃんが宇宙人と会つた場所だけど。

ナナ うちのアパートの屋上。  
明智 時間は？ 何時ごろ。  
ナナ 夜。暗くなってから。  
明智 そのとき、ナナちゃんひとり？ 他に

だれか……

ナナ あたしひとりきり。

明智 そんな時間に、どうして屋上にいったの？

ナナ 宇宙人に会うため。

明智 約束したのかな。屋上で会って。

ナナ (きびしく) できるはずないでしょ。

約束なんて、宇宙人に。

明智 それじゃ、夜なのに屋上にいったのはどうして？

ナナ 予感があるの、インスピレーションのときとおなじに。なぜ予感があつたのか、ナナにもわかんない。

明智 ……宇宙人の様子は？……宇宙船みたいなものは？

ナナ わかんない、宇宙船とかエンパンだか、上にあつたって遠くで見えやしないもの。……星みたくにはんやり光るものが、下りてきたの。はじめ、星かしらと、思ったわ。……だんだんそれが……アパートの上、ぼんやり光るもの……宇宙人だな、と思つたの。

明智 光っていた？

ナナ うすばんやり。

明智 あかりをつけていたのかな、宇宙人は。

ナナ あかりなんかじゃないの。けれど、ぼんやり光ってみえた。

明智 ……格好は？ 人間の格好していた？  
ナナ うん。人間とおなじ。宇宙服みたいなのを着て。  
明智 こわくなかった？  
ナナ 半気。宇宙人は野蠻じゃなあって、わかっていたもん。

明智 なんてわかっていたの？ 宇宙人が野蠻じゃないという情報。  
ナナ メッセージをきけばわかるの。宇宙人は野蠻じゃありません。地球人みたいに。なぜそれがわかっていたか、つてことは、ナナにはわからないの。  
明智 宇宙人が下りてきて、それから……  
ナナ お話したわ。女の人、宇宙人、若い女の人、声がそう。……はじめ「アナタ、ナナちゃん、アリアスカ？」して。  
明智 日本語で？  
ナナ うん、日本語。  
明智 なまりはなかった？ 外人みたいなの。  
ナナ あつた、へんな日本語。でも日本語よ。  
明智 名前知ってたの？ ナナちゃんて。  
ナナ 知ってた。  
明智 不思議に思わなかった？

ナナ 思わない。宇宙人はあたしのところへ来たんだから。

明智 宇宙人の服の色、なに色だった？  
ナナ うすいピンク。  
明智 服に模様とか飾りとか、そういうものに気がつかなかった？  
ナナ ベルトしめてた。濃いエンジ色の。  
明智 見たのね、それを。  
ナナ うん。

明智 屋上に灯りついているの？  
ナナ 灯りなんてないもん。  
明智 じゃ、真っ暗なんだね。  
ナナ 真っ暗でも服の色見えるよ。宇宙人と向き合つてるとき、ナナの服はちがうのよ。日だつて、耳だつて、それから、脳の働かさだつて、ふだんとはちがうのよ！  
明智 脳のはたらき？

ナナ そう、ナナと宇宙人、二人の間、特別のエネルギーが流れてるの。地球のネコだつて、暗闇でちゃんともを視るじゃん。明智 なるほど。……宇宙人はなんの用で地球へ、しかもナナちゃんのところへ来たのかな？  
ナナ ……メッセージで言うわ。  
明智 ……では、どこの星から来たのかな？

ナナ ……それもメッセージで。

明智 宇宙人とおもにどんな話をしたの？

ナナ たくさん、いっぱい、いろんなこと。

明智 では、ずいぶん長い時間話していたんだね。

ナナ とても長い時間。でも、ほんとは少しの時間みたい。

明智 ……それ、どういう意味？

ナナ 夢なんかそうでしょ。長い時間みてたつもりでも、ほんとは短い時間であるじゃん。

明智 というところ、宇宙人と話していた時間、ナナちゃんには夢みたいに感じられるっていうことかな。

ナナ 夢って？ なにかしら？ 頭ン中に見ていても、実際には宇宙人はいなかったっていうの？

ナナ でも、ナナが頭の中で見ていたんだからナナにとってはほんとなの。ハッキリおぼえていいるんだから、夢でもほんともナナにはおんなじ。

明智 (ナナのことばに少したじろぐ) 宇宙人とどんな話をしたか、覚えてる？

ナナ (うなづく)

明智 話してくれないか。

ナナ たくさんあるもん…ありすぎるもん。

明智 おもなところ。ほら、お父さんが話してくれた核兵器の歴史、ナナちゃんが読んだ本の項目、あのように話してくれないか。

ナナ ……(じっと考える) あたし、はじめに訊いたの。「どうしてナナのこと知ってるの？ 宇宙人さん」で。そうしたらね、

スコースルンザイラカンチスルソーチ(思考する存在を感じる装置)のはなししたわ。わかんないでしょ。スコースルンソーチって、レーダーとおんなじ。人間の考えを見つかるレーダー。宇宙人はそれでナナのこと知ってるんだって。

明智 そんなむずかしい、お役所で使おうみたいな日本語使うの？ 宇宙人は。

ナナ うん。

明智 たえば、マインド・キャッチ・レーダーなんていえば、もっとすっきりすると思うんだが。

ナナ あたし、英語の点がよくないから、だからでしょ。

明智 ナナちゃんの学科の成績まで、宇宙人は知ってたのねえ。

ナナ 宇宙人は頭が固くなってるの、古い日本語が好きなの。そのくらい同情してあげ

てもいいでしょ。

明智 同情してあげる？ 宇宙人に。

ナナ (少し狼狽して) 宇宙人だって…宇宙人だって…(悲しそう)

明智 (気を引き立てるように) 話をつづけようね。宇宙人はどんな言葉づかいしたの？ やってみせてくれない。ナナちゃんは上手だもん。あんまりうまくない日本語なんだってね。

ナナ (宇宙人の声色をまねて) 「アంత、ナナチャン、アルカヨ」…アルカヨだつて。(笑う)宇宙船、トクベツ装置アルヨ。

地球ニ、向ケルアル、サガスアル、思考スル存在ヲ検知スル装置、サガスアル。」(立ち上ってセスチュア入りで演じる。)

(宇宙人) 地球、運命、考エル、心配、心配、タクサン心配、精神エネルギー、装置、感知スルアルヨ。コトバワカルカヨ。

(ナナ) あの…あたし、円盤に連れてゆかれるの？…

(宇宙人) 心配イラナイアル。ワレラ目的、地球ヲケルアル。ナナチャン、ハタライテモラク。ワレラ、ナナチャン、チカラカスアルヨ。ワカルカ。

(ナナ) あたし、まだ中学生、女の子、こ

どもの。

(宇宙人) 女の子、ソレ、ダイジナ条件アルヨ。ワレラ、ナナチャン、エランダ、条件、オトナトコドモノ間、女の子、アルヨ。

(ナナ) なぜなの？ なぜ中三の女の子なの？

(宇宙人) 説明、ムズカシイアル、地球人心理学、シラベタル、ソノ結論アル、ナナチャン、エラベレタル。

(ナナ) ……あたしにできるかしら？

(宇宙人) ワレラ、ナナチャンニ、チカラカスアル、チヨノノリヨク、カスアル、シンバイ、イラナイアルヨ。

(ナナ) チヨノノリヨク。どんなの？

(宇宙人) 地球人、科学力、トケナイ、トケナイ、アルヨ。

(ナナ) あの、アインシュタイン博士の、科学力でも、ダメ？

(宇宙人) アインシュタイン。地球人最高ノ科学者アルネ、トケナイ、アルヨ。

(ナナ) あたしに超能力、大丈夫かしら。

(宇宙人) ナナチャン、勉強、タクサン、タクサン、必要アルヨ。勉強、超能力、使ワ

アル、ナナチャン、心配、イラナイアルヨ。(ナナ) あたし、心配、国語はいいけど、数

学は苦手、英語はもっとダメ。

(宇宙人) ナナチャン、任務、必要、知識、ミンナ、ワカル、暗記デキルアル。記憶、再現、ミンナ、ミンナ、無意識、ウカブアルヨ。連想、ヒョコヒョコ、ウカブアル、ススムアル、心配イラナイアルヨ。

(ナナ) あの、宇宙人さん、ナナ、どんなこと、勉強するの。数学きらい、英語苦手。

(宇宙人) 語学、数学、アマリ関係ナイアル。現実ノ思考力、考エルカ、人間ノ立場、コドモノ立場、女性ノ立場、ソレデ考エル、人類生残ル道、考エルコトアルヨ。

(ナナ) だから、どんな勉強するの？

(宇宙人) テーマ、ミンナ、核アルヨ。核兵器トハナニアルカ？ 核時代トハナニアルカ？ 核抑止論トハナニアルカ？ 核時代ノ哲学ナニアルカ？ ソノ他モロモロ、ナニアルカ？ ナニアルカ？

(ナナ) (ヒステリックに叫ぶ) だめー！なぜ大学教授選ばなかったのよ！中三の女の子選んどいて、バカよ、バカよ、バカよ！

バカノ 宇宙人のバカノ

(宇宙人) アラ、ゴメンネ、ナナチャン、超能力タスケルアル、コーファンヤメルアル、

ダイジョーブアル。

(ナナ) イヤー、ダメー、ナナにはダメー！(宇宙人) ナナチャン、思イダスアル、ナナチャン大好き、ジャンヌ・ダルク、思イダスアル、地球ラスクウ、ジャンヌ・ダルク、(ナナ) (踊るようなトランス状態で) ああ、ジャンヌ・ジャンヌ・ダルクノ、地球を救う、ジャンヌノ

突然母さんがわめく。

千代子 やめさせてー！ 先生、ナナ、やめさせてー！

ナナのトランス状態が破れる。放心状態の目で母をみている。

わめき立つ千代子をとみがおさえる。

明智 やれやれ、甘すぎたか。

江戸川さん (千代子を非難して) ぶちこわしですよ！ なにも心配することなんかありません！

明智 (ナナの様子をみて) …少し休もう、

ナナ (拒否的) 今日はどうダメノ

明智 大丈夫だノ なんなら、お母さんと伯母さんには……

ナナ いやノ インスピレーションはもう逃げちやった。

明智 メッセージノ 宇宙人のメッセージをどうするつもり？ 君はほくの宇宙人についての大事な質問を、みんなメッセージでと、期待させているんだ。先生はききたいんだノ それなのに、お母さんの悲鳴ぐらいで、止めてしまうのかい、宇宙人のメッセージを。大事な任務を背負うナナちゃんの意志は、もつと強いはずじゃなかったかな？

ナナは立ち上る。目が輝いている。

江戸川さんは千代子のとりに位置して、わめいたらすぐ抑止する構え。ナナのポーズに神秘的な感じが出てくる。突然バレーのような動き、二転三転……ナナが目撃した宇宙人に、いまや彼女は変身した思い。ナナは宇宙人のつもりでメッセージを読みあげる。

(宇宙人) (すべて暗記)メッセージノ……

地球人類タチヨノ 太陽系第三惑星、人類タチヨノ ワレハ銀河系中心方向四千年彼方、某惑星ニ生息セル高度知性ヲ有スル生物ニシテ、自ラヲ宇宙人ト称ス。ワレハ恒星間移動物体——通称宇宙船、空トブ内盤ニノリテ、地球ヲ訪問セリ。

明智 (看護婦にささやく) まさしく、宇宙人の出現ノ 江戸川さん、よく観察して。(宇宙人) 地球ノ人類タチヨ、君タチノ科学力ハ、今日ヨウヤク核エネルギーノ利用段階ニ達シタリ。サレドゾノ使用目的ハ、マズ大量殺人ニシテ、同じ地球人ノ人類ヲ敵トミナシテ、能率ヨクミナ殺シセンガタメ、核エネルギーヲ開発セリ。何タル野蛮非人道トイフベキニアラズヤ……

明智 (看護婦に) 教育勸語的な文体だノ

江戸川さん ほんと、おかしな宇宙人。(宇宙人) イマヤ惑星——地球上ニハ、核ミサイル対峙シ、互ニ相手國民ヲ人質トシ、恐怖ノ均衡ニテ、累卵ノ平和ヲ保持アルナリ。地球人類ノ指導者ハ猜疑心深ク、オノレノ支配欲望ヲモッテ相手ヲ推シハカリ、鏡ニ映リタルオノガ影ニオビエ、核兵器ノ廃止ハオロカソノ管理モ、話合イニテナシ得ル能ハズ、コノママ推移センカ、地球人

類ノ滅亡ニ至ルハ火ヲミルヨリモ明ラカナリ。ワレハ地球人類十億、無罪ノ民衆ノタメニソレヲ悲シミ、救済センガタメニ訪ゾレタルナリ。

千代子 (姉に) あの、あなた、宇宙人の正体？ あたしのカンだけ……

江戸川さん (制する) しすかにノおくさん(宇宙人) 地球人タチヨ。ワレハハ、君タチ地球人類、理解力ヲ超エタル科学力ヲ所有セルナリ。政治的紛争解決ノ手段ヲ、イマダニ戦争ニ求メルオクレタ思想ノ好戦的地球ノ指導者ノ、ソノ意識ニ決定的ナ平衡ヲ与エ得ル、驚異的ナ軍事的感示行為ヲ、ワレハ宇宙船ハ示スコト容易ナレド、ナレドソノ手段ハトラザルナリ。ソレハ武力ヲ以ッテ相手ヲ威嚇シ、オノガ要求ヲオシツケル地球人ノ、オクレタル解決法ト同ジナレバナリ。ワレハアタクマ平和解決ノタメ、精神的説得ヲコソ主要手段ト考ウルナリ。

明智 (思わず声をあげ) わかったノ この文体こそ難なり、しかりしこうして、その反核思想にもあり。

江戸川さん なんですノ 先生。(宇宙人) 惑星地球ノ危機ハ、地球人ノ思

## 5 明智先生の推理

明智と江戸川さんの掛合いの対話。

明智 さあ、推理です、江戸川さん。

江戸川さん 課題はなんと、なんで、先生。

明智 第一は、ナナちゃんと宇宙人との会合。

あれは彼女の幻覚なのか、それとも創作か、はたまた客観的な事実であるのか。

江戸川さん いくらなんでも、まア先生。宇宙人が天から下りてきた、それを先生は真に受けその？

明智 いや、これは、その、言うなれば論理的設定。第二はかのメッセージ、それはなにをもの語るか？

江戸川さん カギですわノ

明智 カギにして尻尾なり。で、カギを開けると。

江戸川さん あの言葉づかいの古めかしさ。

明智 センバヤマスなんて、ありました。

江戸川さん 書いたのは男性で、年はだいた

い大正・明治。

明智 教育勸語に軍人勸諭の、古くて怖くて

またなつかしき文体、ズバリといってノ

明智と江戸川さん前の方へ。他は暗くなる。

とみと千代子がナナに近よる。

とみ (感動をあらわし) ナナ、あなたにあんな芸があるなんてさノ あんたスターになるよノ

明智 (親愛の情をいっばい) すばらしかったよ、ナナちゃん。宇宙人を目のあたりに見たようだった。

ナナは少しづつわれにかえる。優しいはずかしそうな少女の表情に。

人々はしばしナナを見つめる。

間。

レハハ地球ヲ見守ルナリ。地球人類オヨビ生物タチノ生命ハ、億万年ノ時間ニヨッテ造ラレタルモノ、ソノ生命ヲ、オナジ宇宙生物トシテ愛スレバコソ。サラバ、サラバ、地球人類、トク目ザメヨノ

江戸川さんが千代子をにらみつける。

千代子 ナナに才能ノ 役者の才能ノ……蛙の子は蛙でいうの？……

(宇宙人) (宇宙人が天に上るポーズをとり)

地球人タチヨ、地球人タチガ一切ノ戦争トイワ手段ヲ放棄スルニ至ルソノ時マデ、ワ

江戸川さん ナナちゃんのお父さんノ

明智 明察。宇宙人とは劇作家の近松三吉さんであるかも。では、屋上でナナちゃんが出会ったという、宇宙人のシーンは？

江戸川さん 父親がこしらえたせりふですわ。あの娘が喋ったのはみんなせりふ。よく暗記していたこと。

明智 なるほど、たしかにそうかも知れん。メッセージはもとより、宇宙人との対話、多分父親の作ったものを、彼女は喋ったのかも知れない。でも、そこへ行くとでは、いいかい江戸川さん、宇宙人の出現から対話までは、ぼくが質問者だ、彼女はそれに答えた。これは断じて出来合いのせりふではない。この謎はいかに？

江戸川さん アドリブよ。天才的よ、あの娘。明智 あれが単なるアドリブならば、まさにその通りなんだけど……

江戸川さん それでは？  
明智 ぼくは質問にワナを仕掛けた。なぜ屋上へいったか？ 暗闇で服の色が識別できなかったのはなぜか？ 宇宙人はどこから来たか？ その目的はなにか？ 宇宙人と話した時間感覚……巧妙にワナをかけておいた。ひとつも引っかからない。見事に外しているん

だ、一五才の少女が。彼女がもっているイメージはきわめて明確であって、そこには心理的な矛盾もないのさ。これがもし中世紀のことならば、あの娘は魔女って、ことになる。

江戸川さん まあノ それじゃ先生、あの娘が屋上で宇宙人と話をしたということ、あれが演技でないとしたら……  
明智 幻覚なんだ。まさにあの娘にとっては確実な心理的体験、としか考えられない。それは兎事な、合理的幻覚です。  
江戸川さん 聞いたこともないわ、合理的幻覚なんて。

明智 信じられなくても、まさにそれだ。  
江戸川さん いかれてますノ 先生は、あの小娘に、しっかりして下さいノ 明智先生ノ (背中をどやす)  
明智 あいたノ はいノ……だが、どうもわからん。

江戸川さん なにがですか？  
明智 ここに、制作力を失った、うらぶれた劇作家がいて、彼はそれを、核戦争の危機の意識のせいにする。あわれな自己欺瞞、左翼作家の心理的な抜け穴。でも本人は大真面目……あわれな父ちゃん。と、父想い

の可憐な少女ナナちゃんの心は刺激をされる。ナナちゃんはシャーマン(巫女の)超心理学的直感能力を秘めた珍らしい少女だった。そして彼女がうけた。宇宙人からのインスピレーション。これが、まさにおとろえ果てんとする父さんの脳細胞を活性化して、生れ出でたるのこそ、戯曲。ナナちゃんは宇宙人。なのではあるまいか。

江戸川さん 明察よ、明智先生ノ  
明智 作者は父さん……いや、真の作者は？……ナナちゃんがイメージした幻想を……父さんは単に記述しているというところ……ま、どっちでもいい。これにS.F.的修飾やら、科学的装いをくっつけて演出しているのが、あの兄貴の大介君だ。どうだい、この推理。

江戸川さん とても明解です。さすがに明智先生ですこと。  
明智 ……とすると、ぼくの役割はいったいなんだ？ ……なんのために、精神科医、明智小太郎がこれに登場しているのか？  
江戸川さん 簡単。お母さんがとびこんできたから、あの出しゃばり婆さんの伯母さんがうちへ引っぱって来たから。むずかしく考えることごさいません。

明智 そうか？ それでいいのか？ しかもまだ謎はいっぱい。

江戸川さん 謎って？ なんの？  
明智 ナナちゃんの超能力で、なんだ？ 彼女が宇宙人から受けたという任務とは？

つまり、ナナちゃんなり、父さんなりが、意識している——なにかの課題……地球人類を核戦争の危険から救うための、行動課題とは、なんであるのか？

江戸川さん そんな、あの人たちの誇大妄想的な心の中で、深入りなさってどうするんですノ 第一この件、精神衛生法の対象にたつて、なるかどうか。

明智 なに言ってるんです。江戸川さん。あのナナちゃん、彼女は精神医学上まれに見る超能力者かも。いいですか、つまり、ジャンヌ・ダルクとか、お、詩人のヘルダーリンとか、お、劇作家ストリンドベリとか、ね、いや、もっと遠く、あなたにはおそれ多いかも、イエス・キリスト。あるいはエゼキエル。あんな、こういう人々に通じる不可思議な霊的能力の所有者かも知れません。精神衛生法なんてくそくらえノです。とにかくお父さんに会います。訪問指導、押しかけ女房、いや、押しかけ医者

ですノ ナナちゃんの謎は父親にあり、近松三吉氏にありノ

江戸川さん (客席に) こういうわけでございませぬ。大きな声では申せませんが、精神科医には、ほんとに患者さんと紙一重の方もおりまして、家の先生がその……(口をおさえ)ましてや、現実的な算術なんかにはほど遠く、たいへんなんですのよ、わたくし。

以上のせりふの間に、舞台は、近松三吉氏のアパート、ナナちゃんの住居に転換。

## 6 超能力の誕生

アパートの四階、近松三吉の住居。六畳の居間と、DK。居間は夫妻の居間と書斎をかね、狭く、狭くして難然。チャブ台による机、本棚、積まれた本、吊るされた衣類など。  
壁から下がる長い紙。△ナナちゃんは宇宙人△と大書。

DKにはテーブルと椅子。奥はカーテンで仕切られた部屋、ナナと大介が共同で使っている。  
居間の一方にガラス窓。そこから街並や道路が見えるという想定。  
この場の主たる流れは、居間での三吉と明智との対話で、千代子と大介とナナは、DKとその奥の部屋にいて、必要ときに居間にあらわれる。千代子はしばしば、お茶菓子などを持ち居間に出入りする。  
明智が訪れてあいさつをしたところから劇ははじまる。

三吉 やノ こりゃ、ま、明智先生、お待ちしてましたぞノ

明智 なんとノ わたしがくるのを？  
三吉 昔、あこがれ、血を湧かした名探偵、一字ちがいの明智小太郎先生、他人とは思えませんや。(笑)

明智 恐縮です。一字ちがえはヤブ医者で。三吉 言っただんだ、見てろ、先生はきつといらっしやる。だって(自分をさし)正真正正のお狂さんがいるんだから。  
明智 とおっしやるのは正常な意識の証拠です。

三吉 どっちみち、確めにくるのがまっとうな医者さま。て、ね、先生、目星をつけていた。

明智 おそれ入りました。でもおうかがいたのは、ナナちゃんのことでした。

三吉 ナナが、おかしいんで？

明智 いやいや、たいへん優れた、むしろ超心理学的な精神能力を身につけていられる。

三吉 (よろこびをあらわし) やっばり！  
そこなくっちゃ！

明智 でも、ね、近松さん。その精神能力たるや、一般的平均的の智能とは異りまして、みるどころきわめて特殊な、学習の結果というか、ある課題にむすびついていっているんです。

三吉 おや！ そいつアなんですかい？

明智 核兵器です。いわば核時代の社会意識といったもの。これが、ね、成年の男子なら、まア不思議はないとして、中学三年の女の子が抱きうる観念としては、わたしにはなんとも摩訶不思議。精神能力の形成上からも飛躍がありすぎる。こりゃいかなる秘密があるのかや？ お父さまにおうかがいしてみなきゃと、まア、このように……三吉 ……そうですかい？ (沈んだ調子に

なり) ……おかしいですか？ かあいそうに、……あっしの変想がうつつたつてところかい。……無理もねえや、まだ一五なんだ、小娘でさ。無理を承知で、とはいいいながら、あっしの気狂いをあの娘にまで……

明智 近松さん、そのように独断的に、ご自分を狂人などとおっしゃらない方が。

三吉 いや、あっしや好きなんでしてね、この言葉の感じ。キ・チ・ガ・イ、この語呂をごらんよ、イの母韻が三つも重なり、いかにもキチガイ。ところで先生、黙って聞いて下さいませか、一〇分間。あっしのキチガイ論。いうなれば、労働者作家のなれの果てがキチガイだった、自伝的告白、いかがせんしょう？

明智 ……うかがいます。(感儀を正す)

三吉 ま、おらくに、おらくに。ええ、あっしは日常わめきますんで。多分先生はうちの家内からお聞きと思いますが……いえ、ね、その、はずかしい……ええ、核戦争のこと考えると、芝居が書けねえ、戯曲が書けねえ……つまり、核戦争意識で商売上ったり、って小言でさ。……ま、こいつの意味はいろいろ、ここで文学論・演劇論がつなげて野暮はやらねえが、ね、先生、へ

んな理屈だ。ものが書けねえのは創作力の

欠乏よ。もともと単純貧困な脳細胞が、あんな、大日本帝国の忠良なる臣民、ネ、天皇制教育よ、それでありました忠勇無双の兵隊さん。それが敗戦世界は一変、マルクス主義ときたもんだ。スターリンをあがめたり、毛沢東さんの文革講話にしがみついたり、社会主義革命をめざしての、民衆の意識の変革、変革の武器としてのリアリズム。ねてもさめてもリアリズム。気がついてあらあんな、演劇潮流からお客さんからもおいてき届。……らしいんだが、どうしてそうなったか？ 高度成長の尻馬にのったインテリ評論家うらんたり、皆目わか

ねえ。労働者演劇だの、プロレタリア芸術だのとわめきつづけた報いか、マスコミさまさまにもご縁がなく、一家四人糊口に窮し、まア先生、家内をはじめ、大介、ナナ、聞くもあわれなもの語り、それ程でもねえさ、こりや、ま、余分だ。(お茶をいっばい) 芝居書きが芝居が書けねえ、才能が足らねえ、核戦争は関係ござんせん！ 片やお芝居おなぐさみ。核戦争は国際政治、科学文明に軍事戦略、資本主義と社会主義、そこえどっしり、巨大にふくれた産軍複合

小太郎先生がまき込まれまわった、というところでござんしょうか。ごめんさい。(おじぎる)

お茶をのんで調子をあらためる。

三吉 明智先生、あっしやねえ、もういいんです。演劇芸術になんの力があるうとなかろうと。自己満足のために書きます。上流されりやめつけもの、お客さんがきてくれりやまたうれい。でも、原稿用紙うめるだけの戯曲でもござんす。……あっしの娘ナナが、中三の小娘がある夜宇宙人によって超能力をさすけられる。地球人類の滅亡を防ぐためと、その反核の大義名分にしたがって行動する。夢にもならぬ、マンガもどきのたわごと芝居、宇宙人に超能力に核戦争、どう転んだところで先生、精神分裂症の世界でござんしょう。

ここまで喋って急に三吉は黙ってしま

間。

三吉の様相がかわる。悲哀にみちたうつの表情。二人は無言で向き合ったま

体制が、のっかって備けて、技術者と労働者を養って、働かして、こさえあげたる世界危機。断じていっしょにできるもんじゃありませんや。まア、先生。たしかに核戦略意識なんという言葉は、時代の先端をいって格好がいい。それにふかふかのっかって、たかがおなぐさみのお芝居の、題材にしようのかオッチョコチョイのこのあつし。まアいいや、芸術上の理屈なんてききたくもねえ！ 芝居は芝居でいつの世も、はれたはれたで、あの野郎にくだい！ 個人の心のもつれ合いを書くもんだ。アメリカ・ソ連の対立だの、核戦略だの核均衡、抽象概念の組合せなんぞ、戯、針立ちしたって出来るもんかい。それができると思っ、こさえようと思っ、無い智恵しぼった近松三吉、あわれな労働者・劇作家のなれの果て。ネエ、先生、そうでござんしょう。芝居とは、所詮は面目おかしおなぐさみだ。それに徹し切れねえゲイジツの頭の弱さが、やれ変革の芸術だの階級意識だのと、ね、それやみんな偽装じゃござんせんかね。チト、また読みかじりの、フロイド流の言葉でいえば、……どうもどうも、精神科の先生を前に、失礼を申しあげました。ハイ、

ま——客が耐えうる限りの長い間。おえつが聞える。三吉が泣いている。

明智 ……どうなさいました。

三吉 かあいそなナナ。……まだ一五の小娘が……あっしのコムアレックスを背負わされ……ああ(泣く)……これに深いわけがある。先生、いずれわかりませ……(涙をぬぐい) 見ぐるしいところを、ごめんなせ。

問。

明智 質問、かまいませんか？

三吉 へい、どうぞ。

明智 戯曲はもう出来たので？

三吉 いえ、途中まで。途中からは出たとこ勝負のなりゆき、まず出来るかどうか……

明智 ナナちゃんが、この屋上で宇宙人に会うというシーンはありますか？

三吉 よくご存知で、ございます。

明智 ナナちゃんは、その場をけいこして……

三吉 いえ、まだ、だれにも読ませてねえんで。明智 ナナちゃんはそのシーンを、じつに生

生と表現しましたが？

三吉 そりや、多分、あつしが書く前に、ナナが知っていたんですよ。

明智 あり得ないことですが。

三吉 常識で言えは、しかしこれは常識外れの世界でさ、宇宙人の出現をはじめ、

明智 宇宙人のメッセージ、なるもの、お書きになりましたね。

三吉 へい。大事な部分なんで。

明智 文体は、戦前型というか、固い感じの文語体。

三吉 よくご存知で。

明智 ナナちゃんの朗読をききました。……名演技でしたよ。教育勸語、軍人勸諭を連想させるその文体、「メッセージ」の筆者

はお父さんだと推察しました。しかし、わからないのは……

三吉 テレバシー……それでナナは知っちゃうんです。

明智 とても、心理学上の常識では……

三吉 地球人の常識なんて……明智先生、こんなことに驚いてちゃ……(ニヤリと笑う)

明智 (気味悪くなる) ……みんな超能力なのか。

三吉 ナナは屋上で宇宙人に会って、あるものを買ったんです。超能力のまじないの品物でさ。(真剣な表情)

明智 では、すでにナナちゃんは……

三吉 先生がおっしゃる、不可解な精神能力での超能力の一部。頭が狂ったみてえに、核兵器・核戦略——もちろんの固い本、ものすげえスピードで読んで、頭に入れちゃうのも、その神通力。あの小娘の頭んなかは、核問題にかけちゃ大人も裸足だ。しかも本命の超能力ときたら、こいつあもつと……

明智 本命？ なんです、それは。

三吉 まだ明かせねえ。先生があつし共に協力して下さるって、お約束をいただくまで

明智 どういうことですか？ 協力とは。

三吉 その気になりややさしいこと。先生の重味はほしいんでさ。精神科医という、

明智 という、医師のモラルがかかる……三吉 そんな大袈裟な……まあ、言つなれば、

道化ですかねえ、道化性というか。

明智 道化？ ビエロ、アルルカンのたぐい

の？

三吉 はい。先生、お察しいいや。

三吉 はい。先生、お察しいいや。

明智 ……(考え込む)

大介、千代子、その後からナナ。居間に入ってくる。みんな真剣な表情。かしまってすわる。その情景に、明智は判断にまよう。明智はそわそわ。三吉は家長として一家を統一した感じ。

三吉 みんな、先生におねがいを。

一同は明智に対しておじぎする。問。

明智 ……なにに協力。わたしがどういこうとを。もう少し具体的に説明して下さい。

ナナ あたしの超能力のことなの、先生。

明智 なぜ？ わたしの協力が？

ナナ (砂時計をもった手をさし出し) これ見て、宇宙人からもらったの。

明智 (その手と砂時計をしみじみと見て)

スナドケイが……

三吉 大介、お前の出番だ。

大介 明智先生、ネ、ナナの超能力は、そのオ、スナドケイとある呪文でおきるんです。

地球上の科学的常識じゃあり得ないけど、でもネ、昔の人はいろいろ、ホラ、講談や活動写真なんかで、ネ、忍術、忍術なんです。オ、それをあたらしいSF的原理のもとに、説明します。ナナがそのスナドケイをもって、ある呪文を唱えることで、ね、時間の次元がかわっちゃうんです。時間の次元、タイム・デイメンション。すると、ナナと、ナナが思念する人物——狙いをつけた人間、この二人以外の人間は普通の時間のなかにいます。しかしナナと狙いをつけた二人の人間の間の時間は、三〇〇倍になる。だから一秒は三〇〇秒、五分間になる。ということは一秒間に五分間の行動ができます。したがってその行動は早すぎて目にもとまらない。その一方、ナナの方からみると、ネ、すべての人の行動は三〇〇分の一、ほとんど静止してみえる。……わか

りますか？ 超能力の本命の秘密は時間の次元をかえること。だからナナは、物理的に閉ざされた場所以外は、ほとんどあらゆる

場所に、厳重な警戒陣の隙間から瞬間的に出入りできます。ネ、常識をすてて、マンガ・SF、忍術の話と思って下さい。

明智 お話でなら理解できますが、現実の問題としては……

大介 現実ではあり得ません、だから……明智 すると、非現実の次元で考える？

大介 ソフ、非現実です。

明智 では、ナナちゃんの超能力は、現実ではない？

大介 いえ、現実です。つまり非現実による現実です。

明智 そりや、パラドックスだ。

大介 現実がフィクション。みんながフィクションを現実だと承認すればいいんです。

明智 ……ということは……

大介 芝居……明智 芝居でこそ可能です。ナナとナナが思念する一人は動き自由に喋ります。それ以外の人間はすべて静止。タイム・デイメンションの異なる現象。

明智 わかった、だが、それにどうしてぼくの協力が？ ……それと、ナナちゃんはその超能力でなにをやるというのか？

まさかテロではないだろうね、テロをやったら、それこそ。

大介 テロは絶対やりません。宇宙人は、テロをやるぐらいなら、宇宙船使つての科学的軍事的大デモストレーションやっています。それで地球の指導者の肝っ玉をちじみ上げせてます。あのメッセージで言ってる通り。明智 諒解。じゃ、なぜばくの協力がいるのか？

千代子 先生、あの、あたし、おうかがいしたのは、決して先生をまき込むなんて、そんなつもりじゃありませんでした。……でも、いまではおねがいします。お父さんをおたすけて下さい。この芝居が失敗したら、あんまりにお父さんは、お父さんは…… (泣く)

間。

三吉 この芝居、ねえ明智先生、ごらん通りマンガもどき、真面目な新劇にや通じもしねえ、児童劇にしちゃ中途半端、どうにもならぬキチガイ芝居でさ。ただ、こんな精神分裂の世界でも、それなればこそ、合理的なまともな世界にかけられる道が一つだ

ナナ 先生、超時間のなかにいるのよ、あんしと先生だけ。見て、見て、(動かない、父と母と兄を指さす)

明智、彫像のように静止している三人をみて、まだ信じられない表情。

ナナ 兄ちゃんの話では、あたしと先生の体の細胞も、脳細胞も、三〇〇倍早く動いているんだって。だからエネルギーの消耗も三〇〇倍。時計みて。止って見えるはずよ。明智 (時間をみる) 止ってる

明智は動かない三人に近寄り、医者らしく体にさわり、心音をきき、瞳孔まで診る動作。そして驚ろきの様相を体の動きであらわす。

明智 なんと、すべては生体のまま、それでいて、反応は停止に近い、まるであったかい冷凍人間、生理学的な奇蹟か、ナナ (窓の外を指さして) 外をみて、国道を走ってる車、みて、みて、みんな止ってみえるでしょ、

けあります。ネ、精神科のお医者さんが、お医者さんが登場して、芝居をリードして下さること。そうすりゃ合理的なまともな世界になるんじゃないか。そこでおねがいでき。どうか明智先生、この芝居の登場人物に、そして司会者の役を、どうか、どうか、引きうけておくんねせよ、おねがいたしやすよ、

一同 おねがいたします。(頭を下げる)

間。

明智 (首をかしげて)……ばくは、いままで出さずっぱり。なんと、前金で支払い済みじゃないか。

一同 はい、どうも……

明智 なら、ぼくには権利がある。ナナちゃんの総能力をこの目でみる。

三吉 ごもつともで。それじゃナナ。

ナナは素早くDKにゆき、スナドケイを右手に呪文を唱えるキッカケをうかがう。居間では次の会話がつづく。

三吉 (妻に) な、母さん。これでどうや

ら目鼻がつくせ。

千代子 ほんとよ、ねえさんが明智先生のところへ連れていってくれたから。

大介 (意味あり気に明智に近寄り) ナナの呪文、教えましょうか。

明智 呪文？ 超能力の。

大介 そうです。簡単です、エノデン・ミミティス。

明智 エノデン・ミミティス。……エノデンで、鎌倉から江の島にゆくあの電車……

大介 関係ないよ、先生。これは、ネ、T i m e · d i m e n s i o n の文字の組みか

え。

明智 なるほど、大介君がそれを……

その瞬間、ナナはスナドケイを片手に

ナナ エノデン・ミミティス

場面、瞬間に三吉・千代子・大介は静止。照明や音響などで時間次元の変化を表現する工夫があってもいい。

明智とナナは例外で、自由に動く。ナナがとび込んでくる。

明智は窓により外をみる動作。

明智 ……動かない車、……写真のようにすべてが静止……時間が停止、これが、超時間のなかとほ。……ナナちゃん

ナナ ほんとほこわいの、先生。超時間のなかって。生きてるのは自分たちだけ、って感じですよ。

明智 時間的異次元

ナナ でも、ナナは耐えなきや。核戦争がおきないように、超能力を使って働きかけるの、ね、先生。ナナを守って

明智 しっかりやるんだよ、ナナちゃん。ぼくも及ばずながら協力するから。(客席に) みなさん、この非現実による現実化なしには、戯曲、ナナちゃんは宇宙人・の世界は成立しないようですよ、わたしからもおねがいます。ナナちゃんの超能力を成りたせてやって下さい。劇作家近松三吉さんの、核戦争反対に思いをこめたこの芝居を成功させて下さい

ナナと共に頭を下する。

ナナ さ、先生、もともにもどすわ

ナナと明智はDKにもどる。

ナナ エノデン・ミミティス

現実にもどる。動かなかった三人は動き出す。

大介 やった、明智先生が消えた

三吉 いよいよ、これで、お芝居の第二部がはじめられる、ナナの超能力が。

一回はカーテンコールのように、客席に向って並ぶ。

明智 わんしの役は、ひとまずおわり。

ナナ (一歩前に) 第二部こそ、あたしの……ナナを、どうぞよろしく。

一回おしぎ。

休憩



## 第一部 ナナちゃんの巡回訪問

第一部の五つの場には、場面表示が出る。

### 7 玉ねぎオネエサン邸

ナナを除いた登場人物たち、語り手として並んで合唱。それを背景に、ナナの歴訪への出発があってもよし、なくともよし。

合唱

いよいよナナちゃんはでかける  
滅亡へのときがまた一分  
早まったなんて噂が街に  
流れてもみんな麻痺しちゃうって  
でもナナちゃんではでかける

どこかの丘には核の爆弾が  
どこかの地下にはミサイル・サイロが  
どこかの海には原子力潜水艦  
空から監視の人工衛星

ナナ エノデン・ミニティス

照明・効果で変化を出してもいい。

オネエサン (目を見はり) 魔法? いまの。  
ナナ 時間が三〇〇倍に。だからお時間のこと  
とはもう……あの、これ、秘密なの。  
オネエサン 全然理解できないわ。

ナナ 理解は、地球人にはできません。  
オネエサン あら、では理解できるのはだれ  
なの?

ナナ 宇宙人のレベルでないと。  
オネエサン 宇宙人なの? あなた。  
ナナ いえ、地球人。でも宇宙人に選ばれた  
の。  
オネエサン ……それで、ご用件は? とて  
も重大なことがおっしゃった。お約束は  
一分間でしたわ。

ナナ すいません。時計みてください。データ  
ラメ言っていないの。時計、止ってるはずな  
の。

オネエサン (時計みて) ワァノ……どうい  
うこと。(思わず四囲を見廻らす)  
ナナ 二人の間の、時間が止ってるの。いえ、

リーダーとリーダーとが  
見えない火花で空間を満たす  
それが平和という地球の姿

てなこと考えてはおかしなナナちゃん  
少しもたのしくならないナナちゃん  
感じなければなんでも平気  
感じても気にしなきゃ

気になっても忘れてしまや  
みんな平和ハンエイ世はたのし  
てなことにやとてとともとも  
なれない女の子のナナちゃん  
昨日までチビッコだったのに  
ムスメ十五で蕾のはずが

うたもあこがれも出てこない  
まったくおかしなナナちゃん  
意識の隅にちらついているのは  
いつか父さんが話してくれた  
幼ない日のこわいまぼろし  
ヒロシマ・ナガサキの灰色の影

ああ エキセントリックなナナちゃん  
宇宙人がくれた超能力  
たよりにするのはそれだけ  
ほんとはこわいけど出掛けるの  
うまくゆくかしらナナちゃん

ほんとは拡大してるの、三〇〇倍に。だか  
ら超時間。

オネエサン (目をパチパチ、考える) あなた、  
だあれ? まるで宇宙人みたい。  
ナナ ああ、うれしいノ……それで、あの、  
なんて話したら、あの、人類は滅亡寸前に  
ある、てこと、わかる? オネエサン。訴  
えたかったの。あたし狂人じゃないの。い  
え狂人かも知れないわ、あたしん家。

オネエサン (ナナを狂人とみて、対応に迷い  
を生じる) ……どうしましょう、あたし。  
ナナ 時間のことなら、いま、超時間のなか  
にいますから、心配しなくても。  
オネエサン ちよっと待って。……人類の滅  
亡がおっしゃったこと?

ナナ 核戦争の危険ですノ アメリカとソビ  
エトと核ミサイルで狙い合っていて、日本  
はその谷間なんです。  
オネエサン それはほんとね。おっしゃる通  
りよ。そのことなの? あたくしにご用と  
おっしゃるの?

ナナ 人を説得しなきゃならないの、あたし。  
オネエサン だれを説得するの?  
ナナ ……社会に影響力の大きい人、有名人、  
そして、えらい人、権力を持っている人。

場面表示 玉ねぎオネエサンの邸

語りの一人 玉ねぎオネエサンは有名なタレ  
ント。朝の忙しいひととき。ナナちゃんは  
突然訪れた。無作法なことがなければいい  
けれど。

ナナを応待しているオネエサン。

オネエサン (早口である。) ま、あなた、こ  
んなに早く……ふつうですとお約束でない  
場合、おかえりねがうんですが、とても重  
大なことときいて、一分ですむんですか?  
それなのに。

ナナ ほんと、失礼、お許しを。時間は大丈  
夫です、一〇秒あれば三〇分話せます。  
オネエサン? 一〇秒が三〇分? なんて  
しょう?

ナナ 超時間なんです。それを使えば、パッ  
と出て、パッと……。でも、失礼だし、今  
日は開店で……。あの、オネエサン尊敬して  
るの。ぜひ、お時間、ください。  
オネエサン (好奇心で) じゃ、どうぞ。

ナナはスナドケイを右手に。

説得しなきゃならないの。核兵器、核戦争、  
その他一切の戦争に反対するように。……  
でも、えらい人、ことに権力をもってる人  
って、みんな海千山千というじゃん。あの、  
あたし中学三年なの。まだどうでもしよ。  
とって人を説得するなんて、しかも相手  
は大人で、その上に政治家なんてさ、歯が  
立つはずないじゃん。考えたの、玉ねぎオ  
ネエサンでインタビュの名人でしょう。  
オネエサンに教えてもらおうって。……お  
ねがい、核戦争をおこさないように、人類  
の滅亡を防ぐために、教えて、インタビュ  
ーで、人の心をつかむのは、どうすればい  
いんだか。(じっと見つめる)

オネエサン (ある感動と、狂気に対するあ  
われみとをこめて) あなた、えらいわ、ま  
だ中学生なのに、で、どなたを説得するの  
? えらい人って?

ナナ 秘密なの。普通じゃとても会えっこな  
いって、権力って防衛が固いし、えらいか  
ら。そこで彼らの隙をつかなきゃ。

オネエサン アメリカの大統領なの?  
ナナ 英語ダメよ、あたしノ。とってても。

オネエサン ソビエトの首相?  
ナナ ロシヤ語もダメノ

オネエサン でも、核戦争のことなら、この二つの大國の指導者でしょう、まず説得するなら。

ナナ あたしの行動範囲は日本なの。宇宙人が、あたしに与えた任務の範囲も日本なの。

オネエサン ……それじゃ、あんたは、総理大臣に会うつもり？

ナナ 最後はそこなの。でも秘密よ。最高に秘密。

オネエサン とてもじゃないわ。どうやって会うつもり？ 総理大臣に。

ナナ だから秘密なの。だって、方法がわかれば防衛されちゃうじゃん。

オネエサン なんて説得なさるつもり？ 総理大臣よ、相手は。しかも反核でしょう、問題は。

ナナ すぐくむずかしいと思うの。タカ派だっていうし、タカ派ってさ、考え方は万軍戦争向きって言うことなんだった。それからへんなアダ名ついてんのね、カザミドリなんて。風向き次第でかわっちゃうんでつかまえておかないんだって。そうすると、「核兵器反対、でもっともです」「お嬢ちゃんごろうさま」で、かわされちゃったら、それまでじゃないの。陣子に腕おしだ

わ。

オネエサン のれんに腕おしよ

ナナ ああ、失敗ノ（吉をベコリ）

オネエサン あんた、まだこどもだけけど、認識はなかなかリアルなのね。

ナナ お父さんがいろいろ教えてくれるもん。

オネエサン お父さん、なになさってるの？

ナナ 劇作家。

オネエサン それなら、あたくし存知あげてるかも。

ナナ ダメ、有名じゃないし、お人よしで、核のことでも芝居が書けなくなっちゃって、あたしのことをこんな風に……いけないわ、みんな秘密にしないきゃ。あたしの大事なお父さん。

オネエサン ……とてもむずかしい問題ね。ナナ ほんとは、簡単な問題です。オネエサン あら、そうかしら。

オネエサン ……とてもむずかしい問題ね。

ナナ ほんとは、簡単な問題です。

オネエサン あら、そうかしら。

ナナ オネエサン、いま、核戦争は絶対にお

からないの。ただ、政治家って、すぐかわるわ。そして自分がすぐかわることが、自分でわかっていないの。そこが政治家の怖

いところ。……だから、まごころで対しても、相手の言うことを単純に信じてはダメ。でも、頭から信じないで対するより、かわり易いもの・頼りないものであるけれども信じるよりない、という気が大事だわ。

あんななら、多分説得できると思うわ。

ナナ ああ、でも、オネエサンは味方だから……あたしのインタビュアー、敵のなかに入

っていくの、主な相手は敵の方なの。

オネエサン 敵とか味方とか、おだやかじゃ

ないわ、インタビュアーには。

ナナ ごめんないよ……あの、でも、あた

しのなかにあるの。核戦争、戦争、そういうものに一切反対してる人、それは味方なの。……でも、口では戦争反対・平和でい

うけれど、うらでは金もうけなら戦争だろうとなんだらうと、自分の立場次第でど

ちでも転んじゃう……これが敵なの。……それで、あたしが説得しなきゃならないえ

らい大人たちって、たいていは敵しいの。すごい敵じゃないかしら？……でも、もう敵ってことは使わないわ。

オネエサン ……可能性はあるわ。……

ナナ おこつても、人類滅亡の全面核戦争にはならないと思う？

オネエサン ……可能性はあるわ。……

ナナ おこつても、人類滅亡の全面核戦争にはならないと思う？

オネエサン ……論理の圧迫を感じておこつたらなると思うわ。

ナナ つまり、かなりの可能性はあるんでしょ。それなのに世間はみんな平気で、のんびりしてるでしょ。これはなぜなんでしょ

うか？

オネエサン なぜ？ あんたの答え、きかせ

て。

ナナ 人類でさ、まだ人類の滅亡を経験してないもん。そしてさ、人間でさ、経験したことないこと、想像するのはとてもむずかしいんだって。人類の滅亡なんて、経験したら、人類は絶えちゃうから、みんなオシ

マイ、経験もなにも、傳える人間がいなくなるんだもん。だから、人類滅亡って心配は、滅亡前の人類には、ありもしないこと騒いでることになるでしょ。つまりキチガイ。

おこりもしないことを妄想してるキチガイ。お父さんもあたしもキチガイ。そいでさ、核ミサイルで互いに狙いあって、相手國の国民を人質にとつて、核のボタンに指をか

オネエサン そう、使わないことね。

ナナ あたし、忘れていた。核兵器反対の運動では、一方がよくて一方が悪いといった考え方を絶対にしてはいけないって。このことは。

オネエサン ……だれ？ そのことを。

ナナ ああ、ラッセル・アインシュタインの声明なんです。

オネエサン まあ、ナナちゃん。……（ふとわれにかえり）夢みてるのかしら？

ナナ もつひとつ、おねがい。それは人類が滅亡寸前の状態にあるってこと、テレビで訴えてほしいの。オネエサンの演技力で、全力あげて、ネ、コマーシャル以上に。

オネエサン 無茶だわノ テレビって、公的なものよ。

ナナ そうでしょ。人類滅亡って問題、あらゆることに優先するって、アインシュタインさんもいってるわ。

オネエサン わかってちょうだい。タレント

は番組無視して勝手なこと喋れないのノ

ナナ 人類滅亡の問題でもノ

オネエサン 困った人ね、あんた、すぐ人類

の滅亡……まだ、滅亡してません。あんた

とわたくし、二人の人類はお喋りしてます、

ナナ 滅亡してからじゃおそいもん。

オネエサン じゃ、いつ滅亡するんですか？

ナナ ……いざいざ、近い内。

オネエサン つまり、未来でしょ。未来とは

まだ仮定の話でしょ、いかなれば一つの予

想される意見、予想は人によってさまざま、

それをタレントが先取りして、番組無視し

て喋ったら、テレビ放送は収録不可能、わ

たくしは降ろされちゃう。

ナナ でも、人類の滅亡にくらべたら。

オネエサン 困った人、ナナちゃん、あんた

VTR知ってるでしょ。オン・エアの前に

切られてチョン。

ナナ ああ、そうか。

オネエサン ウウ、勝った、勝ったノ

あ

んた、ジェーン・フォンダ知ってる？

ナナ うん。反戦女優、すてき。

オネエサン オスカー賞授賞のとき、一札と

はすでに書いたところの原稿を読んで

いるのである。

場面表示(作家大井源三郎氏の碑)

夜、書斎。

重顔の作家。メガネをかけ、歩き方に

くせがある。書斎であるがまた舞台で

もある空間が、居ずらそうにぎごちな

説しないよう、さもなければ授賞式に出さ

ないって。

ナナ ジェーン・フォンダが？

オネエサン それがマスコミというものの仕

掛けです。

ナナ オネエサンはそのマスコミのスターで

す。

オネエサン やなことという娘、あなたは。

ナナ おいとましなまきや。じゃ、おねえさん、

おねがい、あの、もし、その時がきたら。

オネエサン その時で？

ナナ オネエサンの判断で、もうこのままい

ったら、絶対に核戦争がおきそうだって、

そういうようにオネエサンが判断したら、

その時がきたらテレビで喋って、核戦争—

どんな戦争でも戦争反対で……テレビ降ろ

されてもなんでも、ね、その時、ナナを思

い出して、喋ってノ。ね。(じっとみつめ

る)

オネエサン ……その時がきたら……喋るわ

ナナちゃんノ。お約束します。

ナナ じゃ、あたし消えます。いろいろあり

がとう、玉ねぎオネエサンノ

オネエサン ……さよならノ

ナナ (スナドケイをふり) エノデン・ミミ

作家 (朗読をつづけて) 少女は瞬間的にぼく

の眼の前にはいた。あどけない表情だが、眼

の光りが少しエキセントリックである。ほ

くはその少女が肉体を備えたところの實在

ではなく、ぼくの視覚中根がなにかの錯乱

によって生み出した映像——幻覚なのだと

ティスノ

瞬間、ほんの数秒、オネエサンは石の

ようになり、その間にナナは去る。

オネエサンはわれにかえる。

オネエサン ……消えたわノ……(時計をみ

る)動いてるノ……超時間で……ナナちゃん、

あの娘はほんど？ あたしの幻？ ……核

戦争、その時がきたら……でも、その判断

だれが出来るの？……だれがそれを……

暗くなる

語り手が一人

語り手 ナナ(ちゃん)が次に訪ねたのは作

家の大井源三郎氏。(ちよっと首をかしげ

て) 署名とはいっても大衆作家ではないし、

およそ十五才の少女とは縁の遠い作家のは

ず。でも、彼女なりに切実な理由があった

作家 (首をかしげ) あんた？ ぼくの小説を。

ナナ あの、あの、むずかしくてなんだかよ

くわかんないの、先生の小説。あの、核の

こと書いた本、ヒロシマやナガサキや、そ

れから、核の大火が日本を包むって、書いて

てるでしょう。そういう本なら、あたしと

てもよくわかるの。たくさん読みました。

作家 ……いくつですか？ あなた。

ナナ 十五才です。中三なの。あたしは大事

な任務があるの。核戦争を防ぐためなん

です。

作家 え？ 君が、カ、核戦争防ぐ？ てい

いましたね。それは、どど、どういこと

ですか？

ナナ 宇宙人から超能力さずかっているんです。

あたし、どこへでも入ってゆけるの。それ

で説得しなきゃなんないの。それで、どん

な風に説得したらいいか、わかんなくて、

先生の智恵かりたいんです。おねがいしま

すノ

作家 なんですか？ そのチョー、超能力、

てのかな？ なんです、それ？

ナナ 秘密です。わかると防衛されちゃうか

ら、秘密なんです。

作家 困ったな。よくわかんないんですよ、

あなたの言っていることが、いったいなにをするのか？ 核戦争防ぎつて、言っているけれど。

ナナ あの、先生、人類は滅亡の危険があるんでしょ。核戦争がおきたら。

作家 え、え、そうです。ほくはつねにそのことを。

ナナ あたしもそう、お父さんもそう、すごく心配なの。お父さんはそれで芝居が書けなくなっちゃったの。

作者？ お父さん、劇作家？

ナナ ええ、そいで、苦しまぎれに……あ、いいの、そんなこと関係ない。先生、お智恵かしてください。

作家 智恵、たつて、ほくはそんな、あんなり智恵の持ち合せは……

ナナ あります。ご本たくさん書いてるんでしょ。

作家 そりや、小説でご飯を……だからって智恵がある、てもんじゃありません。

ナナ あります。核兵器のこと、いちばん真剣に考えてる作家は、日本では先生だつて、父さんは言つてたわ。

作家 ただ、心配しているだけ、わめいていだけ、ほくは、単なる民衆の一人にしか

すぎないんです。

ナナ ケンソンはいいいんです、先生。

作家 いったい、なにをするの？ あんた、ほくの智恵がいるつていうけれど。

ナナ 説得しなきゃなんないの。

作家 だれをですか？

ナナ ……有名人や、えらい人たち。

作家 核戦争防ぐために？

ナナ ハイ。(作家の顔を見つめる)

作家 ……核戦争を……あなたが……

ナナ ハイ。

作家 困つたな……

ナナ 先生が困つたなんて、あたしも困つちゃう。

作家 ほ、ほくが困るわけは、その、あなたの目的が……ええと、いいですか、核問題のむずかしさは、対象が非常に巨大で、世界的な産軍複合体のその機械には、ごく一部の高度の権力者以外は近づけなくて、それでいて、全人類の生存さえ絶ちかねないところに……ほくたち民衆の日常生活から、あまりに隔離していながら、それでいて、すべてを滅亡させかねない危険性を……(ナナの目をみて) 説得するつて、だれをですか？

ナナ えらい人、有名人なんか。

作家 えらい人……有名人？……なんといつて説得するの？ 核戦争つて、当面はアメリカとソビエトの対立ですよ。それを防ぐのに……その辺がどうも。

ナナ ……宇宙人がきめたの。宇宙人は地球人類の自滅を防ぎたいの。いちばん手っとり早い方法で、宇宙船の科学力で、すごいデモストレーションやることなんだつて、軍事的な。それで地球の指導者をおどかしちゃえば……でも、それじゃ、いまの地球の指導者のやり方とおなじでしょう。だからあくまで、話合い、説得が大事だつて。それで選ばれたの、あたし。十五才の女の子が適切だつて言うのよ。宇宙人は地球人の心理をよよく調べた上で、決定したんだつて。

作家 あんたのお住居は、どちらですか？

ナナ ……言えませんが、悪いけれど、あたしの行動は秘密だもん。

作家 じゃ、病院でもいいの、どこかの病院から……

ナナ あんし狂人じゃありません。先生、狂人じゃありません。

作家 智恵をかせと言われても、あなたがな

にを考えて……具体的にだれを、どういう要望をかけて説得するのか？ そういうことがなにも……

ナナ 目的の人、一人だけ言います。でも、それは秘密にして。

作家 わかつてます。だれですか？

ナナ 一ばん最後は総理大臣です。

作家 え？ 総理……長曾根首相。

ナナ ハイ。

作家 あんた、ねえ、お嬢ちゃん……相手は一國の首相です、なんと言つたつて。それを、なんといつて説得するんですか？

ナナ (悲しそうに) それを先生にうかがうにきたんです。海千山千の政治家に、中学生

の女の子のあたしが、核兵器の問題、どういふこと言つたらいいの？

作家 ……あんた知つてるの？ 総理大臣の日常生活を、首相官邸でも、私邸でも、警備体制はどのようになされてい……

ナナ だから、超能力使うの。その方法は秘密ですけど。

作家 ? 首相官邸であつても、自由に入出入りできちゃうつてわけ？ その超能力は、

ナナ (うなずく) 秘密よ、先生。

作家 大問題になるな、そりや。

ナナ どうしてですか？

作家 警視庁です、警備課です。わかるでしょ。あんた女の子だし、また十五才だし、とても、テロなんて考えてないでしょうねえ。

ナナ テロも暴力も、絶対反対なの、宇宙人は。

作家 宇宙人か。(考えをむ)

ナナ キチガイだと思つてるのね。宇宙人と

いへば、みんなそう、先生だつておんなじ。

作家 思わない。あんたはまとも。でも、宇宙人は……あの、気になるのは、あなたの話だと、核戦争を支配しているのは

で日本人であるかのような。

ナナ ごめんなさい。

作家 核戦争は、アメリカ・ソビエト、どちらの首脳だつて、やりたいとは言わないものです。問題は、核戦争を防ぐには核武装

がもっとも有効だつていう考え方にあるんです。

ナナ 核抑止論でしょう、先生。

作家 そう、よく知つてる、さすが。だから、核兵器反対という反核運動は、核均衡のパラ

ドックスを狂わせ、かえつて戦争を誘発する危険な運動だと、こういう理論、わかりますか？

ナナ ハイ。みんなインテキ理論です。核均衡論で、核武装をほんとうらしくごまかす理屈です。

作家 はっきりしてるなア、あんた。

ナナ ありがとう、先生。(おじぎする)

作家 ととも、十五才の娘さんが話しているなんて思えない。

ナナ 言わないで。そんなこと。

作家 ? どうして？

ナナ かわいくないもん。

作家 ? ……すいません。

ナナ 先生、教えて。長曾根さんになつて言つたらいいの？ あの人はほんとはタカ派で、情勢でくるくるかわるから、カザミドリつて言われて、東大出で、頭がよくつて、新劇の俳優だつてかわらないくらい演技力

もつていて、総理大臣だから、核の情報だつて、あたしたちの何十倍も知つてるんで

しょう。あたしはまだなにもわかんない中

三の女の子。政治家なんてテレビで顔みる

くらい。でも、宇宙人はあたしを連れて、

長曾根さんに話をさせようつて言うの。どうしたらいいの？

作家 宇宙人は、あんたにどうして具体的に

それを教えなかつたのか？ じつにむずか

しい問題だ。一国の首相、しかも日米安保条約でがっちりしぼられてる日本の首相、経済問題・貿易摩擦——その代償に軍備増強を迫られる日本の総理大臣、そういう人物に核兵器問題を説得するのに、十五才の少女がもつとも通任。わかりません。ぼくにはその論理が。見当がつかないんです。いま急には。しかし、あなたを選んだ宇宙人は、じつに無責任です、横着です。デタラメです。

聞いていたナナの顔がくしゃくしゃに  
なり、声をあげて泣きました。

作家 ……(困惑)しようがないな。総理大臣を説得するなんて言ってる人が、そんなに簡単に泣くなんて……  
ナナ (泣きながら) ……無責任だとか、デタラメだとか、かあいそうよ……先生ならきっと宇宙人の気持、わかってくださると思っただけなのに……(泣きつづける)先生を頼りにしてたのに……

作家 ? ぼくを頼りに。だが?  
ナナ 宇宙人が……(泣く)  
作家 ぼくは、宇宙人に知りあいありませ

ん。  
ナナ 宇宙人はよんでもらう。先生の本を。(さらに声をあげて泣く)

作家 (大声で) やめなさい。泣くのは。

ナナは声をあげて泣きつづける。

作家 ……まったく、泣く子と地頭には勝てぬ……待てよ、(なにか思いつく。泣いているナナをしみじみとみて)核戦争こわいと泣きぬ少女かな……

ナナを見ていて思索的になってゆく。

作家 女の子はよく泣く……泣く、という行為はなんだ? ……悲しみに耐えず、涙を流し、声をあげ、身をふるわせる、人間的な哀切の表現……それは論理的理性的表現ではないが、生物としての人間の、高度に有機的な精神的生命体が、その危機を直感的に意識して、生きのびんと願望をこめた表現ではないか。

作家は歩きまわる。ナナは泣くのをやめ、作家の動きを注視する。

作家 泣く、泣く、泣く。女性も男性よりも

しばしば泣き、こどもはさらによく泣く。

泣く、それは人間の、人間の原初的な表現。……この娘、ナナという娘、十五才の少女にして、核抑止論とは核兵器の保有を合理化するインテリゲンチヤ論だ、との論理性をもちながら、……宇宙人がかあいそうとか、涙を流し声をあげて泣いている。……論理性と情緒との、矛盾を統一して発露する十五才の少女。……それは、権謀術策やごまかしの論理性で自己を失いかねない現実の政治家に対し、思いがけない心理的、潜在意識的な説得をするのかも知れない……

ナナはすでに作家のモノロオグを怪訝な顔で聞いている。

作家はなにかを思いつく。

作家 (親しみをこめて) ナナちゃん。矛盾という言葉、わかるね?  
ナナ うん。国語の点はいいの、あたし。  
作家 日本には、非核三原則というものがあ  
るの、知ってるね、あんたなら当然。

ナナ うん。

作家 一方、日米安保条約というものがあって、実際上の日本列島は、アメリカ軍の核兵器の基地になりかねない。このこともあんなら、わかってるね。

ナナ うん。

作家 では、この矛盾をどう考えるか? ……

非核三原則と日米安保条約との矛盾。

ナナ ……わかんない。

作家 そうだろう、それはそれでいい。いまの日本経済はアメリカとがなじがらめに結びついていて、自動車の輸出だの、農産物の輸入だの、貿易の不均衡というものがおきている。ぼくのいうこと、わかる?

ナナ わかる。

作家 その結果、アメリカは日本に代償を求めてきている。要求をしている、その第一の要求はなんだか、わかる?

ナナ ……軍備をふやせ、ということ?

作家 その通り。それに賛成する日本人もかなりいる。

ナナ 知ってる。タカ派、自衛隊のえらい人、軍需産業の社長さん、そのほかいっぱい。作家 その軍備とは、どこの国に対する軍備かな?

ナナ ソビエト。

作家 では、その軍備をすすめることは、核戦争に近づくことになるのか? あるいは遠ざかることになるのか? わかる?

ナナ あたしは近づくことになると思う。でも、それが遠ざかることだとはいえない。

作家 ようし。君の考えはたいへんリアアルだ。そこで、わが日本のいまの総理大臣はそれをどのように考えていると思っ?

ナナ ……わかんない。

作家 わかんない? あんた、ナナちゃん。タカ派だって言うから、軍備すすめるの大賛成なんだと思う。そうするとすごく危険なの、こわいの。でも、政治家って、

いろんな状況に合せて、自分のほんとうの考えを見せないっていうから、あたし希望をもちたいの。みんなが核戦争はいや、いや、もう戦争はすべていやだって言ったら、カザミドリならば変わってくれると、信じたいの。作家 ……わかった。ナナちゃん、日本という国は、アメリカという国によって、ことに軍事的にはがなじがらにされているね。そのなかで、核戦争にならないような選択をしてゆくことは、政治家にとってじつにむずかしいことなんだ。保守でも革新でも、

それはたいへんむずかしい。わかるね、ナナちゃん。  
作家 (うなづく)  
作家 ところで、あんたは、総理大臣のところでなんというつもりかね? ……核戦争にならないように……非核三原則を守って……日米安保条約なんて破壊して……アメリカの言う通りの軍備増強しないで……ソビエトとアメリカが仲よく出来るよう日本の総理大臣として努力して……要望するやう方はいろいろある。それによって総理の答え方もいろいろだ。  
ナナ ……  
作家 君は、核抑止論がインテリキだと認識してるし、核兵器反対と日米安保条約が矛盾することも理解してる。しかし、十五才の女の子だ。政治家と政略論争したって勝ってこないし、論争に勝ったって事態の解決になりやしない。あんたのねがいは、かわいい娘でいたいんだ。ほんとはむずかしい核戦略なんて考えたくない。心の底はそうでしょう。ナナちゃん。  
ナナ そうなの、ほんとに。先生。  
作家 さあ、君は、総理大臣にあつたら、どうしたらいい?

瞬時にきていた。

ナナはスナドケイ片手に消失のポーズ。

プロ野球? ……要はミスターが日本一の人気者だという点にあるのでしよう。

場面表示(ナナシマ・ヒデオ氏邸)

ナナ わかんない。ほんとはわかんないのノ作家 わからなくて当然なんだ。ぼくだってわからない。おそらく総理大臣にも、アメリカの大統領にも、ソビエトの首相にも、……確実な解決はわからない。それがこの人類の危険な泥沼、核時代の恐怖なんだノナノちゃん、君はどうするの?

ナナ あたし、泣いちゃうノ作家 そう、それでいい。生半可な核戦略論争より、泣くことがいい。泣きなさいノ人間として、若い女の子として、結婚して赤ちゃんを産んで、生命を残したい、生きつづけたい、この緑なす地球に生命をうけ、折角生れてきて核戦争なんかで亡びたくない。泣くんだ、泣いて訴える、それが十五才の女の子の人間の力だノ……ぼくがあんたに言えることは、結局、そんな単純なことなんです。

ナナ ありがとう、大井先生ノ もう消えます。あの、おねがいがあるの。あたしたちが読んでもわかる小説書いて、努力しなくてもわかる小説、先生は書けます。書いて、核戦争に反対のためにも、先生、さまたらノ作家 (虚脱の形) ……あたしたちにはわかる小説を……

ミスターは庭の一角で、ゴルフクラブを振っていた。その目の前にナナが出現する。右手にスナドケイ、左手に野球のボール。なんの異変もない日常的な風景。

——暗くなる——

## 9 ミスター・ナナシマ邸

語り手ひとりと。

作家 (文章を読む形で) ぼくは、なんと不思議な時間を……その時間は、瞬間にして無限をふくみ、無限が瞬間に凝縮していたかのような……そして、少女との別れの時間は

語り手 ミスター・プロ野球。だれでもが知っているナナシマ・ヒデオさん。核戦争と

ナナ こんにちはノミスター (気難に) ヤア……(こたえてから、思いがけない侵入者におどろくが、とがめもしない。) いらっしやい、お嬢ちゃん。ナナ (拍子ぬけ) ごめんなさい、こんな入り方、約束もしないで。ミスター (片手をあげ) いいんです。ナナ あの、ほんとは、わけがあるの。ミスター サインでしょう。ナナ (ボールとサインペンを出し) すいません。父さんも兄ちゃんもファンなの、昔

から、ナナシマさんの。

ミスター (サインをして) お父さんによるし。

ナナ あの、もっと重大なこと、おねがいし

にきたんです、あたし。

ミスター え? なんです?

ナナ あの、突拍子もないことなの、ナナシ

マさん、おどろくと思っの……

ミスター いいですよ、どうぞ。

ナナ ……あの、このままいったら、きっと

人類は滅亡するかもしれないってことなん

です。(ミスターを見つめる)

ミスター (目をパチパチ) ジンルイ・メツ

ボウ……映画ですか? それともテレビ?

ナナ いいえ、核戦争なんです。

ミスター 核戦争? SFものかな。

ナナ いいえ、現実なんです。ゲンジツ。

ミスター ゲンジツですか。(キョトンとし

ている)

ナナ 現実の核戦争のことなの。だって、核

弾頭のミサイルがにらみ合ってるでしょ。

アメリカとソ連と。

ミスター なにかあったんですか? ぼく、

まだニュースをみていないし。

ナナ (むきになって) それじゃ、核弾頭つ

の。でも、のしかかっているわ、核戦争の危険は、頭の上に。みんな慣れちゃって、感じないだけだ。

ミスター (ナナをじみじみとみて) おいくつですか? お嬢ちゃんは。

ナナ 十五才です。中三です。

ミスター 十五才? ……ほんとに、あんた心配してるの? 核戦争。

ナナ そうよ、とっても。

ミスター 受験勉強、たいへんじゃないの、高校の。

ナナ あの、人類が、人類が滅亡するかもしれないって、そういうことを、あたし……

ミスター そうですか……

ナナ ……それで、ナナシマさんにおねがいにきたの。

ミスター ほんとに、そんなことを心配してるんですか? 人類の滅亡、すごいスケールの大きな……ほんとですか。

ナナ あの、ナナシマさんは?

ミスター 考えません、まったく。わが地球、わが人類は永遠に不滅です。ま、一億年先、天文学的には知りませんが、永遠に不滅、そういつていいんじゃないですか。

ナナ (むきになって) それじゃ、核弾頭つ

けて、いつでも発射されるばかりのミサイル。ボタンひとつで、ヒロシマ・ナガサキの何十倍、何百倍で、にらみ合い、アメリカとソ連との、それ、なんですか?

ミスター あればゲームですね。いわゆる、核戦争とは、いうなればゲーム。そう、ゲームにすぎないんじゃないの。

ナナ ゲームノ ナナシマさんて……

ミスター ゲームは勝たなきゃ。いわゆる、勝負はすべて結果論、でしよう、ね、そうなんですよ。

ナナ (ますますむきになる) 核戦争に、勝ち負けってないわ。ナナシマさん、野球じゃ大天才でも、ちがいますノ 核戦争に勝ち負けなんてノ 全面核戦争になったら、人類は滅亡しちゃうんだわノ そのことは科学者だって、政治家だって、みんな言ってるわノ

ミスター そこ、そこなの、お嬢ちゃん。ほんとにやったら、人類全滅ね。それがわかっている、ネ、わかっている、ネ、だから指導者たちは、ネ、わかっているから、つまり、その、核戦争って、ほんととは、やるはずはない、が、そこなんだ、ゲームとは、ネ、わかまかなア、お嬢ちゃんに。

ナナ (真剣に、悲しそうに) ナナシマさん、ほんとに思ってるの。核戦争なんておきない、単なるゲーム。ほんとにそう思ってるんですか? (悲しそうに見つめる)

ミスター (少したじろぐ) ま、およそ、その、ぼくらはベイス・ボール以外のこと、つぎつめては考えてこなかったの。ま、世の中、まして、政治面は、その、スポーツマンで、ま、その、いわゆる保守的でしょう。ええ、ことに、プロ野球は、ファンのみなさん、ね、後楽園球場、甲子園球場、ぎっしりのお客さん。自民党も社会党も共産党もありやしません。イデオロギーを超えますから、ネ、スポーツは、だから、まっ白、イデオロギー的にまっ白、プロ野球の選手は、まっ白じゃないと不遇格なの、商品として、いうなれば、そういうたメンタリテイが、ま、プロ野球選手で、ま、その、いわゆる核戦争、これは、これは、アメリカ、ソビエト、いうなれば、世界戦略の、最高のゲームでしょう。

ナナ 死のゲームだよ。何千万人の人の生命、人質にとったおそろしいゲームだよ。赤ちゃんから年よりまで、おそろしいゲームよ。ナナシマさん、ゲームっていうけ

ど、このゲーム、ヒロシマ・ナガサキの何十倍・何百倍って。

ミスター (制止のゼスチュア) ストップ! ちよつと待って、だから、ネ、ほんとはやりません。やったら破滅だ。それがわかっているから、やるはずない。ネ、やるはずはない。ネ、ほんとうの戦争はやらないで、やるぞ。とみせかけて、ぎりぎりまで読むの、相手の手の内を。ミサイル打ち込むぞ。とみせかけておいて、最後には、いい、パッといくぞ。ドカンといくぞ。とみせかけておいて、その裏をサツとかいて、戦略的な勝をとる。いわゆる、ゲームとは、そういうものでしょう。ネ、ましてや、ネ、人類の運命がかかっている、こりゃ、もう、絶対に核戦争はやらない、やってはいけない。そういうものの、ネ、ゲームというのは。

問。ナナはじつとミスターを見つめる。

ナナ うそ。ナナシマさんで、ずるい。ミスター わかんないかな? ...  
ナナ 核均衡かしら? 核抑止論かしら?  
ミスター なに? それ? カクヨクシロン

て?

ナナ あの、核戦争の、とっても危険な理屈なのよ。えらい人がみんな取りつかれちゃう論理なの。それで、核戦争の危機は高まって一方なの。ナナシマさんも、それに取りつかれているんです。  
ミスター あんた、十五才、すごい。天才少女だ。まったく、その、ポリテイカル・メンタルの、すごい素質があります。  
ナナ 天才なんて。宇宙人に指名されてるだけなの。

ミスター 宇宙人? それ、どこの国の人? ナナ どの国の? ...ワ、おかしい。ミスター 国籍ですよ、宇宙人の?  
ナナ ああ。 (笑う)

ミスター (大真面目) 大人をからかうものじゃありません。  
ナナ (困ってしまい) からかってなんか...

問

ミスター ...ぼくに用って、核戦争のこと? ベイス・ボールじゃなくて。  
ナナ ハイ。  
ミスター なぜ、ぼくが?

ナナ ナナシマさんのファンで、すごく広い

んでしよう。願が、核戦争支持する人だっ

ていばいいると思っんです。

ミスター (びっくりして) え? 核戦争を

支持する? 日本人で?

ナナ ええ、自分じゃそう思っていないたくっ

て、アメリカのお尻にのっかって、うまく

やろうて人、いっばいふえてるでしょう。

そういう人もみんなナナシマさんのファン

の中に...

ミスター まって。まっ白、プロ野球の選

手は。インテロギイ的にはまっ白。  
ナナ 関係ないの。イデオロギーなんて、

人類の生存についてなんだから。  
ミスター 参ったな。お嬢ちゃん。アメリ

カはね、つまり、その、ソビエトの核の脅

威があるから、ネ、核武装してるんです。

アメリカ人はみんなそう思ってますよ。  
ナナ 盲目になつてるの、アメリカ人で。戦

争中の日本人がみんなそうなつていたのと

同じなの。  
ミスター 参ったな。なんてお嬢ちゃんが

とびこんできたんだ。  
ナナ 知ってるでしょ。原子爆弾をはじめに

こさえたのはアメリカなんです。ヒットラ

ミスター ダメ。それは、核戦争なんて、

いうなれば、ぼくは野球人間にすぎません。

ナナ ちがうの。もっと大きいんです、世の

ミスター 困ったな。ネバー・ギブ・アップ。

ナナ ナナシマさんの影響力、すごくでかい

の。だからおねがいしてきたんです。それな

の。

ミスター 困ったな。ネバー・ギブ・アップ。

ナナ ナナシマさんの影響力、すごくでかい

の。だからおねがいしてきたんです。それな

の。

ミスター 困ったな。ネバー・ギブ・アップ。

ナナ ナナシマさんの影響力、すごくでかい

の。だからおねがいしてきたんです。それな

の。

中への影響が。

ミスター ネ、野球選手なんて、しょせんは

人気がすぎないの。ネ、スキヤンダルー

つで消されちゃう、はかない存在、ネ、わ

かりますか。

ナナ でも、人類のひとりでしょう。人類の

危険なんだから。

ミスター え? 人類のひとりですよ、たし

かに。だからって、ナナシマヒデオは政治

家に変身はできません。ネ、核ミサイルの

設計技師にもなれますか? ノー・ノー。

ぼくがやれるのはベイス・ボール。パット

一本にかけた人生。... (なにかがひらめ

いたらしく、目がかがやいている。) しか

ナナ 宇宙人は、地球人を救いにきたんです。地球人が核戦争で自滅するのを、防ぐために。

塾長 地球人は核戦争で自滅する、いうてますのよな、その宇宙人は。

ナナ 地球人は、核エネルギーの利用を開発しても、それをなんのために使うのか、哲学ができてないの。あの、哲学と、あの、実際の政治が、バラバラなんだって。地球人はとって、アンバランスなんだって。だから、核エネルギーは、人殺しの研究だけが、ものすごい予算をとって、進んじやうって、だから、人類のゆく末ってさ、自殺するのとおなじでしょう。核戦争になっちゃえば。

塾長 そういふ話を、あなたにしたんか？

宇宙人は。

ナナ ハイ。あの、松北先生の松北電器が、あの、たくさん従業員の生活を支えてますね。あの、性能のいい電気製品を、安く世の中に出しててしょう。あの、企業って、ものすごく大きな生きものだ、あたし思うの。それで、世界にも核兵器をさえる産業とか、あの、核戦略体制とか……あたし、そういうこと、うんと勉強したわ。

あの、それで、たくさん科学者や技術者や、会社や、研究所や、それから、……その、それで、おそろしい世界を破壊させる兵器を研究してるわ。これは、ね、松北先生、人間の体の、ガン細胞みたいに、どんなひろがって、このままじゃ死んじやうでしょう。

塾長 ……あなたは、おいくつやな？

ナナ 十五才、中学三年です。

塾長 ……その、うちの会社、松北電器のことも、言うてましたか？ 宇宙人は。

ナナ (少しあわてて) いいえ、それはあたし……あの、宇宙人が話したのは、核戦略のことだけです。

塾長 そやろな。まだ、うちの製品を、宇宙人に買ってもらいたいという報告、きいてまへんさかい。

ナナ ハイ。

塾長 宇宙人は、地球の核戦略いうものについて、いろいろと地球の本や雑誌を読んでおられるとちやうど。勉強しなはてるらしい、感心しました。で、あなたは、わたしになんの用でっか？

ナナ (あらたまった態度で) あの、松北先生は、人類の繁栄や平和や幸をねがって

らして、その運動をほんとにやっておられる方です。日本の産業界の、最高の指導者って、でも……その、いま、先生は第一線、さがってますが、影響力って、あの、抜群なんです。もう、それは、産業界以外でも……つまり、世界的といったら……(緊張して喋ったので、くたくたになる。)

塾長 (呆って) 待ってんか、ムスメはん、あなたがいま言わはった、それはな、十五才の中学生のあなたが、ほんまに心から思うて、言わはった言葉だっしやろか？

ナナ (とまどって) あの……

塾長 (やさしく) たしかに、PMP運動、政経塾……いろいろやっています。若いあなたにそれを評価されたいことはうれし。

しゃけどな、わたしのやってる事業の意味がな、まだ義務教育過程にあるあなたに、ほんまに理解されて、言わはってるとは思えんや。あなた、だれぞやの意見に動かされてまんのやおまへんか？ と、まア、わたしは思うてますが……どうでっしやろ。

ナナ ハイ。父です。父さんの影響です。

塾長 そうだっしやろ、なア。なら、納得でけんこともありまへん。しかし、あなた、若いのに、よう話ができません、ほんまに

感心。失礼、話を切って、つづけなはれ。

ナナ (ドギマギして) あの、あの、よびかけしてほしいの。日本の産業界のえらい人たちに、あの、多くの会社の社長さんたちに、……その(情熱をこめて)このまいったら、核戦争で人類は滅亡しちゃうから核兵器反対、核戦争反対の運動をよびかけてほしいんです。松北先生がよびかけてくだされば、きっと財界のえらい人たちも、塾長、わたしに、反核運動の提唱者になれ、いうことですか？

ナナ ハイ。この瞬間もアメリカとソビエトの核ミサイルは、狙い合っています。

塾長 たしかに、ほんまや。狙い合っていますやろ。しゃけど、ボタン押しても簡単にミサイルは出えへんのとちやうどですか？ 三重に四重に安全装置がされとるし、一人の人間が気が狂うてボタン押しても、絶対に出えへん、そういう装置になってますのやろ。

ナナ (出鼻をくじかれ) それじゃ、先生は、核兵器は……

塾長 ない方がええ。なくせるもんならなくした方がええ。しかし、でけてしもうた。科学文明がこえてしもうた。歴史いうも

んはもとへは戻すことでけへん。というて、核兵器廃止の話合いもついてまへん。そこで間違いのおとらんよう、三重四重の安全装置をつけてある、やむを得んやろなア、とわたしは思うてます。そやないと、安心して家電製品の製造も、あたらしい技術開発もできまへん。核戦争おきたら、電器製品使うどころか、人類の文化は何百年も逆もどりするそやおまへんか。

ナナ (圧倒され、困乱する) あの、松北先生は、核兵器を……あの、いまの、核戦略体制を、あの、認めてるんですか？

塾長 あんたのねがい、また、ほかにありませんか？

ナナ ……その、核兵器反対のため……地球の滅亡を防ぐため……あの、先生の会社のマーク、ナショナルのマークに、核戦争反対で、つけて下さい。これがおねがいなんです……(気弱になっている)

塾長 ナショナルのマークに、核戦争反対。ナナ (元気をふるい) ハイ。地球の人類がおち込んでる最大の危険を、防ぐためなんです。あたし、快挙だと思ふの。

塾長 (考える) これは、宇宙人の考えでっか？

ナナ いいえ、あたしなの。日本人として、

この日本に、核戦争の危機をひろく訴えるために、あたしが考えたの。

塾長 ……うむ。……そりア、わたしには、うれしい言葉や。しゃけど……そう簡単に、ナショナルのマークに、核兵器反対はつけられまへん。

ナナ どうして？ あの、核戦争に反対することとは、いま、あらゆることに優先することだと、あのアインシュタイン博士も

いっています。

塾長 アインシュタイン博士……困った娘はんや、えらい大学者のことばなど。あの先生は、原子爆弾の生みの親いうてもええお方、最高の科学者や。そうした責任もおありになる、そこで言わはった言葉やろ。大阪の電器屋の松北孝之助とは土台立場がちがいます。

ナナ ……でも、核戦争を防ぐいうことは、あらゆることに優先する……

塾長 落ちつきなはれ、一分一秒を争う話やおまへん。たしかに核戦争の可能性はゼロやない。可能性はあるが、まア、ごくわずか……とわたしは考えます。しかし、「百パーセントに考える人もいなはるらしい。いや、百パーセント絶対いうて強調する方が、



運動にはええのやろな。娘はん、あんたの宇宙人はんも、百パーセント絶対のように考へておられるのと、ちゃいますか？

ナナ でも、もし核戦争が……

塾長 ものごとはな、娘はん、二つの面がありますねん。だれも反対する理由の立たん大義名分はありますが……核戦争反対、平和を守る、そういうことですねん。そういう大義名分を裏に使うてな、じつはそれと裏腹は別な目的を達する場合とある。ものごとはその辺をよう見分けてかかると、あさまへんでな。

ナナ 先生は、核戦争反対にも、別な目的があるって……

塾長 ものごと、よろず、そうですねん。それは娘はん、中学三年生のあんたにや理解でけへんやろ。政治の問題や。かあいそうにあんた、反核運動いうのは、じつにむずかしい問題や。だれがあんたにそれを背負わせたんか知らんが、わたしの孫娘なんかあんたに比べたら、まるでもうやや見や。ナナ それじゃ、先生、あたしのねがいは……  
塾長 ええな、娘はん。ナチヨナルのマークは、うちの会社が製造した製品に対する、企業としての責任のマークです。しかし、

核兵器の問題は、アメリカ・ソ連の国の対立、国際政治の問題や。ちがいますねん。松北電器では責任が持てん問題や。製品のトレード・マークと国際政治。いっしょにしてはあさまへんな。また、わたしの社会的責任いうもんも、まず経済人としてありますねん。反核問題はもつとほるかに大きい国際政治問題です。ものごとの先達をつとめるには、それなりの主体性いうもんがいりますねん。わたしは電器屋で、経済人です。まだそこまでは考えてまへん。お気の毒やが、お受けするわけにはいきまへんな。

ナナ (塾長をじつとみて) 先生は……PMP運動なさっている先生は……やっぱ、核兵器絶対反対で……絶対反対で……  
塾長 わたしはな、娘はん、絶対、いう言葉を使うこと、戒しめてますのや。ものにはそれぞれの事情のあつて、ものごとは時と共に変わってゆきますねん。そやさかい、絶対いう言葉を言いまへんのや。

ナナ はガクリとして表情で塾長をみつめる。 — 間 —  
とじゃないの。ナナが……あたしの名はナナです。ナナが自分の頭で考えたの。先生……あたしのおじいさんのように年が上の先生に、こんなこと言つて、ごめん。先生、長生きして下さい。でも、もしその時がきたら……(感情的になり) 先生、きちがいになってみて、あたし、まだ若いのに死にたくないの。核戦争なんて絶対いやアノ ヒロシマ・ナガサキ、絶対いやアノ (泣き出して) 先生、その時がきたら……きたら、ナチヨナルのマークに「核戦争反対」をつけてみて、狂人になってつけてみて、日本がもしもう一度、(ワーワー泣いて) 松北孝之助さん狂った、いわれても……それだけです。ごめんなさい、松北の……おじいちゃん、(涙をぬぐって、ポーズをとり) エノデン・ミミティスノ

わかんなかったノ  
塾長 (思わず) 娘はん、あんたのお父さん共産主義者やおまへんのか？  
ナナ お父さんは、先生とおなじ、小学校だけしかいってないの。労働者だったの。芝居が好きで、労働者の芝居を書いてたら、アカの芝居書きといわれて、どこの会社にも就職できなくなって……劇作家になったんだけど、才能もないし世渡りもダメ……欲望不満がいっぱいで、それで、核兵器絶対反対に向つたのかな。先生みたいに成功者たちがうわ……アカなのノ 日本中の大会社から閉め出されたアカなのノ  
塾長 ……(言葉なし)  
ナナ ごめんなさい、先生、余計なこと言っちゃつて。あの、おわりに言わせて、ね、あたしの考え。あの、全面核戦争になつて人類が滅亡すれば、人類の歴史もなくなるでしょ。だから、核戦争反対で叫ぶことは、いつだって、まだおこらない核戦争のことさわぐわけでしょ。だって、おこっちゃえばなにもなくなるもん。だから、核戦争反対で運動は、いつでも、おこりもしないことをおこるってさわぐ運動じゃん。きちがい運動じゃん。先生、これは本でよんだこ

塾長 (沈痛な感じで) なんてわたしは、あの娘の父親のことを、あんな風な尋ね方をしてしもうたんか……成功者松北孝之助さ

ナナ 松北先生ノ そうか、先生は成功者なんだわ。大成功者、大成功したこの世の中、守らなきゃ。先生が大成功してこしらえた会社、いまの日本の経済界……それを守るために、いるのかしら？ 核兵器が？ 絶対反対で言わないことは、核兵器の力がとまきには要るってことかしら？ ……やっぱ、先生も核抑止論なのかしら？ ……  
塾長 娘はん、なに言うてますのや？  
ナナ (耳に入らない) あたしも、お父さんも絶対反対よ、核兵器は。松北先生とはちがう。どうして？ ……お金も財産も、なんにもないからかしら？ オンポロのごちゃごちゃの狭いアパートに住んでるからかしら？ 守るものがないのか……いいえ、生命は守らなきゃ、だから核兵器は絶対反対なの。  
塾長 あんたのお父さん、どんなお力ですか？  
ナナ (急にヒステリックに) 病氣なのノ きちがいのなのノ 貧乏人なのノ それで核戦争も絶対反対なのノ 松北先生のような成功者じゃないの、先生は大成功者だったわ……PMP運動も大成功の先生の事業を守るための運動なんだわ。核兵器絶対反対の運動とは、ちがうのよね。あたしそれが  
ん……狂つてみる、ナチヨナルのマークに「核兵器反対」(困惑と追想と)  
—— 暗くなる ——  
はじめに明智、追いかけるように千代子が登場。  
千代子 あの人、一度思いこんだら馬車馬なの、なにも見えなくなっちゃうの。でも、十五の小娘はしよせん小娘でしょう。しかも、こんどぶっかるのは……残酷ですノ デタラメだわノ ……あの、あたし、ほんとは怖い。政治家って、なんだか怖いの。ね、先生、やめさせてノ  
明智 ……当然でしょうね。怖くないはずはありません。でも、ナナちゃんには若さがある。さらに強い使命感がノ それと、お母さん、忘れてはいけません、ナナちゃんの行動は、お芝居なんだから。  
千代子 だって無理です。あんな小娘が、核

### 11 首相官邸

戦略だのハチの頭だの、まるで魔女、かわいそう、ナナは女の子なんですよ。

三吉、そのあとから大介が登場。

三吉 (千代子に) これからがナナの本命なんだ。いままでの準備行動、ここでやめたら、お客さまに申しわけが立つと思うのか。

千代子 (客席に) みなさん……母親の氣勢を察して下さい。ナナは首相官邸に入り込もうとしています。頭の中は、核戦争の面倒くさい言葉でいっぱいになって。無理よ、バンクしちゃうわ。お芝居であっても残酷よ。女の子には女の子らしい役ってものがありますわ。

三吉は千代子をひっぱって退場。

千代子 (叫びながら) ナナはバンクしちゃうわ。

その言葉に大介はキクリとする。

大介 バンク?……ナナは超能力は使えても

スーパーマンじゃない。先生、どう思います? ……いままら、行くところまで行くしかないでしよう。

大介も明智も退場。

場中表示(首相官邸)

部屋は二つ。首相執務室、秘書官室の想定。

秘書官室で、秘書(警察庁出向)と、官邸派遣警護隊長との打合せ。はじめは秘書が客席に語る。首相執務室は暗い。

秘書 わたしは数ある総理大臣秘書官のうち、

警察庁出向の者、ただいま、内調——内閣調査室係官から、ある情報をうけてまして、官邸警護隊長と打合せを行っております。

警護長 神出鬼没なんて、小説のなかの言葉だと思ってしまったが……

秘書 松北孝之助さんは財界トップ、野球のナナシマさんは社会的名士、また、そのお

かしな少女が総理を訪問する予定という重要情報——これをきき出すのに内調は苦労したらしいんだが、その方もトップクラスのタレント。こういう社会的信用度の高い人々が、デタラメを吹聴してるとは思えないでしょう。しかもそれぞれ三人の話が、

そのデテールではおどろほど一致している……例えば、その少女が父親が劇作家であると言明していることなど、これをどう考えるか。ともかく、話には常識を超えた信じがたい部分があるとしても、対策は立てておくべきじゃありませんか。

警護長 郵便侵入については、警報器と赤外線カメラ連動のブザーが鳴るし、出入口は常時警備官がいるわけですから、それこそ、空をとび壁を抜けるたぐいの者でない限りは、

秘書 その忍術使いのたぐいと考えると方がいいらしい。

警護長 まさかノ 忍術なんて。秘書 直接対面した本人以外に、目撃者がいないことは、第三者には目前を通りかかっても目撃できない、なにかがあるらしいんだ。

警護長 だとすると、この官邸警備でも侵入の防止は保証できないと……

秘書 たとえ、無害な少女であっても、一國の総理に対する非合法な面会強要、官邸への不法侵入だから、断じて阻止しなけりゃならんし、万一侵入した場合は絶対に逮捕しなければならんよ。

警護長 手掛りはまったくないのですか。侵入の手段について。

秘書 それが、こどもだましました話だが、その少女はいつもスナドケイを持っていて、たえずスナの落ち方を気にしているということだ。

警護長 スナドケイ? なんですか?

秘書 スナドケイにならぬ呪文を唱える——秘密はその辺にあるらしい。

警護長 まるで伽ばなしだ。

秘書 しかし、それが反核運動の直接要請となるよ、お伽ばなしじゃすまなくなるよ。

警護長 総理には?

秘書 一応は申しあげておく予定です。

警護長退場。  
首相執務室にばかり、長曾根首相の執務室。秘書は客席に語る。

きか否か、わたしには躊躇があったが、万一、少女が出現した場合を考えて申しあげた。おそらく一笑に付されると思ったところ、総理は思いのほか……

秘書は執務室に入ってゆき、首相に報告を終えた形になる。

首相 それで、全部?

秘書 はい。はなはだ非現実的な話で。

首相 父親が劇作家だ、なんてことはどうしてわかってるのかな。

秘書 ……どこでも、少女が言明しているらしいので。

首相 ホウ。その辺が手掛りになりそうだね。秘書 ご多忙のところ、こんな話を。首相 面白い。いや、すげらしい。

秘書 は?

首相 うんざりしてるんだ、党の運営、閣議、財界のごきげんとり……魂の洗濯になるじゃないか、核戦略を喋りまくる少女だなんて。

秘書 信じますか? 超能力なんてもの。首相 出会ったことがないが、目のあたりに見たら、さあ、なにを感じるか?

秘書 万一、少女が総理の前に出現したら、

秘書 待てよ、内調の報告によると、少女の超能力は時間の次元をかえらることか……

首相 侵入できるくらいなら、脱出することも容易じゃないのか。

秘書 それでは困ります。

首相 君たちの立場ならそうだな。

秘書 一応はテロの可能性も考慮にいれなければ。

首相 少女だろ、相手は。

秘書 年少者がかえって危険です。かつて社会党の委員長は十七才の少年に。

首相 (ロマンティックに) 少女のテロリストノ

秘書 総理、ロマンティックすぎます。

首相 (笑う) わかった。不法侵入をばくが認めたら、警備の方々に申しわけない。逮捕には協力するよ。

秘書 スナドケイだそうです。スナドケイにカギが。

秘書は執務室を退出する。

首相はなにか思案、室内を歩きながらタバコに火をつける。

部屋の外に出て秘書は、歩きながらモローグ。

タレントの白柳さんの話では、時間がたしか三百倍……ということ、一時間が三〇〇秒……五分間……ということ、行動力が三〇〇倍……時速四キロの人間の歩行が千二百キロ……しかし、そんなことはどう考えても。

どこかでナナの声。

ナナの声 エノデン・ミニミティスノ

瞬間、秘書も、室内でタバコを吸いかけた首相も石のように不動。

やがて、スナドケイ右手にナナが足早に登場。秘書の前を通り、執務室の前でちよっとたじろぎを見せるが、中に入る。動かない首相。ナナは緊張で身を固くしながらも息を吸いこみ、首相を超時間のなかに引き入れるキニーを出す。首相は動き出す。

首相からみれば、瞬間に眼の前にしているナナにおどろく。

首相 わッノこりや……出たか……超能力。(見つめる)

首相 お嬢ちゃん。たしか十五才でしたね？

ナナ (おどろいて) はい……

首相 まだこともだ。自分の行為が法律違反にあたるなんて知らない方がいだろうね、

ナナ あたし、こともだけど、責任もたなきゃ。ここへ、遊びにきたんじゃないもん。

核戦争で、核戦争で人類が滅亡するから、それを総理さまに訴えに来たんだもん。そういう訴えて、いっばいくるから、普通じゃ絶対会ってもらえないでしょ。

首相 あんたは、ものの道理がよくおわかりのようだ。

ナナ あたし、どうしても直接にぶつかりたかったの、総理さまの人間性に。あの、噂はたくさん、読んでるの。総理大臣でお仕事、マスコミから悪口書かれ放題なんですよ。でも仕方ないわ。ものすごい大きな権力がまかされているんでしょ。あたし、噂なんかで人の判断してないわ。カザミドリとか、タカ派とか、右翼とか、軍国主義者とか、あの、いままでの総理大臣でいちばん危険な総理大臣で……ごめんなさいノ。ごめんなさいノ。フウノ。(大きく息をつく)

首相 (にが笑い)……おそれ入りました。

ナナ (へりくだった姿勢)ごめんください。失礼お許しを。あの、あの、総理さま、こうしなきゃ、とつてもおめ、おめ、お目にかかれない、あの、お目にかかれないと、わかってもらえないって、使ったの、超能力。ごめんくださいノ。

首相 (スナドケイに目をよめている)ぼくは、超能力なんて信じない人間だが、……こう、あんたを目のあたりに……どういう原理なんだ？

ナナ (気が楽になる)原理の説明なんてできないわ。でも、使えるの、パソコンみたい。

首相 そう。じゃ、超能力のパソコンがあるのか。

ナナ (スナドケイもった手を出し)これ。

首相 (じっとみて)スナドケイだね。

ナナ 時間の次元がかわってっちゃうの。

首相 わからんな、言ってることが。

ナナ 時間が三〇〇倍になるの。

首相 ? (首かしげる)

ナナ 地球人の原理にはないの。アインシュ

タイン博士でも理解できないのよ。

首相 そのスナ、何分間、落ちるんだね？

ナナ ……五分間。でも、次元がちがうから、

ほんとはたった一秒なの。

首相 スナがみんな落ちちゃったら、どうなるのかな？

ナナ 超時間は切れて、普通の時間になるの。だから、あたしはいつも気をつけて、切れそうになったら、また返すの。

首相 たいへんなんだね、超能力も。

ナナ とつても。緊張のし通しなの。

首相 それで、お父さんが書いたお芝居、うまく行ってますか？

ナナ (その言葉に衝撃をうけ)ど、ど、どうして、それを……

首相 (ニコニコ笑い)あなたのお父さんが劇作家だということは、有名ですよ。

ナナ ……いいえ、うそ、うそ。ちつとも有名じゃないもん、お父さん。

首相 こんど書いたお芝居、題名はなんというんです？

ナナ 「ナナちゃんは宇宙……」(口をおさえて)いけないノ。

首相 どうしたの？

ナナ (泣きそうになり)だって、それ言うと、手がかりになっちゃうもん。あたしは重大な犯罪人よ。首相官邸の総理さまのお部屋に入ったんだもん、警察は捜査するわ。

ナナ でも、でも、そんな言葉信じて、総理

さまに核戦争反対を訴えるなんて、バカみたいじゃない。あたし、総理さまを知らないから、じかに総理さまに会っておわがいをしてみたかったの。宇宙人はそのために超能力くれたんだもん。

首相 宇宙人？ なんだ、そりゃ。

ナナ 宇宙人は、地球人をようく研究して、

あたしを選んだの。あたし生命がけよ、かわいさも、無邪気さもみんな捨てちゃって、

核戦争とか核抑止論とか、いやな言葉で頭をいっばいにして、ここにしのびこんだんです。ほんとはいやなんですノ。つらいんですノ。ほかの女の子とちがうのが。ほん

とは原宿か六本木ふらふらしていたいの。でも、生命がけはうそじゃないわ。警備のお巡さんの前通りぬけるのは怖いノ。でも核戦争の危険を総理さまに、じかに、じかに……(涙いっばいの顔で首相を見つめる)

首相 は感情を動かされるのをおさえて、

お気持ちわかるが、わたしは日本の総理大臣。核ミサイルの引金には縁がない。

あつてもならない。わかってますね。

ナナ ハイ、引金に指がかけられるのは、アメリカとソビエトです。でも、もし、二つの国が限定核戦争をはじめたら……朝鮮や日本や、ヨーロッパが、まっ先に核の火に焼かれるかもしれないわ。そうでしょう。総理さま。

首相 ……限定核戦争がわかる。……さすがだ。

ナナ あたし思うんです。核ミサイルの引金に指をかけていて、そのおかげで平和がたもたれているなんて考えるの、ほんとほろろちがいます。でも、アメリカもソビエトも、どちらのえらい人もきちがいじゃありません。相手が信用できないから、

引金に指をかけてると思うの。だから、日本の総理さまは、どちらの国のえらい人にも話してほしいんです。日本人はほんとうに平和をのぞんでいます。わたしも同じ考え方。

ナナ それならば、総理さま、どうか、どちらかの一方の国に、日本が強くくついたりしないてください。ことに軍事的にくついたりしないてくださいノ。

瞬間、首相はきびしい表情になる。

首相 ……お嬢さん、あなたはいまかなり政治的で、むずかしい問題を話している。わかるかな。……国際間の平和は、アメリカ、ソビエトの力のバランスの上にあるということ、わかるかな？

ナナ ハイ。

首相 そのバランスが崩れると戦争の危険がふえる。ところで、いまの平和のバランスには、日米安保条約とか、日本列島の太平洋上における戦略的位置とか、そういうものが絡んでいて、それで平和がたもたれているんだね。だから、平和のバランスを保ちつづけてゆくには、いままでも通り日本はアメリカと強くむすびついでいなければならぬ。あなたはだいたい政治的なことの理解力がありそうだから、わたしの言うことがわかるでしょう。

ナナ (首相をじつとみつめて) わかんない。首相 わかんない。そりゃ、困ったな。……ナナ あたしは女の子なの。庶民の娘なの。政治や軍事のこと、あんまりわかっちゃっ

たら、かえっていけないの。

首相 おやおや、風向きがかわってきたね。ナナ そういうこと、あんまりよくわかっちゃつと、バランス・バランスって、バカみたいな核抑止論になっちゃうもん。

首相 ……核抑止論か。……不勉強な国会議員にはきかせてやりたいね。

ナナ 核抑止論でインチキです。核戦争を認める理論なの。ラッセル・アインシュタイン声明でそう言ってるわ。科学者が言ってます。総理さま、核抑止論なんて言わないでください。そんな理論にたよっている、日本は核兵器の戦場になっちゃうんです。

首相 (モノローグ) ……なんて娘だ。これが中学生。……どういうことだ。まるで反核紅衛兵じゃないのか？

問。

首相 ……あなたの頭のなかには、反核の理論がたいぶつまっているみたいだね。あなたが、ほんとうに心から平和をねがって、核兵器反対を言っておられると、わたしは思いたい。しかし、お嬢ちゃん、あなたの

いの。ほんとです。あたしは総理さまの人間性を信じたいんです。玉ねぎオネエさんも言ってたわ、その人のもっとも悪いところに、誠実に訴えなさい、って。

スナドケイのスナは切れた。ナナは忘れて喋りつづけている。

ナナ あの、あの、日本の国をアカの手から守ろうと、立候補して、自衛隊に日の丸を立て選挙運動をした総理さま。アメリカに押しつけられた憲法だからと、憲法改正の歌を作った総理さま。原子力発電を積極的にすすめてきた総理さま。タカ派といわれても非核三原則は必ず守るといった総理さま。ロケット事件で尻まみれ、ズブぬれになった総理さま。あたしはたくさん迷んだね。総理さまのいままでのご苦労。総理になるために、どんなに、どんなに……

すでに超時間は切れている。部屋の外には秘書や警備官たちが動いている。

ナナ 総理さまのお仕事って、とってもたいへん。でも、日本人で、いま核戦争がおき

考えは、いいですか、共産主義思想の宣伝のための反核理論でなければ、いいんだが……(こわい顔で) もう、やめなさい。

首相はナナを威圧する。ナナは負けじと目を開き首相をにらむ。——ナナはつねにスナドケイのスナを注意しているのだが、興奮して忘れてしまう。

ナナ そんな、怖い顔しちゃう。総理さ

ま。あたしは貧乏人の娘なの。狭いアパートに住んでるの。お父さんは労働者だったんで、資本主義に反対だったの。総理さまが日本から追い出したいと思っていたアカなの。あたしはアカの娘です。それがおねがいにくてるの。保守党の一ばんえらい人、総理さまに。だって、日本はずーっと保守王国でしょ。保守王国で核戦争の危機をむかえているんだもん。だから超能力を使っておねがいに来てるんです。あたしの反核の考えは、アインシュタイン博士や宇宙人の考える反核理論です。共産主義だかんだか、そんなことあたしの知ったことじゃありません。

首相 (なかばモノローグで) まるで、魔女

ないようにできる一ばん大きな力をもってのるの総理さま。だからおねがいするんです。人類を破壊におとすようなこと、決して、決してしないでください。日本を世界の平和のかけ橋に、おねがいます。総理さま。

秘書、警備官がとび込んできて、ナナにとびかかる。秘書は素早く、ナナの手からスナドケイをうばう。つづいて多くの秘書や警備官たち。

秘書 総理、ご無事で。

首相 ……(固い表情)

ナナ かえして。スナドケイかえして。

秘書 ダンだ、君は取調べをうけるんだ。

ナナ かえして。かえしてくれなきゃ、死

んじやうわ。

秘書 おどかしはやめなさい。かえしたら

君は消えるだろう。

ナナ スナドケイ、途中でとられたら、間もなく死ぬの、使った人間にはとても危険があるの、超能力って。

秘書 デタラメ言ってもごまかされはしないよ。君は官邸不法侵入しているんだから。

ナナ (決然と) ……いいわ、あたし死んだって。どうせ、ナナの生命は短いものだったの。総理さまに直接訴えられたんだから、死んでも仕方がないわ。(首相に向って) がんばりがための総理さま。でも、いっしょうけんめいに、日本と日本人と、それから世界平和の道をさがしている総理さま。ナナはそえ信じたいの、総理さまの人間性を。…どうか、あの、ヒロシマ・ナガサキみたいなこと、二度と繰り返さないことがないよう、忘れないで、あたしのような女の子が、地球上にいっぱい、みんな生きたいとねがって、いっばいいること。

首相 (秘書に) 返してあげなさい、スナドケイを。

秘書 総理。

首相 いいから返しなさい。

秘書はスナドケイを返す。

受け取ったナナは首相を見る。黙って立っている首相。

ナナはスナドケイの右手をあげる。息をのむ人々。床に叩きつける。息除けるスナドケイ。

ナナは倒れる。(光か、うすい煙をともなうとよい。高圧電流が作用したかのような効果。)

人々は騒然となり、しばらくは恐怖で、だれも倒れているナナに近寄らない。秘書 (医師) のひとりがナナに近より呼吸、脈博、瞳孔などを診る。

首相 (蒼白な表情で) 死んでいるのか?

秘書 (医師) ショック状態です。電撃ショックです、まるで。(人工呼吸の手当をはじめ)

秘書 (警察庁) 救急車を!

秘書 (医師) (人工呼吸を行って) ……蘇生した…奇蹟的だ…意識がもどった…

首相はナナに顔を近づける。

首相 わたしがわかるかね?

ナナはしばらく首相を見ている。

首相 わたしの顔、わかるかね?

## 12 エピローグ

近松三吉のアパート。雑然とした狭い

暗くなる――

部屋。壁から下がるハナナちゃんは宇宙人♀の紙。

三吉、千代子、大介、とみの四人、警察から連絡があり、ナナの爆宅を持っているが、みんな不安で落ちつきがない。その四人からやや離れた空間に、明智と江戸川さんが立っている。

三吉がハナナちゃんは宇宙人♀の紙を外して巻きはじめる。

とみ (ひとりはいで動きまわる) よかった、よかった。宇宙人もどこかへ退散しちゃったみたいで、万事おめでたじゃないの。

千代子に) 高校のことなんか、なにも心配することなんかありやしないから。これでき、なにかの加減でき、ナナが有名にならないとも、ね。テレビにでも出て、まかりまちがやスターへの道だって開けないもんじやあるまいし、人生万事賽翁が馬じゃん。ものは考えようだから、千代子。(三吉のそばへより) なに、しょんぼりしてるのさ、あたしじゃ胸んなかじゃ、すばらしいことやったと思ってるのよ、ナナのこと。

首相官邸に侵入なんて、あんたノ、見直してんのよ、やるじゃないの。さ、元気出して、

ナナ ……どこかで…あ、おじさん、有名なノ…えらい人…(キョロキョロ見まわして) どこ? どこなの?…あたし、どうして…(突然なにかの恐怖で泣きだす) ……お母アちゃん…

秘書 (医師) 記憶を失っているようですね。首相 (安心して力がぬける) 死んだのは、彼女の超能力なんだノ

首相は秘書 (警察庁) にいう。

首相 なるべく、この娘の身柄を拘束するところがいいように。…それと、身元だ。もと、労働者あがりの劇作家と言ったから、簡単に判れると思うがね。

首相 報道関係には? 首相 絶対秘密だノ、まして、この超能力の存在なんて…社会不安のもとになる。

て、胸をはってひかえてやんなきゃ。(外の様子に気づいて) あ、ナナが帰ってきたんだわ、きっと。

警官と私服にともなわれて、ナナがあらわれる。千代子がかけよる。そのあとに三吉と大介。

ナナ (入口の扉をしみじみとさわる動作で) ああ…あたしん家、ここがあたしん家。

千代子 ナナちゃん…

三吉 ナナノ

大介 ナナノ

ナナ ……あたし、どこへ行ってたの? あたし、どこかへ行ってたの?…それが、どなんだか、わかんないの?…あ、あたし、もしかしたら、宇宙へ行ってたのかしら? 宇宙へ…

明智はそれをぼんやりとみていて、江戸川さんにつつかれる。

江戸川さん 先生、しっかりなさいノ、明智 え? なんです?

江戸川さん せりふノ、おわりのせりふノ、明智 あ、いけねノ…(説明調に) ああ、神通力を失くしたナナちゃんは、いまはまったくだの女の子。…あの、あの、はなはだ、その、なんと申しましょうか、ええと、羊頭狗肉とでも、ええ、ちがいます、ええと、竜頭蛇尾でもない、まア、まア、そこはそれ、餅は餅屋と申しまして。

江戸川さん 先生ノ、しっかりなさいノ、明智 ハイ。この辺で、そこはそれ、それ相応の結末ということに…(舞台端から、首相を先頭に五人のモデル的登場人物があらわれる。) ……なりません。いましばらくのごしんぼう。

首相はゴムの棒をもって、いる。

首相 しばらくノ、ちよっと、しばらくノ、われらモデル人物。作書にひとことあり。しばらくノ

オネエサン わたくし、玉ねぎオネエサンと白柳悦子。作家、ば、ばくは作家、お、大井源三郎。ミスター ミスターこと、もとプロ野球監督 ナナンマヒデオ

塾長 PMP運動、松北政経塾長、松北孝之助です。

首相 内閣総理大臣長曾根益弘。

五人 (声をそろえ) われらは知名なモデル人物。

オネエサン あの、わたくし、作者は悪意はもっておられないと思いますの、だからと

いって、このようなお芝居の書かれ方を、作家 ぜ、絶対に、現実モデルを再現するよ

うな、ヒョ、表現は不可能ですから、さ、作者として、こ、これは、

ミスター いわゆる、パーソナリティの問題でしょうが、芸術のことはよくわかりませ

るので、塾長 ほんま、ほんもんの松下はんに、なん

と申してええんやろか、首相 いやしくも一国の責任ある地位にある

首相を、かくも露骨にまぎらわしく表現することが許さるべきか、否か。論議はとも

あれ、わたしは作者をなぐらなければならぬ、遺憾な役割にありますが。

三吉、首相の前に出てくる。

三吉 さ、なぐってくれ、モデルの方々、

なぐってくれねえと、おれは、作者としてのおれは、引っ込みがつかねえんだ。

首相 なぐることは、政治家としてはイメー

ジ・ダウン、ましては、首相の地位にあるのです。(棒を塾長に) 松北さん、ど

うぞ。塾長 (ことわるしぐさ)

首相 ナナシマさん、どうぞ。

首相 (ことわるしぐさ) ミスター (ことわるしぐさ)

首相 大井さん、どうぞ。

大井 (はげしい拒否のしぐさ)

首相 (白柳さん、いかがでしょうか?)

オネエサン いや、絶対いやです、なぐるのは、長曾根さんがふさわしいと思いま

すの。それに作者は、わたくしのみるところ、総理をかなりイメーじよく書きすぎて

いると思いますの。だから、なぐり役があつて、ちょうどバランスがとれるんじやご

ざいませぬ。どうぞおなぐりあそばして、いかがでしょうか、みなさん。

一同同意の表現。

三吉 なぐるんだ、長曾根総理、あんたが心からきらいなアカの芝居書き野郎を、思

う存分なぐれ、首相ためらう。

三吉 おれは作者だ、作者の命令だ、さ

ながら(客席に) 作者の命令です、不本意

ながら(ゴム棒をふりあげる)

ナナとび出す。

ナナ いや、お父さん、なぐっちゃ、いや、

首相 助かった、ナナちゃん、あんたはほ

くを二度救ってくれた、明智 これでやっ、幕が下ろせます。

出演者一同、客席に礼をしようとする、その瞬間。

三吉 (叫ぶ) いま、この瞬間も、核ミサ

イルは狙いあつてる、狙いあつてる、一同は呆然として。

幕

### 六二号後記

◇62号は何かと気の重い号になりました。わかりやすく、おもしろい、ためになる記事を、との読者の声をよそに、重くて、固くろしい、何やら頭の痛くなるものばかりになりました。とくに、巻頭座談会。

しかしそれは頭をかかえて身動きがとれぬということではありません。もがいている老トルたちをながめながら、とにかく途中ではおり山さずに、よし、おれたちだったら、こうしてみせる、現にこうしてやっているぞ、という声ではじき返して下さい。それが「演劇会議」をおもしろくさせ、全リ演に活力を生むのです。そう考え

て読めば、62号は極めて重要な号になるでしょう。◇大橋喜一さんの「ナナちゃん」が本誌に登場するまでにはいろいろとききさつはあったのですが、いづれ、それは大橋さんに語ってもらいます。劇団編組と劇団未来の上演にはかなりクライ

批評もあったようです。ぼくはそのたびに、本ものは別にあるんですよ、をくり返すばかりでした。そして、とにかくその本ものを、演劇界のジャーナリズムでなしに、全リ演のなかまの一人ひとりに今、手わたしてきたわけです。これは上演に向かし、なんている雑念をすてて、じっくりと読んでみて下さい。◇本号には相当苦労が要りました。締切を無視した(と言っは言

ブレヒト劇の研究などで、西会議の皆さんは多大の恩恵をうけていたとおもいます。つつしんで御褒謝をいのります。◇さいごにおわびとおねがい。

思わぬ増頁となり従来の定価ではまかないきれません。やむなく一〇〇円加算の臨時定価で、印刷代、送料の一部のご負担をおかけ

します。差額は分割あと払いでもよろしゅうございます。次号からはもとの五〇〇円に戻しますので、よろしくおねがいたします。◇詩代払込はなるべく郵便局の振替にして下さい。この頃銀行はサ

(もも)

### 演劇会議 六二号

一九八六年四月三〇日発行  
定価 六〇〇円 (送料二〇〇円)

編集委員

森田祐彦、こばやしひろし  
丸子礼二・仲 武司・藤沢 薫

発行所

森本景文・栗原 省  
演劇会議 発行所

〒川崎市川崎区渡田四一―一三

はぎ書房内

電話 〇四四(33) 〇七七五

詩代振込は

川崎信用金庫小田支店 一三三五二七ハ  
または郵便振替 横浜 〇・一七二二七ハ

塾長 P M P 運動、松北政経塾長、松北孝之助です。

首相 内閣総理大臣長曾根益弘。

五人 (声をそろえ) われらは知名なモデル人物。

オネ・サン あの、わたくし、作者は悪意は

もっておられないと思いますの、だからと

いって、このようなお芝居の書かれ方を、

作家 ぜ、絶対に、現実モデルを再現するよ

うな、ヒョ、表現は不可能ですから、さ、

作者として、こ、これは、

ミスター いわゆる、パーソナリティの問題

でしょうが、芸術のことはよくわかりませ

んので、

塾長 ほんま、ほんもんの松下はんに、なん

と申してええんやろか。

首相 いやしくも一国の責任ある地位にある

首相を、かくも露骨にまぎらわしく表現す

ることが許さるべきか、否か。論議はとも

あれ、わたしは作者をなぐらなければなら

ない。遺憾な役割にあります。

三吉 さ、なぐってくれノ モデルの方々、

首相の前に出てくる。

首相 ああ、また幹事長の頃を思い出すよ。

はくはどうしてこういう役ばかり。

三吉 (叫ぶ) いま、この瞬間も、核ミサ

イルは狙いあつてるノ 狙いあつてるノ

一同は呆然として。

――幕――

なぐってくれねえと、おれは、作者として

のおれは、引っ込みがつかねえんだ。

首相 なぐることは、政治家としてはイメー

ジ・ダウン、ましてはくは、首相の地位に

あるのです。(棒を塾長に) 松北さん、ど

うぞ。

塾長 (ことわるしくさ)

首相 ナナサンさん、どうぞ。

オネ・サン いやノ 絶対いやですノ

るのは、長曾根さんがふさわしいと思いま

すの。それに作者は、わたくしのみるところ、

総理をかなりイメージよく書きすぎて

いると思いますの。だから、なぐり役があ

って、ちょうどバランスがとれるんじやて

さいません。どうぞおなぐりあそばして。

いかがでしょう、みなさん。

一同同意の表現。

ナナとび出す。

三吉 おれは作者だノ 作者の命令だノ

あなぐれノ

首相 (客席に) 作者の命令ですノ 不本意

ながら(ゴム棒をふりあげる)

首相ためらう。

ナナとび出す。

三吉 (叫ぶ) いま、この瞬間も、核ミサ

イルは狙いあつてるノ 狙いあつてるノ

一同は呆然として。

――幕――

## 六二号後記

◇62号は何かと気の重い号になりました。わかりやすく、おもしろい、ためになる記事を、との読者の声をよそに、重くて、固くろしい、何やら頭の痛くなるものばかりになりました。とくに、巻頭座談会。

しかしそれは頭をかかえて身動きがとれぬということではありません。もがいている老トルたちをながめながら、とにかく途中ではおりに出さずに、よし、おれたらだったら、こうしてみせる、現にこうしてやっているぞ、という声ではじき返して下さい。それが「演劇会議」をおもしろくさせ、全演に活力を生むのです。そう考えて読めば、62号は極めて重要な号になるでしょう。

◇大橋喜一さんの「ナナちゃん宇宙人」が本誌に登場するまでにはいろいろといきさつはあったのですが、いづれ、それは大橋さんに語ってもらいます。劇団編纂と劇団未来の上演にはかなりカライ批評もあったようです。ほくはそのたびに、本ものは別にあるんですよ、をくり返すばかりでした。そして、とにかくその本ものを、演劇界のジャーナリズムでなしに、全演のなまの一人ひとりに今、手わたしてきたわけです。これは上演に向くかしら、なんていう雑念をすてて、じっくりと読んでみて下さい。

◇本号には相当苦勞が要りました。締切を無視した(と言っは言はずきでしようか)劇団通信の送稿なども、苦勞のタネの一つです。ごらんとおりの、あちこちに散在する見苦しい誌面になりました。◇ドイツ文学専攻の八木浩さんの急逝(4月4日)を知りました。

ブレヒト劇の研究などで、西会談の皆さんは多大の恩恵をうけていたとおもいます。つつしんで御返稿をいのります。

◇さいごにおわびとおねがい。  
思わぬ増頁となり従来の定価ではまかないきれません。やむなく一〇〇円加算の臨時定価で、印刷代、送料の一部のご負担をおかけします。差額は分割あと払いでもよろしゅうございます。次号からはもとの五〇〇円に戻しますので、よろしくおねがいたします。

◇誌代払込はなるべく郵便局の振替にしてください。この頃銀行はサービスが悪く一万円以下の振込は連絡をくれません。そのため、まちがいのない入金もあとで気づくことがあります。

(もも)

演劇会議 六二号

一九八六年四月三〇日発行

編集委員

定価 六〇〇円 (送料二〇〇円)

発行所

萩坂桃彦・こはやしひろし

編集委員

丸子礼二・仲 武司・藤沢 薫

発行所

森本景文・栗原 省

発行所

演劇会議 発行所

発行所

千川崎市川崎区渡田四一―一三

発行所

はぎ書房内

発行所

電話 〇四四(333) 〇七七五

発行所

川崎信用金庫小田支店 一三三五二七

発行所

または郵便振替 横浜 〇・一七二二七

発行所

誌代振込は